

SIHD

池田泉州ホールディングス ディスクロージャー誌 2024



池田泉州ホールディングス

池田泉州銀行 池田泉州TT証券



S I H D

関西を代表する、開かれた新金融グループに相応しい、関西2府4県の形をモチーフとしたシンボルです。上へと伸びる縦のラインは、新金融グループの誕生によって関西エリアに様々なネットワークのつながりが広がっていくことを表現しています。ブランドカラーは水をイメージ。新金融グループの成長性や自由闊達な社風を象徴する澄んだ青色です。

経営理念

「幅広いご縁」と「進取の精神」を大切に、お客様のニーズに合ったサービスを提供し、地域の皆様に「愛される」金融グループを目指します。

経営方針

- ①人と人とのふれあいを大切にし、誠実で親しみやすく、お客様から最も「信頼される」金融グループを創ります。
- ②情報収集と時代の先取りに励み、先進的で高品質なサービスの提供によって、地域での存在感が最も高い金融グループを創ります。
- ③健全な財務体質、高い収益力、経営効率の優位性を持つとともに、透明性の高い経営を行い、株主の信頼に応えます。
- ④産・学・官のネットワークを活用し、様々なマッチングを通して、「地域との共生」を進めます。
- ⑤法令やルールを厳守し、環境に配慮した企業活動を行うことによって、社会からの信頼向上に努めます。
- ⑥グループ行員に、自由闊達に能力を発揮し、また能力向上を図れる職場を提供するとともに、よき市民としての成長を支援していきます。

Vision'25

コンセプト

徹底したソリューションで地域の皆さまのお役に立ち、自らのポテンシャルを引き上げていくことで、誰もが安心して輝けるような未来社会づくりに貢献します。

基本方針

1. お客様のさまざまな課題を知り、お客様の視点に立って、最適なソリューションを的確にご提供します
2. お客様の信頼にお応えすることで、やりがいを感じ自らも成長し、職員が多様な活躍が出来る職場を創ります
3. 事業活動を通じて、地域社会の持続的な発展と地域の皆さまの安心で豊かな暮らしづくりに貢献します

PROFILE

■ 池田泉州ホールディングス

設立日 2009年10月1日
本社所在地 大阪市北区茶屋町18番14号
資本金 1,029億円
従業員数 159名
上場取引所 東京証券取引所

■ 池田泉州銀行

設立日 1951年9月1日
本社所在地 大阪市北区茶屋町18番14号
資本金 613億円
預金 5兆6,775億円
貸出金 4兆8,585億円
店舗数 139カ店
従業員数 2,007名
格付 日本格付研究所 A

■ 池田泉州TT証券

設立日 2013年1月30日
本社所在地 大阪市北区豊崎3丁目2番1号
資本金 12億5,000万円
預り資産残高 2,588億円
店舗数 7カ店
従業員数 117名

CONTENTS

(2024年3月31日現在)

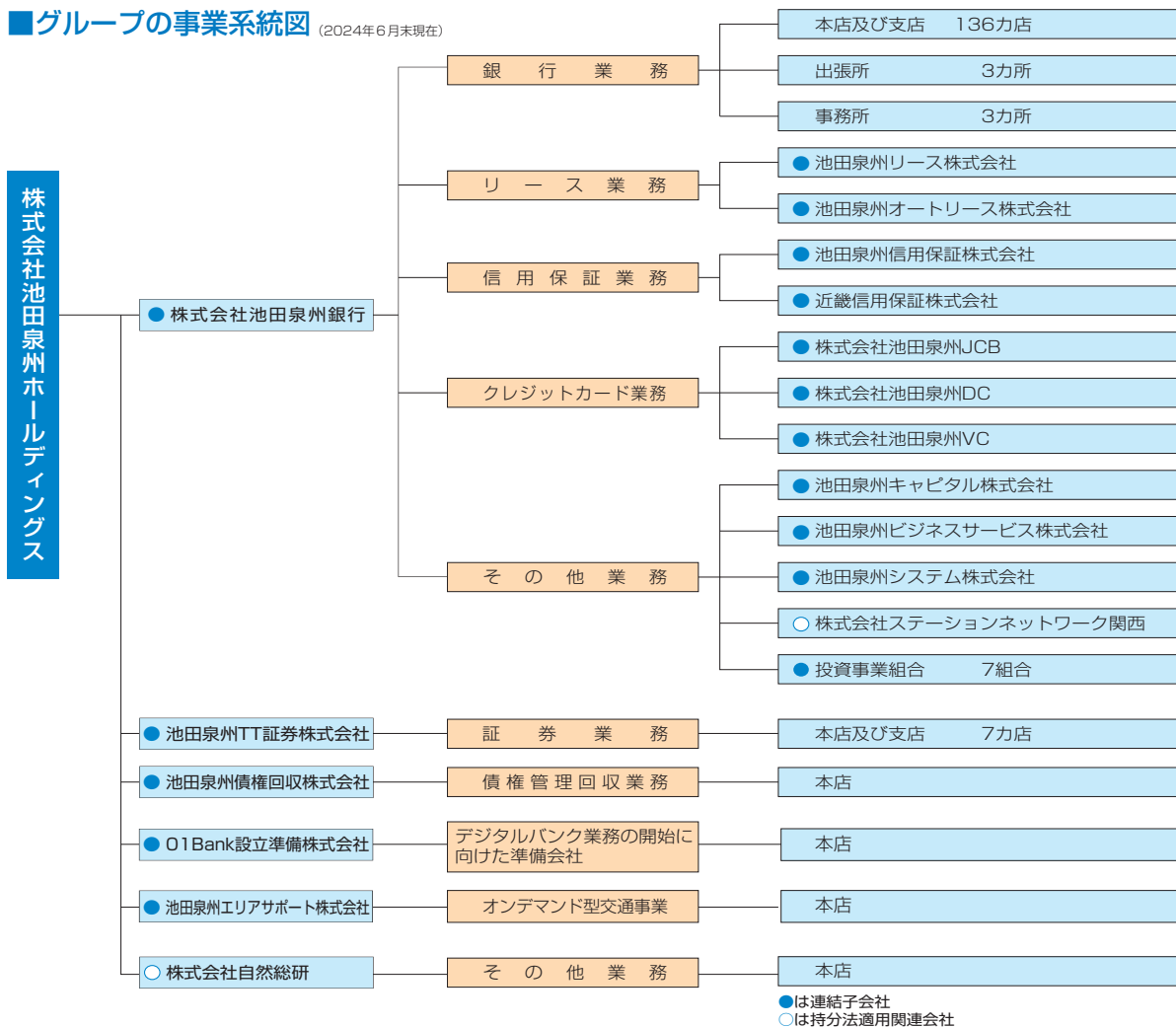
グループの事業内容	2
グループの沿革	3
業務のご案内	5
組織及び役員	6
店舗のご案内	9
株式の状況	11

コーポレート・ガバナンスについて	13
リスク管理体制について	19
コンプライアンス体制について	23
マネー・ローダリング及び テロ資金供与防止体制について	25
金融円滑化への取組み状況について	27

中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組みの状況	29
資料編	
● 池田泉州ホールディングス	32
● 池田泉州銀行	100
● 池田泉州TT証券	218

グループの事業内容

■グループの事業系統図 (2024年6月末現在)



(注) 関西イノベーションネットワーク2号投資事業有限責任組合に出資し、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。
O1Bank設立準備株式会社及び池田泉州エリアサポート株式会社を設立し、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

■子会社・関連会社 (2024年6月末現在)

会社名		所在地	主な業務	設立年月日	資本金 (百万円)	出資比率(%)	
						当 社	子会社・ 関連会社
子 							

池田銀行

- 1951年 開業
資本金3,500万円
清瀧幸次郎 頭取就任
- 1963年 大阪証券取引所第2部に上場
- 1971年 資本金20億円に増資
東京証券取引所第2部に上場
- 1972年 東京・大阪証券取引所第1部に上場
外国為替業務開始
- 1973年 資本金33億5,000万円に増資
- 1980年 清瀧一也 頭取就任
- 1987年 資本金56億円に増資
- 1988年 担保付社債信託業務の免許取得
第1回無担保転換社債（100億円）発行
公募増資実施 資本金143億円に
CD・ATMの本格的日曜稼働の開始
- 1990年 中間発行増資実施 資本金196億円に
情報システムセンター完成
ブロック別営業開始
- 1993年 第三者割当増資実施 資本金278億円に
- 1994年 第2回無担保転換社債（80億円）発行
- 1998年 阪急電鉄とATM共同運営会社設立
ステーションATM「Patsat」事業開始
第1回ビジネスマッチングフェア開催
- 2000年 服部盛隆 頭取就任
第三者割当増資実施 資本金332億円に
住宅ローンプラザ設置開始
“ニュービジネス助成金”など“地域起こし制度”創設
第3回無担保新株予約権付社債（100億円）発行
三菱商事と業務協力の覚書を締結
日本政策投資銀行と新株予約権付協調融資実施
第1回ビジネス交流会開催
“コンソーシアム研究開発助成金”創設
第1回チャリティフェスタ開催
野村證券との提携による“証券仲介業務”開始
“池銀キャピタル夢仕込ファンド1号投資事業組合”設立
関西学院大学との産学連携協定に基づく投融資制度を創設
基幹システムを“NTTデータ地銀共同センター”へ移行
生体認証機能搭載の“ICキャッシュカード”発売
商工組合中央金庫と業務協力協定締結
- 2005年 国内外公募等による増資実施 資本金477億円に
甲南大学と産学連携協定を締結
同志社大学との産学連携協定に基づく投融資制度を創設
蘇州駐在員事務所開設
第1回宝塚歌劇貸切公演開催
インターネット支店開設、すみれの花定期預金発売
“大阪梅田池銀ビル”竣工
- 2006年 大阪梅田営業部・プライベートバンキングサロン開設
中小企業基盤整備機構近畿支部と業務提携
“京大ベンチャーNVCC1号投資事業 有限責任組合”へ出資
新型ICキャッシュカード「スタシアサイカ」取扱開始
ポイントサービス取扱開始
- 2007年 第三者割当増資実施 資本金643億6,500万円に
“手のひら”と“指”の両静脈認証方式対応の新型ATM設置開始
大阪府立大学・大阪市立大学と産学連携協定を締結
“同志社ベンチャー1号投資事業 有限責任組合”へ出資
ステーションATM「Patsat」阪神電鉄沿線に拡大
第三者割当増資実施 資本金768億6,500万円に
神戸大学と産学連携協定を締結

泉州銀行

- 1951年 開業
資本金3,000万円
吉田忠郎 頭取就任
- 1953年 資本金 6,000万円に増資
大江清 頭取就任
- 1954年 資本金 1億2,000万円に増資
- 1956年 資本金 2億4,000万円に増資
- 1960年 資本金 3億2,000万円に増資
- 1963年 佐々木勇蔵 頭取就任
- 1964年 資本金 5億円に増資
- 1967年 外貨両替商業取扱認可
- 1968年 外国為替業務を開始
- 1970年 資本金 12億円に増資
- 1972年 資本金 24億円に増資
大阪証券取引所第2部へ株式上場
大阪証券取引所第1部へ株式上場
- 1973年 中込達雄 頭取就任
- 1974年 資本金 37億円に増資
普通預金、納税準備預金、為替、オンライン処理実施
現金自動預金機（AD）第1号機導入
スイフト（国際銀行データ通信システム）加盟
- 1975年 日本銀行代理店契約締結
資本金 40億7,000万円に増資
- 1984年 CD、ATMの時間延長、休日稼働実施
- 1986年 ALM委員会設置
- 1987年 資本金 80億円に増資
- 1988年 第1回無担保転換社債100億円発行
担保付社債信託事業免許の取得
公募増資1,000万株の実施
- 1990年 第1回泉州・千亀利マラソン協賛
- 1991年 国際業務総合オンライン開始
- 1992年 第1回せんぎんコンサート協賛
- 1993年 外国為替店舗新設に関する包括許可取得
亀井敬之 頭取就任
- 1997年 テレホンバンキング「ダイレクトホン」本格稼働
- 1998年 システムセンター竣工
- 1999年 優先株による第三者割当増資128億円を実施
柳曾健二 頭取就任
- 2000年 普通株による第三者割当増資200億円を実施
三和銀行とATM相互開放開始
株式会社バンク・コンピュータ・サービス設立
- 2001年 普通株による第三者割当増資650億円を実施
吉田憲正 頭取就任
創立50周年を迎え、地元自治体に植樹の寄贈
鳥取銀行とのシステム共同化を開始
「天候デリバティブ」の取扱を開始
- 2002年 地区住宅ローンセンター（全16カ所）を増設
- 2003年 第1回センギン・ビジネス商談会開催
- 2004年 法人向けインターネットバンキングの開始
UFJつばさ証券との提携による証券仲介業務の開始
- 2005年 大正銀行とのシステム共同化を開始
東京三菱銀行とATM相互開放開始
生体認証機能付くセンギン>デュアルICカードの取扱を開始
- 2006年 南海電鉄難波駅構内にくセンギン>クイック外貨

池田泉州ホールディングス

- 2009年 10月 持株会社「株式会社 池田泉州ホールディングス」設立 資本金500億円 東京証券取引所・大阪証券取引所第1部に上場
- 2013年 東海東京フィナンシャル・ホールディングスと共同出資による池田泉州TT証券株式会社設立
- 2014年 株式会社自然総研を直接出資会社として再編成
- 2015年 第三者割当増資・公募増資実施 資本金1,029億円に
- 2018年 鷗川淳 社長就任
- 2020年 Vision'25策定
- 2021年 第5次中期経営計画策定
サステナビリティ宣言策定
「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」提言への賛同表明
- 2022年 サステナビリティ委員会、SX戦略室の設置
池田泉州債権回収株式会社設立
株式会社アイシンとの乗合送迎サービス普及に係る連携と協力に関する協定締結
情報発信拠点「GUTSU GUTSU」オープン
- 2023年 マネー・ローナリング及びゼロ資金供与対策委員会、DX戦略室、デジタルバンク準備室の設置
和泉市との市民サービスの向上及び活力ある地域社会の実現に関する連携協定を締結
環境省「令和5年度 金融機関向けポートフォリオ・カーボン分析支援事業」参加金融機関として採択
- 2024年 O1Bank（ゼロワンバンク）設立準備株式会社（デジタルバンク子会社）、
池田泉州エリアサポート株式会社（AIオンデマンド型交通事業他）の設立
株主優待「池田泉州ホールディングス・プレミアム優待倶楽部」を開設
DX戦略室をデジタル戦略部に移行

池田泉州銀行

- 2010年 池田泉州ホールディングス子会社の池田銀行と泉州銀行が合併し「株式会社 池田泉州銀行」が誕生
- 2011年 独立行政法人日本貿易保険と貿易保険業務委託契約を締結
- 2012年 コンピューターシステム統合完了
大阪大学と産学連携協定を締結（現在、連携大学等15大学）
- 2013年 「Patsat」神戸市営地下鉄沿線に拡大、「NBANK」Patsatとして、南海電鉄沿線に拡大
高石市・熊取町と産業（地域）振興連携協定を締結
- 2014年 大阪府・大阪市と「環境・エネルギー施策連携協力に関する協定」を締結
- 2015年 猪名川町・泉大津市と地域（産業）振興連携協定を締結
「NBANK」Patsat泉北高速鉄道沿線に拡大
株主割当増資実施 資本金613億円に
- 2016年 大阪府と中小企業振興に関する連携協定締結
東大阪市・高槻市・八尾市と産業振興連携協定締結
地方独立行政法人大阪市立工業研究所・大阪府立産業技術総合研究所（現 地方独立行政法人 大阪産業技術研究所）と包括業務協力協定締結
大阪労働局と「働き方改革にかかる包括連携協定」締結
- 2017年 平成28年度「大阪市女性活躍リーディングカンパニー市長表彰」において最優秀賞を受賞
三田市と地域振興連携協定締結
東京TYフィナンシャルグループとの業務連携協定締結
国立研究開発法人産業技術総合研究所と包括連携協定締結
大阪観光局と観光振興に関する連携協定締結
滋賀銀行とATM無料提携
- 2018年 総務省近畿経済産業局と包括連携協定締結
株式会社フィンクロス・デジタルを設立
「Patsat」イオン銀行と提携拡大
ホーチミン駐在員事務所を開設
職業紹介業務を開始
- 2019年 「メルペイ」、「J-Coin Pay」、「LINE Pay」等へのチャージ機能取扱開始
関西イノベーションネットワーク投資事業有限責任組合（イノベーションファンド25）を設立
イノベーションファンド25を通じて大阪府、大阪市、大阪商工会議所、公益財団法人大阪産業局、地方独立行政法人大阪産業技術研究所、株式会社池田泉州銀行、関西イノベーションネットワーク投資事業有限責任組合の7者による連携に関する協定締結
- 2020年 店舗改革実施（エリア営業体制、店舗内店舗）
「プラチナくるみん」認定を取得
池田泉州銀行と池田泉州TT証券、共同店舗（西宮北口支店、神戸支店）オープン
タブレット拠点（伊丹鴻池支店）の導入
- 2021年 豊能町と「未来へのまち活協定」締結
川西市・住宅金融支援機構と「空き家対策の推進に関する連携協定」締結
信託業務の兼営認可取得
大阪信用保証協会とのタイアップSDGs推進融資商品「ウイング」取扱開始
大阪市・住宅金融支援機構と「空き家対策の推進に関する連携協定」締結
池田泉州キャピタル株式会社を投資専門子会社化
関西みらい銀行とATM無料提携
交野市と「移住・定住・永住施策に関する連携協定」締結
- 2022年 「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」取扱開始
「池田泉州SDGsフォーラム」開催
本部のビジネスカジュアル通年実施
スタートアップ企業との業務提携開始
大阪・関西万博大阪ヘルスケアパビリオン「展示・出展ゾーン」事業企画認定
- 2023年 マネー・ローndリング及びテロ資金供与対策室の設置
『ジョブ型雇用制度』および『社内複業制度』の導入
堺市との良質な住宅ストック形成に関する連携協定の締結
「千里・箕面営業本部」の設置について

池田泉州TT証券

- 2013年 9月 池田泉州ホールディングスの子会社、「池田泉州TT証券 株式会社」が3ヶ店（本店営業部、堺支店、神戸支店）で営業開始
- 2016年 池田支店開設
- 2019年 岸和田支店開設
- 2020年 西宮北口支店・豊中千里支店開設



■池田泉州銀行の業務内容

1 預金業務

(1) 預金

当座預金、普通預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金、納税準備預金、非居住者円預金及び外貨預金を取り扱っております。

(2) 譲渡性預金

譲渡可能な定期預金を取り扱っております。

2 貸出業務

(1) 貸付

手形貸付、証書貸付及び当座貸越を取り扱っております。

(2) 手形の割引

銀行引受手形、商業手形及び荷付為替手形の割引を取り扱っております。

3 商品有価証券売買業務

国債等公共債の売買業務を行っております。

4 有価証券投資業務

預金の支払準備及び資金運用のため国債、地方債、社債、株式、その他の証券に投資しております。

5 内国為替業務

送金為替、当座振込及び代金取立等を取り扱っております。

6 外国為替業務

輸出、輸入及び外国送金その他外国為替に関する各種業務を行っております。

■池田泉州TT証券の業務内容

1 有価証券の売買、市場デリバティブ取引及び外国市場デリバティブ取引

2 有価証券の売買等の媒介、取次ぎ又は代理

3 取引所金融商品市場(外国金融商品市場を含む)における有価証券の売買等の委託の媒介、取次ぎ及び代理

7 社債受託及び登録業務

担保付社債信託法による社債受託業務、公共債の募集受託及び登録に関する業務を行っております。

8 信託業務

信託業務(遺言代用信託)を行っております。

9 付帯業務

(1) 代理業務

- ①日本銀行代理店、日本銀行歳入代理店及び国債代理店業務
- ②地方公共団体の公金取扱業務
- ③勤労者退職金共済機構等の代理店業務
- ④株式払込金の受入代理業務及び株式配当金、公社債元利金の支払代理業務
- ⑤日本政策金融公庫等の代理貸付業務
- ⑥信託代理店業務

(2) 保護預り及び貸金庫業務

(3) 有価証券の貸付

(4) 債務の保証(支払承諾)

(5) 公社債の引受

(6) 国債等公共債及び証券投資信託の窓口販売

(7) コマーシャル・ペーパー等の取り扱い

(8) 保険の窓口販売

(9) 金融商品仲介業務

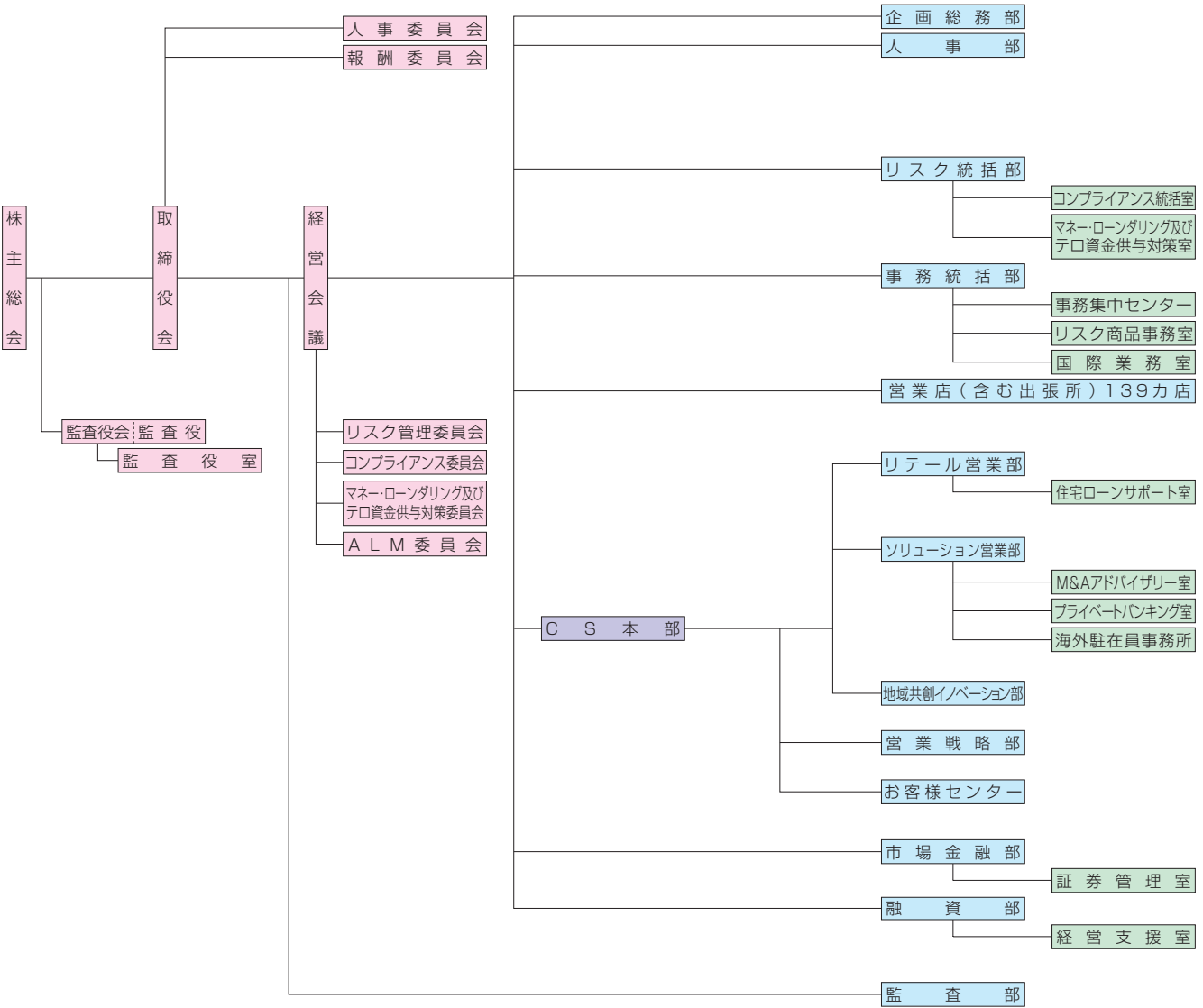
4 有価証券の募集若しくは売出しの取扱い又は私募の取扱い

5 有価証券の保護預り業務

6 口座管理機関として行う振替業

池田泉州銀行

■組織図 (2024年6月末現在)



■役員 (2024年6月26日現在)

代表取締役会長 太田 享之
代表取締役頭取兼CEO 鵜川 淳

取締役専務執行役員 和田 季之
取締役専務執行役員 阪口 広一
取締役専務執行役員 塚 越 治
取締役専務執行役員 藤原 孝嘉
取締役専務執行役員 入江 努

取締役(非業務執行取締役) 小笠原 敦子
取締役(非業務執行取締役) 中川 喜博
取締役(非業務執行取締役) 金子 啓子
取締役(非業務執行取締役) 久川 秀仁

監査役(常勤) 堀内 修
監査役(常勤) 平松 勝己
監査役(社外) 田中和 幸
監査役(社外) 福田 健次

■執行役員 (2024年6月26日現在)

専務執行役員(大阪中央営業本部長) 宮田 浩二
専務執行役員(本店営業本部長) 原田 彰
常務執行役員 松下 恭子
常務執行役員 小嶋 伸一
常務執行役員 篠原 共幸

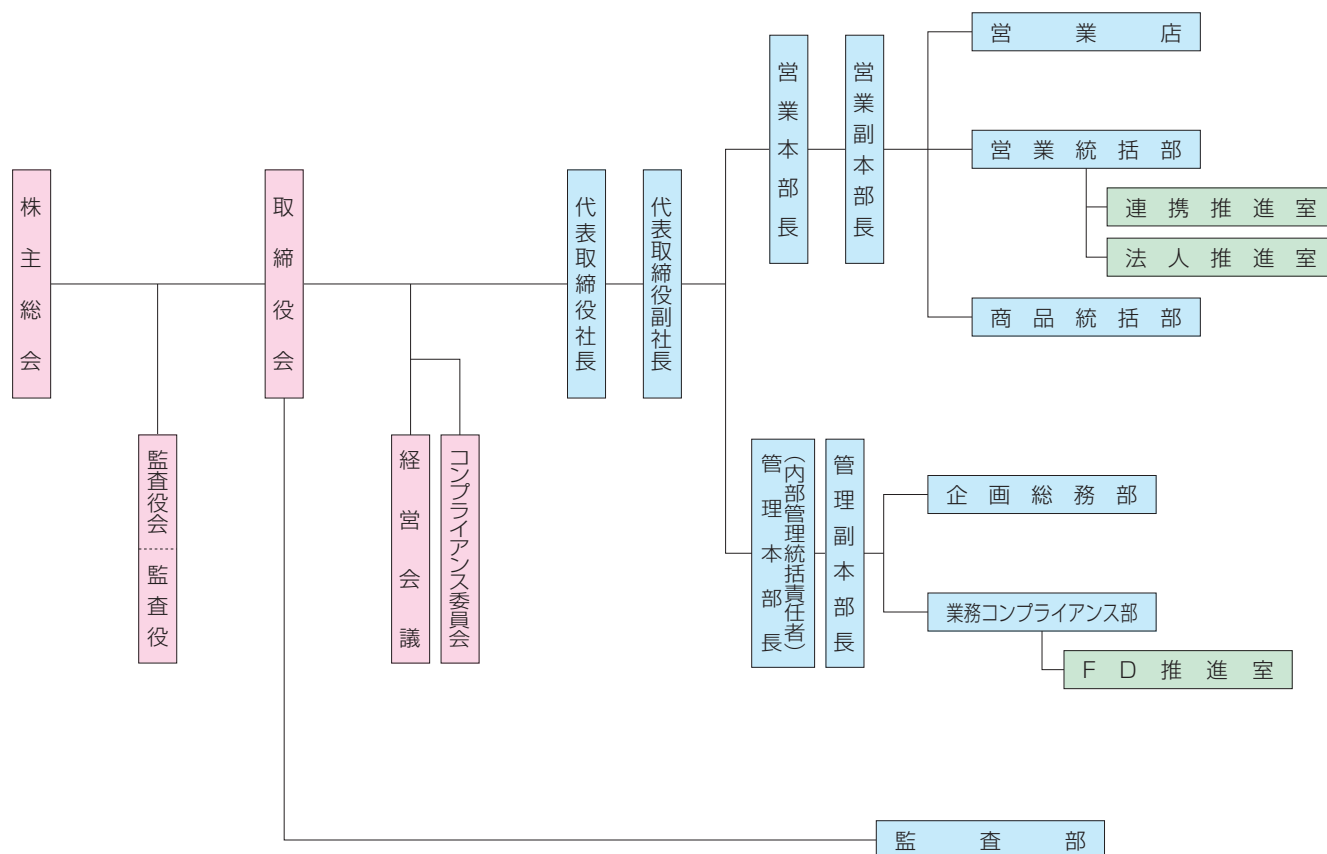
常務執行役員(千葉・真田営業本部長) 山本 儒
執行役員(マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策室長) 飯室 良一
執行役員(大阪中央営業本部第1部長) 乾 正英
執行役員(融資部長) 上林 康二
執行役員(東支店営業本部副支店長・支店長・支店長兼副支店長) 土岐 隆宏

執行役員(川西支店長) 大西 正芳
執行役員(大阪中央営業本部第2部長) 小谷 剛
執行役員 朴木 健吾
執行役員(泉州営業部長) 山中 康史
執行役員 石川 輝

執行役員(企画総務部長) 永井 一生
執行役員(リスク統括部長) 成田 敬宣
執行役員(事務統括部長) 山本 哲生
執行役員(営業戦略部長) 田中 健吾
執行役員(人事部長) 米本 哲志

池田泉州TT証券

■組織図 (2024年6月末現在)



■役員 (2024年6月27日現在)

代表取締役社長	井上 基	監査役(常勤)	花立 賢一
代表取締役副社長	工藤 望	監査役(非常勤)	堀内 修
専務取締役(営業本部長)	栗田 宗春	監査役(非常勤)	小澤 保彦

■執行役員 (2024年6月27日現在)

常務執行役員(管理本部長)	井上 俊之	執行役員(営業本部長)	河村 茂樹
常務執行役員(営業副本部長)	梅澤 真臣	執行役員(管理副本部長)	中谷 真志

店舗のご案内

■池田泉州銀行店舗所在地（2024年6月末現在）

大 阪 府			
大 阪 市			
本 店 営 業 部	大阪市北区茶屋町18番14号	〒530-0013	☎ (06) 6376-1781
本 町 支 店	大阪市中央区久太郎町3丁目5番13号	〒541-0056	☎ (06) 6251-0791
大 阪 西 支 店	大阪市中央区久太郎町3丁目5番13号	〒541-0056	☎ (06) 6251-0791
<本町支店と同一店舗内>			
堺 筋 支 店	大阪市中央区久太郎町3丁目5番13号	〒541-0056	☎ (06) 6251-0791
<本町支店と同一店舗内>			
あべのハルカス支店	大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1番43号	〒545-6018	☎ (06) 6624-8418
東 成 支 店	大阪市東成区東今里2丁目1番2号	〒537-0011	☎ (06) 6971-2571
梅 田 支 店	大阪市北区茶屋町18番14号	〒530-0013	☎ (06) 6376-1781
<本店営業部と同一店舗内>			
堂 島 支 店	大阪市北区茶屋町18番14号	〒530-0013	☎ (06) 6376-1781
<本店営業部と同一店舗内>			
淡 路 支 店	大阪市東淀川区東淡路4丁目18番9号	〒533-0023	☎ (06) 6322-9240
上 新 庄 支 店	大阪市東淀川区上新庄2丁目24番23号	〒533-0006	☎ (06) 6328-2761
豊 里 支 店	大阪市東淀川区上新庄2丁目24番23号	〒533-0006	☎ (06) 6328-2761
<上新庄支店と同一店舗内>			
大 宮 町 支 店	大阪市旭区大宮4丁目5番12号	〒535-0002	☎ (06) 6951-4771
新 大 阪 支 店	大阪市北区茶屋町18番14号	〒530-0013	☎ (06) 6376-1781
<本店営業部と同一店舗内>			
難 波 支 店	大阪市中央区難波5丁目1番60号	〒542-0076	☎ (06) 6641-8771
帝 塚 山 支 店	大阪市阿倍野区万代1丁目6番11号	〒545-0036	☎ (06) 6628-7921
昭 和 町 支 店	大阪市阿倍野区阪南町1丁目28番4号	〒545-0021	☎ (06) 6621-3731
長 居 支 店	大阪市住吉区長居3丁目8番14号	〒558-0003	☎ (06) 6692-7661
駒 川 町 支 店	大阪市東住吉区駒川3丁目30番10号	〒546-0043	☎ (06) 6628-5101
城 東 支 店	大阪市城東区今福東1丁目10番5号	〒536-0002	☎ (06) 6934-1911
住 之 江 支 店	大阪市住吉区長居3丁目8番14号	〒558-0003	☎ (06) 6692-7661
<長居支店と同一店舗内>			
池 田 市			
池 田 営 業 部	池田市城南2丁目1番11号	〒563-0025	☎ (072) 753-3737
石 橋 支 店	池田市石橋2丁目17番13号	〒563-0032	☎ (072) 761-8281
池田駅前支店	池田市城南2丁目1番11号	〒563-0025	☎ (072) 753-3737
<池田営業部と同一店舗内>			
池 田 東 支 店	池田市石橋2丁目17番13号	〒563-0032	☎ (072) 761-8281
<石橋支店と同一店舗内>			
箕 面 市			
箕 面 支 店	箕面市桜井1丁目7番25号	〒562-0043	☎ (072) 721-2081
箕面駅前支店	箕面市箕面6丁目2番5-101号	〒562-0001	☎ (072) 721-3385
小 野 原 支 店	箕面市小野原東3丁目13番22号	〒562-0031	☎ (072) 728-8411
豊 能 郡			
能 勢 支 店	豊能郡能勢町森上151番地の13	〒563-0362	☎ (072) 734-0077
ときわ台支店	豊能郡豊能町ときわ台5丁目7番地の6	〒563-0102	☎ (072) 738-4451
豊 中 市			
豊 中 支 店	豊中市本町1丁目2番4号	〒560-0021	☎ (06) 6854-1141
服 部 支 店	豊中市服部元町1丁目6番3号	〒561-0851	☎ (06) 6862-0351
庄 内 支 店	豊中市庄内東町3丁目19番32号	〒561-0831	☎ (06) 6332-3031
東 豊 中 支 店	豊中市東豊中町6丁目3番34-101号	〒560-0003	☎ (06) 6848-1331
旭ヶ丘支店	豊中市夕日丘1丁目1番6号	〒561-0864	☎ (06) 6849-2351
北 豊 中 支 店	豊中市西緑丘3丁目12番1号	〒560-0005	☎ (06) 6848-5771
曾 根 支 店	豊中市南枚家2丁目7番17号	〒561-0882	☎ (06) 6845-1311
蛭 池 支 店	豊中市本町1丁目2番4号	〒560-0021	☎ (06) 6854-1141
<豊中支店と同一店舗内>			
北 千 里 支 店	豊中市新千里東町1丁目5番3号	〒560-0082	☎ (06) 6871-9981
<千里中央支店と同一店舗内>			
千 里 中 央 支 店	豊中市新千里東町1丁目5番3号	〒560-0082	☎ (06) 6871-9981
摂 津 市			
摂 津 支 店	摂津市東一津屋13番3号	〒566-0074	☎ (06) 4862-0055
千 里 丘 支 店	摂津市千里丘2丁目15番10号	〒566-0001	☎ (06) 6330-2851
吹 田 市			
緑 地 公 園 支 店	吹田市豊津町9番1号	〒564-0051	☎ (06) 6386-6301
<江坂支店と同一店舗内>			
吹 田 支 店	吹田市内本町2丁目2番1号	〒564-0032	☎ (06) 6381-4741
南 千 里 支 店	吹田市津雲台1丁目1番4-111号	〒565-0862	☎ (06) 6871-0281
北 千 里 支 店	吹田市古江台4丁目2番	〒565-0874	☎ (06) 6872-0771
桃 山 台 支 店	吹田市桃山台5丁目2番1号	〒565-0854	☎ (06) 6831-0026
江 坂 支 店	吹田市豊津町9番1号	〒564-0051	☎ (06) 6386-6301
佐 井 寺 出 張 所	吹田市津雲台1丁目1番4-111号	〒565-0862	☎ (06) 6871-0281
<南千里支店と同一店舗内>			
茨 木 市			
彩 都 支 店	茨木市彩都あさぎ1丁目1番10号	〒567-0085	☎ (072) 641-3031
高 槻 市			
富 田 支 店	高槻市大畑町5番2号	〒569-1144	☎ (072) 696-3933
高 槻 支 店	高槻市城北町2丁目8番4号	〒569-0071	☎ (072) 672-6500
枚 方 市			
枚 方 北 支 店	枚方市長尾元町5丁目19番10号	〒573-0163	☎ (072) 850-3611
津 田 支 店	枚方市長尾元町5丁目19番10号	〒573-0163	☎ (072) 850-3611
<枚方北支店と同一店舗内>			
交 野 市			
交 野 支 店	交野市星田5丁目11番3号	〒576-0016	☎ (072) 893-2091
大 東 市			
大 東 支 店	大東市野崎1丁目7番12号	〒574-0015	☎ (072) 877-3331
住 道 支 店	大東市赤井2丁目1番8号	〒574-0046	☎ (072) 875-3731
東 大 阪 市			
東大阪中央支店	東大阪市小阪1丁目2番20号	〒577-0801	☎ (06) 6787-1600
<東大阪支店と同一店舗内>			
東 大 阪 支 店	東大阪市小阪1丁目2番20号	〒577-0801	☎ (06) 6787-1600
八 戸 〆 里 出 張 所	東大阪市下小阪5丁目2番2号	〒577-0803	☎ (06) 6725-0761
八 尾 市			
高 安 支 店	八尾市山本高安町2丁目12番1号	〒581-0021	☎ (072) 998-0066
八 尾 支 店	八尾市弓削町1丁目1番地	〒581-0032	☎ (072) 949-1080
羽 曳 野 市			
羽 曳 野 支 店	羽曳野市南恵我之荘1丁目1番29号	〒583-0885	☎ (072) 954-1881
松 原 市			
松 原 支 店	松原市天美東7丁目62番地	〒580-0032	☎ (072) 332-5375
藤 井 寺 市			
藤 井 寺 支 店	藤井寺市岡2丁目12番6号	〒583-0027	☎ (072) 939-8111
富 田 林 市			
金 剛 支 店	富田林市寺池台1丁目9番	〒584-0073	☎ (0721) 29-1412
喜 志 支 店	富田林市喜志町3丁目10番10号	〒584-0005	☎ (0721) 24-0111
堺 市			
鳳 支 店	堺市西区鳳南町4丁目13番地2	〒593-8325	☎ (072) 271-0781
堺 支 店	堺市堺区一条通14番8号	〒590-0048	☎ (072) 221-5101
諏 訪 森 支 店	堺市西区浜寺諏訪森町中2丁目158番地14	〒592-8348	☎ (072) 265-2661
初 芝 支 店	堺市東区日置辻西町2丁目4番1号	〒599-8114	☎ (072) 285-4561
白 鷺 支 店	堺市東区白鷺町1丁目21番12号	〒599-8107	☎ (072) 285-6060
上 野 芝 支 店	堺市西区上野芝町3丁目4番25号	〒593-8301	☎ (072) 279-3321
堺 市 駅 前 支 店	堺市堺区一条通14番8号	〒590-0048	☎ (072) 221-5101
<堺支店と同一店舗内>			
泉ヶ丘支店	堺市南区茶山台1丁目2番3号	〒590-0115	☎ (072) 291-2131
津 久 野 支 店	堺市西区津久野町1丁目11番3号	〒593-8322	☎ (072) 272-3355
北 野 田 支 店	堺市東区北野田37番地1	〒599-8123	☎ (072) 236-6321
東 山 支 店	堺市南区茶山台1丁目2番3号	〒590-0115	☎ (072) 291-2131
<泉ヶ丘支店と同一店舗内>			
も ず 支 店	堺市北区百舌鳥河北町5丁目389番地	〒591-8031	☎ (072) 258-5451
堺 西 支 店	堺市堺区熊野町西3丁目2番7号	〒590-0947	☎ (072) 221-4431
新 金 岡 支 店	堺市北区新金岡町4丁目1番3号	〒591-8021	☎ (072) 254-1011
高 石 市			
高 石 支 店	高石市加茂1丁目21番23号	〒592-0011	☎ (072) 265-5211
泉 大 津 市			
泉 大 津 支 店	泉大津市田中町12番28号	〒595-0062	☎ (0725) 21-4681
和 泉 市			
和 泉 支 店	和泉市府中町1丁目7番7号	〒594-0071	☎ (0725) 41-0490
三 林 支 店	和泉市和田町285番地の1	〒594-1102	☎ (0725) 55-0080
和 泉 南 支 店	和泉市いぶき野5丁目1番2号	〒594-0041	☎ (0725) 57-3181
<和泉中央支店と同一店舗内>			
和 泉 中 央 支 店	和泉市いぶき野5丁目1番2号	〒594-0041	☎ (0725) 57-3181
泉 北 郡			
忠 岡 支 店	泉北郡忠岡町忠岡南1丁目4番1号	〒595-0813	☎ (0725) 33-5101
岸 和 田 市			
泉 州 営 業 部	岸和田市宮本町26番15号	〒596-0054	☎ (072) 433-4105
久 米 田 支 店	岸和田市大町445番地の1	〒596-0812	☎ (072) 445-0380
春 木 支 店	岸和田市春木若松町8番14号	〒596-0006	☎ (072) 436-1251
東 岸 和 田 支 店	岸和田市土生町4丁目2番2号	〒596-0825	☎ (072) 428-1351
貝 塚 市			
貝 塚 支 店	貝塚市近木町2番3号	〒597-0001	☎ (072) 431-4626
東 貝 塚 支 店	貝塚市近木町2番3号	〒597-0001	☎ (072) 431-4626
<貝塚支店と同一店舗内>			
泉 佐 野 市			
泉 佐 野 支 店	泉佐野市栄町5番10号	〒598-0054	☎ (072) 463-2551
長 滝 駅 前 支 店	泉佐野市日根野4077番地の1	〒598-0021	☎ (072) 462-2701
<日根野支店と同一店舗内>			
日 根 野 支 店	泉佐野市日根野4077番地の1	〒598-0021	☎ (072) 462-2701
泉 南 市			
泉 南 支 店	泉南市信達牧野199番地の2	〒590-0522	☎ (072) 483-2286
樽 井 支 店	泉南市樽井6丁目11番7号	〒590-0521	☎ (072) 482-8921

阪 南 市			
阪 南 支 店	阪南市尾崎町68番地	〒599-0201	☎ (072) 472-0601
箱 作 支 店	阪南市尾崎町68番地	〒599-0201	☎ (072) 472-0601
<阪南支店と同一店舗内>			
泉 南 郡			
熊 取 支 店	泉南郡熊取町大久保中2丁目27番5号	〒590-0403	☎ (072) 452-1401
田 尻 支 店	泉南郡田尻町吉見688番地1	〒598-0092	☎ (072) 466-0103
岬 町 支 店	泉南郡岬町深日1828番地の1	〒599-0303	☎ (072) 492-3221
兵 庫 県			

神 戸 市			
神 戸 支 店	神戸市中央区雲井通7丁目1番1号	〒651-0096	☎ (078) 265-6821
六 甲 支 店	神戸市灘区山田町3丁目2番1号	〒657-0064	☎ (078) 841-2335
住 吉 御 影 支 店	神戸市東灘区住吉本町3丁目5番4号	〒658-0051	☎ (078) 856-8015
芦 屋 市			
芦 屋 支 店	芦屋市大原町12番2号	〒659-0092	☎ (0797) 25-2260
尼 崎 市			
武 庫 之 荘 支 店	尼崎市武庫之荘1丁目5番4号	〒661-0035	☎ (06) 6436-4715
西 武 庫 出 張 所	尼崎市武庫之荘1丁目5番4号	〒661-0035	☎ (06) 6436-4715
<武庫之荘支店と同一店舗内>			
塚 口 支 店	尼崎市塚口町1丁目18番7号	〒661-0002	☎ (06) 6421-6000

西 宮 市			
西 宮 北 口 支 店	西宮市甲風園1丁目9番14号	〒662-0832	☎ (0798) 67-4631
苦 楽 園 支 店	西宮市南越木岩町5番24号	〒662-0075	☎ (0798) 71-4441
夙 川 支 店	西宮市寿町4番30号	〒662-0047	☎ (0798) 36-3101

伊 丹 市			
伊 丹 支 店	伊丹市西台1丁目1番1号	〒664-0858	☎ (072) 772-1051
稲 野 支 店	伊丹市稲野町4丁目21番地の4	〒664-0861	☎ (072) 773-0831
伊 丹 鴻 池 支 店	伊丹市鴻池4丁目1番10号	〒664-0006	☎ (072) 783-9001

宝 塚 市			
名 塩 支 店	宝塚市栄町2丁目3番1号	〒665-0845	☎ (0797) 81-3521
<宝塚駅前支店と同一店舗内>			
宝 塚 支 店	宝塚市逆瀬川1丁目1番1号	〒665-0035	☎ (0797) 72-8870
<逆瀬川支店と同一店舗内>			
仁 川 支 店	宝塚市仁川北2丁目7番1-102号	〒665-0061	☎ (0798) 52-3151
売 布 支 店	宝塚市売布2丁目5番1号	〒665-0852	☎ (0797) 87-6331
中 山 台 支 店	宝塚市中山五台2丁目2番4号	〒665-0871	☎ (0797) 88-5101
山 本 支 店	宝塚市平井1丁目2番23号	〒665-0816	☎ (0797) 89-7780
宝 塚 駅 前 支 店	宝塚市栄町2丁目3番1号	〒665-0845	☎ (0797) 81-3521
逆 瀬 川 支 店	宝塚市逆瀬川1丁目1番1号	〒665-0035	☎ (0797) 72-8870

川 西 市			
川 西 支 店	川西市栄町20番1号	〒666-0033	☎ (072) 759-4761
山 下 支 店	川西市見野2丁目28番31号	〒666-0105	☎ (072) 794-1221
多 田 グリーンハイツ支店	川西市向陽台3丁目2番地の98	〒666-0115	☎ (072) 793-3001
多 田 支 店	川西市多田桜木1丁目8番1号	〒666-0124	☎ (072) 793-4830
川 西 清 和 台 支 店	川西市清和台東3丁目1番地の8	〒666-0142	☎ (072) 799-0771
う ね 野 支 店	川西市大和川1丁目64番地の2	〒666-0112	☎ (072) 794-6631

川 辺 郡			
日 生 中 央 支 店	川辺郡猪名川町松尾台1丁目2番地の20	〒666-0261	☎ (072) 766-2361

三 田 市			
三 田 支 店	三田市中央町9番28-101号	〒669-1529	☎ (079) 562-2891
三 田 ヲッディタウン支店	三田市すずかけ台2丁目3番地の1	〒669-1322	☎ (079) 565-1421

京 都 府			
京 都 支 店	京都市中京区御池通東洞院西入笹屋町435番地	〒604-8187	☎ (075) 231-0511

和 歌 山 県			
和 歌 山 支 店	和歌山市美園町5丁目1番地の3	〒640-8652	☎ (073) 424-4181

東 京 都			
東 京 支 店	東京都千代田区丸の内2丁目2番1号	〒100-0005	☎ (03) 3284-1251

海 外			
-----	--	--	--

中 国			
蘇州駐在員事務所	中国江蘇省蘇州市吳中区宝带東路399号 麗豐商業中心2幢A座707-709室		☎86-512-6585-1791

ベトナム			
ホーチミン駐在員事務所	7th Floor, Sun Wah Tower, 115 Nguyen Hue Boulevard, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam		☎84-28-3821-3295

そ の 他			
インターネット支店	https://www.sihd-bk.jp/internet/index.html	☎ (072) 437-9295	
ダイレクト支店	https://www.sihd-bk.jp/internet/index.html	☎ (072) 437-4063	
ステーションネット支店			
振込専用支店			

ローンプラザ			
--------	--	--	--

大 阪 府			
本 町 ロ ー ン プ ラ ザ	大阪府中央区久太郎町3丁目5番13号	〒541-0056	☎ (06) 6251-6325
(アービルディング3F・本町支店内)			
上 新 庄 ロ ー ン プ ラ ザ	大阪府大阪市東淀川区上新庄2丁目24番23号	〒533-0006	☎ (06) 6327-3930
(上新庄支店2F)			
昭 和 町 ロ ー ン プ ラ ザ	大阪市阿倍野区阪南町1丁目28番4号	〒545-0021	☎ (06) 6625-7260
(昭和町支店同ビル2F)			
城 東 ロ ー ン プ ラ ザ	大阪市城東区今福東1丁目10番5号	〒536-0002	☎ (06) 6934-1928
(城東支店同ビル4F)			
池 田 ロ ー ン プ ラ ザ	池田市城南2丁目1番11号	〒563-0025	☎ (072) 753-3741
豊 中 南 ロ ー ン プ ラ ザ	豊中市庄内東町3丁目19番32号	〒561-0831	☎ (06) 4867-0730
(庄内支店内)			
千 里 中 央 ロ ー ン プ ラ ザ	豊中市新千里東町1丁目5番3号	〒560-0082	☎ (06) 6831-3778
(千里朝日阪急ビル1F・千里中央支店内)			
高 槻 ロ ー ン プ ラ ザ	高槻市城北町2丁目8番4号	〒569-0071	☎ (072) 672-6690
(高槻支店内)			
交 野 ロ ー ン プ ラ ザ	交野市星田5丁目11番3号	〒576-0016	☎ (072) 893-0165
(交野支店2F)			
東 大 阪 ロ ー ン プ ラ ザ	東大阪市下小阪5丁目2番2号	〒577-0803	☎ (06) 6725-6353
(天正第1ビル1F・ライフ/ハルノ里店横・ハルノ里出張所内)			
藤 井 寺 ロ ー ン プ ラ ザ	藤井寺市岡2丁目12番6号	〒583-0027	☎ (072) 930-4933
(藤井寺支店同ビル内)			
堺 ロ ー ン プ ラ ザ	堺市堺区一条通14番8号	〒590-0048	☎ (072) 226-3705
(堺支店2F)			
和 泉 中 央 ロ ー ン プ ラ ザ	和泉市いぶき野5丁目1番2号	〒594-0041	☎ (0725) 57-1800
(ピボ和泉中央1F・和泉中央支店内)			
泉 州 ロ ー ン プ ラ ザ	岸和田市宮本町26番15号	〒596-0054	☎ (072) 438-9077
(泉州営業部内)			

兵 庫 県			
神 戸 ロ ー ン プ ラ ザ	神戸市東灘区住吉本町3丁目5番4号	〒658-0051	☎ (078) 856-8071
(住吉御影支店内)			
塚 口 ロ ー ン プ ラ ザ	尼崎市塚口町1丁目18番7号	〒661-0002	☎ (06) 6421-8851
(塚口支店内)			
西 宮 北 口 ロ ー ン プ ラ ザ	西宮市甲風園1丁目9番14号	〒662-0832	☎ (0798) 67-2322
(西宮北口支店内)			

お問い合わせ		受付時間
商品、サービスに関するお問い合わせ		
テレホンセンター	☎0120-041892	平 日 9:00~17:00 (銀行休業日除く)
個人インターネットバンキングに関するお問い合わせ		
インターネットバンキングヘルプデスク	☎0120-092109	平 日 9:00~21:00 土・日・祝 9:00~17:00
法人インターネットバンキング、EBサービスに関するお問い合わせ		
EBサポートセンター	☎0120-277575	平 日 9:00~17:00
ご意見・ご要望・苦情窓口		
お客様センター	代表電話 ☎06-6375-1005	平 日 9:00~17:00

金融ADR制度	
金融ADR制度とは、金融分野における裁判外紛争解決手続きのことで、お客さまが金融機関との間で十分に話し合いをしても問題の解決がつかないような場合にご利用いただける制度です。国の指定を受けて中立性を確保した指定銀行業務紛争解決機関がお客さまや金融機関からの申出を受け、苦情やトラブルの解決を図ります。当行が契約している銀行法上の指定銀行業務紛争解決機関は、一般社団法人全国銀行協会です。(連絡先：全国銀行協会相談室 ☎0570-017109または03-5252-3772)	

池田泉州TT証券店舗所在地 (2024年6月末現在)

本 店 営 業 部	大阪市北区豊崎3丁目2番1号 淀川5番館9階	〒531-0072	☎ (06) 6485-0337
池 田 支 店	池田市城南2丁目1番11号	〒563-0025	☎ (072) 748-1020
(池田泉州銀行 池田営業部 併設)			
豊 中 千 里 支 店	吹田市桃山台5丁目2番1号	〒565-0854	☎ (06) 6836-6140
(池田泉州銀行 桃山台支店 併設)			
堺 支 店	堺市堺区一条通14番8号	〒590-0048	☎ (072) 225-5711
(池田泉州銀行 堺支店内)			
岸 和 田 支 店	岸和田市宮本町26番15号	〒596-0054	☎ (072) 430-6900
(池田泉州銀行 泉州営業部 併設)			
神 戸 支 店	神戸市中央区雲井通7丁目1番1号	〒651-0096	☎ (078) 242-1131
(池田泉州銀行 神戸支店 併設)			
西 宮 北 口 支 店	西宮市甲風園1丁目9番14号	〒662-0832	☎ (0798) 66-1878
(池田泉州銀行 西宮北口支店内)			

株式の状況

池田泉州ホールディングス

■資本金及び発行済株式の総数

	第11期 (2020年3月期)	第12期 (2021年3月期)	第13期 (2022年3月期)	第14期 (2023年3月期)	第15期 (2024年3月期)
資本金 (百万円)	102,999	102,999	102,999	102,999	102,999
発行済株式総数 (千株)	普通株式 281,008	普通株式 281,008	普通株式 281,008	普通株式 281,008	普通株式 281,008
	第1回 第七種優先株式 25,000	第1回 第七種優先株式 25,000	第1回 第七種優先株式 25,000		

■株式所有者別内訳

(2024年3月31日現在)

区 分	株式の状況 (1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等 個人以外	個人	個人その他	計	
株主数 (人)	—	29	32	1,439	146	54	42,223	43,923	—
所有株式数 (単元)	—	778,184	70,341	433,936	471,253	977	1,051,779	2,806,470	361,632株
割合 (%)	—	27.73	2.51	15.46	16.79	0.03	37.48	100.00	—

(注) 1. 自己株式600,665株は「個人その他」に6,006単元、「単元未満株式の状況」に65株含まれております。
2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ83単元及び60株含まれております。

■大株主一覧

(2024年3月31日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数	発行済株式総数 (自己株式を除く。)に対する 所有株式数の割合
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号 赤坂インターシティAIR	32,695千株	11.65%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	28,739	10.24
池田泉州銀行従業員持株会	大阪府大阪市北区茶屋町18番14号	13,949	4.97
伊丹産業株式会社	兵庫県伊丹市中央5丁目5番10号	3,692	1.31
JP MORGAN CHASE BANK 385781	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM	3,669	1.30
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A.	3,664	1.30
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	PALISADES WEST 6300.BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US	3,287	1.17
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	2,911	1.03
HAYAT	P.O.BOX 2992 RIYADH 11169 KINGDOM OF SAUDI ARABIA	2,758	0.98
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	2,505	0.89
計		97,873	34.90

池田泉州銀行

■大株主一覧

(2024年3月31日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
株式会社池田泉州ホールディングス	大阪市北区茶屋町18番14号	52,837千株	100.00%
計		52,837	100.00

池田泉州TT証券

■大株主一覧

(2024年3月31日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
株式会社池田泉州ホールディングス	大阪市北区茶屋町18番14号	2,400株	60.00%
東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社	東京都中央区日本橋2丁目5番1号	1,600	40.00
計		4,000	100.00

コーポレート・ガバナンスについて

当社は、池田泉州銀行などを子会社とする持株会社であり、「幅広いご縁」と「進取の精神」を大切に、お客さまのニーズに合ったサービスを提供し、地域の皆さまに「愛される」金融グループを目指すことを経営理念に掲げ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

- (1)株主の皆さまの権利を尊重するとともに、平等性の確保に努めます。
- (2)ステークホルダーの利益を考慮するとともに、適切な協働に努めます。
- (3)会社情報を適切に開示するとともに、その会社情報の透明性の確保に努めます。
- (4)取締役会及び監査役会は株主の皆さまに対する受託者責任等を踏まえ、業務執行の監督及び監査の実効性向上に努めます。
- (5)持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主の皆さまとの建設的な対話に努めます。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、継続的な企業価値の向上を目指す企業統治体制として、社外取締役の選任と監査役会等との連携により、経営に対する監督機能を強化する体制を採用しております。

具体的には、複雑かつ高度な経営判断が要求される銀行業務等に精通した取締役が代表取締役の業務執行の監督を行い、監査役が重要な会議への出席や重要書類の閲覧等を通じて取締役の職務執行を監査しております。さらに、高度な人格、見識等を備えた社外取締役及び社外監査役（以下、社外役員といいます。）が取締役会等に出席し、活発な発言を行うことで、企業統治体制を強化する役割を担っております。

なお、当社は、社外役員との間において、その職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときは定款の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を会社法第425条第1項が定める額とする内容の責任限定契約を締結しております。

●取締役会

取締役会は、社内取締役5名及び社外取締役4名の9名の取締役で構成されます。監査役の出席のもと、原則として毎月1回開催され、取締役会規定に基づき、経営の基本方針や経営計画等の重要な業務執行の決定、取締役及び執行役員の職務執行の監督を行います。

●人事委員会

人事委員会は、社内取締役1名及び社外取締役4名の5名の取締役で構成されます。取締役会の任意の諮問機関として、取締役候補者の選定など役員の人事に関する重要事項について独立社外取締役の関与・助言を得ております。

●報酬委員会

報酬委員会は、社内取締役2名及び社外取締役4名の6名の取締役で構成されます。取締役会の任意の諮問機関として、取締役等の報酬等に関する重要事項について独立社外取締役の関与・助言を得ております。

●監査役会

監査役会は、社内監査役2名及び社外監査役2名からなる4名の監査役で構成されます。監査役会で定めた監査方針・監査計画等に従い、「取締役会」、「経営会議」等重要な会議への出席や重要書類の閲覧等を通じ、取締役の職務執行を監査します。社外監査役には、誠実な人柄、高い見識と能力を有し、それぞれの専門分野についての知識や実務経験が豊富な人材を配置し、多角的な視点から関与を得ております。

●経営会議

経営会議は、社内取締役及び役付執行役員並びに担当役員委嘱者（グループ会社社長兼務者を除く）で構成されます。社内監査役の出席のもと、原則として毎週1回開催され、取締役会から委譲された権限に基づき、業務執行に関する重要事項の決定や取締役会に付議する事項の検討を行います。また、社外役員が随時出席し意見を述べるなど、社外役員の適切な関与・助言を得ております。

（各機関の構成員等一覧）

氏名	役職	取締役会	人事委員会	報酬委員会	監査役会	経営会議
太田 享之	取締役会長	○		○		○
鵜川 淳	取締役社長兼CEO	◎	◎	○		◎
和田 季之	取締役専務執行役員	○				○
阪口 広一	取締役専務執行役員	○				○
塚越 治	取締役専務執行役員	○				○
古川 実	社外取締役	○	○	◎		●
小山 孝男	社外取締役	○	○	○		●
小笠原 敦子	社外取締役	○	○	○		●
中川 喜博	社外取締役	○	○	○		●
北川 智司	監査役	○			◎	●
前野 博生	監査役	○			○	●
森信 静治	社外監査役	○			○	●
中西 孝平	社外監査役	○			○	●
藤原 孝嘉	常務執行役員					○
入江 努	常務執行役員					○
松下 恭子	常務執行役員					○
篠原 共幸	常務執行役員					○

※ ◎：各機関の長（議長又は委員長） ○：各機関の構成員
●：オブザーバー

監査の状況

●監査役監査の状況

監査方針及び監査計画 (基本方針)

- i. 株主の負託を受けた独立の機関として、当社監査役監査基準、内部統制システムに係る監査の実施基準に則り、取締役の職務執行を監査することにより、企業不祥事を防止し、当社グループの健全で持続的な成長と、社会的信頼に応える良質な企業統治体制（コーポレートガバナンス体制）を確立することが責務であると認識する。
- ii. グループ会社監査役、内部監査部門及び会計監査人との連携を密にし、効率的で実効性の高い監査に努める。

(当事業年度における重点監査項目)

- i. グループガバナンス強化への取組み状況
 - イ. 「第5次中期経営計画」の進捗状況
 - ロ. グループ戦略強化に向けた取組み状況
 - ハ. 組織風土改革、生産性向上、グループ人員体制構築への取組み状況
- 二. 不正、不祥事再発防止に向けたガバナンス強化への取組み状況
- ホ. 法令遵守態勢への取組み状況（収収法（マネロン・テロ資金供与）外為法・銀行法等）
- ii. グループ会社監査役等との連携強化
 - イ. 内部統制システムの構築・運用状況
 - ロ. グループ会社等の監査状況
- iii. コーポレートガバナンス・コード高度化等への対応状況
 - イ. 人事委員会・報酬委員会の運営状況
 - ロ. 重要会議等の運営状況
 - ハ. 政策保有株式の状況
- iv. 三様監査の充実
- イ. 不正・不祥事再発防止対応を中心とした情報共有、意見交換

組織・人員

当社の監査役会は、社内監査役2名と社外監査役2名からなる4名の監査役で構成されており、監査役を補助する監査役スタッフ複数名を配置しております。

各監査役の状況は以下のとおりであります。

役職名	氏名	経歴等
監査役 (常勤)	北川 智司	当社グループの池田泉州銀行において融資部門の部長を経て執行役員に就任。2013年6月には同行の監査役に就任し、その後当社グループ会社の監査役を歴任。長年に亘る監査役としての実績があります。
監査役 (常勤)	前野 博生	当社グループの池田泉州銀行において、企画部門の経験長く、融資部門、リスク管理部門等を経て取締役就任。取締役就任後は、リスク管理部門の担当役員、人事部長及び企画総務部門の担当役員を歴任。長年に亘って経営に携わってきたことによる幅広い知識・経験及び財務・会計業務に従事していたことによる財務・会計に関する相当程度の知見を有しております。
監査役 (社外)	森信 静治	弁護士としての幅広い経験と高い見識、及び他社における社外取締役としての経験と見識を有しております。
監査役 (社外)	中西 孝平	銀行の取締役や企業の社外取締役を通じて培ってきた、国際金融に関する幅広い知識と見識、並びに企業経営に関する経験及びコーポレート・ガバナンスに関する知見を有しております。

監査役会の活動状況

- i. 当事業年度における監査役会の開催状況及び出席状況

項目	内容
開催回数	20回
開催時期	原則、月1回開催
出席率	北川 智司 100% (20回/20回)
	前野 博生 100% (20回/20回)
	森信 静治 100% (20回/20回)
	中西 孝平 100% (20回/20回)

- ii. 当事業年度における監査役会での主な決議事項及び報告・審議事項

決議事項	・監査計画・監査方針 ・監査費用予算 ・会計監査人の報酬額の同意 ・会計監査人の再任決議 ・会計監査人の非保証業務実施に関する事前承認 ・監査役選任同意 ・決算及び配当金の妥当性 ・決算監査及び監査報告書作成 ・定時株主総会招集及び計算書類の監査
報告・審議事項	・取締役等との意見交換 ・常勤監査役の監査活動報告 監査役往査結果、本部各部報告結果、取締役等との意見交換結果、会計監査人との定例意見交換結果、監査部監査計画 ・経営会議議案報告 ・会計監査人の監査計画並びに監査結果報告 ・会計監査人の監査報告書へのKAMIに関する記載内容

監査役の活動状況

常勤監査役は、監査役会にて定めた監査業務に従い、重要会議への出席、重要書類の閲覧、監査役往査、本部各部からの報告等を通じ、客観的かつ合理的な監査を実施しております。

また、内部監査部門やグループ各社との意見交換、会計監査人との意見交換を通じて監査の実効性を高めております。非常勤の社外監査役は、取締役会への参加に加え、監査役会での取締役や会計監査人との意見交換、常勤監査役からの監査活動報告等を受けることで監査の実効性を高めております。

監査役と会計監査人は、定期的に情報交換の場を設け、監査における諸問題等について意見交換を行うなど、緊密に連携することで効率的かつ実効性の高い監査業務を行っております。また、子会社の監査役と連携を図り、監査役と内部監査部門においても、内部監査に監査役が立ち会ったり意見交換を行うなど、緊密に連携することで効率的かつ実効性の高い監査業務を行っております。

●内部監査の状況

組織、人員及び手続き

当社では、内部監査の目的・方針等を定めた「グループ内部監査基本規定」を制定し、本規定に基づき内部監査を行う部署として「監査部」を設置しております。当社の監査部は、16名（うち子銀行監査部との兼任14名：2024年3月末現在）により構成されます。

当社の内部監査方針は、業務の健全性・適切性を確保するため、独立性と専門性を備えた実効性のある内部監査態勢を整備し、リスク管理、内部統制等の適切性・有効性を検証・評価するとともに、必要に応じ、経営陣に対し問題点の改善方法の提言等を行うことにより、グループにおける内部管理態勢の改善、企業価値の拡大等の経営目標の効果的な達成に資することとしております。

この内部監査方針のもと、内部監査計画は年度ごとに取締役会で承認され、当社各部に対する内部監査を実施するとともに、グループ各社に対し、必要に応じて単独、または子会社等の内部監査部門と協働・連携して内部監査を実施し、業務運営の改善に向け、具体的な指導及び提言等を行います。また、内部監査部門は、代表取締役のみならず、取締役会並びに監査役及び監査役会に対しても直接報告を行うレポートラインを確保しております。併せて、内部監査担当役員は、定期的に内部監査結果を取締役会に報告しております。

なお、当事業年度は、外部要因・内部要因を踏まえ、重点監査14項目を設定し取り組みました。

分類		重点監査項目
外部要因	社会的要請	顧客本位の業務運営の確立と定着
		業務継続態勢
	制度対応	AML/CFT管理態勢
		財務報告の適切性検証（J-SOX評価、確認書監査）
		オペレーショナル・リスク算定の高度化への対応（パーゼルⅢ最終化）
内部要因	リスク管理	当局検査への対応状況の検証
		銀証連携
		サイバーセキュリティ対応
		資産自己査定・償却引当の適切性検証
		自己資本比率算定の適切性（オペレーショナル・リスク算定プロセス、内部格付手法実施計画含む）
		告示最低要件（基礎的内部格付手法）
		内部格付制度の検証
		池田泉州債権回収への監査実施
		IRRB規制対応状況

内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制との関係

監査部と監査役は、会計監査人から監査計画、重点監査項目及び監査上の主要な検討課題等の説明を受け、定期的かつ必要に応じて意見交換を行っております。

監査部は、会計監査人と、財務報告に係る内部統制の整備・評価や内部監査の活動状況についても、適宜情報共有を行いながら、相互連携に努めています。

●会計監査の状況

監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

継続監査期間

14年6か月（当社設立時の2009年10月より監査契約を締結）

なお、池田銀行（現池田泉州銀行）は、1976年にEY新日本有限責任監査法人（当時は昭和監査法人）と監査契約を締結しており、以後、池田銀行（現池田泉州銀行）と泉

州銀行が合併により設立された池田泉州銀行は、継続してEY新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しております。

業務を執行した公認会計士

南波秀哉、伊加井真弓

2016年4月1日以降開始する会計期間に係る選任及び交替から、筆頭業務執行社員については、連続する5会計期間を関与した後、再度関与することは認められず、その他の業務執行社員は連続する7会計期間を関与した後、連続する5会計期間は関与することができないものとして、法令等で定められた各種規制よりも厳しいローテーションルールを適用しております。

監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、その他11名であります。

監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人が職業的専門家として遵守すべき監査基準、品質管理基準、監査実務指針、監査事務所の内規などの準拠状況や会計基準などに関する情報について、常日頃から質問や意見交換を通して確認しています。また、前期の監査実績の分析、職務執行状況などを総合的に検討し、監査の適正性及び信頼性を確保できると判断したことから、当該監査公認会計士等を選定しております。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。

また、監査役会は、会計監査人の職務執行状況等を総合的に判断し、監査の適正性及び信頼性が確保できないと認めたときは、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

監査役会による監査法人の評価の内容

監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、「会計監査人の評価及び選定基準」を定めており、同基準に従って評価を行っております。その結果、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当せず、監査役会による会計監査人の評価結果を勘案し、会計監査人を再任しました。

社外役員の状況

当社の社外取締役は4名（定時株主総会の議案承認可決後）であります。

社外取締役小笠原敦子氏は、当社の普通株式8,700株を所有しており、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。

社外取締役小笠原敦子氏は、報道機関において要職をつとめるなど、実業界での幅広い経験と実績に基づき、当社の社外取締役として業務執行に対する監督等の役割を果たしております。なお、社外取締役小笠原敦子氏は、池田泉州銀行の非業務執行取締役（非常勤）を兼職しております。

社外取締役中川喜博氏は、当社の普通株式2,500株を所有しており、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。また、社外取締役中川喜博氏が代表取締役会長を務めている株式会社阪急阪神ホテルズと池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。

社外取締役中川喜博氏は、上場会社の経営者としての幅広い経験及び実績に基づき、当社の社外取締役として業務執行に対する監督等の役割を果たしております。なお、社外取締役中川喜博氏は、池田泉州銀行の非業務執行取締役（非常勤）を兼職しております。

社外取締役金子啓子氏は、池田泉州銀行との間に取引はありません。

社外取締役金子啓子氏は、上場会社で要職を務めた幅広い経験と実績に基づき、当社の社外取締役として業務執行に対する監督及びアドバイスをを行うことが期待されます。なお、社外取締役金子啓子氏は、池田泉州銀行の非業務執行取締役（非常勤）を兼職します。

社外取締役久川秀仁氏は、池田泉州銀行との間に取引はありません。

社外取締役久川秀仁氏は、上場会社の代表取締役として企業経営に関与した幅広い経験と高い見識に基づき、当社の社外取締役として業務執行に対する監督等の役割を果たすことが期待されます。なお、社外取締役久川秀仁氏は、池田泉州銀行の非業務執行取締役（非常勤）を兼職します。

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役森信静治氏は、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。また、社外監査役森信静治氏の兼職先である北恵株式会社と池田泉州銀行との間には通常の銀行取引があります。

社外監査役森信静治氏は、弁護士としての幅広い経験と高い見識があり、かつ十分な社会的信用を有していること、また企業の社外取締役としての経験から、当社の経営執行等の適法性について、客観的・中立的な立場に立って、社外監査役としての役割を果たしております。

社外監査役中西孝平氏は、当社の普通株式13,900株を所有しており、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。また、社外監査役中西孝平氏の出身元である株式会社国際協力銀行と池田泉州銀行との間で海外に進出する本邦企業へのサポートを目的とした業務協力協定を締結しておりますが、対価の授受を伴うものではありません。

社外監査役中西孝平氏は、銀行の取締役や企業の社外取締役を通じて培ってきた、国際金融に関する幅広い経験と見識並びに企業経営に関する経験及びコーポレート・ガバナンスに関する見識があり、かつ十分な社会的信用を有していることから、客観的・中立的な立場に立って、社外監査役としての役割を果たしております。

当社は、社外取締役及び社外監査役（以下、社外役員といいます。）の独立性を客観的に判断するため、以下のとおり社外役員の独立性に関する基準を定め、この基準をもとに社外役員を選任しております。社外取締役小笠原敦子氏、中川喜博氏、金子啓子氏及び久川秀仁氏並びに社外監査役森信静治氏及び中西孝平氏の6名は、この独立性に関する基準を満たしており、上場している証券取引所が定める独立性の要件を満たし、一般株主と利益相反の生じる恐れがないため独立役員として指定し、東京証券取引所に届け出ております。

<独立性判断基準>

原則として、現在または最近（※1）において以下のいす

れの要件にも該当しない者とする。

1. 当社グループを主要（※2）な取引先とする者またはその業務執行者
 2. 当社グループの主要な取引先またはその業務執行者
 3. 当社グループから役員報酬以外に多額（※3）の金銭その他財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律家（当該財産を得ている者が法人等の場合は、当該法人等に所属する者）
 4. 当社の主要株主（※4）またはその業務執行者
 5. 当社グループから多額の寄付等を受ける者またはその業務執行者
 6. 過去（※5）に当社グループの業務執行者であった者
 7. 次に掲げる者（重要でない者を除く）の近親者（※6）
 - A. 上記1～6に該当する者
 - B. 当社グループの企業の取締役、監査役、執行役員および重要な使用人等
- ※1 「最近」の定義：実質的に現在と同視できるような場合をいい、例えば、社外取締役または社外監査役として選任する株主総会の議案の内容が決定された時点において該当していた場合等を含む
- ※2 「主要」の定義：直近事業年度における年間連結総売上高（当社の場合は年間連結経常収益）の2%以上を基準に判定
- ※3 「多額」の定義：過去3年間の平均で、年間10百万円以上
- ※4 「主要株主」の定義：直近の事業年度末時点において、総議決権の10%以上の議決権を保有する者
- ※5 「過去」の定義：10年以内
- ※6 「近親者」の定義：2親等以内

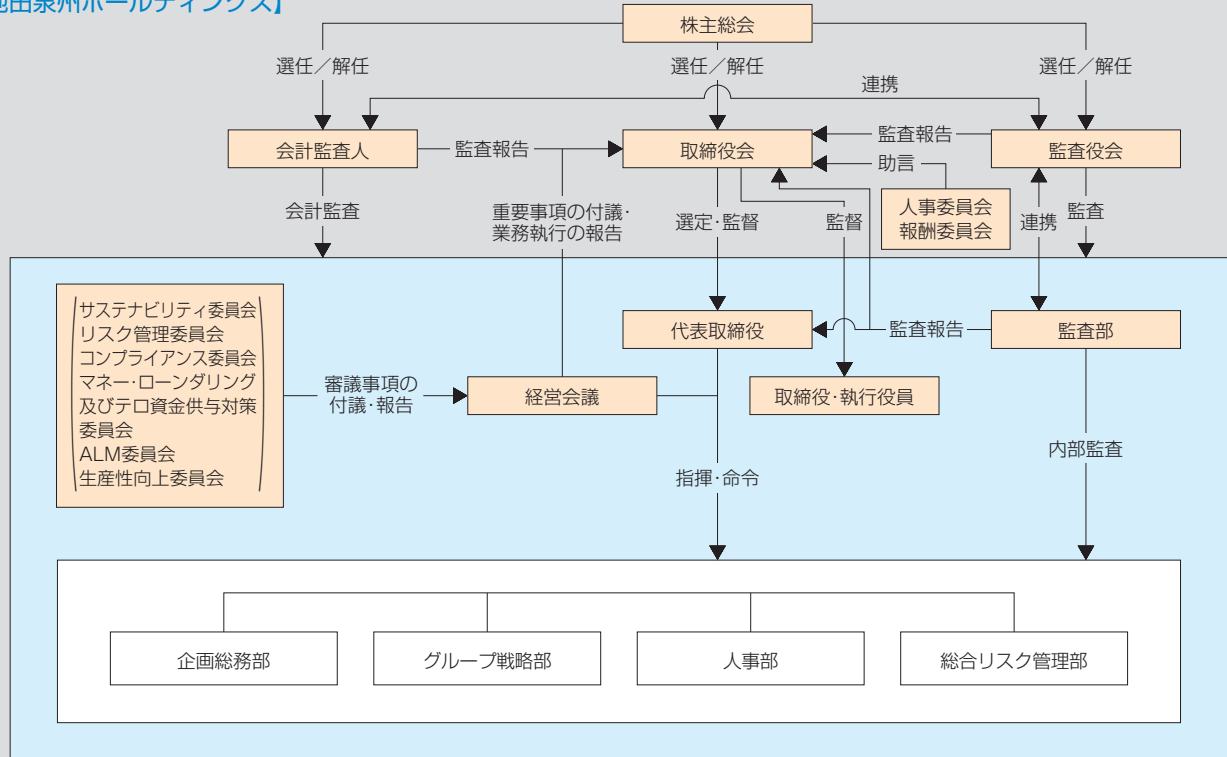
社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会を通じて監査役監査、内部監査及び会計監査の状況並びに内部統制部門からの内部統制の状況の報告を受けており、提言・助言等を行っております。また、社外監査役は、常勤監査役から監査役監査、内部監査及び会計監査の状況並びに内部統制部門からの内部統制の状況の報告を受けており、提言・助言等を行っております。

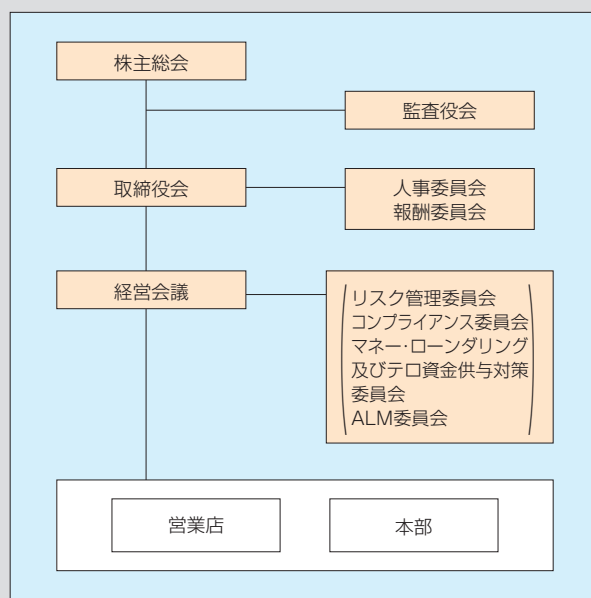
当社グループのコーポレート・ガバナンス体制図

(2024年6月末現在)

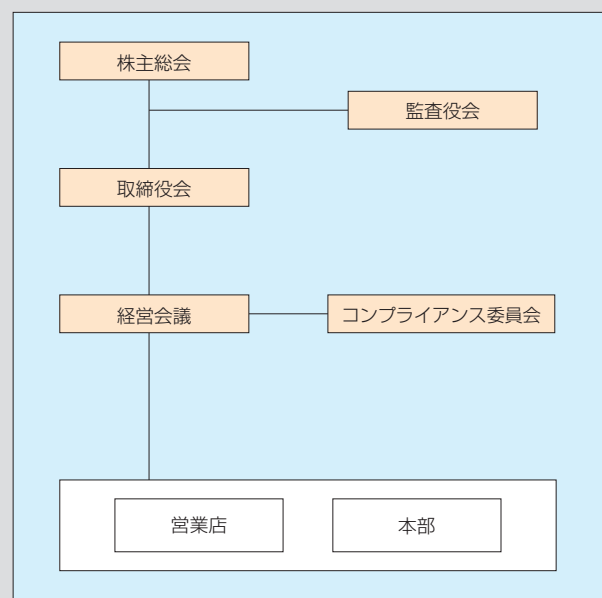
【池田泉州ホールディングス】



【池田泉州銀行】



【池田泉州TT証券】



企業統治に関するその他の事項

●内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社及び当社グループ会社は、人と人とのふれあいを大切に、誠実で親しみやすく、お客さまから最も「信頼される」金融グループを目指し、業務の適正を確保するために必要な体制を以下のような観点で構築しております。

①当社及び当社グループ会社の取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社及び当社グループ会社では、法令等遵守(コンプライアンス)を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、役職員が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるため、倫理綱領及び行動規範を制定しております。コンプライアンスを推進する体制として、担当する役員を設置し、コンプライアンス委員会において、全般的な方針や具体的施策などの審議を行います。総合リスク管理部が取組みを組織横断的に統括し、コンプライアンス・プログラムやコンプライアンス・マニュアルを定め、研修の実施などを通じ、役職員の教育等を行います。

<グループ・コンプライアンス・ホットライン制度>

法令上疑義のある行為等については、当社及び当社グループ会社の役職員が直接情報提供を行う手段としてグループ・コンプライアンス・ホットライン制度を設置しており、当該通報を行ったことにより、通報者が不利益な扱いを受けることがないよう通報者の保護を図っております。

<マネー・ローンダリング及びテロ資金供与の防止>

マネー・ローンダリング及びテロ資金供与防止を担当する役員を設置し、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策委員会において、全般的な方針や具体的施策などの審議を行います。総合リスク管理部が取組みを組織横断的に統括し、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策プログラムやマネー・ローンダリング及びテロ資金供与防止マニュアルを定め、研修の実施などを通じ、役職員の教育等を行います。

<反社会的勢力の排除>

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度を貫き、屈することなく断固として排除いたします。

<インサイダー取引の未然防止>

インサイダー取引未然防止規定に役職員が遵守すべき基本事項を定めており、インサイダー取引の未然防止を図ります。

<顧客保護等管理>

お客さまの保護及び利便性向上を推進し、「お客さま本位の徹底」を実現するため、顧客保護等管理を行います。

②取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会、経営会議、その他委員会等の重要会議について、職務執行の記録として議事録等を作成・保管いたします。

また、取締役を決定者とする決裁文書及び付属書類についても適切に作成・保管いたします。

③当社及び当社グループ会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社及び当社グループ会社の経営の健全性の維持と安定した収益確保を図るため、リスク管理基本規定を定め、当社及び当社グループ会社が抱えるリスクを信用リスク、市場リスク、資金流動性リスク、オペレーションリスクに区分の上、それぞれの所管部を明確にするとともに、リスク管理委員会を設置し、各リスクのモニタリングを行います。

また、危機管理規定を定め、危機事象の発生に伴う経済的損失及び信用失墜等を最小限に留めるとともに、業務継続及び迅速な通常機能の回復を確保いたします。

④当社及び当社グループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、当社及び当社グループ会社の役職員の職務の執行が効率的に行われるため、当社及び当社グループ会社の経営目標を定めるとともに、「グループ経営計画」を策定し、当該計画を具体化するため年度毎の業務計画を定めております。

また、取締役の職務の執行を効率的に行うため、経営会議を設置し、取締役会で決議した経営の基本方針に基づき、これを執行する上での重要事項を協議、決議する他、取締役会の意思決定に資するため、取締役会付議事項を事前に検討することとしております。

さらに、取締役の所管する本部及びその権限と責任を明確にするとともに、ITの活用も図りながら効率的な業務執行体制を構築・維持します。

⑤当社及び当社グループ会社から成る当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社では、当社グループ各社を池田泉州ホールディングスのグループとして一体と考え、当社が適切に主導し、当社グループ各社が当社との連携を保ちつつ、自社の規模、事業の性質に応じた適切な内部管理体制を構築し、業務の健全かつ適切な運営を行います。

また、当社は、グループ経営管理として子会社に対する経営管理規定等を制定し、当社グループ各社から、その役職員の職務の執行に係る事項その他必要な報告を受け、協議する体制を構築しております。

⑥監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、その使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役の職務を補助するため、監査役会事務局として監査役スタッフを配置いたします。このスタッフに対する業務執行の指揮命令は監査役が行うこととし、人事異動、人事評価等においても監査役の同意が必要であるなど、取締役からの独立性を確保いたします。

⑦取締役及び使用人等が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制、報告したことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社及び当社グループ会社の取締役及び従業員等は、監査役に対して、法定の事項に加え、当社及び当社グループ会社に重大な影響を及ぼす事項、その他必要な事項をすみやかに報告することといたします。また、グループ・コンプライアンス・ホットラインへの通報を行ったことにより、通報者が不利益な扱いを受けることがないよう通報者の保護を図っております。

さらに、これを補完するため、取締役会、経営会議、コンプライアンス委員会、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策委員会、リスク管理委員会、ALM委員会、サステナビリティ委員会、生産性向上委員会等の重要な会議について、監査役が出席できる体制を構築しております。

⑧その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役、社外取締役、内部監査部署、監査法人との間で意見交換会を開催しております。

また、監査役は取締役会、経営会議、コンプライアンス委員会、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策委員会、リスク管理委員会、ALM委員会、サステナビリティ委員会、生産性向上委員会等の重要な会議に出席し、業務執行上の様々な問題点の把握に努めます。

さらに、監査役会は、職務の執行上必要と認める費用について、あらかじめ予算を計上し、緊急又は臨時に支出した費用については、事後、当社に償還を請求することが出来るものとしております。

■リスク管理の基本的な考え方

金融業務の自由化・高度化・国際化の進展や情報通信技術の著しい進歩などにより、金融機関のビジネスチャンスが拡大する一方で、金融機関の抱えるリスクは、ますます複雑化・多様化しています。

また、金融機関が様々な顧客ニーズに応えながら収益を安定的かつ継続的に確保するためには、多様なリスクを適切に把握・評価・管理し、環境の変化に適時・適切に対応することが重要となっています。このような状況の下、当社グループは、リスク管理体制の充実・強化を経営の重要課題として位置づけ、健全性の維持・向上に努めています。

具体的には、リスク管理に関する体制及び諸規定を取締役会で定め、リスクカテゴリー毎の責任部署を明確にするとともに、それらを統括するリスク管理統括部署を設置しています。さらに、経営陣を中心に構成する「リスク管理委員会」ならびに「ALM委員会」を設置し、当社グループのリスクの状況を把握するとともに、課題及び対応方策を審議したうえで、それらの事項を取締役会等に付議・報告することにより、経営レベルでの実効性のあるリスク管理体制を確保しています。

また、環境の変化等に伴い新たに発生するリスク等に対しても適時・適切に対応できるよう、グループ戦略を踏まえたリスク管理の行動計画として、年度毎にリスク管理の基本方針を決定し、継続的に見直しを行っています。

なお、リスク管理体制の適切性及び有効性を客観的に検証するため、被監査部署からの独立性を十分に確保した内部監査部門による監査を行い、リスク管理上の課題の把握や改善策の実施等を通じて、業務の健全かつ円滑な運営を図っています。

■統合的リスク管理

●統合的リスク管理

統合的リスク管理とは、金融機関が直面するリスクに関して、自己資本比率の算定対象に含まれない

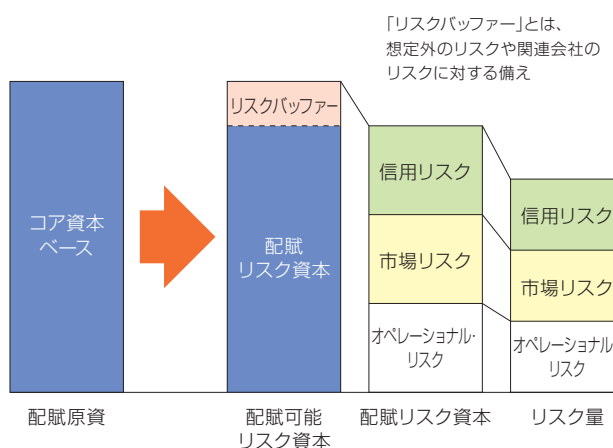
与信集中リスクや銀行勘定の金利リスク等も含めて、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスク等のリスクカテゴリー毎の方法で評価したリスクを統合的に捉え、金融機関の経営体力（自己資本）と対比することにより、適切にリスク管理を行うことをいいます。

当社グループは、業務遂行に伴う様々なリスクを可能な限り統一的な尺度で統合的に把握・認識し、リスクに見合った収益の安定的な確保及び適正な資本構成の達成、資源の適正配分等を実現するため、リスク管理統括部署がすべてのリスクを一元的に把握する統合的リスク管理体制を構築しています。

●リスク資本管理制度

当社グループは、統合的リスク管理の枠組みの下、リスクの総量を自己資本の一定範囲内にコントロールするため、リスク資本管理制度に基づいて業務運営を実施しています。

具体的には、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスクのリスクカテゴリー毎にリスク量を算定したうえで、コア資本を配賦原資としたリスク資本配賦を行っています。また、経営として許容可能な範囲内にリスク量が収まるよう継続的にモニタリングを行い、グループ全体の業務の円滑な遂行ならびに健全性の確保に努めています。



●自己資本比率規制の計測手法

当社グループでは、自己資本比率規制におけるリスク・アセットのうち、信用リスク・アセットの額は基礎的内部格付手法、オペレーショナル・リスク相当額は標準的計測手法により算出しています。

■信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化、契約不履行等により、資産の価値が減少ないし消失し、損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、「信用リスク管理規定」を制定し、子銀行の信用リスク管理部署であるリスク統括部において、与信集中リスクの状況に加え、業種別・債務者区分別・信用格付区分別等さまざまな角度から与信ポートフォリオの分析・管理を行い、最適なポートフォリオの構築を図るべく、きめ細かな対応を行っています。

また、経営方針を踏まえつつ与信行為の具体的な考え方を明示した「クレジットポリシー」を子銀行において制定し、健全性の確保を第一に取り組んでいます。

子銀行における個別案件の審査・与信管理につきましては、審査部署の営業推進部署からの独立性を確保するとともに、取締役会等で大口与信先の個別案件や与信方針の検討を行うなど、審査体制の整備・強化を図っています。なお、住宅ローンについては、融資部において、住宅ローン債権の管理を行っています。

さらに、内部監査部門において、資産の自己査定の実施状況の監査を行い、資産の健全性の維持・向上に努めています。

■市場リスク管理

市場リスクとは、金利、有価証券の価格、為替等の様々な市場のリスクファクターの変化により、保有する資産・負債の価格が変動し損失を被るリスク（市場リスク）と、市場の混乱や取引の厚みの不足などのために、必要とされる数量を妥当な水準で取引できないことにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）をいいます。

当社グループでは、「市場リスク管理規定」を制定し、特定の業務部門から独立した管理部門を設置するなど組織体制を整備して、リスク量の計測や特定のリスクファクター等へのリスクの集中状況のモニタリングを行い、市場リスクの適切な管理態勢の整備・確保に努めています。

■資金流動性リスク管理

資金流動性リスクとは、市場の状況や当社グループの財務内容の悪化等を通じて必要な資金が確保できなくなり、資金繰りに支障をきたす場合や、資金の確保に際して通常より高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、「資金流動性リスク管理規定」を制定し、資金の運用・調達状況をきめ細かく把握することを通じて、適切な資金管理を行い、保有資産の流動性の確保や調達手段の多様化を図るなど、資金流動性リスクの管理に万全の体制で臨んでいます。

■オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、業務遂行の過程や、役職員の活動、システムが不適切であること、または外生的な事象により損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、「オペレーショナル・リスク管理規定」を制定し、オペレーショナル・リスクを、①事務リスク、②情報資産（システム）リスク、③有形資産リスク、④人材リスク、⑤法的リスク、⑥評判リスクの6つに分けて管理しています。

また、新たな商品やサービスの開発・提供等を行う場合には、それに伴い発生するリスクを識別・評価し、適切なリスク管理を行っています。このほか、業務を外部委託する場合には、お客さまの情報を適切に管理するとともに、経営の健全性確保に努めています。

●事務リスク管理

事務リスクとは、事務処理の間違いや不正、事故等に伴い損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、お客さまに安心して取引を行っていただけるよう、事務処理手続きに関する諸規

定を詳細に定め、正確かつ迅速な事務処理を通じて事故発生の未然防止に取り組んでいます。また、事務工程の分析による潜在的なリスクの把握を通じて、処理手順の見直しを行うなど、事務リスクの削減に取り組んでいます。

●情報資産（システム）リスク管理

情報資産（システム）リスクとは、情報の喪失・改竄・不正使用・外部への漏洩、並びにコンピューターシステムが自然災害や故障などによって損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、業務運営が様々なコンピューターシステムによって支えられていることを踏まえ、システムの信頼性や安全性に万全を期すとともに、万一の場合に備えて、バックアップ体制を構築しています。

また、データの暗号化やアクセス権限の管理強化を行うなど、情報の漏洩や不正アクセスなどの防止に向けて体制の整備に努めています。

●サイバー攻撃等に関するリスク管理

サイバー攻撃等に関するリスクとは、標的型攻撃メールやWebサイトの改ざんなど、サイバー攻撃により損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、昨今急激に高まっているコンピュータウイルスへの感染や巧妙化しているサイバー攻撃などのリスクに備え、サイバーセキュリティに関するリスクを適切に管理する態勢の確立、リスク影響度に応じたセキュリティ対策の向上、コンティンジェンシープランの策定等、様々な対策を実施しています。

また、コンピュータセキュリティにかかる専門チーム（CSIRT）を設置し、各種セキュリティ対策の強化やサイバー攻撃演習を実施するなど、態勢強化に取り組んでいます。

●有形資産リスク管理

有形資産リスクとは、災害や資産管理の瑕疵等の結果、建物・設備の毀損や執務環境の質が低下することにより損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、耐震診断や停電対策を行い、

災害発生時においても業務を継続できるよう、環境整備に努めています。

●人材リスク管理

人材リスクとは、人材の流出・喪失や士気の低下によって、業務の遅延が生じたり専門的な技術・知識の継承が損なわれるといったことにより損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、職員の能力向上に努めるとともに、各々の職員が能力を最大限発揮できる職場環境の整備に努めています。

●法的リスク管理

法的リスクとは、法令等の違反や、各種制度変更への対応が不十分であったために損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、法律問題に関する情報の集約・管理をはじめ、法的リスクへの対応を適切に行い、法的リスクの顕在化の未然防止およびリスクの軽減に努めています。

●評判リスク管理

評判リスクとは、事実と異なる風説・風評が流布された結果、または事実に係る当社グループの対応の不備により、当社グループの評判が悪化し、損失を被るリスクをいいます。

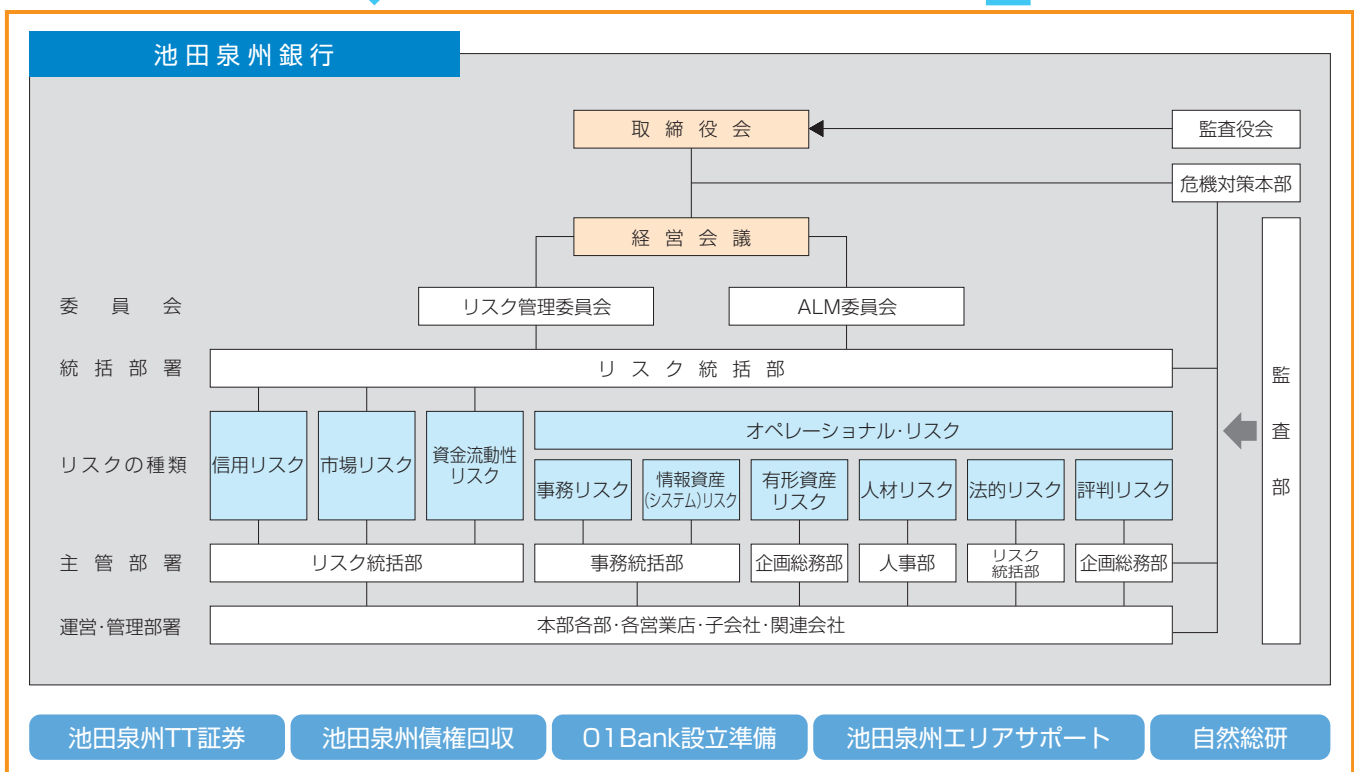
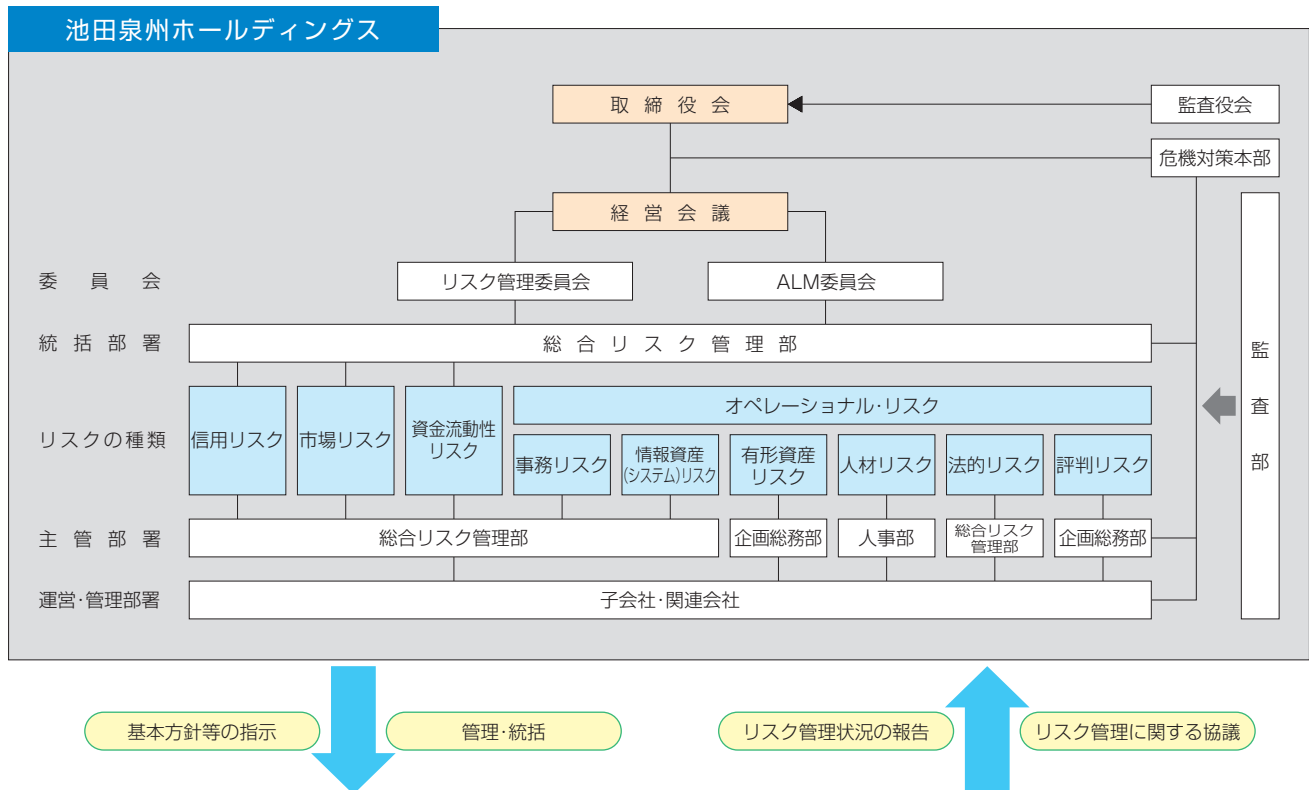
当社グループでは、経営に与える影響の重大性に鑑み、積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高めることにより、評判リスクの回避に努めています。

■危機管理

当社グループでは、大規模な自然災害やシステム障害の発生等、突発的な事象に対処するための基本的な方針として「危機管理規定」を制定しており、重大な危機が発生した際には、「危機対策本部」を設置して、全社的な対応を行う体制としています。危機発生時の具体的な対応については、「コンティンジェンシープラン」を整備のうえ、お客さまや職員の安全確保に努めるとともに、金融システム機能の業務継続体制を構築しています。

当社グループのリスク管理体制図

(2024年6月末現在)



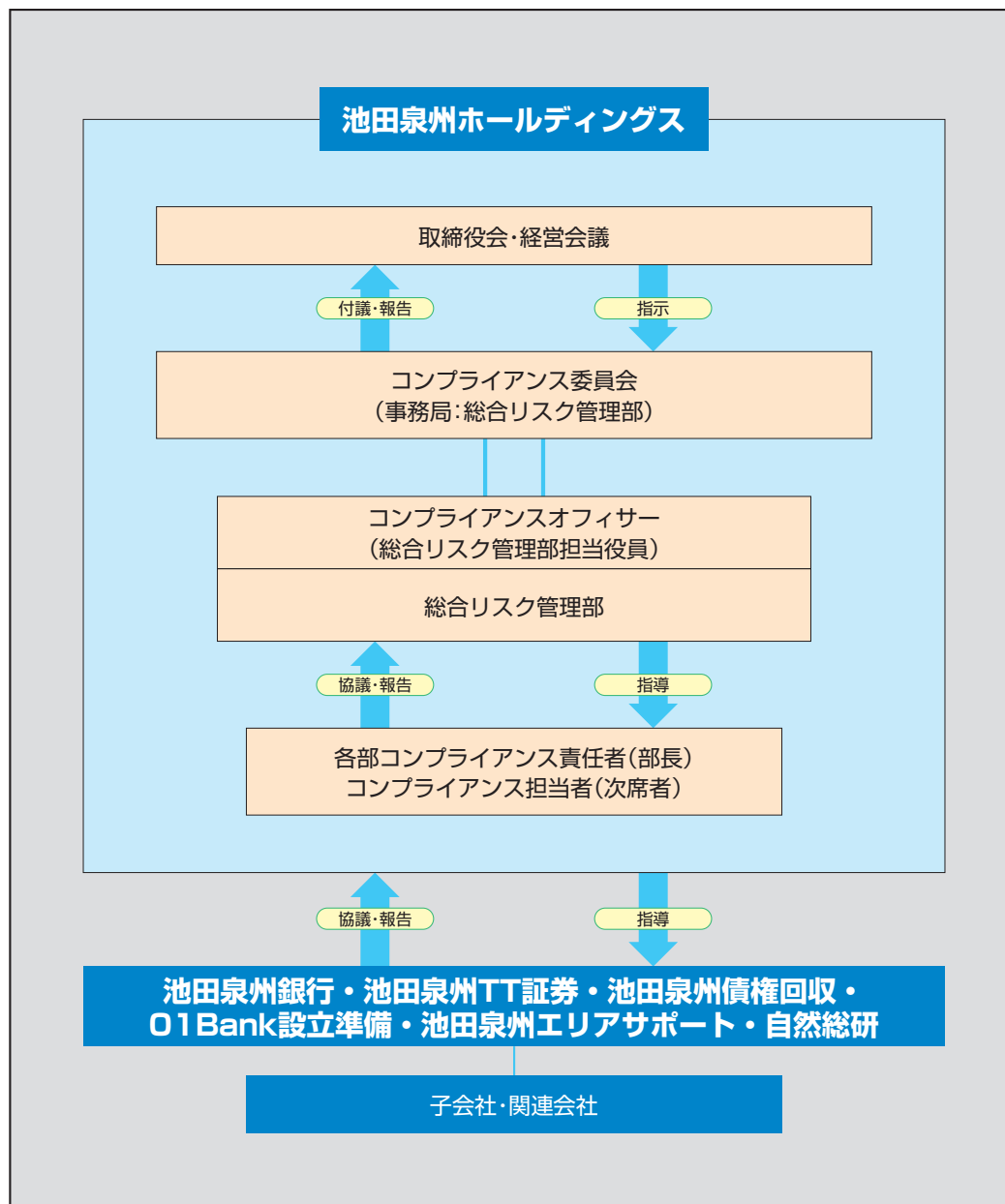
コンプライアンス体制について

当社及び当社グループは、社会的責任と公共的使命を自覚し、お客さまや地域社会からの信認を得られるよう「コンプライアンス」を経営の最重要課題に位置付けて取り組んでおります。

当社は「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ・コンプライアンスに関する重要事項について審議を行っています。また、「コンプライアンスオフィサー」のもとにグループ・コンプライアンスに関する一元的な管理を行う

部署として「総合リスク管理部」を設置しております。

総合リスク管理部では、法令等遵守に係る実践計画であるコンプライアンス・プログラムの策定・見直しやフォローアップ、コンプライアンスの基本的な事項を取りまとめたコンプライアンス・マニュアルの策定・更新・周知徹底、ハラスメントや汚職、不祥事件の防止を含む各種研修等を通じた法令等遵守啓発活動などによりコンプライアンスの推進に取り組んでおります。



各部署においてはコンプライアンスを実践・浸透させるため「コンプライアンス責任者」や「コンプライアンス担当者」を配置し、コンプライアンスの観点からのチェックや研修を実施するなど、コンプライアンスの浸透に努めております。

また、コンプライアンス上の問題を早期発見し是正を図るため、当社及び当社グループによる法令違反等（内部規定違反、ハラスメント、汚職・贈収賄等）について、当社及び当社グループ社員が直接通報を受付するホットライン

を社外の受付窓口を含め設置・運営しております。

金融機関におけるコンプライアンスの重要性はますます高まっており、当社及び当社グループは、銀行法や金融商品取引法をはじめとする関係法令の遵守はもとより、適切なお客さま保護等のための体制強化等に取り組んでおります。

今後もお客さまに「安心」してお取引いただけますよう、規定の整備や教育を継続的に行うことでコンプライアンス体制の強化・充実を図ってまいります。

倫理綱領

当グループでは、役職員が遵守すべき基本的な事項をまとめた「倫理綱領」を以下のとおり定めています。私たち役職員は、当グループの経営理念・方針を実施するために、倫理綱領の遵守を日常業務の根幹と位置付け、法令やルールを厳格に遵守し、誠実かつ公正な企業活動を遂行します。

1. 信頼の確立

私たちは社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理と適正な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、お客さまから最も信頼される金融グループを目指します。

2. お客さま本位の徹底

常にお客さま本位で考え、創意と工夫を活かして質の高い金融サービスを提供し、地域の経済や社会の発展に貢献します。

3. 法令等の厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、誠実かつ公正な企業活動を遂行します。

4. 健全なリスクカルチャーの醸成

将来の環境変化や様々なリスク波及経路も踏まえたリスクの本質を理解し、自らがリスクオーナーとして、立場を超えたオープンなコミュニケーションを通じて、リスクテイクの適切さを常に追求します。地域金融機関として期待される、誠実かつ健全なリスクテイク・リスクコントロールを実践します。

5. 人権および環境の尊重

人と人とのふれあいを大切にし、お互いの人格や個性を尊重するとともに、環境に配慮した企業活動を行います。

6. 反社会的勢力の排除

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫き、屈することなく断固として排除します。

当社及び当社グループは、犯罪による収益の移転防止に関する法律、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン、外国為替及び外国貿易法等の関係法令(以下、「犯収法等関連法令」)を遵守し、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与(以下、「マネロン・テロ資金供与」)を防止することが、社会的な責任と認識し、マネロン・テロ資金供与への対策を当社グループにおける経営戦略上の重要な課題の一つとして位置付け、経営陣の主体的かつ積極的な関与の下、その対策に積極的に取り組んでまいります。

●組織体制

当社のマネー・ローンダリング及びテロ資金供与防止担当役員を当社グループのマネー・ローンダリング及びテロ資金供与防止オフィサーとし、主管部である総合リスク管理部は、関係する各部門及び当社グループ各社と連携を図りマネロン・テロ資金供与の防止に取り組めます。

また、「マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策委員会」を設置し、マネロン・テロ資金供与防止に関する重要事項について審議を行っています。

●法令等の遵守

当社及び当社グループは、犯収法等関連法令を遵守し、取引時確認、疑わしい取引の届出、資産凍結等の措置に係る確認、その他必要な措置を適切に実施します。

●リスクベース・アプローチ

当社及び当社グループは、自らのマネロン・テロ資金供与に関するリスクを特定・評価し、これを実効的に低減するため、当該リスクに見合った対策を講じる等、リスクベース・アプローチに基づく適切な対策を実施します。

●顧客管理(カスタマー・デュー・ディリジェンス)及び記録の保存

当社及び当社グループは、顧客情報や取引内容等の調査・分析を定期的に行い、顧客属性に則した、必要な顧客管理措置を実施します。また、法令等の定めに従い、取引時確認記録・取引記録等を作成・保存します。

●疑わしい取引の届出

当社及び当社グループは、営業店等からの報告、またはシステムによるモニタリング・フィルタリングで検知した疑わしい顧客や取引等を適切に管理し、適切に検討・判断を行うことにより速やかに疑わしい取引の届出を行う体制を整備します。

●コルレス先の管理

当社及び当社グループは、コルレス先におけるマネロン・テロ資金供与を防止する態勢を検証・監視するため、コルレス先に対する定期的な調査を実施します。また、コルレス先が架空銀行(いわゆるシェルバンク)で

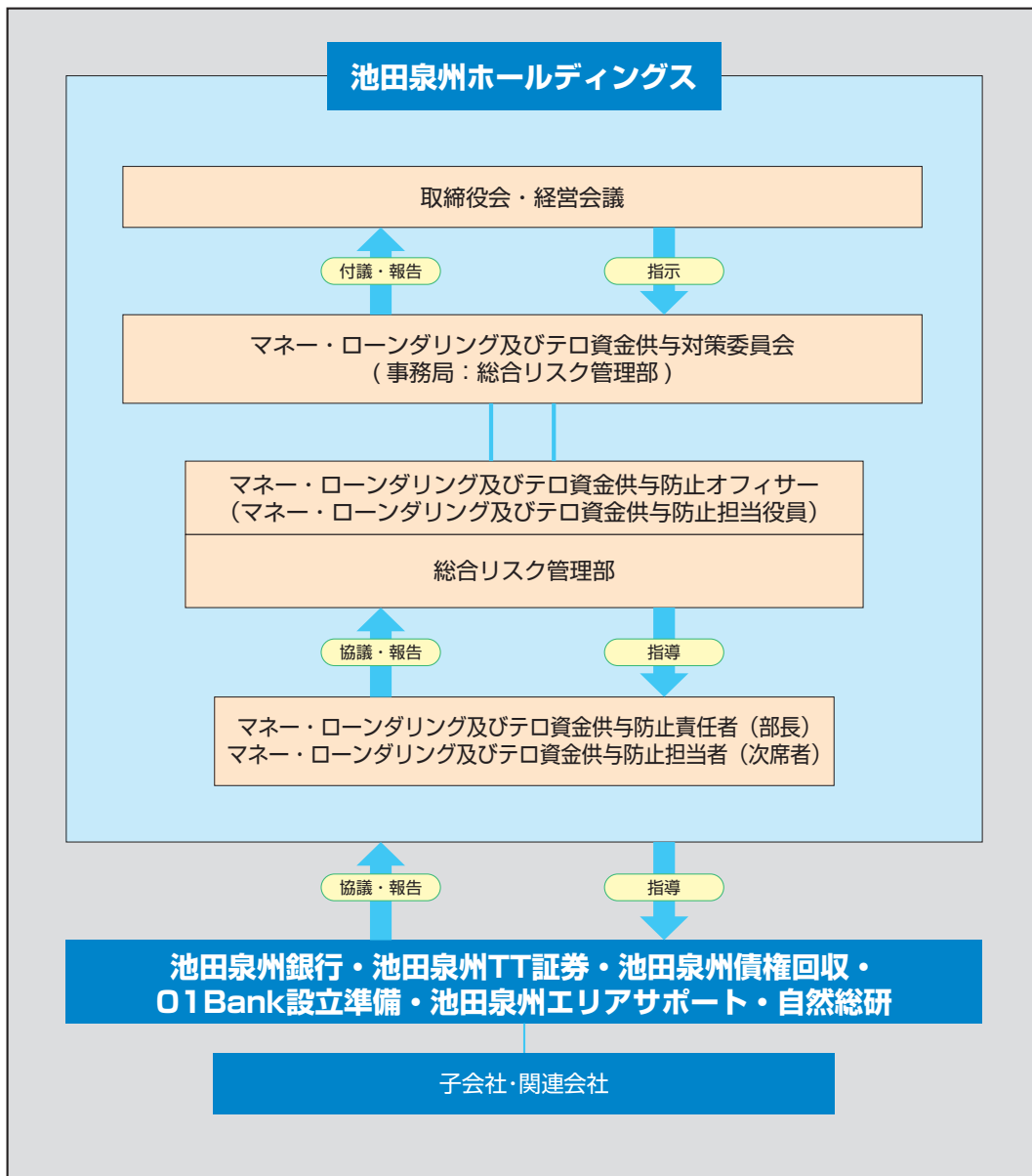
あった場合や、架空銀行との取引を許容した場合、当該コルレス先とコルレス契約を締結・維持しません。

●役職員研修

当社及び当社グループは、適切かつ継続的な研修等を通じて、役職員のマネロン・テロ資金供与に係る理解を深め、適法性・専門性等の維持・向上を図ります。

●有効性の検証

当社及び当社グループは、マネロン・テロ資金供与防止体制について、マネロン・テロ資金供与防止担当役員や主管部における定期的な各種モニタリングの実施や独立した内部監査部門による定期的な監査の実施などにより、諸施策の有効性を検証し、管理体制の充実・高度化に努めます。



金融円滑化への取組み状況について

池田泉州銀行（以下、「当行」といいます。）は、事業用資金や住宅ローンご利用のお客さまに対する適切かつ十分な金融仲介機能の発揮を経営の最重要事項のひとつと位置付けております。当行は、昨今の経済環境を踏まえ、金融円滑化への取組みをさらに推進すべく、金融円

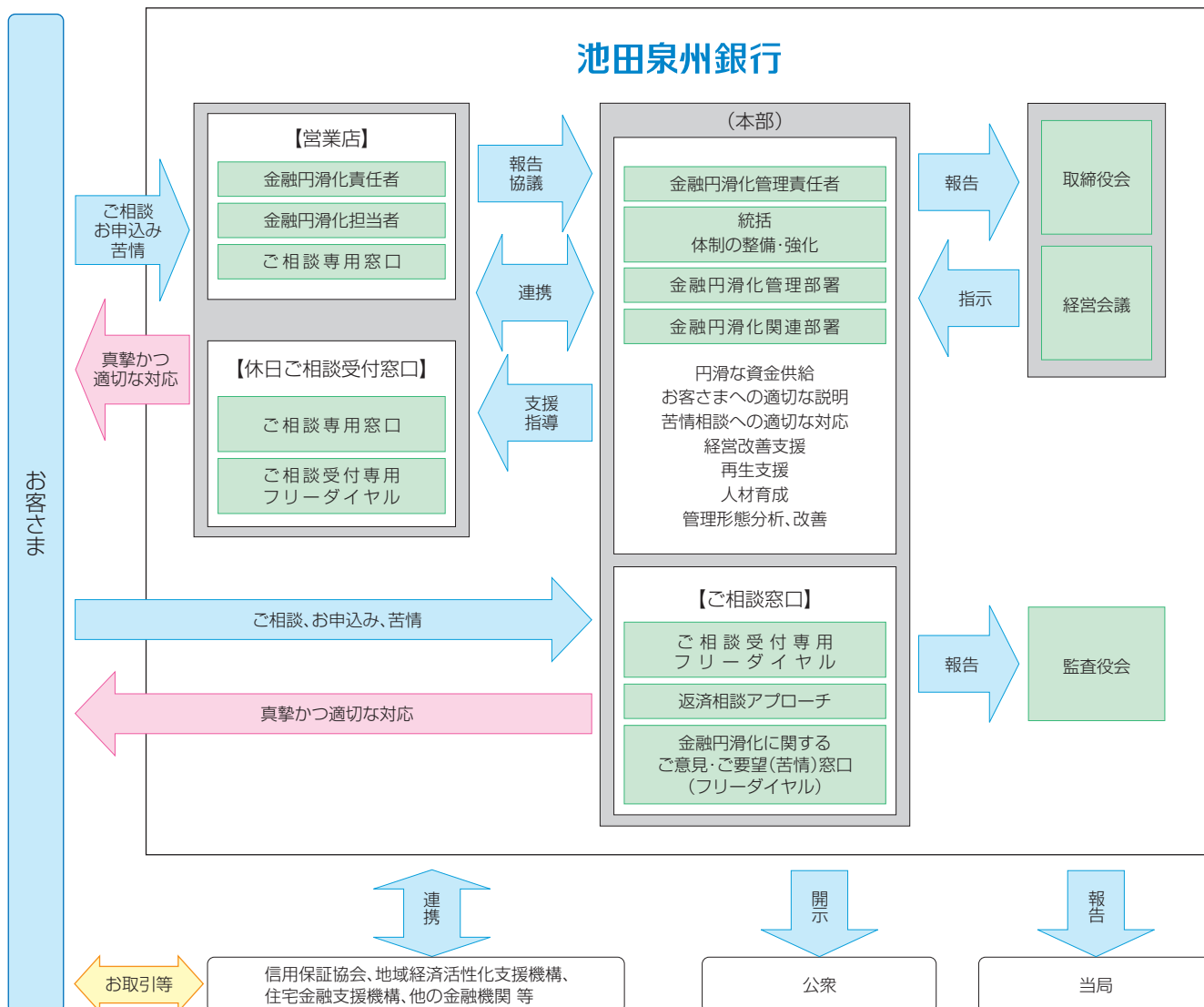
滑化に関する基本方針（以下、「本方針」といいます。）を策定いたしました。

当行では、今後もお客さまとのコミュニケーションに努め、金融円滑化推進に積極的に取組んでまいります。

●組織体制

- (1) 当行は本方針に則り、金融円滑化に必要な管理（以下、「金融円滑化管理」といいます。）を目的として、金融円滑化管理責任者を設置し、金融円滑化管理の体制が有効に機能しているか検証してまいります。
- (2) 金融円滑化管理責任者は融資担当役員とし、金融円滑化管理に関する取組み状況を適切に把握しつつ、金融円滑化管理の体制の整備・強化に取り組んでまいります。
- (3) 金融円滑化管理責任者は金融円滑化管理の適切性、十分性および実効性の確保に向けて、金融円滑化管理部署に対する指示や金融円滑化管理規定の策定等、金融円滑化管理全般を統括してまいります。
- (4) 金融円滑化管理部署は融資部とし、金融円滑化管理責任者のもと、金融円滑化管理に必要な情報を集約し、金融円滑化管理の適切な運営、検証および必要な改善を行ってまいります。

金融円滑化に関するご相談受付体制



●基本方針

- (1) お客さまからの新規融資や借入れ条件の変更等のご相談・お申込みにつきまして、お客さまの決算内容や財産および収入等の検討に加え、お客さまの事業特性や事業の将来性、将来の見通し等の検討を行い、適切かつ迅速な審査を実施するとともに、真摯に対応してまいります。また、借入れ条件の変更等の実施後の新規融資のお申込みにつきましても、同様に対応してまいります。
- (2) 当行は、お客さまの状況をきめ細かく把握し、他業態も含め関係する他の金融機関等と十分連携を図りながら、円滑な資金供給（新規の信用供与を含む。）や借入れ条件の変更等に努めるなど、地域経済の活性化及び地域における金融の円滑化等について、適切かつ積極的に取り組んでまいります。
- (3) また、資金供給者としての役割のみならず、お客さまに対する経営相談・経営指導等を通じて、お客さまの経営改善等に向けた取組みを最大限支援してまいります。
- (4) さらに、「経営者保証に関するガイドライン」（平成25年12月5日経営者保証に関するガイドライン研究会）（以下「経営者保証に関するガイドライン」という。）の趣旨を踏まえ、経営者保証に依存しない融資の一層の促進を図るべく、原則として経営者保証は求めない方針といたします。
- (5) お客さまからの新規融資や借入れ条件の変更等のご相談・お申込みにつきまして、これまでの取引関係やお客さまの知識、経験および財産の状況を踏まえ、お客さまの理解と納得を得ることを目的とした十分なお説明を行ってまいります。特に、お客さまからのお申込みを謝絶する場合には、謝絶理由を可能な限り具体的かつ丁寧に説明してまいります。
- (6) お客さまの現在おかれている状況を把握し適切な判断を行うため、行内研修などにより、金融円滑化に関わる役職員の能力向上に取り組んでまいります。
- (7) 金融円滑化に関するお客さまからのご意見、ご要望およびご相談・苦情等につきましては、迅速かつ誠実に対応してまいります。

●中小企業や個人事業主のお客さまからのお申込みに対する取組方針

- (1) 中小企業や個人事業主のお客さまから、新規融資や借入れ条件の変更等のお申込みを受けた場合には、お客さまの事業の特性および事業の状況等を勘案し、可能な限りお客さまのご要望に沿えるよう適切に新規融資や条件変更等に取り組んでまいります。
 - (2) 中小企業や個人事業主のお客さまの経営実態に応じて経営相談、経営指導、およびお客さまの経営改善に向けた取組みに対する適切な支援に取り組んでまいります。
 - (3) お客さまが当行以外のお金融機関からお借入れをされている場合には、お客さまからの同意をいただいた上で、当該他の金融機関等と連携してお借入れの返済に係る負担の軽減に資する措置をとるよう努めてまいります。
 - (4) 事業再生ADR手続（注）や株式会社地域経済活性化支援機構を通じた事業の再生手続に関するご要請等をお受けした場合には、事業の改善、再生の見通し等を重視し、可能な限り適切な対応を行います。
- （注）民間の第三者機関が債権者の間の調整役となり再建計画をまとめる制度で「産業活力の再生及び産業活動の革新に関する特別措置法」第2条第25項に規定する特定認証紛争解決手続を行います。

●住宅ローンをご利用のお客さまからのお申込みに対する取組方針

- (1) 住宅ローンをご利用のお客さまから新規融資や借入れ条件の変更等のお申込みを受けた場合には、お客さまの財産および収入の状況、他の金融機関等との取引状況その他の状況を勘案し、可能な限りお客さまのご要望に沿えるよう適切に新規融資や条件変更等に取り組んでまいります。
- (2) お客さまが当行以外の金融機関、独立行政法人住宅金融支援機構等との取引がある場合には、お客さまから同意をいただいた上で、当該金融機関と連携してお借入れの返済にかかる負担の軽減に資する措置をとるよう努めてまいります。

I. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する取組方針

池田泉州ホールディングスグループは、中小企業の経営支援及び地域の活性化に積極的に取り組むべく、以下の方針を掲げております。

- 1 高品質な提携ネットワークを整備し、提案力・サポート力等の強化を図ります。
- 2 企業のライフステージに応じた最適な提案を行い、取引先企業の支援強化に努めます。
- 3 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底を図ります。
- 4 地域との共存共栄を目指し、「しごと」を創造し、地域に「ひと」が集まる仕組み等を通じ、活気ある「まち」づくりに貢献できるよう努めます。

II. 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する態勢整備の状況

池田泉州ホールディングスグループでは、中小企業の経営支援及び地域の活性化に向けて、以下のとおりグループ内態勢を整えております。

(1) 高品質な提携ネットワーク整備、提案力・サポート力等の強化

- ・池田泉州ホールディングスグループでは、グループ一体となった総合金融サービスの提供を行っております。
- ・2021年6月に設置した「グループ戦略部」においては、グループ会社全体のリソースを最大限に利用して、徹底したソリューションビジネスの提供を行っております。
- ・また、2022年10月に営業を開始した池田泉州債権回収株式会社では、取引先の経営改善や事業再生の支援の強化に努めております。

(2) 企業のライフステージに応じたサポート強化

- ・取引先企業の事業内容や成長性などを適切に評価（「事業性評価」）した融資や、コンサルティング機能の発揮による経営改善の支援等、ライフステージに応じた取引先企業へのサポートを図るべく、「中小企業サポート向上に関する基本方針」を制定しております。

(3) 経営課題に応じた態勢構築、中小企業に適した資金供給手法の徹底

- ・池田泉州銀行融資部内に経営支援室を設置し、雇用維持を前提とした事業再生支援を実施しております。

(4) 地域との共存共栄を目指すソリューション提供

- ・コーポレートソリューション部門では、「企業のライフステージに応じた課題・ニーズに対し、事業性評価を起点としたライフステージ別の伴走型ソリューションの提供」「M&Aソリューションの強化（ハンズオン型ソリューション等）」「企業の人材に関する多様なニーズにお応えする人材ソリューションの強化」に取り組んでおります。
- ・CS本部内のソリューション営業部に、M&Aアドバイザー室、プライベートバンキング室、海外駐在員事務所を設置し、課題解決に向けたソリューションを提供しております。

Ⅲ. 経営者保証に関するガイドラインへの取組状況

池田泉州ホールディングスグループは、「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨を踏まえ、従前より経営者保証に依存しない融資の促進に取り組んでおります。

池田泉州ホールディングスグループは、以下のいずれかに該当する場合を除き、原則として経営者保証を求めない方針といたします。

- ①財務状況、経営状況などの情報開示がいただけない場合
- ②経常赤字が連続している、または直近決算が債務超過の場合
- ③経営者に対し多額の貸付金があるなど、法人与経営者個人の一体性が認められる場合
- ④信用保証協会付融資など別に定めがあるご融資をご利用いただく場合

また保証契約を締結する場合は、保証を必要とする理由について、お客様にご納得いただけるよう具体的かつ丁寧に説明いたします。
また、どのような改善を図れば保証契約の変更・解除の可能性が高まるか具体的にご説明するとともに、改善をお手伝いしてまいります。

経営者保証に関するガイドラインの活用状況

	2022/3期		2023/3期		2024/3期	
	2021/4～ 2021/9末	2021/10～ 2022/3末	2022/4～ 2022/9末	2022/10～ 2023/3末	2023/4～ 2023/9末	2023/10～ 2024/3末
新規に無保証で融資した件数 (ABLを活用し、無保証で融資したものは除く)	2,540件	1,613件	2,153件	1,884件	3,536件	3,247件
新規融資件数	5,636件	4,097件	4,772件	4,381件	5,104件	4,859件
新規融資に占める経営者保証に 依存しない融資の割合	45.1%	39.4%	45.1%	43.0%	69.3%	66.8%

新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合

	2024/3期
$\{(①+②+③+④) \div ⑤\} \times 100$	68.1%
①新規に無保証で融資した件数	6,783件
②経営者保証の代替的な融資手法として、停止条件付保証契約を活用した件数	1件
③経営者保証の代替的な融資手法として、解除条件付保証契約を活用した件数	0件
④経営者保証の代替的な融資手法として、ABLを活用した件数	0件
⑤新規融資件数	9,963件

事業承継時における保証徴求割合（4類型）

	2024/3期
新旧両経営者から保証徴求 $= \{⑥ \div (⑥+⑦+⑧+⑨)\} \times 100$	0.0%
旧経営者のみから保証徴求 $= \{⑦ \div (⑥+⑦+⑧+⑨)\} \times 100$	3.2%
新経営者のみから保証徴求 $= \{⑧ \div (⑥+⑦+⑧+⑨)\} \times 100$	92.1%
経営者からの保証徴求なし $= \{⑨ \div (⑥+⑦+⑧+⑨)\} \times 100$	4.8%
⑥代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除せず、かつ、新経営者との保証契約を締結した件数	0件
⑦代表者の交代時において、旧経営者との保証契約は解除しなかったが、新経営者との保証契約は締結しなかった件数	2件
⑧代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除する一方、新経営者との保証契約を締結した件数	58件
⑨代表者の交代時において、旧経営者との保証契約を解除し、かつ、新経営者との保証契約を締結しなかった件数	3件

Ⅳ. 「中小企業の経営支援及び地域の活性化」に関する取組みの成果

(1) 中小企業向け取引の拡充

池田泉州ホールディングスグループでは、取引先企業のニーズに応じた様々なご提案を行い、取引先企業の成長に資する取組みに努めることがメイン取引先数の増加に繋がると考えております。引き続き、企業のライフステージに応じた課題・ニーズに対し、事業性評価を起点としたライフステージ別の伴走型ソリューションを提供できるよう努めてまいります。

池田泉州ホールディングス

経営環境／業績の概要／主要な経営指標等の推移 … 33

連結財務諸表

連結貸借対照表	34
連結損益計算書	35
連結包括利益計算書	35
連結株主資本等変動計算書	36
連結キャッシュ・フロー計算書	38
セグメント情報等	62

リスク管理債権 … 65

自己資本の充実の状況等

自己資本の構成に関する開示事項	66
定性的な開示事項	67
定量的な開示事項	80
報酬等に関する開示事項	98

会計監査人の監査の状況

1. 当社は、会社法第444条第4項の規定に基づき、2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度及び2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）及び当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）の連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

経営環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第5類感染症への移行による本格的な経済再開や、企業業績の底堅さを背景にした高い賃上げ並びに設備投資意欲の向上等、前向きな変化が数多く見られた1年となりました。一方で、世界的な物価高や中国をはじめとする海外景気の先行き懸念、さらにはウクライナ並びに中東地域における地政学上のリスクが日本経済に与える影響について、引き続き懸念されております。

関西地域においては、インバウンドの回復により、個人消費の持ち直しが進む中、2025年開催予定の大阪・関西万博による経済効果の波及の本格化が期待されております。

金融情勢に目を転じますと、2023年6月に米国において、2022年3月以降続いていた利上げが見送られ、長期金利上昇に一服感が見られました。米国が利上げ効果の見極め期間に入る中、2024年3月には、日本銀行が2016年2月から続けてきたマイナス金利政策を解除し、その後の追加利上げの動向に注目が集まっております。

日経平均株価につきましては、米国景気が底堅い推移を続けていることから、将来の景気減速懸念が後退し、世界的に株価が上昇する中、東京証券取引所によるPBR1倍割れ企業に対する資本効率の改善要請を背景にした株主還元策強化等もあり、バブル経済崩壊後の高値更新が続きました。2024年1月には新NISAを追い風にした投資資金の流入もあり、2024年2月に34年ぶりに過去最高値を更新、2024年3月には、最高値となる40,888円まで上昇し、2023年度末終値は、40,369円となりました。

業績の概要

池田泉州ホールディングスグループの連結業績につきましては、以下のとおりとなりました。

資金運用収益は、外国証券の平均残高減少に伴う有価証券利息配当金の減少等により前連結会計年度比減少しました。また、役務取引等収益は、証券関連手数料は増加しましたが、融資関連手数料が減少したことから前連結会計年度比減少しました。この結果、経常収益は、前連結会計年度比40億31百万円減少し、852億19百万円となりました。

次に与信関連費用は、前年が多額の取崩しであったこともあり、前連結会計年度比増加しました。一方、国債等債券売却損は、前年に多額の売却損を計上していたこともあり、前連結会計年度比減少しました。この結果、経常費用は、前連結会計年度比79億96百万円減少して、691億93百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、前連結会計年度比39億64百万円増加して160億25百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度比13億72百万円増加して108億74百万円となりました。

当社グループの連結自己資本比率は、前連結会計年度末比0.05%低下しましたが、国内基準行に求められる基準（4%）を十分に上回る12.77%となりました。

最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日	自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日	自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日
連結経常収益	百万円	86,062	79,117	81,579	89,250	85,219
うち連結信託報酬	百万円	—	—	11	26	22
連結経常利益	百万円	4,946	7,714	14,047	12,061	16,025
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	3,943	5,103	11,400	9,502	10,874
連結包括利益	百万円	△1,216	17,448	7,127	6,565	18,957
連結純資産額	百万円	232,373	247,042	250,860	228,697	244,825
連結総資産額	百万円	5,492,164	6,705,172	7,044,043	6,219,089	6,442,107
連結自己資本比率（国内基準）	%	9.37	9.88	9.96	12.82	12.77
合算信託財産額	百万円	—	—	513	1,660	2,534

- （注）1. 連結自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく平成18年金融庁告示第20号に定められた算式に基づき、算出しております。当社は、国内基準を採用しております。また、当社は、2022年度末からパーゼルⅢ最終化の早期適用を行っております。
2. 合算信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は株式会社池田泉州銀行1社であり、2021年7月26日より、銀行本体での信託業務の取り扱いを開始しております。
3. 当連結会計年度より割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準を変更しており、2022年度以前については遡及適用後の数値を記載しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
(資産の部)		
現金預け金	821,649	797,792
コールローン及び買入手形	7,692	4,338
買入金銭債権	—	19
金銭の信託	15,010	9,005
有価証券	486,984	632,335
貸出金	4,737,192	4,831,651
外国為替	5,856	5,900
その他資産	82,017	92,077
有形固定資産	35,857	36,576
建物	13,571	13,537
土地	15,056	15,055
リース資産	4	2
建設仮勘定	22	42
その他の有形固定資産	7,203	7,938
無形固定資産	3,837	4,256
ソフトウェア	2,974	2,848
その他の無形固定資産	862	1,407
退職給付に係る資産	23,928	31,936
繰延税金資産	4,044	247
支払承諾見返	6,317	6,395
貸倒引当金	△11,301	△10,426
資産の部合計	6,219,089	6,442,107
(負債の部)		
預金	5,579,250	5,667,529
債券貸借取引受入担保金	4,371	—
借入金	338,899	466,470
外国為替	314	681
信託勘定借	1,660	2,534
その他負債	55,962	49,465
賞与引当金	1,724	1,716
役員賞与引当金	85	90
退職給付に係る負債	144	149
役員退職慰労引当金	4	4
睡眠預金払戻損失引当金	209	146
偶発損失引当金	1,154	446
特別法上の引当金	13	15
繰延税金負債	276	1,634
支払承諾	6,317	6,395
負債の部合計	5,990,391	6,197,281
(純資産の部)		
資本金	102,999	102,999
資本剰余金	16,899	16,899
利益剰余金	95,294	103,014
自己株式	△135	△122
株主資本合計	215,057	222,791
その他有価証券評価差額金	5,558	9,099
繰延ヘッジ損益	45	△35
退職給付に係る調整累計額	5,754	10,289
その他の包括利益累計額合計	11,358	19,353
新株予約権	116	148
非支配株主持分	2,164	2,532
純資産の部合計	228,697	244,825
負債及び純資産の部合計	6,219,089	6,442,107

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日		自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日	
経常収益	89,250		85,219	
資金運用収益	46,461		45,565	
貸出金利息	39,246		39,943	
有価証券利息配当金	5,817		3,471	
コールローン利息及び買入手形利息	132		302	
預け金利息	1,217		1,752	
その他の受入利息	46		95	
信託報酬	26		22	
役務取引等収益	24,245		23,610	
その他業務収益	3,625		1,568	
その他経常収益	14,891		14,451	
貸倒引当金戻入益	3,229		357	
睡眠預金払戻損失引当金戻入益	76		63	
償却債権取立益	474		512	
その他の経常収益	11,109		13,518	
経常費用	77,189		69,193	
資金調達費用	1,691		822	
預金利息	638		482	
譲渡性預金利息	0		—	
コールマネー利息及び売渡手形利息	△102		△137	
債券貸借取引支払利息	954		182	
借入金利息	35		28	
その他の支払利息	166		266	
役務取引等費用	8,301		7,524	
その他業務費用	11,632		2,554	
営業経費	43,940		44,385	
その他経常費用	11,623		13,905	
その他の経常費用	11,623		13,905	
経常利益	12,061		16,025	
特別利益	1		—	
固定資産処分益	1		—	
特別損失	374		534	
固定資産処分損	70		103	
減損損失	161		243	
金融商品取引責任準備金繰入額	1		1	
その他の特別損失	140		184	
税金等調整前当期純利益	11,688		15,491	
法人税、住民税及び事業税	1,164		2,957	
法人税等調整額	1,264		1,571	
法人税等合計	2,429		4,529	
当期純利益	9,258		10,962	
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する 当期純損失 (△)	△244		88	
親会社株主に帰属する当期純利益	9,502		10,874	

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日		自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日	
当期純利益	9,258		10,962	
その他の包括利益	△2,692		7,995	
その他有価証券評価差額金	△2,049		3,540	
繰延ヘッジ損益	70		△81	
退職給付に係る調整額	△713		4,535	
包括利益	6,565		18,957	
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益	6,810		18,869	
非支配株主に係る包括利益	△244		88	

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	102,999	42,108	89,320	△145	234,283
当期変動額					
連結子会社株式の取得 による持分の増減		6			6
剰余金の配当			△3,528		△3,528
親会社株主に帰属 する当期純利益			9,502		9,502
自己株式の取得				△25,216	△25,216
自己株式の処分		△0		10	9
自己株式の消却		△25,215		25,215	—
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	△25,209	5,974	10	△19,225
当期末残高	102,999	16,899	95,294	△135	215,057

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計			
当期首残高	7,607	△24	6,468	14,051	86	2,438	250,860
当期変動額							
連結子会社株式の取得 による持分の増減							6
剰余金の配当							△3,528
親会社株主に帰属 する当期純利益							9,502
自己株式の取得							△25,216
自己株式の処分							9
自己株式の消却							—
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	△2,049	70	△713	△2,692	29	△273	△2,937
当期変動額合計	△2,049	70	△713	△2,692	29	△273	△22,162
当期末残高	5,558	45	5,754	11,358	116	2,164	228,697

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	102,999	16,899	95,294	△135	215,057
当期変動額					
連結子会社持分の増減		2			2
剰余金の配当			△3,154		△3,154
親会社株主に帰属する当期純利益			10,874		10,874
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△2		13	11
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	0	7,719	13	7,733
当期末残高	102,999	16,899	103,014	△122	222,791

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	5,558	45	5,754	11,358	116	2,164	228,697
当期変動額							
連結子会社持分の増減							2
剰余金の配当							△3,154
親会社株主に帰属する当期純利益							10,874
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							11
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,540	△81	4,535	7,995	31	367	8,394
当期変動額合計	3,540	△81	4,535	7,995	31	367	16,128
当期末残高	9,099	△35	10,289	19,353	148	2,532	244,825

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自 2022年4月 1日	至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日	至 2024年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益	11,688		15,491	
減価償却費	4,743		4,452	
減損損失	161		227	
持分法による投資損益（△は益）	△17		5	
貸倒引当金の増減（△）	△3,564		△875	
賞与引当金の増減額（△は減少）	△779		△7	
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△5		5	
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	△188		△31	
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	2		4	
睡眠預金払戻損失引当金の増減（△）	△76		△63	
ポイント引当金の増減額（△は減少）	△64		—	
偶発損失引当金の増減（△）	△6		△707	
資金運用収益	△46,461		△45,565	
資金調達費用	1,691		822	
有価証券関係損益（△）	9,901		1,051	
金銭の信託の運用損益（△は運用益）	△12		△25	
為替差損益（△は益）	△13,591		△681	
固定資産処分損益（△は益）	58		92	
貸出金の純増（△）減	△233,358		△94,459	
預金の純増減（△）	22,001		88,278	
借入金（劣後特約付借入金を除く）の純増減（△）	△743,990		127,570	
預け金（日銀預け金を除く）の純増（△）減	4,416		△3,416	
コールローン等の純増（△）減	△7,274		3,334	
債券貸借取引受入担保金の純増減（△）	△80,420		△4,371	
外国為替（資産）の純増（△）減	1,650		△43	
外国為替（負債）の純増減（△）	11		367	
信託勘定借の純増減（△）	1,147		873	
資金運用による収入	47,179		44,872	
資金調達による支出	△1,843		△857	
その他	△4,986		△14,448	
小計	△1,031,986		121,898	
法人税等の支払額	△2,145		△549	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,034,131		121,348	
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有価証券の取得による支出	△96,890		△203,578	
有価証券の売却による収入	188,957		15,746	
有価証券の償還による収入	68,025		42,215	
金銭の信託の減少による収入	9,500		6,000	
有形固定資産の取得による支出	△2,857		△4,402	
無形固定資産の取得による支出	△1,076		△1,735	
有形固定資産の売却による収入	1		—	
投資活動によるキャッシュ・フロー	165,660		△145,754	
財務活動によるキャッシュ・フロー				
非支配株主からの払込みによる収入	—		282	
配当金の支払額	△3,528		△3,154	
非支配株主への配当金の支払額	△18		—	
自己株式の取得による支出	△25,216		△0	
自己株式の処分による収入	9		11	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,753		△2,860	
現金及び現金同等物に係る換算差額	104		△7	
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△897,120		△27,274	
現金及び現金同等物の期首残高	1,712,443		815,323	
現金及び現金同等物の期末残高	815,323		788,049	

連結財務諸表の作成方針

(1) 連結の範囲に関する事項

- ① 連結される子会社及び子法人等 22社

主要な会社名

株式会社池田泉州銀行
池田泉州ＴＴ証券株式会社
池田泉州債権回収株式会社
01Bank設立準備株式会社
池田泉州エリアサポート株式会社
池田泉州リース株式会社
池田泉州オートリース株式会社
池田泉州信用保証株式会社
近畿信用保証株式会社
株式会社池田泉州ＪＣＢ
株式会社池田泉州ＤＣ
株式会社池田泉州ＶＣ
池田泉州キャピタル株式会社
池田泉州ビジネスサービス株式会社
池田泉州システム株式会社

(連結の範囲の変更)

関西イノベーションネットワーク２号投資事業有限責任組合に出資し、また、01Bank設立準備株式会社及び池田泉州エリアサポート株式会社は新規設立により、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

- ② 非連結の子会社及び子法人等
該当ありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

- ① 持分法適用の非連結の子会社及び子法人等
該当ありません。
- ② 持分法適用の関連法人等 2社
会社名
株式会社自然総研
株式会社ステーションネットワーク関西
- ③ 持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等
該当ありません。
- ④ 持分法非適用の関連法人等
該当ありません。

(3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度等に関する事項

- ① 連結される子会社及び子法人等の決算日は次のとおりであります。
- | | |
|-------|-----|
| 12月末日 | 7社 |
| 3月末日 | 15社 |
- ② 連結される子会社及び子法人等のうち、決算日が連結決算日と異なる子会社及び子法人等については、各社の決算日の財務諸表により連結しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

会計方針に関する事項

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他の有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他の有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

当社並びに連結される子会社及び子法人等の有形固定資産は、主として定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 3年～50年

その他 2年～20年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社並びに連結される子会社及び子法人等で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

4. 貸倒引当金の計上基準

銀行業を営む連結される子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

銀行業以外の連結される子会社及び子法人等の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は21,935百万円であります。

5. 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

6. 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、取締役等に対する業績連動型報酬の支払いに備えるため、取締役等に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

7. 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

8. 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

9. 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

10. 特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、池田泉州ＴＴ証券株式会社が計上した金融商品取引責任準備金であり、有価証券の売買その他の取引等に関して生じた事故による損失の補填に充てるため、金融商品取引法第46条の5及び金融商品取引業等に関する内閣府令第175条の規定に定めるところにより算出した額を計上しております。

11. 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

なお、一部の連結される子会社及び子法人等は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

12. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

連結される子会社及び子法人等の外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

13. リース取引の処理方法

（借手側）

連結される子会社及び子法人等の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

（貸手側）

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準については、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、期首に前連結会計年度末における固定資産の減価償却累計額控除後の額で契約したものとしております。

14. 収益及び費用の計上基準

顧客との契約から生じる収益の計上時期は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点としております。また、顧客との契約から生じる収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で算出しております。連結される子会社及び子法人等が参加する他社が運営するポイントプログラムについては、将来利用される見込額を第三者のために回収する額として認識し、役員取引等収益より控除しております。

15. 株式配当金の認識基準

その他利益剰余金の処分による株式配当金（配当財産が金銭である場合に限る。）の認識基準については、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第 14 号 2019 年 7 月 4 日）第 94 項に従い、下記のとおり計上しております。

- (1) 市場価格のある株式：各銘柄の配当落ち日（配当権利付き最終売買日の翌日）をもって、前回の配当実績又は公表されている 1 株当たり予想配当額に基づいて、未収配当金を見積り計上。
- (2) 市場価格のない株式：発行会社の株主総会、取締役会又はその他決定権限を有する機関において行われた配当金に関する決議の効力が発生した日の後、通常要する期間内に支払いを受けるものについて、その支払いを受けた日の属する連結会計年度に計上。

16. 重要なヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結される子会社の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結される子会社の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

17. その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) グループ通算制度の適用

当社及び一部の連結される子会社は法人税法（昭和40年法律第34号）に規定するグループ通算制度を適用しております。

(2) 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

投資信託の解約損益の会計処理

投資信託の解約、償還に伴う損益は「有価証券利息配当金」にて処理しております。投資信託の期中収益分配金等が全体で損となる場合は、その金額を「国債等債券償還損」に計上しております。

(会計方針の変更)

(割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準の変更)

当社の連結子会社である池田泉州リース株式会社及び池田泉州オートリース株式会社は、割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準については、従来より、「リース業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（業種別監査委員会報告第 19 号 2000 年 11 月 14 日）に基づき、割賦債権と繰延割賦未実現利益を両建計上し、割賦売上高と割賦売上原価を両建計上する処理を行ってききましたが、2023 年 4 月 1 日にリースシステムを変更したことに伴い、経済実態をより適切に連結財務諸表に反映させることが可能となったことから、当連結会計年度より、元本相当額を割賦債権に、利息相当額を売上高に計上する方法に変更しており、当該変更は遡及適用しております。

この結果、遡及適用前と比較して、前連結会計年度の経常収益、その他経常収益、経常費用及びその他経常費用がそれぞれ 2,734 百万円減少しておりますが、経常利益、税金等調整前当期純利益、当期純利益及び親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響はありません。また、前連結会計年度のその他資産及びその他負債がそれぞれ 411 百万円減少しております。なお、前連結会計年度の期首の利益剰余金に対する影響はありません。

加えて、販売型割賦に含まれる利息相当額の計上方法については、従来、定額法を採用していましたが、当連結会計年度より、原則的な方法である利息法に変更しております。当該変更が過去に与える影響は軽微であるため遡及適用せず、累積的影響額は当期の損益で処理しております。これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(重要な会計上の見積り)

貸出金等の評価

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額

貸倒引当金 10,426 百万円

うち実質無利子・無担保融資（以下「ゼロゼロ融資（注）」という。）に下方遷移リスクの影響を考慮した貸倒引当金 538 百万円

（注）ゼロゼロ融資とは、新型コロナウイルス禍において、業績が悪化した事業者に対して、実質的に無利子（一定期間）・無担保・保証料減免で行われた融資で、最大５年間の元金返済据置が可能。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

① 算出方法

銀行業を営む連結される子会社の貸倒引当金は、資産の自己査定基準に基づき債務者区分を判定し、「会計方針に関する事項」「４．貸倒引当金の計上基準」に記載の通り、債務者区分に応じた一定の計算手法により算出しております。なお、要管理先以外の要注意先（以下「その他要注意先」という。）については、信用格付に基づく２区分（主に貸出条件の変更を実施した貸出先が属する下位格付とそれ以外の上位格付）にグルーピングして、貸倒引当金を算定しております。

また、ゼロゼロ融資の元金返済猶予先のうち、現状の債務者区分が正常先またはその他要注意先の上位格付の貸出先については、一定割合が再度の元金返済猶予の申し出により、その他要注意先の下位格付に下方遷移する可能性を考慮し、予想損失額の修正として、前連結会計年度末から貸倒引当金を計上しております。

② 主要な仮定

業況が悪化した事業性貸出先に係る債務者区分の判定における主要な仮定は、「貸出先の将来の業績見通し」であります。「貸出先の将来の業績見通し」は、各貸出先の収益獲得能力を個別に評価して、仮定しております。なお、ロシアのウクライナ侵攻等の国際情勢や円安による物価高等の影響を含む将来の経済環境には不透明感があり、個別の評価にあたっては、これらの影響を考慮して、債務者区分を判定しております。

また、予想損失額の修正にあたっては、ゼロゼロ融資の元金返済猶予先のうち、現状の債務者区分が正常先またはその他要注意先の上位格付の貸出先については、過去と同水準の債務者区分ないし信用格付の下方遷移が今後も継続すると仮定しております。

③ 翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響

貸出先の業績変化や事業戦略の成否等によっては、翌連結会計年度に係る連結財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(追加情報)

前連結会計年度の（重要な会計上の見積り）に記載しておりました繰延税金資産の回収可能性については、当連結会計年度において税務上の繰越欠損金が概ね解消し、回収可能期間における一時差異等加減算前課税所得の仮定が変化した場合における影響額が低下したことにより、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすことが想定されなくなったため、当連結会計年度より注記の対象とはしていません。

注記事項

(連結貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式及び出資金総額（連結子会社及び連結子法人等の株式及び出資金を除く）
118百万円
2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に5,338百万円含まれております。
3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。
なお、債権は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未收利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	3,925百万円
危険債権額	44,443百万円
要管理債権額	3,070百万円
三月以上延滞債権額	59百万円
貸出条件緩和債権額	3,010百万円
小計額	51,438百万円
正常債権額	4,819,958百万円
合計額	4,871,397百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。
なお、上記債権額は貸倒引当金控除前の金額であります。
4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、7,792百万円であります。
5. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号 平成26年11月28日）に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、連結貸借対照表計上額は、12,981百万円であります。
6. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	311,672百万円
貸出金	298,007百万円
その他資産	581百万円
担保資産に対応する債務	
預金	2,889百万円
借用金	457,950百万円
その他負債	30百万円

上記のほか、その他資産には、中央清算機関差入証拠金は20,000百万円、保証金は3,373百万円及び金融商品等差入担保金は1,523百万円が含まれております。

7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、700,483百万円であり、このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が672,229百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも連結される子会社及び子法人等の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、連結される子会社及び子法人等が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内（社内）手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

8. 有形固定資産の減価償却累計額 57,035百万円
 9. 有形固定資産の圧縮記帳額 370百万円
 10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は20,072百万円であります。
 11. 連結貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

（連結損益計算書関係）

1. 「その他の経常収益」には、株式等売却益1,744百万円、金銭の信託運用益42百万円及び債権売却益21百万円を含んでおります。
 2. 「その他の経常費用」には、貸出金償却1,746百万円、保証協会負担金417百万円、株式等売却損76百万円、株式等償却198百万円及び金銭の信託運用損16百万円を含んでおります。
 3. 「その他の特別損失」は、子会社である池田泉州銀行における抜本的な店舗機能見直しに基づく店舗移転等に係る費用であります。
 4. 当連結会計年度において、下記の資産について、使用方法の変更に伴い、投資額の回収が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失（百万円）
大阪府	営業用店舗2カ所	土地・建物等	16
兵庫県	営業用店舗1カ所	建物等	227
合計	—	—	243

子会社である株式会社池田泉州銀行は、原則として、継続的に収支の管理・把握をしている管理会計上の最小単位である営業用店舗単位で、グルーピングを行っております。また、本店、研修所、集中センター、福利厚生施設などの独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。

減損損失の測定に使用した回収可能額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額であります。正味売却価額は不動産鑑定評価額等から処分費用見込額を控除して算定しております。使用価値につきましては、使用期間が短期間であることから、割引計算を行っておりません。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	4,137 百万円
組替調整額	1,023 百万円
税効果調整前	5,161 百万円
税効果額	△1,620 百万円
その他有価証券評価差額金	3,540 百万円

繰延ヘッジ損益：

当期発生額	△376 百万円
組替調整額	258 百万円
税効果調整前	△117 百万円
税効果額	35 百万円
繰延ヘッジ損益	△81 百万円

退職給付に係る調整額：

当期発生額	7,976 百万円
組替調整額	△1,443 百万円
税効果調整前	6,533 百万円
税効果額	△1,997 百万円
退職給付に係る調整額	4,535 百万円
その他の包括利益合計	7,995 百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	281,008	—	—	281,008	
合計	281,008	—	—	281,008	
自己株式					
普通株式	667	1	68	600	注1、2
合計	667	1	68	600	

- (注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取1千株によるものであります。
2 普通株式の自己株式の株式数の減少68千株は、単元未満株式の買増請求による処分0千株及びストック・オプションの権利行使による譲渡68千株によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権 の内訳	新株予約権 の目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)	摘要
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末		
当社	ストック・オプションとしての 新株予約権		—				148	

3. 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,401百万円	5.00円	2023年3月31日	2023年6月28日
2023年11月13日 取締役会	普通株式	1,752百万円	6.25円	2023年9月30日	2023年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,752百万円	その他 利益剰余金	6.25円	2024年 3月31日	2024年 6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	797,792百万円
当座預け金	△5百万円
普通預け金	△278百万円
定期預け金	△35百万円
外貨預け金	△1,404百万円
振替貯金	△1,018百万円
その他預け金	△7,000百万円
現金及び現金同等物	788,049百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、池田泉州銀行を中心に、地域金融機関として各種金融サービスに係る事業を行っています。主たる業務である預金業務、貸出業務ならびに有価証券運用等のマーケット業務において、金利変動及び市場価格の変動を伴う金融資産及び金融負債を有しています。市場環境等の変化に応じた戦略目標等の策定に資するため、これらの資産及び負債の総合的管理（ALM）を行うとともに、その一環として、デリバティブ取引を行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループが保有する金融資産は、主として国内の取引先及び個人に対する貸出金であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスク及び金利の変動リスクに晒されています。

また、保有有価証券は、主に株式、債券、投資信託等であり、その他有価証券として、純投資目的及び政策投資目的で保有するほか、一部は満期保有目的の債券、売買目的有価証券として保有します。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及びマーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクに晒されています。

主な金融負債である預金については、予期せぬ資金流出が発生するなどの流動性リスクが存在します。また、そのほかの調達資金については、一定の環境の下で当社グループが市場を利用できなくなる場合等において必要な資金が確保できない、あるいは、通常よりも高い金利での資金調達を余儀なくされるといった流動性リスクに晒されています。また、これらの金融負債は、金融資産と同様、金利変動リスクに晒されています。

デリバティブ取引は、顧客ニーズへの対応や、資産・負債のリスクコントロール手段を主な目的として利用しています。また、トレーディング（短期的な売買差益獲得）の一環として、債券や株式の先物取引等を利用します。これらのデリバティブ取引は、取引相手先の契約不履行などに係る信用リスク（カウンターパーティーリスク）及びマーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、フロント部門から独立したリスク管理部署を設置し、リスク管理についての基本方針を定めています。具体的には、リスク管理に関する体制及びリスク管理基本規定等の諸規定を取締役会で定め、リスクカテゴリー毎の責任部署を明確にするとともに、それらを統括するリスク管理統括部署を設置しています。

さらに、「リスク管理委員会」並びに「ＡＬＭ委員会」を設置し、当社グループのリスクの状況を把握するとともに、課題及び対応策を審議しています。それらの審議事項を取締役会等に付議・報告することにより、経営レベルでの実効性のあるリスク管理体制を構築しています。

① 統合的リスク管理

当社グループは、当社のリスク管理基本規定及び統合的リスク管理に関する諸規定に従い、統合的リスク管理を行っています。

具体的には、自己資本比率の算定に含まれない与信集中リスクや銀行勘定の金利リスク等も含めて、信用リスクや市場リスク等のリスクカテゴリー毎の方法で評価したリスクを統合的に捉え、経営体力（自己資本）と対比することによって、統合的な管理を行っています。

② 信用リスクの管理

当社グループは、当社の信用リスク管理規定及び信用リスク管理に関する諸規定に従い、与信ポートフォリオの分析・管理を行っています。また、個別案件の与信管理については、審査、内部格付、資産自己査定等の体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、子銀行の各営業店、審査部署、リスク管理部署により行われ、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクについても、リスク管理部署が、信用情報や時価の把握をモニタリングしています。また、当社においても定期的に取締役会等へ報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部署が監査をしています。

③ 市場リスクの管理

(i) 市場リスク管理

当社グループは、当社の市場リスク管理規定及び市場リスク管理に関する諸規定に従い、マーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクの管理を行っています。具体的には、リスク管理部署がバリュー・アット・リスク（VaR）を用いて市場リスク量を把握するとともに、市場リスク量を一定の範囲内にコントロールすることを目的として、継続的なモニタリングを実施し、リスク限度額の遵守状況を監視しています。有価証券については、上記のリスク限度額管理に加えて、損失に上限を設定し、管理しています。なお、これらの情報はリスク管理部署から、リスク管理委員会及び取締役会へ定期的に報告されています。

また、ＡＬＭ委員会において、資産・負債構造ならびに金利リスクの把握・確認を行うとともに、今後の対応等の協議を行っています。具体的には、ＡＬＭ担当部署において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等を行うことにより、安定的かつ継続的な収益の確保に努めています。

なお、子銀行において外為取引や外債投資等の為替リスクを伴う取引を行っていますが、為替持高をできるだけスクウェアに近い状態にすることで、為替リスクの低減に努めています。

(ii) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、リスク管理、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を図るとともに、市場リスク管理に関する諸規定に従い取引を行っています。

(iii) 市場リスクに係る定量的情報

市場リスクは他のリスクに比べて日々の変動が大きいと、当社グループでは、預金、貸出金や有価証券などの金融商品の市場リスク量を、VaRを用いて日次で把握、管理しています。

このVaR算定にあたっては、分散共分散法（保有期間120営業日、信頼区間99.0%、観測期間240営業日）を採用しています。

2024年3月31日（当期の連結決算日）現在で当社グループの金融商品の市場リスク量（損失額の推計値）は、金利が254億円、株式が85億円となっています。また、相関を考慮した市場リスク量全体では334億円となっています。

なお、当社グループでは、金融商品のうち市場変動の影響が大きい有価証券関連のVaRについて、市場リスク計測モデルの正確性を検証するために、モデルが算出した保有期間1日のVaRと実際の損益を比較するバックテストを実施しています。

ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

④ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループは、当社の資金流動性リスク管理規定及び資金流動性リスク管理に関する諸規定に従い、資金調達に係る流動性リスクの管理を行っています。

具体的には、子銀行のＡＬＭ担当部署や資金為替担当部署が、グループ全体の運用・調達状況を適時適切に把握するとともに、保有資産の流動性の確保や調達手段の多様化を図るなど、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、安定した資金繰りの確保に努めています。

また、リスク管理部署は、短期間に資金化可能な流動性準備資産額を定期的に確認することで、流動性リスク顕現化時の対応力を把握するとともに、資金繰り管理の適切性をモニタリングし、リスク管理委員会や取締役会等に報告しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれます。

当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（（注1）参照）。また、現金預け金、コールローン及び買入手形、買入金銭債権、外国為替（資産・負債）並びに信託勘定借は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額と近似していることから、注記を省略しております。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	9,005	9,005	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	97,940	97,906	△34
その他有価証券	519,741	519,741	—
(3) 貸出金	4,831,651		
貸倒引当金（＊1）	△9,049		
	4,822,602	4,809,610	△12,992
資産計	5,449,290	5,436,263	△13,026
(1) 預金	5,667,529	5,667,484	△44
(2) 借用金	466,470	466,444	△25
負債計	6,133,999	6,133,929	△70
デリバティブ取引（＊2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(70)	(70)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(1,724)	(1,724)	—
デリバティブ取引計	(1,794)	(1,794)	—

（＊1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（＊2）その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

（＊3）その他有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれております。

(注1) 市場価格のない株式等及び組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式等（＊１）（＊２）	5,851
組合出資金（＊３）	8,682

（＊１）非上場株式等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

（＊２）当連結会計年度において、非上場株式等について198百万円減損処理を行っております。

（＊３）組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2024年3月31日）

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	7,400	1,604	—	9,005
有価証券				
その他有価証券				
国債・地方債等	78,438	137,425	—	215,864
社債	—	160,839	20,026	180,866
株式	24,708	—	—	24,708
外国証券	97	—	—	97
投資信託等	4,876	66,439	—	71,315
デリバティブ取引				
通貨関連	—	1,982	—	1,982
資産計	115,521	368,291	20,026	503,839
デリバティブ取引				
通貨関連	—	3,776	—	3,776
負債計	—	3,776	—	3,776

(※ 1) 有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託等は含まれておりません。第24-9項の取扱いを適用した投資信託の連結貸借対照表計上額は、26,889百万円であります。

(※ 2) 第24-9項の取扱いを適用した投資信託等の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

期首 残高	当期の損益又はその他の 包括利益		購入、売却 及び償還の 純額	投資信託の 基準価額を 時価とみな すこととし た額	投資信託の 基準価額を 時価とみな さないこと とした額	期末 残高	当期の損益 に計上した 額のうち連 結貸借対照 表日におい て保有する 投資信託の 評価損益
	損益に 計上	その他の 包括利益 に計上 (※)					
24,264	—	187	2,436	—	—	26,889	—

(※) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度(2024年3月31日)

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	10,154	87,752	—	97,906
貸出金	—	124,961	4,684,648	4,809,610
資産計	10,154	212,713	4,684,648	4,907,516
預金	—	5,667,484	—	5,667,484
借入金	—	463,614	2,830	466,444
負債計	—	6,131,098	2,830	6,133,929

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券については、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類し、観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については、「(金銭の信託関係)」に記載しております。

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル１の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル２の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル２の時価に分類しております。

相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、信用スプレッド及び予想損失率が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いる場合には、レベル３の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しています。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル３の時価に分類しております。

また、デリバティブが組み込まれた仕組貸出については、取引金融機関等から提示された価格によっております。当該時価はレベル２の時価に分類しております。

負債

預金

要求払預金について、連結決算日に要求に応じて直ちに支払うものは、その金額を時価としております。また、定期預金については、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いた現在価値により時価を算定しております。割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間（１年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル２の時価に分類しております。

借入金

借入金については、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。このうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、連結される子会社及び子法人等の信用状態は実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。なお、約定期間が短期間（１年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価は、時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル３の時価、そうでない場合はレベル２の時価に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル１の時価に分類しており、主に債券先物取引や金利先物取引等がこれに含まれます。

ただし、大部分のデリバティブは店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて割引現在価値やブラック・ショールズ・モデル等の評価技法を利用して時価を算定しております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート、ボラティリティ等であります。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル２の時価に分類しており、プレーン・バニラ型の金利スワップ取引、為替予約取引等が含まれます。重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル３の時価に分類しており、株式オプション取引等が含まれます。

(注２) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル３の時価に関する情報

(１) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

当連結会計年度（2024年3月31日）

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
有価証券				
その他有価証券				
私募債	割引現在価値	信用スプレッド	△0.220%～0.179%	0.069%
	キャッシュ・フロー控除法	予想損失率	100%	100%

(２) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

当連結会計年度（2024年3月31日）

(単位：百万円)

	期首 残高	当期の損益又はその他の 包括利益		購入、売却、発行 及び決済 の純額	レベル３ の時価へ の振替	レベル３ の時価か らの振替	期末 残高	当期の損益に計 上した額のうち 連結貸借対照表 日において保有 する金融資産及 び金融負債の評 価損益（＊１）
		損益に 計上 （＊１）	その他の 包括利益 に計上 （＊２）					
有価証券								
その他有価証券								
私募債	23,430	△28	1	△3,376	—	—	20,026	△9

（＊１）連結損益計算書の「その他業務費用」に含まれております。

（＊２）連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(３) 時価の評価プロセスの説明

連結される子会社及び子法人等ではリスク管理部門において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿ってバック部門が時価を算定しております。算定された時価は、ミドル部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証し、時価の算定の方針及び手続に関する適切性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

(４) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

私募債の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、信用スプレッド及び予想損失率であります。信用スプレッドは、信用格付毎の新規実行レート加重平均金利と市場金利との乖離であり、決算日から６か月以内の実績を基に算定した推定値であり、このインプットの著しい増加（減少）は、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることになります。予想損失率は、倒産時において発生すると見込まれる損失の、債券又は貸出金から担保の評価額及び保証による回収が可能と見込まれる額を控除した額に占める割合であり、このインプットの著しい増加（減少）は、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることになります。

(有価証券関係)

連結貸借対照表の「有価証券」を記載しております。

１. 売買目的有価証券（2024年3月31日現在）

該当ありません。

２．満期保有目的の債券（2024年３月31日現在）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価 （百万円）	差額 （百万円）
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	国債	9,728	9,776	48
	地方債	32,520	32,651	130
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小 計	42,249	42,427	178
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	国債	386	377	△9
	地方債	55,304	55,100	△204
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小 計	55,691	55,478	△213
合 計		97,940	97,906	△34

３．その他有価証券（2024年３月31日現在）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	23,607	8,565	15,042
	債券	40,276	40,170	105
	国債	19,903	19,881	22
	地方債	13,276	13,217	59
	短期社債	—	—	—
	社債	7,095	7,072	23
	その他	49,918	44,561	5,356
	小 計	113,801	93,297	20,504
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	1,100	1,555	△454
	債券	356,454	362,454	△5,999
	国債	58,535	58,961	△426
	地方債	124,149	125,328	△1,179
	短期社債	—	—	—
	社債	173,770	178,163	△4,393
	その他	48,384	50,412	△2,028
	小 計	405,939	414,421	△8,482
合 計		519,741	507,719	12,022

４．当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券（自 2023年４月１日 至 2024年３月31日）
該当ありません。

５．当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 2023年４月１日 至 2024年３月31日）

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	1,503	848	—
債券	—	—	—
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	17,591	773	2,525
合 計	19,095	1,622	2,525

６．減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

当連結会計年度における減損処理額は、28百万円（すべて社債）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に比べて決算日前１カ月の市場価格の平均等に基づく時価（以下、「月中平均時価」という。）が50%以上下落した場合、または、月中平均時価が30%以上50%未満下落した場合においては、過去の一定期間における時価の推移並びに当該発行会社の信用リスク等を勘案した基準により行っております。

（金銭の信託関係）

１．運用目的の金銭の信託（2024年３月31日現在）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	当連結会計年度の損益に含まれた 評価差額(百万円)
運用目的の金銭の信託	9,005	91

２．満期保有目的の金銭の信託（2024年３月31日現在）

該当ありません。

３．その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）（2024年３月31日現在）

該当ありません。

（ストック・オプション等関係）

１．ストック・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	当連結会計年度
営業経費	43百万円

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

決議年月日	2011年2月24日	2011年7月28日
付与対象者の区分及び人数（名）	子会社取締役 22 子会社執行役員 19	子会社取締役 16 子会社執行役員 18
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 84,780	普通株式 72,760
付与日	2011年3月15日	2011年8月31日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	2011年3月15日から退任日	2011年8月31日から退任日
権利行使期間	2011年3月16日から 2041年7月31日まで	2011年9月1日から 2041年7月31日まで

決議年月日	2012年8月31日	2013年7月31日
付与対象者の区分及び人数（名）	子会社取締役 10 子会社執行役員 16	子会社取締役 10 子会社執行役員 16
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 69,500	普通株式 53,800
付与日	2012年10月1日	2013年9月2日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	2012年10月1日から退任日	2013年9月2日から退任日
権利行使期間	2012年10月2日から 2042年7月31日まで	2013年9月3日から 2043年7月31日まで

決議年月日	2014年7月30日	2015年7月29日
付与対象者の区分及び人数（名）	子会社取締役 10 子会社執行役員 15	子会社取締役 10 子会社執行役員 14
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 55,900	普通株式 51,800
付与日	2014年8月28日	2015年9月1日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	2014年8月28日から退任日	2015年9月1日から退任日
権利行使期間	2014年8月29日から 2044年7月31日まで	2015年9月2日から 2045年7月31日まで

決議年月日	2016年7月27日	2017年7月31日
付与対象者の区分及び人数（名）	子会社取締役 8 子会社執行役員 17	子会社取締役 8 子会社執行役員 20
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 94,800	普通株式 83,100
付与日	2016年8月30日	2017年8月31日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	2016年8月30日から退任日	2017年8月31日から退任日
権利行使期間	2016年8月31日から 2046年7月31日まで	2017年9月1日から 2047年7月31日まで

決議年月日	2018年7月31日	2019年7月30日
付与対象者の区分及び人数（名）	子会社取締役 6 子会社執行役員 18	子会社取締役 6 子会社執行役員 18
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 58,500	普通株式 117,400
付与日	2018年8月30日	2019年8月28日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	2018年8月30日から退任日	2019年8月28日から退任日
権利行使期間	2018年8月31日から 2048年7月31日まで	2019年8月29日から 2049年7月31日まで

決議年月日	2020年7月31日	2021年7月30日
付与対象者の区分及び人数（名）	子会社取締役 7 子会社執行役員 17	当社取締役 4 当社執行役員 7 子会社取締役 7 子会社執行役員 16
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 156,300	普通株式 254,900
付与日	2020年8月28日	2021年8月27日
権利確定条件	退任後10日以内の権利行使	退任後1年以内の権利行使
対象勤務期間	2020年8月28日から退任日	2021年8月27日から退任日
権利行使期間	2020年8月31日から 2050年7月31日まで	2021年8月30日から 2051年7月31日まで

決議年月日	2022年7月27日	2023年7月31日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社取締役 5 当社執行役員 6 子会社取締役 7 子会社執行役員 19	当社取締役 5 当社執行役員 12 子会社取締役 7 子会社執行役員 21
ストック・オプションの数（株）（注）	普通株式 216,800	普通株式 181,600
付与日	2022年8月30日	2023年9月1日
権利確定条件	退任後1年以内の権利行使	退任後1年以内の権利行使
対象勤務期間	2022年8月30日から退任日	2023年9月1日から退任日
権利行使期間	2022年8月31日から 2052年7月31日まで	2023年9月2日から 2053年7月31日まで

（注） 株式数に換算して記載しております。なお、2012年8月1日付株式併合（5株につき1株の割合）による併合後の株式数に換算して記載しております。

（2）ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（2024年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① スtock・オプションの数

決議年月日	2011年2月24日	2011年7月28日	2012年8月31日	2013年7月31日
権利確定前（株）				
前連結会計年度末	1,100	1,240	1,700	3,800
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—
未確定残	1,100	1,240	1,700	3,800
権利確定後（株）				
前連結会計年度末	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—
権利行使	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
未行使残	—	—	—	—

決議年月日	2014年 7 月30日	2015年 7 月29日	2016年 7 月27日	2017年 7 月31日
権利確定前（株）				
前連結会計年度末	5,500	5,200	17,600	22,000
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	1,600
未確定残	5,500	5,200	17,600	20,400
権利確定後（株）				
前連結会計年度末	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	1,600
権利行使	—	—	—	1,600
失効	—	—	—	—
未行使残	—	—	—	—

決議年月日	2018年 7 月31日	2019年 7 月30日	2020年7月31日	2021年7月30日
権利確定前（株）				
前連結会計年度末	29,500	60,100	103,800	238,400
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	3,200	6,200	10,600	24,300
未確定残	26,300	53,900	93,200	214,100
権利確定後（株）				
前連結会計年度末	—	—	—	—
権利確定	3,200	6,200	10,600	24,300
権利行使	3,200	6,200	10,600	24,300
失効	—	—	—	—
未行使残	—	—	—	—

決議年月日	2022年7月27日	2023年7月31日
権利確定前（株）		
前連結会計年度末	216,800	—
付与	—	181,600
失効	—	—
権利確定	22,500	—
未確定残	194,300	181,600
権利確定後（株）		
前連結会計年度末	—	—
権利確定	22,500	—
権利行使	22,500	—
失効	—	—
未行使残	—	—

（注）2012年8月1日付株式併合（5株につき1株の割合）による併合後の株式数に換算して記載しております。

② 単価情報

決議年月日	2011年 2月24日	2011年 7月28日	2012年 8月31日	2013年 7月31日
権利行使価格（円）	1	1	1	1
行使時平均株価（円）	—	—	—	—
付与日における公正な 評価単価（円）	490	535	449	430

決議年月日	2014年 7月30日	2015年 7月29日	2016年 7月27日	2017年 7月31日
権利行使価格（円）	1	1	1	1
行使時平均株価（円）	—	—	—	239
付与日における公正な 評価単価（円）	497	474	410	353

決議年月日	2018年 7月31日	2019年 7月30日	2020年 7月31日	2021年 7月30日
権利行使価格（円）	1	1	1	1
行使時平均株価（円）	239	239	239	239
付与日における公正な 評価単価（円）	325	140	132	133

決議年月日	2022年 7月27日	2023年 7月31日
権利行使価格（円）	1	1
行使時平均株価（円）	239	—
付与日における公正な 評価単価（円）	191	241

（注） 2012年 8月 1日付株式併合（5株につき 1株の割合）による影響を勘案しております。

3. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与されたストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

- (1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式
(2) 主な基礎数値及び見積り方法

決議年月日	2023年 7月31日
株価変動性 (注 1)	24.522 %
予想残存期間 (注 2)	2.928 年
予想配当率 (注 3)	3.690 %
無リスク利子率 (注 4)	0.065 %

(注) 1 予想残存期間に対応する過去期間（2020年 9月27日から2023年 9月 1日）の株価実績

2 在任者ごとに「退任者の在任期間平均」と「在任者の付与時の在任期間」の差を取り、0.8年未満の場合は次回定時株主総会までの期間を考慮し、0.8年として平均する方法により算定

3 直近年間配当額10円／算定基準日における株価271円

4 予想残存期間に近似する国債利回り

4. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注2)	当連結会計年度 計上額
	銀行業（注1）	リース業	計		
顧客との契約から生じる収益					
預金・貸出業務	3,222	—	3,222	—	3,222
為替業務	2,008	—	2,008	—	2,008
証券関連業務	1,212	—	1,212	2,035	3,247
代理業務	345	—	345	—	345
保護預り・貸金庫業務	439	—	439	—	439
投資信託・保険販売業務	4,164	—	4,164	—	4,164
その他	1,577	445	2,022	2,577	4,600
計	12,970	445	13,415	4,613	18,029
その他の収益（注3）	54,293	10,897	65,191	1,998	67,190
合計	67,264	11,342	78,606	6,612	85,219

(注) 1 「銀行業」の区分は信用保証業務を含んでおります。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業務及びクレジットカード業務等を含んでおります。

3 「その他の収益」には、主に次の取引が含まれております。

①金融商品に関する会計基準（企業会計基準第10号 2019年7月4日）の範囲に含まれる金融商品に係る取引

②リース取引に関する会計基準（企業会計基準第13号 2007年3月30日）の範囲に含まれるリース取引

③金融商品の組成又は取得に際して受け取る手数料

2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(1) 収益の計上時期

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、収益を認識しております。一定の期間にわたり履行義務が充足されるものについては、義務を履行するにつれて収益を認識しております。

(2) 収益の計上額

収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で算出しております。連結される子会社及び子法人等が参加する他社が運営するポイントプログラムについては、将来利用される見込額を第三者のために回収する額として認識し、役務取引等収益より控除しております。

3 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から当連結会計年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債の期首残高及び期末残高

(単位：百万円)

	当連結会計年度期首 (2023年4月1日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
顧客との契約から生じた債権	767	755
契約資産	218	272
契約負債	455	422

(注) 連結貸借対照表において、顧客との契約から生じた債権及び契約資産は「その他資産」に、契約負債は「その他負債」に、それぞれ含めております。

(2) 連結会計年度に認識した収益のうち当期首現在の契約負債残高に含まれていたもの

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
連結会計年度に認識した収益のうち期首現在の契約負債残高に含まれていたもの	375

(3) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (2024年3月31日)
1年内	371
1年超	51
合計	422

(1株当たり情報)

1株当たりの純資産額	863円38銭
1株当たりの親会社株主に帰属する当期純利益金額	38円62銭
潜在株式調整後1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益金額	38円52銭

(企業結合関係)

記載すべき重要なものではありません。

(重要な後発事象)

記載すべき重要なものではありません。

セグメント情報等

1.セグメント情報

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、銀行業務を中心にリース業務等の金融サービスを提供しており、「銀行業」及び「リース業」の2つを報告セグメントとしております。

「銀行業」は、銀行業務及び信用保証業務を行っており、「リース業」は、リース業務等を行っております。

2 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「会計方針に関する事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部経常収益は、第三者間取引価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			そ の 他	合 計	調 整 額	連結財務諸表 計上額
	銀 行 業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	74,102	10,523	84,626	4,624	89,250	－	89,250
セグメント間の 内部経常収益	1,568	121	1,689	2,275	3,965	△3,965	－
計	75,670	10,644	86,315	6,899	93,215	△3,965	89,250
セグメント利益又は 損失（△）	12,093	504	12,598	△254	12,343	△281	12,061
セグメント資産	6,210,021	35,487	6,245,508	28,997	6,274,506	△55,416	6,219,089
セグメント負債	5,970,260	33,121	6,003,381	42,427	6,045,808	△55,416	5,990,391
その他の項目							
減価償却費	3,381	1,295	4,677	66	4,743	－	4,743
資金運用収益	46,867	1	46,868	110	46,979	△518	46,461
資金調達費用	1,660	111	1,772	148	1,920	△229	1,691
特別利益	32	－	32	－	32	△31	1
特別損失	368	1	370	4	374	－	374
税金費用	2,053	156	2,210	219	2,429	－	2,429
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,872	978	3,850	82	3,933	－	3,933

（注）1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業務及びクレジットカード業務等を含んでおります。

3. 調整額は次のとおりであります。

（1）セグメント利益又は損失（△）の調整額△281百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（2）セグメント資産の調整額△55,416百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（3）セグメント負債の調整額△55,416百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（4）資金運用収益の調整額△518百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（5）資金調達費用の調整額△229百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（6）特別利益の調整額△31百万円は、セグメント間の取引消去であります。

4. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			そ の 他	合 計	調 整 額	連結財務諸表 計上額
	銀 行 業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	67,264	11,342	78,606	6,612	85,219	—	85,219
セグメント間の 内部経常収益	1,562	115	1,678	3,285	4,963	△4,963	—
計	68,827	11,458	80,285	9,897	90,183	△4,963	85,219
セグメント利益	14,311	608	14,919	1,102	16,022	3	16,025
セグメント資産	6,404,375	38,853	6,443,228	34,404	6,477,632	△35,525	6,442,107
セグメント負債	6,175,572	36,061	6,211,634	21,172	6,232,806	△35,525	6,197,281
その他の項目							
減価償却費	3,117	1,277	4,395	56	4,452	—	4,452
資金運用収益	45,680	1	45,682	60	45,743	△178	45,565
資金調達費用	793	122	915	84	1,000	△177	822
特別利益	34	—	34	—	34	△34	—
特別損失	530	1	531	2	534	—	534
税金費用	3,985	196	4,181	348	4,529	—	4,529
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	4,074	1,518	5,593	544	6,138	—	6,138

- （注）1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業務及びクレジットカード業務等を含んでおります。
3. 調整額は次のとおりであります。
- （1）セグメント利益の調整額3百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- （2）セグメント資産の調整額△35,525百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- （3）セグメント負債の調整額△35,525百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- （4）資金運用収益の調整額△178百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- （5）資金調達費用の調整額△177百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- （6）特別利益の調整額△34百万円は、セグメント間の取引消去であります。
4. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

（会計方針の変更）に記載のとおり、当連結会計年度より「リース業」において割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準を変更しております。

なお、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

2. 関連情報

前連結会計年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

（1）サービスごとの情報

（単位：百万円）

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合 計
外部顧客に対する経常収益	39,246	7,770	10,458	31,775	89,250

（注）一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

（2）地域ごとの情報

① 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

② 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

(1) サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合 計
外部顧客に対する経常収益	39,943	5,331	11,381	28,562	85,219

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 (会計方針の変更)に記載のとおり、当連結会計年度より「リース業」において割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準を変更しております。
なお、前連結会計年度については、遡及適用後の数値を記載しております。

(2) 地域ごとの情報

① 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

② 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前連結会計年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			そ の 他	合 計
	銀 行 業	リース業	計		
減損損失	161	—	161	—	161

当連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			そ の 他	合 計
	銀 行 業	リース業	計		
減損損失	243	—	243	—	243

4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当ありません。

5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当ありません。

リスク管理債権

		2023年3月期末	2024年3月期末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	百万円	2,536	3,925
危険債権額	百万円	43,031	44,443
三月以上延滞債権額	百万円	166	59
貸出条件緩和債権額	百万円	3,021	3,010
リスク管理債権合計	百万円	48,756	51,438
正常債権額	百万円	4,730,842	4,819,958
総与信残高	百万円	4,779,598	4,871,397
リスク管理債権比率	%	1.02	1.05

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
4. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
5. リスク管理債権合計＝破産更生債権及びこれらに準ずる債権額＋危険債権額＋三月以上延滞債権額＋貸出条件緩和債権額

自己資本の充実の状況等

「銀行法施行規則第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項」(平成26年金融庁告示第7号)に基づき、パーゼルⅢ第3の柱の内容を以下に開示しております。

自己資本の構成に関する開示事項

自己資本比率は、告示に定められた算式に基づき、連結ベースについて算出しております。
なお、当社は自己資本比率の算出にあたり国内基準を適用のうえ、2023年3月期よりパーゼルⅢ最終化を早期適用し、信用リスク・アセットの額は基礎的内部格付手法、オペレーショナル・リスク相当額は標準的計測手法により算出しております。

連結自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日	2024年3月31日
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	213,655	221,038
うち、資本金及び資本剰余金の額	119,898	119,898
うち、利益剰余金の額	95,294	103,014
うち、自己株式の額 (△)	135	122
うち、社外流出予定額 (△)	1,401	1,752
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	5,754	10,289
うち、為替換算調整勘定	—	—
うち、退職給付に係るものの額	5,754	10,289
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	116	148
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	27	39
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	4,994	642
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	381	307
うち、適格引当金コア資本算入額	4,613	334
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	962	783
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	225,511	232,941
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	2,663	2,954
うち、のれんに係るもの (のれん相当差額を含む。)の額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものの以外の額	2,663	2,954
繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。)の額	1,241	228
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	16,611	22,170
自己保有普通株式等 (純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	20,516	25,353
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	204,995	207,588
リスク・アセット等 (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	1,489,048	1,511,186
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—	—
勘定間の振替分	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	109,542	111,676
フロア調整額	—	2,424
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	1,598,591	1,625,287
連結自己資本比率		
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	12.82%	12.77%

定性的な開示事項

【連結の範囲に関する事項】

- (1) 銀行法第52条の25に基づき、銀行持株会社が銀行持株会社及び子会社の保有する資産等に照らしそれらの自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第20号。以下「告示」という。）第15条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下、「持株会社グループ」という。）に属する会社と連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）第5条に基づき連結の範囲（以下「会計連結範囲」という。）に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因

連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。

- (2) 持株会社グループのうち、連結子会社の数並びに主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容（2024年3月31日）

持株会社グループに属する連結子会社は、22社です。主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容は以下のとおりです。

主要な連結子会社

名 称	主要な業務の内容	名 称	主要な業務の内容
1 株式会社池田泉州銀行	銀行業務	9 近畿信用保証(株)	信用保証業務
2 池田泉州ＴＴ証券(株)	証券業務	10 株式会社池田泉州JCB	クレジットカード業務
3 池田泉州債権回収(株)	債権管理回収業務	11 株式会社池田泉州DC	クレジットカード業務
4 O1Bank設立準備(株)	中小事業者を対象にしたデジタルバンク事業	12 株式会社池田泉州VC	クレジットカード業務
5 池田泉州エリアサポート(株)	モビリティサービス関連事業の運営	13 池田泉州キャピタル(株)	投資業務
6 池田泉州リース(株)	リース業務	14 池田泉州ビジネスサービス(株)	現金精算・印刷・事務代行業務
7 池田泉州オートリース(株)	リース業務	15 池田泉州システム(株)	コンピュータソフト開発・販売業務
8 池田泉州信用保証(株)	信用保証業務		

- (3) 告示第21条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

該当ありません。

- (4) 持株会社グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び持株会社グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産額並びに主要な業務の内容

該当ありません。

- (5) 持株会社グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

該当ありません。

【自己資本調達手段の概要】

(1) 自己資本調達手段（その額の全部又は一部が、告示第14条の算式におけるコア資本に係る基礎項目の額に含まれる資本調達手段をいう。）の概要（2024年3月31日）

1	発行主体	株式会社池田泉州ホールディングス	株式会社池田泉州ホールディングス
2	資本調達手段の種類	普通株式	新株予約権
3	コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	119,776百万円	148百万円
4	配当率又は利率（公表されている場合）	—	—
5	償還期限の有無と日付	なし	なし
6	一定の事由が生じた場合に償還等を可能とする特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし
7	他の種類への資本調達手段への転換に係る特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし
8	元本の削減にかかる特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし
9	配当等停止条項がある場合は、その旨並びに停止した未払いの配当又は利息にかかる累積の有無	なし	なし
10	ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし

(2023年3月31日)

1	発行主体	株式会社池田泉州ホールディングス	株式会社池田泉州ホールディングス
2	資本調達手段の種類	普通株式	新株予約権
3	コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	119,762百万円	116百万円
4	配当率又は利率（公表されている場合）	—	—
5	償還期限の有無と日付	なし	なし
6	一定の事由が生じた場合に償還等を可能とする特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし
7	他の種類への資本調達手段への転換に係る特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし
8	元本の削減にかかる特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし
9	配当等停止条項がある場合は、その旨並びに停止した未払いの配当又は利息にかかる累積の有無	なし	なし
10	ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の有無と、ある場合はその概要	なし	なし

【自己資本の充実度に関する評価方法の概要】

1 持株会社グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要

(1) 自己資本管理の方針

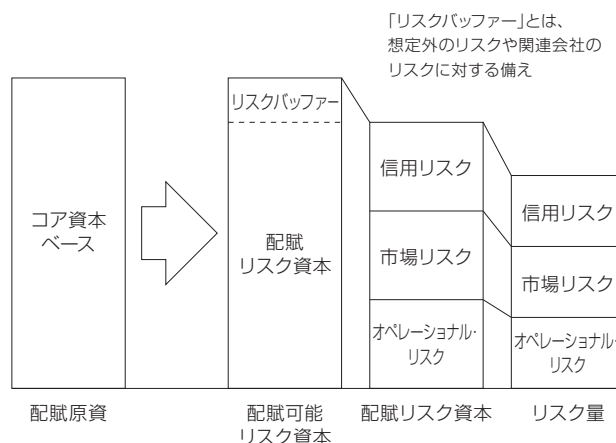
当社は、財務健全性の観点から、十分な自己資本を確保し、適切な管理・運営を行うことを自己資本管理の基本方針とし、「自己資本比率の算定」、「自己資本充実度の評価」、及び「自己資本充実に関する施策の実施」により自己資本管理を行っております。

(2) 自己資本充実度の評価

持株会社グループでは、法令などに規定される自己資本比率による管理に加え、直面する各種リスクを把握・管理し、持株会社グループの経営体力（自己資本）と比較・対照することによって、自己資本充実度の評価を行っております。

具体的には、銀行業を営む連結子会社（以下、「子銀行」という。）において「信用リスク」「市場リスク」「オペレーショナル・リスク」等の各リスク種類別に自己資本（コア資本）の範囲内で資本配賦を行い、計量化された各種リスク量が配賦資本額の範囲内にコントロールされていることを定期的にモニタリングすることにより、リスクの状況を把握し、一定の自己資本を確保する態勢としております。

このほか、一定の金利ショックの発生や与信集中リスクに係るストレステスト、さらには各種リスクに対して重大な悪化を想定したシナリオによるストレステスト等の実施により、自己資本毀損の影響度等を試算し、ストレス環境下での自己資本の健全性を検証しております。なお、子銀行以外の連結子会社については、主として連結自己資本比率の管理を通じて自己資本の充実度の評価を行っております。



【信用リスクに関する事項】

1 リスク管理の方針および手続きの概要

(1) リスク管理の方針

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化、契約不履行等により、資産の価値が減少ないし消失し、損失を被るリスクをいいます。持株会社グループでは、信用リスクの顕在化により発生する損失を抑制し、資産の健全性を確保していくために、信用リスク管理の部署・役割・手法等を明確に定め、信用リスクを適切に管理する態勢を確立、維持発展させていくことを基本方針としております。

(2) 手続きの概要

① リスクを認識し、評価・計測し、報告するための態勢

持株会社グループでは、内部格付制度を中心に信用リスク管理態勢を構築し、個別案件及び信用供与先の管理と与信ポートフォリオ管理を行っております。また、自己査定による適切な償却・引当を実施することで、資産の健全性を確保しております。

信用リスクに係る各部門はそれぞれ独立性を確保しており、実効性ある信用リスク管理態勢を構築しています。具体的には、審査・与信管理部門（審査部署・問題債権管理部署）が与信部門（営業部店・営業推進部署）における個別案件の審査・与信管理を行い、審査・与信管理部門及び与信部門から組織的・機能的に独立した信用リスク管理部署が、信用リスク全体を統括・管理しております。信用リスク管理部署は、内部格付制度の設計・検証・運用監視、信用リスクの計量化、与信ポートフォリオ管理等を行い、取締役会等にて内部格付制度の運用状況、与信ポートフォリオ管理のモニタリング等を行うことで、持株会社グループ全体の信用リスクの適切な運営・管理に努めております。

さらに、審査・与信管理部門、与信部門及び信用リスク管理部署から組織的・機能的に独立した内部監査部署が、信用リスク管理態勢についての内部監査を実施しております。

② 貸倒引当金の計上基準

貸倒引当金は、基準期末の自己査定結果による債務者区分に応じ、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

(ア) 一般貸倒引当金

正常先及び要注意先（要管理先を含む）の債権額に対しては、過去の貸倒実績率に基づき、将来発生が見込まれる予想損失率を求め、債務者区分ごとの債権額に予想損失率を乗じた額（正常先及び要注意先は今後１年間、要管理先は今後３年間）を一般貸倒金として計上しております。

(イ) 個別貸倒引当金

破綻懸念先の債権額のうち担保・保証等により保全されていない部分に対して、所定の予想損失率を乗じた額を、実質破綻先・破綻先の債権額のうち担保・保証等により保全されていない部分の全額を個別貸倒引当金として計上しております。

(3) 信用リスクの算出にあたり、基礎的内部格付手法を適用していないエクスポージャーの性質及びエクスポージャーを適切な手法に完全に移行させるための計画

① 基礎的内部格付手法の適用除外とするエクスポージャー

持株会社グループでは、信用リスク・アセットの額の算出にあたり、原則として基礎的内部格付手法を適用しておりますが、金額が僅少であり、リスク管理の観点から個々の信用リスクを把握することの重要性が低いと判断される一部の資産又は以下の左表に記載の連結子会社１８社については、基礎的内部格付手法の適用除外とし、標準的手法を適用しております。いずれも自己資本比率を算出する上で重要な影響を与えるものではありません。また、これらについては、適用除外の基準を満たしているかどうかを定期的に確認しております。

なお、以下の右表に記載の当社外３社、株式会社池田泉州ＪＣＢのうち株式会社池田泉州銀行の与信行為に関連する求償債権は基礎的内部格付手法にて信用リスク・アセットを計算しております。

名 称	適用手法
池田泉州ＴＴ証券株式会社	標準的手法 (株式会社池田泉州ＪＣＢのうち 銀行本体の与信行為に関連する 求償債権は基礎的内部格付手法 を適用)
池田泉州債権回収株式会社	
ＯＩＢank設立準備株式会社	
池田泉州エリアサポート株式会社	
池田泉州オートリース株式会社	
株式会社池田泉州ＪＣＢ	
株式会社池田泉州ＤＣ	
株式会社池田泉州ＶＣ	
池田泉州キャピタル株式会社	
池田泉州ビジネスサービス株式会社	
池田泉州システム株式会社	
投資事業組合等（７組合）	

名 称	適用手法
株式会社池田泉州ホールディングス	基礎的内部格付手法 (一部の資産は標準的手法を適用)
株式会社池田泉州銀行	
池田泉州信用保証株式会社	
近畿信用保証株式会社	

② 基礎的内部格付手法を段階的に適用するエクスポージャー

持株会社グループでは、以下の連結子会社について、将来的な基礎的内部格付手法への移行を前提とし、標準的手法にて信用リスク・アセットを計算しております。

名 称	適用手法
池田泉州リース株式会社	標準的手法

2 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

(1) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称

持株会社グループでは、次の格付機関が付与した格付を使用し、リスク・ウェイトを判定しております。

株式会社格付投資情報センター（Ｒ&Ｉ）

株式会社日本格付研究所（ＪＣＲ）

ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）

Ｓ＆Ｐグローバル・レーティング（Ｓ＆Ｐ）

(2) エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称

全てのエクスポージャーについて、上記４格付機関の格付を使用しております。

(3) 内部格付手法のポートフォリオに分類する場合の基準

ポートフォリオ	分類する場合の基準
事業法人向けエクスポージャー（特定貸付債権を除く）	事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円以上の先等に対する与信
ソブリン向けエクスポージャー	地方公共団体等に対する与信
金融機関等向けエクスポージャー	銀行、証券会社、保険会社等に対する与信
居住用不動産向けエクスポージャー	住宅ローン
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	一定金額未満の無担保カードローン等
その他リテール向けエクスポージャー	〔消費性〕 居住用不動産向けエクスポージャー及び適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー以外の消費性 〔事業性〕 事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円未満の先等に対する与信
株式等エクスポージャー	上場株式、非上場株式、ETF等
特定貸付債権	プロジェクトファイナンス、不動産ファイナンス等でノンリコースの与信
購入債権	第三者から譲り受けた事業法人等向け及びリテール向けの与信

3 内部格付手法が適用されるポートフォリオに関する事項

(1) 使用する内部格付手法の種類

「基礎的内部格付手法」を使用しております。

(2) 内部格付制度の概要

持株会社グループの内部格付制度は、「信用格付」、「リテール・プール管理」及び「各種パラメータの推計」から構成されております。また、内部格付制度の健全性を維持し有効性を確保するため、定期的なモニタリング、格付の精度検証等を実施しております。

① 信用格付

「信用格付」は、信用供与先の信用力を評価する「債務者格付」及び特定貸付債権等の元利払いの確度を評価する「特殊案件格付」と、個々の与信取引にかかるデフォルト発生時の回収可能性を評価する「案件格付」から構成されております。

(ア) 債務者格付

「債務者格付」は、事業性と信及び市場取引にかかる全ての信用供与先を対象とし、信用供与額等に応じて「事業法人等」又は「リテール（事業性）」のいずれかに区分したうえで、それぞれについて財務情報・定性情報及び外部格付情報（※）等を総合的に勘案し、信用供与先の信用力に応じた格付を付与するものです。持株会社グループの債務者格付は、下表のとおり、非デフォルト先12ランク、デフォルト先4ランクの16階層に区分しております。この格付区分は信用リスク管理の基礎となるほか、償却・引当の基準として自己査定における債務者区分と整合するものとなっております。

※適格格付機関が付与する外部格付と内部格付をデフォルト率の水準でマッピングしたうえで、格付ランクの勘案等に使用しております。

格付	債務者区分	リスクの程度	信用力の定義
S0	正常先	リスク極めて僅少	債務償還の確実性及び、与信管理上の安全性が最高水準にある（国・地方公共団体等）
S1			債務償還の確実性及び、与信管理上の安全性が最高水準にある（地方公共団体等）
S2			債務償還の確実性及び、与信管理上の安全性が最高水準にある
A		リスク僅少	債務償還の確実性が極めて高く、与信管理上の安全性が非常に優れた水準にある
B		リスク小	債務償還の確実性が高く、与信管理上の安全性が優れた水準にある
C		平均水準比良好	債務償還の確実性は高い水準にあり、与信管理上の安全性が十分である
D		平均水準	債務償還の確実性は問題ないが、将来確実性が低下する可能性を含む
E		許容可能レベル	債務償還の確実性は問題ないが、将来確実性が低下する可能性がある
F	要注意先	リスクやや大	債務償還の確実性は問題ないが、将来確実性が低下する可能性が高い
G20		リスク大	業況、債務償還能力に不安定部分がある
H20			業況、債務償還能力に不安定部分が大きい
I20		警戒懸念延滞発生	業況、債務償還能力に不安定部分が極めて大きく、債権の全部または一部に延滞（3ヶ月未満）が発生している
I21	要管理先	警戒懸念要管理段階	業況、債務償還能力に不安定部分が極めて大きく、債権の全部または一部が要管理債権となっている
J	破綻懸念先	警戒	現状、経営破綻の状況にはないが今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる
K	実質破綻先	危険	深刻な経営難の状態にあり破綻状態に陥っている、または、法的・形式的な経営破綻の事実は発生していないが、実質的に経営破綻に陥っている
L	破綻先	破綻	深刻な経営難の状態にあり、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している

(イ) 特殊案件格付

「特殊案件格付」は、プロジェクトファイナンス等の特定貸付債権等について、事業リスク等に応じて信用リスクの程度を評価し、非デフォルト先9ランク、デフォルト先4ランクの13階層に区分しております。

(ウ) 案件格付

「案件格付」は、保全の状況及び種類等に応じて与信取引単位でデフォルト時の回収可能性を評価し、6階層（1格～6格）に区分しております。

② リテール・プール管理

「リテール・プール管理」は、リスク特性の類似するプールに割り当てることにより、プール別に信用リスク管理を行うものです。リテール・プール管理は、居住用不動産向けエクスポージャー、適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー及びその他リテール向けエクスポージャーを対象とし、債務者の属性や取引（商品性等）のリスク特性、延滞の状況等により、リテール・プール区分への割当てを実施しております。

③ 各種パラメータの推計

事業法人等向けエクスポージャーでは債務者格付別PD（１年間に債務者がデフォルトする確率）を、リテール向けエクスポージャーではプール別PD、プール別LGD（デフォルトしたエクスポージャーに生じる損失割合）及びプール別EAD（デフォルト時におけるエクスポージャーの額）を推計しております。持株会社グループでは、これらの各種パラメータ（PD・LGD・EAD等）を使用して自己資本比率算出上の信用リスク・アセットの額を算出しているほか、与信判断や貸出金利の決定、与信ポートフォリオ管理、与信集中リスク管理、リスク計量化、ストレステスト、資本配賦、収益管理等、子銀行内部の業務運営に活用しております。

④ 内部格付制度の管理と検証手続

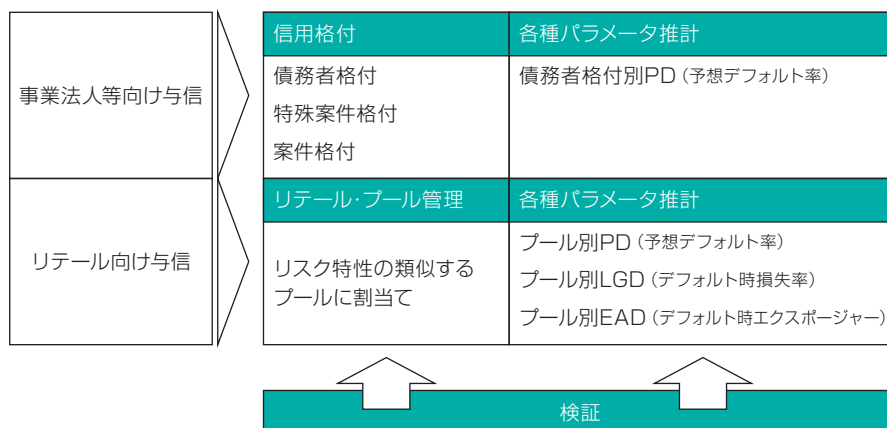
内部格付制度の運用が適切に行われるよう、営業推進部門や審査・与信管理部門から独立した信用リスク管理部署が、信用格付、リテール・プール管理及び各種パラメータ推計等を定期的に検証し、内部格付制度の正確性・一貫性の確保及び適切な見直しを行うこととしております。

信用リスク管理部署が行った各検証の結果については、全ての部門からの独立性が確保された内部監査部署が監査する態勢としており、実効性のある信用リスク管理態勢を構築しております。

検証の手続きとしては、主に統計的手法を用い、その有意性、客観性、安定性、集中度等を検証しており、検証の結果、問題点が確認された場合には、要因分析のうえ、信用格付制度の改善につなげる態勢を確保しております。

具体的には、「債務者格付」については、格付モデルの有効性、安定性及び格付の分布状況、格付の遷移状況等を、「リテール・プール管理」については、プール割当て区分の適切性等を、「パラメータ推計」については、実績値と比較した推計値の適切性等を検証しております。

内部格付制度の概要



(3) ポートフォリオごとの格付付与手続の概要

持株会社グループでは、個々の与信を与信先や取引の属性に応じて、以下のポートフォリオに区分したうえで「債務者格付」「特殊案件格付」「案件格付」の付与、及び「リテール・プール」への割当てを行っております。

債務者格付の付与及びリテール・プールへの割当て手続

① 事業法人向けエクスポージャー

当該債務者に対しては、担当本店が格付付与基準に基づき起案し、審査部署が承認を行う手続により「債務者格付」を付与しております。格付の判定では、財務情報、定性情報、取引情報（延滞等）、外部格付情報等を総合的に勘案しております。

② ソブリン向けエクスポージャー

格付の判定では、財政指標による定量評価等を勘案しております。

③ 金融機関向けエクスポージャー

「債務者格付」の付与手続は、事業法人向けエクスポージャーと同様です。

④ PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー

「債務者格付」の付与手続は、事業法人向けエクスポージャーと同様です。

⑤ 特定貸付債権

格付の判定では、事業リスクやファイナンス・スキームの評価等を勘案しております。

- ⑥ 居住用不動産向けエクスポージャー
「リテール・プール」への割当てでは、返済比率、借入日からの経過年数、延滞の有無、保全率等を勘案しております。
- ⑦ 適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー
「リテール・プール」への割当てでは、保証形態、延滞の有無等を勘案しております。
- ⑧ その他リテール向けエクスポージャー（消費性）
「リテール・プール」への割当てでは、商品性、延滞の有無、担保の有無等を勘案しております。
- ⑨ その他リテール向けエクスポージャー（事業性）
「リテール・プール」への割当てでは、債務者区分、延滞の有無等を勘案しております。

ポートフォリオごとの格付付与手続の概要

ポートフォリオ	内部格付制度	主な対象先	付与手続の概要
事業法人向けエクスポージャー	債務者格付	事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円以上の先等に対する与信	財務情報、定性情報、取引情報（延滞等）、外部格付情報等を総合的に勘案し、格付を付与。
金融機関等向けエクスポージャー		銀行、証券会社、保険会社等に対する与信	
株式等エクスポージャー		帳簿価額50百万円以上の上場株式、非上場株式、REIT等	
ソブリン向けエクスポージャー		地方公共団体等に対する与信	
特定貸付債権	特殊案件格付	プロジェクトファイナンス、不動産ファイナンス等でノンリコースの与信	案件種類毎に事業リスクやファイナンス・スキームについて定量評価及び定性評価を総合的に勘案し、格付を付与。
居住用不動産向けエクスポージャー	リテール・プール管理	住宅ローン	債務者特性、取引特性、延滞状況（延滞有無）等により、リスク特性の類似するプールに割当て。
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー		一定金額未満の無担保カードローン等	
その他リテール向けエクスポージャー		[消費性] 居住用不動産向けエクスポージャー及び適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー以外の消費性で与信	
		[事業性] 事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円未満の先等に対する与信	

(4) パラメータの推計及び検証に用いた定義、方法及びデータ

「債務者格付」を付与するポートフォリオについては、「債務者格付」の区分毎にPDの推計を行っております。また、「リテール・プール」への割当てを行うポートフォリオについては、「リテール・プール」の区分毎にPD、LGD及びEADの推計を行っております。

PDの推計に際しては、要管理先以下をデフォルトと定義し、過去の内部デフォルトデータに基づく事業年度毎のデフォルト率の実績値をもとに長期平均実績デフォルト率を算出し、さらに保守的な補正を反映して推計値を算出しております。LGD及びEADの推計に際しても、同様に保守性を勘案しております。

なお、自己資本比率算出に使用するPDと、内部管理に使用するPDは、デフォルトの定義が異なるものがありますが、これは、前者におけるデフォルトの定義を告示により要管理先以下としているのに対して、後者は貸倒引当金の計上基準を重視して破綻懸念先以下としているためです。

【信用リスク削減手法に関する事項】

1 リスク管理の方針および手続の概要

(1) リスク管理の方針

信用リスク削減手法とは、持株会社グループが抱える信用リスクを削減するための措置をいい、担保、保証、貸出金と自行預金の相殺を主な手法として適用しております。

与信判断に際しては、取引先の経営状態や案件の妥当性等を十分に検討しており、担保や保証については、過度に依存することなく、取引先の信用力を補完するものとして取得しております。

(2) 貸出金と自行預金の相殺を用いるにあたっての方針及び手続の概要等

貸出金と自行預金の相殺にあたっては、担保（総合口座を含む。）登録のない相殺確実な自行定期性預金を対象とし、自己資本比率の算定にあたっては、告示上の要件をみたすものについて信用リスク削減手法を勘案しております。

(3) 派生商品取引及びレボ形式の取引について法的に有効な相対ネットティング契約を用いるにあたっての方針及び手続の概要等

レボ形式の取引については、相対ネットティング契約である基本契約書（日証協雛型「債券貸借取引に関する基本契約書」）を用いるにあたって、その法的有効性を使用開始当初に確認しております。

(4) 担保に関する評価、管理の方針及び手続の概要

担保評価は、あらかじめ定められた方法により実施しており、評価の見直し等は、新規の与信判断と同様の姿勢で定期的を実施しております。また、担保の管理については、その効力、対抗要件を完備し、担保を害する行為の発生防止、排除に努めております。

(5) 主要な担保の種類

主要な担保は、預金、株式、債券、不動産等となっております。なお、自己資本比率の算出にあたっては、告示上の要件をみたく適格金融資産担保、適格不動産担保を信用リスク削減手法として適用しております。

具体的には、適格金融資産担保は、自行定期性預金、国債、政府保証債、地方債、我が国の金融機関の発行する債券（劣後債を除く）、上場株式等を対象としております。適格不動産担保は、土地、建物等を対象としております。

(6) 保証人及びクレジット・デリバティブの主要な取引相手の種類及びその信用度

主要な保証人は、地方公共団体、金融機関、信用保証協会等となっております。

自己資本比率の算出にあたっては、これらに加えて、一定の信用力を有する法人による保証についても信用リスク削減手法として適用しております。なお、クレジット・デリバティブの取扱いはありません。

(7) 信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスク及びマーケット・リスクの集中に関する情報

信用リスク削減手法の適用について、同一業種への過度の集中等、特筆すべき事項はありません。また、マーケット・リスクにさらされる金融資産担保についても、特筆すべき事項はありません。

【派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項】

1 リスク管理の方針及び手続の概要

(1) リスク管理の方針

① リスク資本及び与信限度枠の割当方法に関する方針

金融機関を相手とする派生商品取引にかかる信用リスクについては、適格格付機関の付与する格付等をもとに、その他の銀行間取引市場における与信取引と合算で与信上限枠を設定し、管理を行っております。なお、長期決済期間取引に該当する取引はありません。

※長期決済期間取引：有価証券等の受渡し又は決済を行う取引であって、約定日から受渡日（決済日）までの期間が5営業日又は市場慣行による期間を超えることが約定され、反対取引に先立って取引相手に対して有価証券等の引渡し又は資金の支払いを行う取引

② 担保による保全及び引当金の算定に関する方針

対顧客向けの派生商品取引については、融資取引と同様に取引先の信用力、取引状況等に応じて保全を図っております。また、引当金については、自己査定結果に基づき適切に計上しております。

(2) 手続の概要

リスク管理については、フロント部門より独立したリスク管理部門でリスク量の計測や損益等のモニタリングを行い、リスク管理委員会や取締役会へ与信上限枠の遵守状況を報告し、必要な対応を検討する態勢としております。また、対顧客向けの派生商品取引においては、担保による保全に加えて、反対取引を行うことにより市場リスクを回避しております。

2 持株会社グループの信用力の悪化により担保を追加的に提供することが必要になる場合の影響度に関する説明

対金融機関向けの派生商品取引において、ISDA Credit Support Annex (CSA) 契約を締結する担保付取引については、持株会社グループの格付が一定の格付以下に低下した場合、該当取引の範囲で一定の担保を追加提供する義務が発生しますが、影響は限定的なものと認識しております。

【証券化エクスポージャーに関する事項】**1 リスク管理の方針及びリスク特性の概要****(1) リスク管理の方針**

持株会社グループでは、投資家として運用の多様化を目的に証券化商品に投資を行っております。持株会社グループがオリジネーターである証券化取引はありません。

証券化取引の有するリスクに対しては、適格格付機関による格付情報、裏付資産の状況等のモニタリングを定期的の実施し、リスクの的確な把握と管理に努めております。

(2) リスク特性の概要

持株会社グループが投資家として保有する証券化エクスポージャーは、貸出金や有価証券等と同様に信用リスク、金利リスク、市場流動性リスク等を有しております。

(3) 告示第226条第1項第1号から第4号まで（告示第280条の2第2項において準用する場合を含む。）に規定する体制の整備及びその運用状況の概要

持株会社グループでは、証券化取引に係るモニタリングを実施するための手順（以下、「モニタリング手順」という。）を制定し、取得すべき証券化エクスポージャーの包括的なリスク特性に係る情報、その裏付資産に関する包括的なリスク特性及びパフォーマンスに係る情報を定め、継続的、適時に情報を把握する態勢を構築しております。

また、制定したモニタリング手順に則り、証券化エクスポージャーに関する情報をオリジネーター等から定期的に収集し、証券化エクスポージャー及びその裏付資産のリスク特性、裏付資産プールのパフォーマンス及び証券化エクスポージャーに重大な影響を及ぼす可能性のある信用補完等の構造的な特性について、モニタリングを実施しております。

(4) 信用リスク削減手法として証券化取引を用いる場合の方針

持株会社グループは、信用リスク削減手法として証券化取引を用いておりません。

(5) 証券化エクスポージャーについて、信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称

証券化エクスポージャーの信用リスク・アセットの額の算出にあたっては、適格格付機関の格付が付与されている証券化エクスポージャーは「外部格付準拠方式」を使用し、「外部格付準拠方式」に該当しない場合は「標準的手法準拠方式」を使用しております。

(6) 証券化エクスポージャーのマーケット・リスク相当額の算出に使用する方式の名称

持株会社グループは、自己資本比率の計算にあたりマーケット・リスク相当額は不算入としております。

(7) 証券化目的導管体を用いて行った第三者の資産に係る証券化取引について、当該証券化目的導管体の種類、及び持株会社グループの当該証券化取引に係る証券化エクスポージャーの保有の有無

持株会社グループは、証券化目的導管体を用いた第三者の資産に係る証券化取引は行っておりません。

(8) 持株会社グループの子法人等及び関連法人等のうち、持株会社グループが行った証券化取引（証券化目的導管体を用いて行った証券化取引を含む。）に係る証券化エクスポージャーを保有しているものの名称

該当ありません。

(9) 証券化取引に関する会計方針**① 会計方針**

「金融商品に関する会計基準」及び「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号）によっております。

② 売却資産の認識

該当ありません。

(10) 証券化エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイト判定に使用する適格格付機関の名称

持株会社グループでは、次の格付機関が付与した格付を使用し、証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトを判定しております。

株式会社格付投資情報センター（R&I）

株式会社日本格付研究所（JCR）

ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）

S&Pグローバル・レーティング（S&P）

(11) 内部評価方式を用いている場合には、その概要

証券化エクスポージャーの信用リスク・アセットの額の算出において、内部評価方式は用いておりません。

(12) 定量的な情報に重要な変更が生じた場合には、その内容

該当ありません。

【CVAリスクに関する事項】

(1) CVAリスク相当額の算出に使用する手法の名称

持株会社グループは、告示に基づく「限定的なBA-CVA」によりCVA相当額を算出しております。

(2) CVAリスク相当額算出の対象取引の概要

取引先と直接取引を行う通貨オプションや通貨スワップ及び為替予約取引、貸出金に付随する金利スワップ取引等の派生商品取引を対象としております。

(3) CVAリスクの特性及びCVAに関するリスク管理体制の概要

持株会社グループが有するCVAリスクは、取引相手の信用リスクを反映しています。

CVAリスクについては、会計上の重要性は乏しいと整理しているため、デリバティブの時価へは反映しておりません。そのため、取引のモニタリングは実施しておりますが、CVAリスクを管理するための体制は設けておりません。

【マーケット・リスクに関する事項】

持株会社グループは、自己資本比率の計算にあたり、マーケット・リスク相当額は不算入としております。

【オペレーショナル・リスクに関する事項】

1 リスク管理の方針及び手続きの概要

(1) リスク管理の方針

持株会社グループは、オペレーショナル・リスクの顕在化が経営及び業務遂行に大きな影響を及ぼし得ることを認識し、オペレーショナル・リスクを適切に管理する態勢の確立及び、管理の実効性向上に取り組んでおります。

(2) 手続きの概要

持株会社グループは、オペレーショナル・リスクを「内部プロセス、人、システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから生じる損失に係るリスク」と定義したうえで、①事務リスク、②情報資産（システム）リスク、③有形資産リスク、④人材リスク、⑤法的リスク、⑥評判リスクの6つのカテゴリーに区分して管理しております。具体的には、子銀行ならびに当社の各リスク所管部がそれぞれの所管するリスクを管理するとともに、オペレーショナル・リスク統括部署がオペレーショナル・リスク全体を統括・管理することにより、多様なオペレーショナル・リスクを適切に管理する態勢としております。また、オペレーショナル・リスクに関する損失情報やリスク指標等の収集・分析、必要な手続・管理手法等の制定・整備等、オペレーショナル・リスクの管理状況についてリスク管理委員会、取締役会等へ報告・審議を行うことにより、適切な措置がとられる態勢としております。

2. オペレーショナル・リスク相当額の算出方法の概要

(1) 算出に使用する手法の名称

持株会社グループは、告示に基づく「標準的計測手法」によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しております。

(2) BIの算出方法

持株会社グループは、告示に基づき以下の各要素の額を合計してBI（事業規模指標）を算出しています。

要素	算出方法
ILDC（金利要素）	資金運用収益から資金調達費用を減じた額の絶対値（※）又は金利収益資産（※）に2.25%を乗じた値のいずれか小さい値に、受取配当金（※）の値を加えて算出される額
SC（役務要素）	役務取引等収益（※）または役務取引等費用（※）のいずれか大きい値に、その他業務収益（※）又はその他業務費用（※）のいずれか大きい値を加えて算出される額
FC（金融商品要素）	商品有価証券勘定及び売付商品債券勘定のネット損益の絶対値（※）に、商品有価証券勘定及び売付商品債券勘定以外の勘定のネット損益（※）の絶対値を加えて算出される額

※直近3年間の平均値を合計した額

(3) ILMの算出方法

持株会社グループは、告示第284条第1項第3号に基づき「1」を使用しています。

(4) オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって、BIの算出から除外した連結子法人等又は事業部門の有無該当ありません。

(5) オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって、ILMの算出から除外した特殊損失の有無該当ありません。

【出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項】

1 リスク管理の方針及び手続きの概要

(1) リスク管理の方針

持株会社グループにおける株式等の保有は、『コーポレート・ガバナンスに関する報告書』で開示した政策保有株式に関する基本方針に基づき、年度毎に保有の目的および方針を取締役会で決定し、厳格な運用を行っております。

また、リスク管理においても、年度毎に政策投資株式に対する「リスク資本配賦額」や、総合損益ベースでの「損失の限度額」を取締役会等の決裁により設定し、その遵守状況を定期的にモニタリングすることにより、株式にかかる価格変動リスクを一定の範囲内に抑える管理運営を行っております。

(2) 手続きの概要

フロント部門より独立したリスク管理部門でバリュー・アット・リスク（VaR）によるリスク量の計測や総合損益等のモニタリングを日次で行い、月次でリスク管理委員会や取締役会へ設定額の遵守状況を報告し、必要な対応を検討する態勢としております。

(3) その他有価証券、子会社株式及び関連会社株式の区分毎のリスク管理の方針

その他有価証券については、その投資目的に応じて純投資株式または政策投資株式に区分し、子会社株式及び関連会社株式は政策投資株式に含めて管理しております。

(4) 株式等エクスポージャーの評価等重要な会計方針

株式等の評価は、時価のあるものについては決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）により、また、市場価格のないものについては移動平均法による原価法により行っております。

また、未上場株式を含め四半期毎に自己査定を実施し、評価損が発生しているものについて、回復可能性を判断のうえ、減損、引当処理を実施しております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

株式等について、会計方針等を変更した場合は、財務諸表等規則第8条の3に基づき変更の理由や影響額について財務諸表の注記に記載しております。

なお、子銀行以外の連結子会社の保有する株式についても上記に準じて取り扱う態勢としていますが、子銀行以外の連結子会社の保有する株式の価格変動リスクが限定的であることから、子銀行の保有する株式等エクスポージャーの市場リスク量を適切に管理することにより、持株会社グループの株式等エクスポージャーの市場リスクを管理しております。

2 不動産投資法人への出資及びこれに類する出資のリスク・ウェイトの判定に係る基準

株式等エクスポージャーへの投資に準じてリスク・ウェイトを判定しております。

【金利リスクに関する事項】**1 リスク管理の方針及び手続の概要****(1) リスク管理の方針**

金利リスクとは、全ての金利感応資産・負債・オフバランス取引に係る金利リスクを指し、持株会社グループでは、市場リスクに内包するものとして、年度毎に市場リスクに対する「リスク資本配賦額」や、有価証券等を取扱う業務執行部門に対する総合損益ベースでの「損失の上限額」を取締役会等の決裁により設定し、その遵守状況を定期的にモニタリングすることにより、市場リスク量や損失額を一定の範囲内に抑える管理運営を行っております。

なお、持株会社グループの金利リスク管理については、子銀行以外の連結子会社の金利リスクが限定的であることから、子銀行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより、持株会社グループの金利リスクを管理する態勢としております。

また、ヘッジ等金利リスクの削減手法としては、有価証券売却や金利スワップ等を活用しております。

(2) 手続きの概要

フロント部門より独立したリスク管理部門でバリュー・アット・リスク（VaR）によるリスク量の計測や総合損益等のモニタリングを日次で実施し、月次でリスク管理委員会や取締役会へ設定額の遵守状況を報告する態勢としております。

2 金利リスクの算定手法の概要**(1) 開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE(※1)及び△NII(※2)並びに持株会社グループがこれらに追加して自ら開示を行う金利リスクに関する事項**

(※1)金利変動に伴う経済価値変化

(※2)金利変動に伴う金利収益変化

- ① 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期
3.10年となっております。

- ② 流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期
10年となっております。

③ 流動性預金への満期の割り当て方法（コア預金モデル等）及びその前提

明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される流動性預金のうち、引き出されることなく長期間銀行に滞留する預金をコア預金と定義し、内部モデルを使用して満期を割り当てております。具体的には、過去の流動性預金残高の変化率と預金金利の市場金利への追随率を統計的に解析することで、将来の預金残高を保守的に推計しております。なお、推計した将来残高について定期的にバックテストを実施するなど、モデルの検証等は十分に行っております。

- ④ 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提
金融庁が定める保守的な前提を採用しております。

- ⑤ 複数の通貨の集計方法及びその前提
通貨別に算出した金利リスクの正となる値についてのみ、通貨間の相関を考慮せず合算しております。

- ⑥ スプレッドに関する前提（計算にあたって割引金利やキャッシュフローに含めるか否か等）
割引金利にはスプレッドを含めずリスクフリーレートを使用し、キャッシュフローにはスプレッドを含めております。

- ⑦ 内部モデルの使用等、△EVE及び△NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提
△EVEの算出にあたっては、コア預金内部モデルを使用しております。
△NIIの算出にあたっては、商品毎に一定の市場金利追随率を考慮しております。

⑧ 前事業年度末の開示からの変動に関する説明

2023年度より、流動性預金の金利リスク算定について、コア預金内部モデルを前提としたことに伴い、△EVEが最大となるシナリオが下方パラレルシフトシナリオとなりました。（前年度はスティーブ化シナリオ）

⑨ 計測値の解釈や重要性に関するその他の説明

△EVEは、下方パラレルシフトシナリオにおいて監督上の基準値である自己資本の20%を超過しておりますが、金利低下を想定した金利ショックシナリオによる実質的な影響は軽微であるため、金利リスク管理上、問題ない水準と認識しております。

(2) 持株会社グループが、自己資本の充実度の評価、ストレステスト、リスク管理、収益管理、経営上の判断その他の目的で、開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE及び△NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する以下の事項

持株会社グループでは、市場リスク量の統一的な尺度として、バリュー・アット・リスク（VaR）(※1)を採用しているほか、ベシス・ポイント・バリュー（BPV）による分析等、多面的なリスクの把握に努めております。またストレステストやバック・テストングにより、計量化手法の妥当性や有効性を検証し、リスク管理の実効性を確保するとともに、計量化手法の高度化・精緻化に努めております。

(※1)計測前提条件：観測期間240日、保有期間120日、信頼区間99%

定量的な開示事項

【その他金融機関等（持株自己資本比率告示第18条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行持株会社の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額】
該当ありません。

【自己資本の充実度に関する事項】

(1) 信用リスク・アセットの額及び信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日		2024年3月31日	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
標準的手法が適用されるポートフォリオ (A)	52,193	4,175	60,016	4,801
内部格付手法の適用除外資産	52,193	4,175	35,933	2,874
内部格付手法の段階的適用資産	—	—	24,082	1,926
内部格付手法が適用されるポートフォリオ (B)	1,436,854	145,105	1,451,169	147,407
事業法人等向けエクスポージャー	746,404	81,049	756,386	79,642
事業法人向けエクスポージャー（特定貸付債権を除く）	598,121	68,078	608,338	66,777
特定貸付債権	39,744	4,209	38,999	4,068
ソブリン向けエクスポージャー	46,313	3,739	54,795	4,420
金融機関等向けエクスポージャー	62,225	5,022	54,252	4,376
リテール向けエクスポージャー	391,975	40,166	371,484	41,890
居住用不動産向けエクスポージャー	294,310	28,240	273,988	29,011
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,676	1,199	9,113	1,137
その他リテール向けエクスポージャー(消費性)	43,152	4,182	45,886	4,477
その他リテール向けエクスポージャー(事業性)	44,837	6,544	42,496	7,263
株式等エクスポージャー	90,423	7,233	107,757	8,620
PD/LGD方式	71,387	5,710	87,266	6,981
マーケット・ベース方式（簡易手法）	7,434	594	8,103	648
投機的な非上場株式等	—	—	—	—
上記以外の株式等	11,601	928	12,386	990
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー	48,491	3,890	64,455	5,167
ルックスルー方式	41,779	3,353	61,068	4,896
フォールバック方式	6,712	537	3,387	270
証券化エクスポージャー	7,400	592	5,698	455
購入債権	—	—	1	0
その他資産等	140,502	11,240	136,609	10,928
CVAリスク	11,655	932	8,776	702
SA-CVA	—	—	—	—
完全なBA-CVA	—	—	—	—
限定的なBA-CVA	11,655	932	8,776	702
簡便法	—	—	—	—
標準的リスク測定方式	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—
信用リスク (A) + (B)	1,489,048	149,281	1,511,186	152,209
オペレーショナル・リスク (C)	109,542	8,763	111,676	8,934
合計 (A) + (B) + (C)	1,598,591	158,044	1,622,862	161,143

- (注) 1. マーケット・リスク相当額に係る額を算入しておりません。
2. 標準的手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。
3. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×8%+期待損失額」により算出しています。
4. 「事業法人向け」には「中堅中小企業向け」を含み、「特定貸付債権」を除いています。
5. 「株式等」のリスク・ウェイトには経過措置を適用しています。投機的な非上場株式等及び上記以外の株式等には標準的手法を適用しています。
6. CVAリスクの所要自己資本の額は「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。
7. オペレーショナル・リスクの所要自己資本の額は「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。

(2) オペレーショナル・リスクに関する額

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日	2024年3月31日
BI	73,028	74,450
BIC	8,763	8,934

(注) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用するILMIは告示第284条第1項第3号に基づき「1」を使用しています。

(3) 連結総所要自己資本額

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
総所要自己資本額	1,598,591	63,943	1,625,287	65,011

(注) 所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×4%」により算出しています。

【信用リスクに関する事項】

(1) 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及び主な種類別の内訳

(リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

(単位：百万円)

2023年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
標準的手法が適用されたエクスポージャー	203,421	423	—	146,424	—	—	56,573
内部格付手法が適用されたエクスポージャー	6,350,312	4,736,769	366,424	143,813	4,003	185,667	913,632
合計	6,553,734	4,737,192	366,424	290,238	4,003	185,667	970,205

(単位：百万円)

2024年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
標準的手法が適用されたエクスポージャー	230,390	382	—	165,472	—	—	64,535
内部格付手法が適用されたエクスポージャー	6,552,319	4,831,269	500,565	146,716	1,737	148,514	923,517
合計	6,782,710	4,831,651	500,565	312,188	1,737	148,514	988,052

(注) 1. 「その他」には、預け金、現金、株式、その他の資産等が含まれております。

2. CVAリスク及び中央清算機関に係るエクスポージャーは含まれておりません。

3. 信用リスクに関するエクスポージャーについて、期末残高はその期のリスク・ポジションから大幅に乖離しておりません。

(単位：百万円)

2023年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
国内	6,539,408	4,733,694	360,902	290,238	3,581	185,667	965,324
海外	14,325	3,497	5,522	0	422	—	4,881
地域別合計	6,553,734	4,737,192	366,424	290,238	4,003	185,667	970,205
製造業	368,029	324,645	19,372	17,330	526	790	5,364
農業、林業	540	509	—	30	—	—	—
漁業	154	146	—	8	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	279	277	—	2	—	—	—
建設業	152,510	139,370	8,405	4,505	3	67	157
電気・ガス・熱供給・水道業	30,008	27,021	2,889	94	—	2	—
情報通信業	22,197	21,414	177	30	—	—	574
運輸業、郵便業	148,601	112,373	29,587	1,907	1	142	4,589
卸売業、小売業	361,550	340,187	7,893	7,230	2,489	2,164	1,586
金融業、保険業	1,289,866	186,305	131,830	12,029	974	181,333	777,394
不動産業、物品賃貸業	748,937	708,649	7,679	10,926	—	—	21,683
各種サービス業	367,826	351,552	5,980	8,786	8	1,103	394
国・地方公共団体	712,906	557,522	150,109	4,469	—	—	804
その他	2,350,323	1,967,214	2,500	222,888	—	64	157,656
業種別合計	6,553,734	4,737,192	366,424	290,238	4,003	185,667	970,205
1年以下	838,580	698,904	29,030	96,933	837	4,753	8,120
1年超3年以下	434,630	290,451	103,345	35,370	1,462	4,000	—
3年超5年以下	437,910	353,884	72,777	2,979	1,177	7,090	—
5年超7年以下	264,471	236,286	20,702	976	526	5,979	—
7年超	3,410,633	3,150,921	140,568	35	—	119,108	—
期限の定めがないもの	1,167,507	6,743	—	153,942	—	44,736	962,085
残存期間別合計	6,553,734	4,737,192	366,424	290,238	4,003	185,667	970,205

(単位：百万円)

2024年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
国内	6,774,589	4,828,485	500,565	312,088	1,553	148,514	983,381
海外	8,121	3,165	—	100	183	—	4,671
地域別合計	6,782,710	4,831,651	500,565	312,188	1,737	148,514	988,052
製造業	364,322	325,465	16,780	15,578	136	1,032	5,328
農業、林業	485	455	—	30	—	—	—
漁業	196	188	—	7	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	138	136	—	2	—	—	—
建設業	152,956	140,365	8,315	4,094	0	23	157
電気・ガス・熱供給・水道業	30,214	27,286	2,890	35	—	2	—
情報通信業	20,099	19,252	158	115	—	—	572
運輸業、郵便業	151,051	117,194	27,663	1,858	24	136	4,174
卸売業、小売業	355,708	335,856	7,181	7,983	808	2,132	1,745
金融業、保険業	1,236,686	206,732	120,494	9,583	764	143,839	755,271
不動産業、物品賃貸業	778,009	733,619	7,410	11,138	—	—	25,841
各種サービス業	365,012	349,376	4,452	9,497	1	1,288	395
国・地方公共団体	852,241	541,997	302,717	7,030	—	—	497
その他	2,475,586	2,033,724	2,500	245,234	—	59	194,068
業種別合計	6,782,710	4,831,651	500,565	312,188	1,737	148,514	988,052
1年以下	852,424	682,140	71,477	89,424	474	3,941	4,966
1年超3年以下	443,564	314,486	78,512	39,087	555	10,921	—
3年超5年以下	425,994	362,066	56,817	599	551	5,959	—
5年超7年以下	509,296	416,674	84,186	2,128	155	6,150	—
7年超	3,370,176	3,049,440	201,595	3,015	—	116,125	—
期限の定めがないもの	1,181,254	6,844	7,975	177,933	—	5,415	983,086
残存期間別合計	6,782,710	4,831,651	500,565	312,188	1,737	148,514	988,052

(注) 1. 「地域別」について、「海外」は各エクスポージャーの本社所在地が日本以外のものを対象としております。

2. 「業種別」について、現金、ファンド、有形資産等は「その他」に計上しております。

3. 「残存期間別」について、株式、現金、ファンド、有形資産等は「期限の定めがないもの」に計上しております。

(2) 延滞又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高

(単位：百万円)

	2023年3月31日	2024年3月31日
国内	48,575	51,358
海外	—	—
地域別合計	48,575	51,358
製造業	7,122	7,649
農業、林業	445	437
漁業	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—
建設業	6,032	5,525
電気・ガス・熱供給・水道業	17	188
情報通信業	429	546
運輸業、郵便業	2,566	3,085
卸売業、小売業	7,881	9,906
金融業、保険業	35	111
不動産業、物品賃貸業	4,929	5,367
各種サービス業	14,624	12,714
国・地方公共団体	—	—
その他	4,489	5,825
業種別合計	48,575	51,358

(注) 「延滞又はデフォルトしたエクスポージャー」とは、以下の通りです。

内部格付手法が適用されるエクスポージャー

…債務者区分が要管理先以下となった取引先に対するエクスポージャー

標準的手法が適用されるエクスポージャー

…元本又は利息の支払いが3ヶ月以上延滞しているもの、債務者区分が要管理先以下となった取引先に対するもの、または、引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%となるエクスポージャー

(3) 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	期末残高	期中増減額	期末残高	期中増減額
一般貸倒引当金	4,461	△2,039	3,321	△1,140
個別貸倒引当金	6,839	△1,525	7,104	264
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—
合計	11,301	△3,564	10,426	△875

(4) 個別貸倒引当金の地域別残高

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	期末残高	期中増減額	期末残高	期中増減額
国内	6,839	△1,525	7,104	264
海外	—	—	—	—
合計	6,839	△1,525	7,104	264

(注) 特定海外債権引当勘定は該当ありません。

(5) 業種別の個別貸倒引当金残高及び貸出金償却の額

(単位：百万円)

	2023年3月31日			2024年3月31日		
	個別貸倒引当金		貸出金償却の額	個別貸倒引当金		貸出金償却の額
	期末残高	期中増減額	2022年4月～2023年3月	期末残高	期中増減額	2023年4月～2024年3月
製造業	1,386	△99	—	1,284	△102	346
農業、林業	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	1,497	150	6	1,019	△478	24
電気・ガス・熱供給・水道	—	—	—	—	—	—
情報通信業	2	0	—	—	△2	—
運輸業、郵便業	174	△76	140	561	386	27
卸売・小売業	579	△191	202	602	23	372
金融・保険業	24	△17	8	40	16	11
不動産業、物品賃貸業	1,389	△393	—	1,424	34	6
その他サービス業	586	△703	735	932	346	329
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人・その他	1,198	△193	389	1,239	40	627
合計	6,839	△1,525	1,484	7,104	264	1,746

(注) 1. 一般貸倒引当金は地域別・業種別に算定を行っておりません。

2. 特定海外債権引当勘定は該当ありません。

【標準的手法が適用されるエクスポージャーに関する事項】

(1) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオ区分ごとの内訳

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	2023年3月31日					
	信用リスク・エクスポージャーの額				信用リスク・ アセットの額	平均リスク・ ウェイト (%)
	CCF・信用リスク削減手法 適用前		CCF・信用リスク削減手法 適用後			
	オンバランス	オフバランス	オンバランス	オフバランス		
日本国政府及び日本銀行向け	1,407	—	1,407	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	167	—	167	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	63	—	63	—	6	10%
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	5,888	—	5,888	—	1,195	20%
うち第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバードボンド	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権を含む）	1,266	—	1,266	—	473	37%
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	27,213	146,424	27,213	14,642	31,392	75%
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち賃貸用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち事業用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うちその他不動産向け	—	—	—	—	—	—
うちADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産向けエクスポージャーを除く）	169	—	169	—	254	150%
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	0	—	0	—	0	0%
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付き	—	—	—	—	—	—
株式会社地域活性化支援機構等による保証付き	—	—	—	—	—	—
その他	24,070	—	24,070	—	24,070	100%
合計	60,247	146,424	60,247	14,642	57,392	77%

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	2024年3月31日					
	信用リスク・エクスポージャーの額				信用リスク・ アセットの額	平均リスク・ ウェイト (%)
	CCF・信用リスク削減手法 適用前		CCF・信用リスク削減手法 適用後			
	オンバランス	オフバランス	オンバランス	オフバランス		
日本国政府及び日本銀行向け	919	—	919	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	160	—	160	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	63	—	63	—	6	10%
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	8,754	—	8,754	—	1,905	22%
うち第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバードボンド	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権を含む）	1,922	—	1,922	—	856	45%
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	28,862	165,472	28,862	16,547	34,057	75%
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち賃貸用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち事業用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うちその他不動産向け	—	—	—	—	—	—
うちADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産向けエクスポージャーを除く）	169	—	169	—	254	150%
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	0	—	0	—	0	0%
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付き	—	—	—	—	—	—
株式会社地域活性化支援機構等による保証付き	—	—	—	—	—	—
その他	28,304	—	28,304	—	28,304	100%
合計	69,157	165,472	69,157	16,547	65,384	76%

(2) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオ区分ごと並びにリスクウェイト区分ごとの内訳

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	リスク・ウェイト	2023年3月31日							
		信用リスク・エクスポージャーの額（CCF・信用リスク削減手法適用後）							
	0%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計		
日本国政府及び日本銀行向け	1,407	—	—	—	—	—	1,407		
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—		
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—		
	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計	
我が国の地方公共団体向け	167	—	—	—	—	—	—	167	
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
地方公共団体金融機構向け	—	63	—	—	—	—	—	63	
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合 計	
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他 合 計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	5,808	14	35	30	—	—	—	5,888	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他 合 計	
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150% その他 合 計	
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	927	102	—	—	—	237	—	— 1,266	
うち、特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	100%	150%	250%	400%	その他	合 計			
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—		
株式等	—	—	—	—	—	—	—		
	45%	75%	100%	その他	合 計				
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	41,856	—	—	41,856				
	20%	25%	30%	40%	50%	70%	75%	その他 合 計	
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	20%	31.25%	37.50%	50%	62.50%	//		その他 合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	//		—	
	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他 合 計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	—	—	—	—	—	—	—	—	
	30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%	//		その他 合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	//		—	
	70%	90%	110%	150%	その他	合 計			
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	—	—	—	—	—	—			
	70%	112.50%	//		//		その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	//		//		—	—	
	60%	その他	合 計						
不動産関連向け うち、その他不動産関連	—	—	—						
	60%	その他	合 計						
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—						
	100%	150%	その他	合 計					
不動産関連向けうち、ADC向け	—	—	—	—					
	50%	100%	150%	その他	合 計				
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	—	—	169	—	169				
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—				
	0%	10%	20%	その他	合 計				
現金	0	—	—	—	0				
取立未済手形	—	—	—	—	—				
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—	—				
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—				
	100%	その他	合 計						
その他資産等	24,070	—	24,070						

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分		リスク・ウェイト	2024年3月31日							合 計
			信用リスク・エクスポージャーの額（CCF・信用リスク削減手法適用後）							
		0%	20%	50%	100%	150%	その他			
日本国政府及び日本銀行向け		919	—	—	—	—	—	919		
外国の中央政府及び中央銀行向け		—	—	—	—	—	—	—		
国際決済銀行等向け		—	—	—	—	—	—	—		
		0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計	
我が国の地方公共団体向け		160	—	—	—	—	—	—	160	
外国の中央政府等以外の公共部門向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
地方公共団体金融機構向け		—	63	—	—	—	—	—	63	
我が国の政府関係機関向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
地方三公社向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合 計	
国際開発銀行向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		7,284	1,415	35	20	—	—	—	8,754	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	
カバード・ボンド向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）		881	723	—	—	—	318	—	—	
うち、特定貸付債権向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		100%	150%	250%	400%	その他			合 計	
劣後債権及びその他資本性証券等		—	—	—	—	—			—	
株式等		—	—	—	—	—			—	
		45%	75%	100%	その他			合 計		
中堅中小企業等向け及び個人向け		—	45,409	—	—			45,409		
		20%	25%	30%	40%	50%	70%	75%	その他	
不動産関連向け　うち、自己居住用不動産等向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	31.25%	37.50%	50%	62.50%	／		／	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	／		／	
		30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	
不動産関連向け　うち、賃貸用不動産向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%	／		／	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	／		／	
		70%	90%	110%	150%	その他			合 計	
不動産関連向け　うち、事業用不動産関連		—	—	—	—	—			—	
		70%	112.50%	／		／		／	／	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	／		／		／	／	
		60%	／			／		／	／	
不動産関連向け　うち、その他不動産関連		—	／			／		／	／	
		60%	／			／		／	／	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	／			／		／	／	
		100%	150%	／			／		／	
不動産関連向けうち、ADC向け		—	／			／		／	／	
		50%	100%	150%	／			／	／	
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）		—	—	—	169	／			169	
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞		—	—	—	—	／			—	
		0%	10%	20%	／			／	／	
現金		0	—	—	／			／	0	
取立未済手形		—	—	—	／			／	—	
信用保証協会等による保証付		—	—	—	／			／	—	
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付		—	—	—	／			／	—	
		100%	／			／			／	
その他資産等		28,304	／			／			28,304	

(3) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2023年3月31日			
	信用リスク・エクスポージャーの額		CCFの加重平均値	信用リスク・ エクスポージャーの額 (CCF/信用リスク 削減手法適用後)
	オンバランス	オフバランス		
40%未満	8,388	—	—	8,388
40%以上70%以下	167	—	—	167
75%	27,213	146,424	10%	41,856
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%以上100%以下	24,307	—	—	24,307
105%以上130%以下	—	—	—	—
150%	169	—	—	169
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合計	60,247	146,424	10%	74,889

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2024年3月31日			
	信用リスク・エクスポージャーの額		CCFの加重平均値	信用リスク・ エクスポージャーの額 (CCF/信用リスク 削減手法適用後)
	オンバランス	オフバランス		
40%未満	10,723	—	—	10,723
40%以上70%以下	778	—	—	778
75%	28,862	165,472	10%	45,409
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%以上100%以下	28,623	—	—	28,623
105%以上130%以下	—	—	—	—
150%	169	—	—	169
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合計	69,157	165,472	10%	85,704

【内部格付手法が適用されるエクスポージャーに関する事項】

(1) スロッシング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権のリスク・ウェイト区分別残高

<プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付>

(単位：百万円)

スロッシング・ クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト の区分	2023年3月31日	2024年3月31日
優	2年半未満	50%	—	—
	2年半以上	70%	3,289	4,043
良	2年半未満	70%	—	101
	2年半以上	90%	3,446	6,836
可		115%	12,493	9,192
弱い		250%	7,988	7,749
デフォルト		0%	—	—
合計			27,218	27,923

<ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付>

該当ありません。

(注) 1. 「スロッシング・クライテリア」とは、告示第131条に規定する「優・良・可・弱い・デフォルト」の5つの信用ランク区分のことです。

2. 特定貸付債権とは、プロジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付に該当する貸付債権のことです。

(2) マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分別残高

(単位：百万円)

	2023年3月31日	2024年3月31日
300%	124	119
400%	1,764	1,936
合計	1,889	2,055

(注) 「マーケットベース方式」とは、上場株式については300%、非上場株式については400%のリスク・ウェイトを乗じた額をリスク・アセット額とする方式です。

(3) 事業法人等向けエクスポージャー及びPD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーについて格付ごとのパラメータ推計値及びリスク・ウェイト等

(単位：百万円)

		2023年3月31日				
債務者区分		PD	LGD	リスク・ウェイト	EAD	
		加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポージャー		3.34%	36.0%	37.6%	1,563,279	28,528
上位格付	正常先	0.06%	40.0%	22.6%	660,315	14,315
中位格付	正常先	0.52%	32.9%	47.9%	797,419	14,049
下位格付	要注意先	6.70%	31.8%	93.4%	61,182	139
デフォルト	要管理先以下	100.00%	39.1%	—	44,362	23
ソブリン向けエクスポージャー		0.00%	45.0%	2.4%	1,965,082	648
上位格付	正常先	0.00%	45.0%	2.4%	1,965,082	648
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー		0.05%	51.0%	38.1%	113,880	49,462
上位格付	正常先	0.05%	51.0%	38.1%	113,080	49,462
中位格付	正常先	0.19%	45.0%	30.9%	800	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD／LGD方式 株式等エクスポージャー		0.10%	90.0%	284.5%	25,093	—
上位格付	正常先	0.05%	90.0%	291.6%	23,160	—
中位格付	正常先	0.40%	90.0%	181.7%	1,721	—
下位格付	要注意先	3.05%	90.0%	343.1%	211	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—

(単位：百万円)

債務者区分		2024年3月31日				
		PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポージャー		2.89%	36.0%	36.6%	1,635,531	24,773
上位格付	正常先	0.06%	39.9%	21.8%	702,634	12,098
中位格付	正常先	0.48%	32.8%	46.0%	827,123	12,408
下位格付	要注意先	7.61%	32.1%	97.8%	67,374	243
デフォルト	要管理先以下	100.00%	39.0%	—	38,399	23
ソブリン向けエクスポージャー		0.00%	45.0%	2.7%	2,048,704	1,000
上位格付	正常先	0.00%	45.0%	2.7%	2,048,704	1,000
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	16.64%	45.0%	254.9%	0	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー		0.06%	52.6%	43.6%	110,669	13,692
上位格付	正常先	0.06%	52.6%	43.7%	110,169	13,692
中位格付	正常先	0.19%	45.0%	29.0%	500	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD／LGD方式 株式等エクスポージャー		0.11%	90.0%	270.4%	32,268	—
上位格付	正常先	0.05%	90.0%	281.7%	28,937	—
中位格付	正常先	0.23%	90.0%	151.8%	2,997	—
下位格付	要注意先	3.73%	90.0%	356.5%	333	—
デフォルト	要管理先以下	100.00%	90.0%	1,125.0%	0	—

(注) 1. 「上位格付」はSO～B格、「中位格付」はC～F格、「下位格付」は格付区分G20～I20格、「デフォルト」はI21～L格としております。

2. パラメータ推計値やリスク・ウェイトには、信用リスク削減手法の効果を勘案しています。

3. EADとは、デフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した額です。

4. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

5. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。

6. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1,250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出しております。

(4) リテール向けエクスポージャーについてプール区分ごとのパラメータ推計値及びリスク・ウェイト等

(単位：百万円)

	2023年3月31日							コミットメント未引出額 掛目の推計値	
	PD	LGD	EL default	リスク・ウェイト	EAD				
	加重平均値	加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス			
居住用不動産向けエクスポージャー	1.0%	18.6%	—	15.4%	1,916,279	924	—	—	
非延滞	0.5%	18.5%	—	14.1%	1,890,420	852	—	—	
延滞	23.9%	19.2%	—	111.1%	21,067	17	—	—	
デフォルト	100.0%	46.8%	40.9%	74.0%	4,790	53	—	—	
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	1.2%	80.7%	—	22.8%	9,219	33,221	68,846	48.3%	
非延滞	0.8%	80.7%	—	21.1%	8,822	33,168	68,770	48.2%	
延滞	23.1%	80.1%	—	220.9%	289	52	76	68.9%	
デフォルト	100.0%	90.6%	85.1%	68.5%	107	—	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	3.9%	45.3%	—	19.7%	227,614	525	2,947	10.1%	
非延滞	0.3%	45.7%	—	19.8%	218,993	480	2,947	10.1%	
延滞	13.5%	45.5%	—	38.8%	523	—	—	—	
デフォルト	100.0%	33.3%	32.1%	14.7%	8,097	45	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	1.6%	65.9%	—	62.2%	58,341	10,997	15,302	71.8%	
非延滞	1.1%	65.8%	—	61.0%	57,417	10,996	15,299	71.8%	
延滞	27.0%	72.8%	—	167.5%	822	1	2	54.5%	
デフォルト	100.0%	57.9%	60.8%	21.5%	101	—	—	—	

(単位：百万円)

	2024年3月31日							コミットメント未引出額 掛目の推計値	
	PD	LGD	EL default	リスク・ウェイト	EAD				
	加重平均値	加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス			
居住用不動産向けエクスポージャー	1.1%	17.4%	—	13.8%	1,978,817	822	—	—	
非延滞	0.5%	17.2%	—	12.6%	1,946,052	752	—	—	
延滞	23.4%	17.9%	—	103.2%	26,364	24	—	—	
デフォルト	100.0%	69.3%	75.8%	12.8%	6,400	45	—	—	
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	1.2%	80.0%	—	22.8%	8,911	31,022	67,063	46.3%	
非延滞	0.8%	80.0%	—	21.0%	8,511	30,959	66,971	46.2%	
延滞	23.1%	79.4%	—	218.9%	297	62	91	68.1%	
デフォルト	100.0%	91.0%	98.0%	50.1%	102	—	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.4%	45.1%	—	19.9%	213,565	326	1,029	10.1%	
非延滞	0.3%	45.7%	—	20.4%	202,560	269	1,029	10.1%	
延滞	12.7%	45.4%	—	39.4%	276	6	—	—	
デフォルト	100.0%	33.7%	32.9%	9.5%	10,728	50	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	1.6%	66.9%	—	63.5%	61,143	11,165	14,672	76.1%	
非延滞	1.1%	66.8%	—	62.1%	60,131	11,149	14,643	76.1%	
延滞	25.6%	76.4%	—	176.9%	860	15	29	53.3%	
デフォルト	100.0%	66.4%	67.2%	30.2%	151	—	—	—	

(注) 1. 「EL default」とは、デフォルトしたエクスポージャーに生じうる期待損失のことです。

2. EADとは、デフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した額です。

3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

(5) 内部格付手法を適用する資産区分ごとの直前期における損失額の実績値と過去の実績値との対比

(単位：百万円)

	2023年3月31日 損失額の実績値	2024年3月31日 損失額の実績値
事業法人向け	29,959	29,807
ソブリン向け	—	—
金融機関等向け	—	—
株式等（PD/LGD方式）	—	—
居住用不動産向け	861	919
適格リボルビング型リテール向け	95	76
その他リテール向け	991	1,117
合計	31,907	31,920

- (注) 1. 各資産区分毎の損失額の実績値は、以下を合計した額です。
・ 部分直接償却額、個別貸倒引当金及び要管理先に対する一般貸倒引当金の期末残高
・ 過去1年間に発生した直接償却額及び貸出債権売却等による損失
2. 価格変動リスクの実現のみによる売却損や償却額は含めておりません。

<要因分析>

前年対比では損失額の実績値に大きな増減はありませんでした。

(6) 内部格付手法を適用する資産区分ごとの長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	損失額の推計値	損失額の実績値	損失額の推計値	損失額の実績値
事業法人向け	23,859	29,959	20,229	29,807
ソブリン向け	62	—	34	—
金融機関等向け	26	—	44	—
株式等（PD/LGD方式）	—	—	—	—
居住用不動産向け	4,561	861	4,695	919
適格リボルビング型リテール向け	374	95	425	76
その他リテール向け	3,138	991	3,687	1,117
合計	32,021	31,907	29,116	31,920

【信用リスク削減手法に関する事項】

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2023年3月31日		
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証・クレジットデリバティブ
事業法人向けエクスポージャー	19,213	390,078	373,304
ソブリン向けエクスポージャー	—	—	12,165
金融機関等向けエクスポージャー	—	—	—
居住用不動産向けエクスポージャー	—	—	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	—	—	—
その他リテール向けエクスポージャー	—	—	—

(単位：百万円)

	2024年3月31日		
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証・クレジットデリバティブ
事業法人向けエクスポージャー	21,168	408,381	347,887
ソブリン向けエクスポージャー	—	—	11,920
金融機関等向けエクスポージャー	—	—	—
居住用不動産向けエクスポージャー	—	—	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	—	—	—
その他リテール向けエクスポージャー	—	—	—

- (注) 1. 適格金融資産担保は、預金担保、債券、上場株式、信託受益権・投資信託等です。
2. 適格資産担保は、法的に有効な不動産担保です。
3. オンバランス・ネットtingは上表に含めておりません。

【派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項】

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	派生商品取引	長期決済期間取引	派生商品取引	長期決済期間取引
イ) 与信相当額の算出に用いる方式	SA-CCR方式			
ロ) グロスの再構築コストの額の合計額	4,100	—	2,014	—
ハ) 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額	18,666	—	12,421	—
ニ) 担保の額	—	—	—	—
ホ) 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	18,666	—	12,421	—
ヘ) 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—	—	—
うち クレジット・デフォルト・スワップによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち トータル・リターン・スワップによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち クレジット・オプションによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち その他プロテクション購入	—	—	—	—
うち クレジット・デフォルト・スワップによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち トータル・リターン・スワップによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち クレジット・オプションによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち その他プロテクション提供	—	—	—	—
ト) 信用リスク削減効果を勘案する為に用いているクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—	—	—

【証券化エクスポージャーに関する事項】

1. 持株会社グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセット算出対象となる証券化エクスポージャー
2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

2. 持株会社グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャー

(1) 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

原資産の種類	2023年3月31日		2024年3月31日	
	証券化エクスポージャー	うちオフ・バランス取引	証券化エクスポージャー	うちオフ・バランス取引
住宅ローン債権	—	—	—	—
リース債権	—	—	—	—
不動産	—	—	—	—
自動車ローン債権	—	—	—	—
クレジットカード債権	—	—	—	—
船舶リース債権	1,289	133	1,132	119
プロジェクト・ファイナンスに対する債権	—	—	—	—
合計	1,289	133	1,132	119

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

(2) 保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2023年3月31日					2024年3月31日				
	証券化エクスポージャー		うちオフ・バランス取引		所要自己資本	証券化エクスポージャー		うちオフ・バランス取引		所要自己資本
	残高	所要自己資本	残高	所要自己資本		残高	所要自己資本	残高	所要自己資本	
20%以下	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20%超50%以下	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50%超100%以下	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
100%超250%以下	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
250%超650%以下	808	337	66	27	654	195	59	17	17	17
650%超1,250%未満	480	254	66	35	477	260	59	32	32	32
1,250%以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,289	592	133	63	1,132	455	119	50	50	50

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

(3) 自己資本比率告示第226条並びに第226条の4第1項第1号及び第2号の規定により1,250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳
2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイト区分ごとの内訳
2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

【CVAリスクに関する事項】

＜BA-CVAを用いたCVAリスク相当額等＞

(1) 完全なBA-CVA

2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

(2) 限定的なBA-CVA

(単位：百万円)

2023年3月31日		
	構成要素の額	リスク・アセットの額 (CVAリスク相当額を8%で除して得た額)
CVAリスクのうち取引先共通の要素	2,614	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	630	
合計		11,655

(単位：百万円)

2024年3月31日		
	構成要素の額	リスク・アセットの額 (CVAリスク相当額を8%で除して得た額)
CVAリスクのうち取引先共通の要素	1,963	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	519	
合計		8,776

(注) 1. 「CVAリスクのうち取引先共通の要素」には、自己資本比率告示第248条の3の4に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合におけるKreducedの算式において、 p を一と仮定した場合に算出されるKreducedの値を記載しております。

2. 「CVAリスクのうち取引先固有の要素」には、自己資本比率告示第248条の3の4に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合におけるKreducedの算式において、 p を零と仮定した場合に算出されるKreducedの値を記載しております。

【出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項】

(1) 出資等又は株式等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額及び時価

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	連結貸借対照表計上額	時価	連結貸借対照表計上額	時価
出資等または株式等エクスポージャー	54,481		62,425	
うち上場株式等エクスポージャー	23,103	23,103	24,805	24,805
うち上場株式等エクスポージャー以外	31,378		37,619	

(2) 出資等または株式等エクスポージャーの売却および償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	2023年3月31日	2024年3月31日
売却に伴う損益の額	1,795	81
償却に伴う損益の額	△64	△198

(3) 連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額、及び、連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	2023年3月31日	2024年3月31日
連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額	15,896	18,572
連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—

(4) 株式等エクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2023年3月31日	2024年3月31日
株式等エクスポージャーの額	38,585	43,852
うちPD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	25,093	32,268
うち内部モデル手法（マーケットベース方式）が適用される株式等エクスポージャー	—	—
うち簡易手法（マーケットベース方式）が適用される株式等エクスポージャー	1,889	2,055
うち投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	—	—
うち上記以外の株式等エクスポージャー	11,601	9,528

【リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項】

リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2023年3月31日	2024年3月31日
ルックスルー方式	95,961	88,778
マンドート方式	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト250%）	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト400%）	—	—
フォールバック方式（リスク・ウェイト1,250%）	537	270
合計	96,498	89,049

- (注) 1. 「ルックスルー方式」とは、当該エクスポージャーの裏付となる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足しあげる方式です。
 2. 「マンドート方式」とは、ファンドの運用基準（マンドート）に基づき、ファンド内の資産構成を保守的に仮定し、個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足しあげる方式です。
 3. 「蓋然性方式」とは、当該エクスポージャーのリスク・ウェイトが以下（1）（2）の比率の範囲内である蓋然性が高いことが疎明できる場合、それぞれに対応するリスク・ウェイトを適用する方式です。
 (1) 250%以下・・・リスク・ウェイト250%
 (2) 250%超400%以下・・・リスク・ウェイト400%
 4. 「フォールバック方式」とは、当該エクスポージャーに1,250%のリスク・ウェイトを適用する方式です。

【金利リスクに関する事項】

IRRBB1：金利リスク

(単位：百万円)

項番	イ		ロ		ハ		ニ	
	ΔEVE		ΔNII					
	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日				
1 上方パラレルシフト	445	22,204	83	137				
2 下方パラレルシフト	41,965	0	18,001	16,290				
3 スティープ化	710	32,552						
4 フラット化								
5 短期金利上昇								
6 短期金利低下								
7 最大値	41,965	32,552	18,001	16,290				
8 自己資本の額	ホ		ヘ					
	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日				
		207,588		204,995				

【内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項】

(1) 信用リスクに関する事項

(単位：百万円)

	2023年3月31日			
	イ	ロ	ハ	ニ
	信用リスク・アセットの額			
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
ソブリン向けエクスポージャー	46,313	28,204	46,319	28,211
うち、我が国の地方公共団体向け	11,096	—	11,096	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	—	1,593	—	1,593
うち、我が国の政府関係機関向け	33,439	13,007	33,445	13,013
うち、地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー	62,225	71,936	63,420	73,131
株式等向けエクスポージャー	71,387	25,093	80,988	38,585
購入債権	—	—	—	—
事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャー及び特定貸付債権を除く。）	258,806	507,184	259,535	507,913
中堅中小企業向けエクスポージャー	339,314	732,555	370,706	763,948
居住用不動産向けエクスポージャー	294,310	1,012,876	294,310	1,012,876
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,676	8,339	9,676	8,339
その他リテール向けエクスポージャー	87,989	94,625	87,989	94,625
特定貸付債権	39,744	28,775	39,744	28,775
うち、事業用不動産向け貸付け及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	12,933	11,663	12,933	11,663
合計	1,209,767	2,509,590	1,252,691	2,556,404

(単位：百万円)

	2024年3月31日			
	イ	ロ	ハ	ニ
	信用リスク・アセットの額			
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
ソブリン向けエクスポージャー	54,795	28,441	54,801	28,447
うち、我が国の地方公共団体向け	20,613	—	20,613	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	400	—	400
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	—	1,261	6	1,267
うち、我が国の政府関係機関向け	30,631	12,124	30,631	12,124
うち、地方三公社向け	1	0	1	0
金融機関等向けエクスポージャー	54,252	69,653	56,157	71,558
株式等向けエクスポージャー	87,266	41,948	99,653	54,335
購入債権	1	3	1	3
事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャー及び特定貸付債権を除く。）	266,736	549,190	267,592	550,046
中堅中小企業向けエクスポージャー	341,601	744,275	375,924	778,598
居住用不動産向けエクスポージャー	273,988	1,044,369	273,988	1,044,369
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,113	8,113	9,113	8,113
その他リテール向けエクスポージャー	88,382	98,833	88,382	98,833
特定貸付債権	38,999	28,629	38,999	28,629
うち、事業用不動産向け貸付け及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	12,499	12,249	12,499	12,249
合計	1,215,138	2,613,458	1,264,616	2,662,936

(注) 各信用リスク・アセットの額は、CCF・信用リスク削減手法適用後の値を記載しております。

(2) 証券化エクスポージャーに関する事項

(単位：百万円)

	2023年3月31日	
	信用リスク・アセットの額	銀行持株会社を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額
証券化エクスポージャー	7,400	7,439

(単位：百万円)

	2024年3月31日	
	信用リスク・アセットの額	銀行持株会社を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額
証券化エクスポージャー	5,698	5,698

報酬等に関する開示事項

1. 当社（グループ）の対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

(1) 「対象役職員」の範囲

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」及び「対象従業員等」（合わせて「対象役職員」）の範囲については、以下のとおりであります。

① 「対象役員」の範囲

対象役員は、当社の取締役及び監査役であります。なお、社外取締役及び社外監査役を除いております。

② 「対象従業員等」の範囲

当社では、対象役員以外の当社の役員及び従業員並びに主要な連結子法人等の役職員のうち、「高額の報酬等を受ける者」で、当社及びその主要な連結子法人等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者等を「対象従業員等」として、開示の対象としております。

なお、当社の対象役員以外の役員及び従業員並びに主要な連結子法人等の役職員で、対象従業員等に該当する者はおりません。

(ア) 「主要な連結子法人等」の範囲

主要な連結子法人等とは、銀行持株会社の連結総資産に対する当該子法人等の総資産の割合が2%を超えるもの及びグループ経営に重要な影響を与える連結子法人等であり、具体的には池田泉州銀行が該当します。

(イ) 「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「高額の報酬等を受ける者」とは、後記「5.当社（グループ）の対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項」記載の「固定報酬等の総額」に、「対象役員（除く非業務執行取締役及び社外監査役）」に数えられる役員のうち、当事業年度内に就任又は退任した役員が当事業年度内の全期間について役員であったとみなした場合に支払うであろう報酬等の額（ただし、就任後又は退任前の報酬等の額と同額）を加えた額を「対象役員（除く非業務執行取締役及び社外監査役）」の合計数（ただし、当社並びに池田泉州銀行の両社を兼務する者については、1人として計算しております。）により除すことで算出される「対象役員年間1人当たり平均報酬額」以上の報酬等を受ける者を指します。

(ウ) 「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」とは、その者が通常行う取引や管理する事項が、当社、当社グループ、主要な連結子法人等の業務の運営に相当程度の影響を与え、又は取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者であります。

(2) 対象役員の報酬等の決定について

当社並びに池田泉州銀行では、それぞれの株主総会において、役員報酬の総額（上限額）を決定しております。取締役の報酬の個人別の配分については、客観性・透明性を確保するため、報酬委員会において検討され、取締役会において同委員会の検討内容及び手続が報告され、報酬等の額の決定を当社の取締役社長兼CEO並びに池田泉州銀行の取締役頭取兼CEOに一任される仕組みとなっております。報酬委員会は、その過半が非業務執行取締役により構成され、業務推進部門からは独立しております。なお、監査役の報酬の個人別の配分については、監査役の協議により決定しております。

(3) 報酬委員会等の構成員に対して払われた報酬等の総額及び報酬委員会等の会議の開催回数

	開催回数 (2023年4月～2024年3月)
報酬委員会（池田泉州ホールディングス）	4回

（注）報酬等の総額については、報酬委員会等の職務執行に係る対価に相当する部分のみを切り離して算出することができないため、記載しておりません。

2. 当社（グループ）の対象役員の報酬等の体系の設計及び運用の適切性の評価に関する事項

「対象役員」の報酬等に関する方針

当社の役員の報酬は、企業価値の持続的な向上と金融業としてのブルーデンス確保を図るインセンティブとして十分に機能する報酬体系とし、個々の役員の報酬決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。具体的な役員の報酬は、固定報酬としての基本報酬、業績連動報酬及び株式報酬により構成しております。

基本報酬は、金銭による月例の固定報酬で、役位、職責等に応じて定めるものとし、業績、他社水準、社会情勢等を勘案して、適宜、見直しを図るものとしております。

業績連動報酬は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため業績指標を反映した現金報酬とし、各事業年度の目標値に対する達成度合いに応じて算出された額を賞与として毎年、一定の時期に支給しております。目標となる業績指標とその値は、各事業年度の予算計画策定時に設定し、適宜、環境の変化に応じて報酬委員会の答申を踏まえた見直しを行うものとしております。

株式報酬は、株主との価値の共有を図り、中長期的な企業価値の向上に対する貢献意欲を引き出すため、株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を毎年、一定の時期に付与しております。付与する新株予約権の個数は、役位、職責、株価等を踏まえて決定しております。

役員の報酬等は、取締役会における報酬委員会からの報告内容に基づき、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、当社の取締役社長兼CEO並びに池田泉州銀行の取締役頭取兼CEOが決定しております。

なお、監査役の報酬については、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、社外監査役を含む監査役の協議により決定しております。

3. 当社（グループ）の対象役員の報酬等の体系とリスク管理の整合性に関する事項

対象役員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。

また、リスク管理に悪影響を及ぼす可能性のある報酬体系は採用しておりません。

4. 当社（グループ）の対象役員の報酬等と業績の連動に関する事項

目標となる業績指標とその値は、各事業年度の予算計画策定時に設定し、適宜、環境の変化に応じて報酬委員会の答申を踏まえた見直しを行うものとしております。

2024年度の目標となる業績指標は以下のとおりです。

重視する科目	具体的なKPI	ウェイト	概要
収益性	銀行単体コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	50%	銀行本来の業務による収益力を示す指標
将来性	ソリューション件数	30%	Vision'25にて掲げたKPI
健全性	持株会社連結自己資本比率	20%	自己資本／リスクアセット

5. 当社（グループ）の対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項

対象役員の報酬等の総額（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

区分	人数 (人)	報酬等の 総額	固定報酬の総額			変動報酬の総額			退職慰労金
				基本報酬	非金銭報酬		基本報酬	業績連動報酬	
対象役員 (除く社外役員)	7	196	170	156	13	26	—	26	—
対象従業員等	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 対象役員の報酬等額には、主要な連結子会社の役員としての報酬額等を含めて記載しております。
2. 報酬等の総額には、当事業年度において発生した繰延べ報酬13百万円が含まれております。なお、業績不振等に伴い将来取戻しの可能性がある報酬はありません。
3. 株式報酬型ストックオプションの権利行使時期は以下のとおりであります。
なお、当該ストックオプション契約では、行使期間中であっても権利行使は役員の退職時まで繰延べることとしております。

	行使期間
株式会社池田泉州ホールディングス第1回新株予約権	2011年3月16日から 2041年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第2回新株予約権	2011年9月1日から 2041年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第3回新株予約権	2012年10月2日から 2042年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第4回新株予約権	2013年9月3日から 2043年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第5回新株予約権	2014年8月29日から 2044年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第6回新株予約権	2015年9月2日から 2045年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第7回新株予約権	2016年8月31日から 2046年7月31日まで

	行使期間
株式会社池田泉州ホールディングス第8回新株予約権	2017年9月1日から 2047年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第9回新株予約権	2018年8月31日から 2048年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第10回新株予約権	2019年8月29日から 2049年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第11回新株予約権	2020年8月31日から 2050年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第12回新株予約権	2021年8月30日から 2051年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第13回新株予約権	2022年8月31日から 2052年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第14回新株予約権	2023年9月2日から 2053年7月31日まで

6. 当社（グループ）の対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

特段、前項までに掲げたもののほか、該当する事項はございません。

池田泉州銀行

業績の概要（連結）／主要な経営指標等の推移 … 101

連結財務諸表

連結貸借対照表	102
連結損益計算書	103
連結包括利益計算書	103
連結株主資本等変動計算書	104
連結キャッシュ・フロー計算書	106
セグメント情報等	125

業績の概要（単体）／主要な経営指標等の推移 … 128

財務諸表

貸借対照表	129
損益計算書	131
株主資本等変動計算書	132

損益の状況等

業務粗利益	154
業務純益	154
利益率	154
総資金利鞘	154
役務取引の状況	155
その他業務利益の内訳	155
営業経費の内訳	155
資金運用勘定・資金調達勘定平均残高、利息、利回り	156
受取利息・支払利息の分析	157

預金

預金科目別残高（期末残高・平均残高）	158
定期預金の残存期間別残高	158
預金者別預金残高	158

貸出金

貸出金科目別残高（期末残高・平均残高）	159
貸出金の残存期間別残高	159
貸出金の担保別内訳	159
支払承諾見返の担保別内訳	159
貸出金使途別残高・構成比	160
貸出金業種別残高・構成比	160
中小企業等に対する貸出金	160
特定海外債権残高	160
貸出金の預金に対する比率（預貸率）	160
消費者ローン・住宅ローン残高	160
リスク管理債権	161
金融再生法開示債権	161
貸倒引当金内訳	161
貸出金償却額	161

有価証券

有価証券残高（期末残高・平均残高）	162
有価証券の残存期間別残高	162
有価証券の預金に対する比率（預証率）	163
商品有価証券売買高	163
商品有価証券種類別平均残高	163
公共債引受額	163
公共債窓口販売実績	163
証券投資信託窓口販売実績	163

時価情報

有価証券の時価等情報	164
------------	-----

国際業務・その他

外国為替取扱高	169
内国為替取扱実績	169

信託業務

信託財産残高表	170
受託残高	170
元本補填契約のある信託	170
金銭信託の信託期間別の元本残高	170

自己資本の充実の状況等

自己資本の構成に関する開示事項	171
定性的な開示事項	173
定量的な開示事項	185
報酬等に関する開示事項	216

会計監査人の監査の状況

当行は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、2022年4月1日から2023年3月31日までの第101期事業年度及び2023年4月1日から2024年3月31日までの第102期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

業績の概要（連結）

池田泉州銀行グループの連結業績につきましては、資金運用収益は、外国証券の平均残高減少に伴う有価証券利息配当金の減少等により2022年度比減少しました。また、役務取引等収益は、証券関連手数料は増加しましたが、融資関連手数料が減少したことから2022年度比減少しました。この結果、経常収益は、2022年度比48億45百万円減少し、831億67百万円となりました。

次に与信関連費用は、前年が多額の取崩しであったこともあり、2022年度比増加しました。一方、国債等債券売却損は、前年に多額の売却損を計上していたこともあり、2022年度比減少しました。この結果、経常費用は、2022年度比79億89百万円減少して、673億57百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、2022年度比31億44百万円増加して158億10百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は2022年度比8億69百万円増加して108億22百万円となりました。

池田泉州銀行の連結自己資本比率は、2022年度末比0.01%低下したものの、国内基準行に求められる基準(4%)を十分に上回る12.49%となりました。

最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日	自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日	自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日
連結経常収益	百万円	84,283	76,911	79,480	88,012	83,167
うち連結信託報酬	百万円	—	—	11	26	22
連結経常利益	百万円	5,124	7,361	13,817	12,666	15,810
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	4,141	4,985	11,313	9,953	10,822
連結包括利益	百万円	△997	17,249	6,975	7,245	18,824
連結純資産額	百万円	226,890	241,386	244,967	248,438	238,776
連結総資産額	百万円	5,487,475	6,698,525	7,037,585	6,236,808	6,431,747
連結自己資本比率（国内基準）	%	9.15	9.65	9.73	12.50	12.49
信託財産額	百万円	—	—	513	1,660	2,534

（注）1. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき、算出しております。当行は、国内基準を採用しております。また、当行は、2022年度末からバーゼルⅢ最終化の早期適用を行っております。

2. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は株式会社池田泉州銀行1社であり、2021年7月26日より、銀行本体での信託業務の取り扱いを開始しております。

3. 当連結会計年度より割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準を変更しており、2022年度以前については遡及適用後の数値を記載しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
(資産の部)		
現金預け金	815,986	789,199
コールローン及び買入手形	7,692	4,338
買入金銭債権	—	19
金銭の信託	15,010	9,005
有価証券	486,937	632,287
貸出金	4,762,023	4,831,497
外国為替	5,856	5,900
その他資産	80,825	91,239
有形固定資産	35,738	36,473
建物	13,518	13,489
土地	15,056	15,055
リース資産	4	2
建設仮勘定	22	42
その他の有形固定資産	7,137	7,883
無形固定資産	3,791	3,686
ソフトウェア	2,932	2,804
その他の無形固定資産	859	882
退職給付に係る資産	23,928	31,936
繰延税金資産	4,003	193
支払承諾見返	6,317	6,395
貸倒引当金	△11,304	△10,426
資産の部合計	6,236,808	6,431,747
(負債の部)		
預金	5,581,875	5,671,884
債券貸借取引受入担保金	4,371	—
借入金	338,899	466,470
外国為替	314	681
信託勘定借	1,660	2,534
その他負債	51,459	40,939
賞与引当金	1,614	1,596
役員賞与引当金	67	69
退職給付に係る負債	144	149
役員退職慰労引当金	4	4
睡眠預金払戻損失引当金	209	146
偶発損失引当金	1,154	446
繰延税金負債	274	1,651
支払承諾	6,317	6,395
負債の部合計	5,988,369	6,192,971
(純資産の部)		
資本金	61,385	61,385
資本剰余金	88,905	63,361
利益剰余金	86,149	93,749
株主資本合計	236,441	218,497
その他有価証券評価差額金	5,558	9,099
繰延ヘッジ損益	45	△35
退職給付に係る調整累計額	5,754	10,289
その他の包括利益累計額合計	11,358	19,353
非支配株主持分	638	924
純資産の部合計	248,438	238,776
負債及び純資産の部合計	6,236,808	6,431,747

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自 2022年4月 1日	至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日	至 2024年3月31日
経常収益	88,012		83,167	
資金運用収益	46,536		45,595	
貸出金利息	39,322		39,974	
有価証券利息配当金	5,817		3,471	
コールローン利息及び買入手形利息	132		302	
預け金利息	1,217		1,751	
その他の受入利息	46		95	
信託報酬	26		22	
役務取引等収益	23,524		22,309	
その他業務収益	2,961		772	
その他経常収益	14,963		14,468	
貸倒引当金戻入益	3,226		361	
睡眠預金払戻損失引当金戻入益	76		63	
償却債権取立益	474		512	
その他の経常収益	11,185		13,531	
経常費用	75,346		67,357	
資金調達費用	1,691		822	
預金利息	638		482	
譲渡性預金利息	0		0	
コールマネー利息及び売渡手形利息	△102		△137	
債券貸借取引支払利息	954		182	
借入金利息	35		28	
その他の支払利息	165		266	
役務取引等費用	9,158		9,355	
その他業務費用	11,632		2,554	
営業経費	41,290		41,612	
その他経常費用	11,573		13,012	
その他の経常費用	11,573		13,012	
経常利益	12,666		15,810	
特別利益	32		34	
固定資産処分益	1		—	
株式報酬受入益	31		34	
特別損失	372		532	
固定資産処分損	69		103	
減損損失	161		243	
その他の特別損失	140		184	
税金等調整前当期純利益	12,326		15,312	
法人税、住民税及び事業税	1,158		2,878	
法人税等調整額	1,228		1,605	
法人税等合計	2,387		4,483	
当期純利益	9,938		10,829	
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	△14		6	
親会社株主に帰属する当期純利益	9,953		10,822	

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自 2022年4月 1日	至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日	至 2024年3月31日
当期純利益	9,938		10,829	
その他の包括利益	△2,692		7,995	
その他有価証券評価差額金	△2,049		3,540	
繰延ヘッジ損益	70		△81	
退職給付に係る調整額	△713		4,535	
包括利益	7,245		18,824	
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益	7,260		18,817	
非支配株主に係る包括利益	△15		6	

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	61,385	88,898	79,947	230,232
当期変動額				
連結子会社株式の取得 による持分の増減		7		7
剰余金の配当			△3,751	△3,751
親会社株主に帰属 する当期純利益			9,953	9,953
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	—	7	6,202	6,209
当期末残高	61,385	88,905	86,149	236,441

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,607	△24	6,468	14,051	683	244,967
当期変動額						
連結子会社株式の取得 による持分の増減						7
剰余金の配当						△3,751
親会社株主に帰属 する当期純利益						9,953
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△2,049	70	△713	△2,692	△45	△2,738
当期変動額合計	△2,049	70	△713	△2,692	△45	3,471
当期末残高	5,558	45	5,754	11,358	638	248,438

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	61,385	88,905	86,149	236,441
当期変動額				
連結子会社持分の増減		2		2
剰余金の配当		△25,546	△3,223	△28,769
親会社株主に帰属する当期純利益			10,822	10,822
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	—	△25,543	7,599	△17,944
当期末残高	61,385	63,361	93,749	218,497

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	5,558	45	5,754	11,358	638	248,438
当期変動額						
連結子会社持分の増減						2
剰余金の配当						△28,769
親会社株主に帰属する当期純利益						10,822
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,540	△81	4,535	7,995	286	8,281
当期変動額合計	3,540	△81	4,535	7,995	286	△9,662
当期末残高	9,099	△35	10,289	19,353	924	238,776

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	当連結会計年度 自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	12,326	15,312
減価償却費	4,707	4,414
減損損失	161	227
持分法による投資損益 (△は益)	△17	6
貸倒引当金の増減 (△)	△3,561	△878
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△776	△17
役員賞与引当金の純増額	△2	1
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△188	△31
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2	4
睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△)	△76	△63
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△64	—
偶発損失引当金の増減 (△)	△6	△707
資金運用収益	△46,536	△45,595
資金調達費用	1,691	822
有価証券関係損益 (△)	9,901	1,051
金銭の信託の運用損益 (△は運用益)	△12	△25
為替差損益 (△は益)	△13,591	△681
固定資産処分損益 (△は益)	57	92
貸出金の純増 (△) 減	△258,188	△69,474
預金の純増減 (△)	20,410	90,009
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)	△743,990	127,570
預け金 (日銀預け金を除く) の純増 (△) 減	4,289	△487
コールローン等の純増 (△) 減	△7,274	3,334
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	△80,420	△4,371
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	1,650	△43
外国為替 (負債) の純増減 (△)	11	367
信託勘定借の純増減 (△)	1,147	873
資金運用による収入	47,178	44,978
資金調達による支出	△1,842	△857
その他	△4,796	△18,540
小計	△1,057,810	147,294
法人税等の支払額	△1,899	△865
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,059,710	146,428
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△96,373	△203,578
有価証券の売却による収入	188,957	15,746
有価証券の償還による収入	68,025	42,215
金銭の信託の減少による収入	9,500	6,000
有形固定資産の取得による支出	△2,817	△4,392
無形固定資産の取得による支出	△1,037	△1,199
有形固定資産の売却による収入	1	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	166,256	△145,207
財務活動によるキャッシュ・フロー		
非支配株主からの払込みによる収入	—	282
配当金の支払額	△3,751	△28,769
非支配株主への配当金の支払額	△18	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,770	△28,487
現金及び現金同等物に係る換算差額	104	△7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△897,120	△27,274
現金及び現金同等物の期首残高	1,712,443	815,323
現金及び現金同等物の期末残高	815,323	788,049

池田泉州ホールディングス

池田泉州銀行

池田泉州ＴＴ証券

連結財務諸表の作成方針

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結される子会社及び子法人等 17社

主要な会社名

池田泉州リース株式会社
 池田泉州オートリース株式会社
 池田泉州信用保証株式会社
 近畿信用保証株式会社
 株式会社池田泉州 JCB
 株式会社池田泉州 DC
 株式会社池田泉州 VC
 池田泉州キャピタル株式会社
 池田泉州ビジネスサービス株式会社
 池田泉州システム株式会社

(連結の範囲の変更)

関西イノベーションネットワーク 2号投資事業有限責任組合に出資し、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

② 非連結の子会社及び子法人等

該当ありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法適用の非連結の子会社及び子法人等

該当ありません。

② 持分法適用の関連法人等 1社

会社名

株式会社ステーションネットワーク関西

③ 持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等

該当ありません。

④ 持分法非適用の関連法人等

該当ありません。

(3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度等に関する事項

① 連結される子会社及び子法人等の決算日は次のとおりであります。

12月末日 7社
 3月末日 10社

② 連結される子会社及び子法人等のうち、決算日が連結決算日と異なる子会社及び子法人等については、各社の決算日の財務諸表により連結しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

会計方針に関する事項

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

当行並びに連結される子会社及び子法人等の有形固定資産は、主として定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 3年～50年

その他 2年～20年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行並びに連結される子会社及び子法人等で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

4. 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結される子会社及び子法人等の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は21,925百万円であります。

5. 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

6. 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、取締役等に対する業績連動型報酬の支払いに備えるため、取締役等に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

7. 役員退職慰労引当金の計上基準
役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
8. 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
9. 偶発損失引当金の計上基準
偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。
10. 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理
なお、一部の連結される子会社及び子法人等は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
11. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
当行並びに連結される子会社及び子法人等の外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
12. リース取引の処理方法
(借手側)
当行並びに連結される子会社及び子法人等の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。
(貸手側)
ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準については、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。
なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、期首に前連結会計年度末における固定資産の減価償却累計額控除後の額で契約したものとしております。
13. 収益及び費用の計上基準
顧客との契約から生じる収益の計上時期は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点としております。また、顧客との契約から生じる収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で算出しております。連結される子会社及び子法人等が参加する他社が運営するポイントプログラムについては、将来利用される見込額を第三者のために回収する額として認識し、役務取引等収益より控除しております。
14. 株式配当金の認識基準
その他利益剰余金の処分による株式配当金（配当財産が金銭である場合に限る。）の認識基準については、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第14号 2019年7月4日）第94項に従い、下記のとおり計上しております。
(1) 市場価格のある株式：各銘柄の配当落ち日（配当権利付き最終売買日の翌日）をもって、前回の配当実績又は公表されている1株当たり予想配当額に基づいて、未収配当金を見積り計上。
(2) 市場価格のない株式：発行会社の株主総会、取締役会又はその他決定権限を有する機関において行われた配当金に関する決議の効力が発生した日の後、通常要する期間内に支払いを受けるものについて、その支払いを受けた日の属する連結会計年度に計上。

15. 重要なヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

16. その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) グループ通算制度の適用

当行及び親会社並びに一部の連結される子会社は法人税法（昭和40年法律第34号）に規定するグループ通算制度を適用しております。

(2) 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

投資信託の解約損益の会計処理

投資信託の解約、償還に伴う損益は「有価証券利息配当金」にて処理しております。投資信託の期中収益分配金等が全体で損となる場合は、その金額を「国債等債券償還損」に計上しております。

(会計方針の変更)

(割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準の変更)

当行の連結子会社である池田泉州リース株式会社及び池田泉州オートリース株式会社は、割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準については、従来より、「リース業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（業種別監査委員会報告第19号 2000年11月14日）に基づき、割賦債権と繰延割賦未実現利益を両建計上し、割賦売上高と割賦売上原価を両建計上する処理を行ってききましたが、2023年4月1日にリースシステムを変更したことに伴い、経済実態をより適切に連結財務諸表に反映させることが可能となったことから、当連結会計年度より、元本相当額を割賦債権に、利息相当額を売上高に計上する方法に変更しており、当該変更は遡及適用しております。

この結果、遡及適用前と比較して、前連結会計年度の経常収益、その他経常収益、経常費用及びその他経常費用がそれぞれ2,734百万円減少しておりますが、経常利益、税金等調整前当期純利益、当期純利益及び親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響はありません。また、前連結会計年度のその他資産及びその他負債がそれぞれ411百万円減少しております。なお、前連結会計年度の期首の利益剰余金に対する影響はありません。

加えて、販売型割賦に含まれる利息相当額の計上方法については、従来、定額法を採用していましたが、当連結会計年度より、原則的な方法である利息法に変更しております。当該変更が過去に与える影響は軽微であるため遡及適用せず、累積的影響額は当期の損益で処理しております。これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(重要な会計上の見積り)

貸出金等の評価

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額

貸倒引当金 10,426 百万円

うち実質無利子・無担保融資（以下「ゼロゼロ融資（注）」という。）に下方遷移リスクの影響を考慮した貸倒引当金 538 百万円

（注）ゼロゼロ融資とは、新型コロナウイルス禍において、業績が悪化した事業者に対して、実質的に無利子（一定期間）・無担保・保証料減免で行われた融資で、最大5年間の元金返済据置が可能。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

① 算出方法

当行の貸倒引当金は、資産の自己査定基準に基づき債務者区分を判定し、「会計方針に関する事項」「4. 貸倒引当金の計上基準」に記載の通り、債務者区分に応じた一定の計算手法により算出しております。なお、要管理先以外の要注意先（以下「その他要注意先」という。）については、信用格付に基づく2区分（主に貸出条件の変更を実施した貸出先が属する下位格付とそれ以外の上位格付）にグルーピングして、貸倒引当金を算定しております。

また、ゼロゼロ融資の元金返済猶予先のうち、現状の債務者区分が正常先またはその他要注意先の上位格付の貸出先については、一定割合が再度の元金返済猶予の申し出により、その他要注意先の下位格付に下方遷移する可能性を考慮し、予想損失額の修正として、前連結会計年度末から貸倒引当金を計上しております。

② 主要な仮定

業況が悪化した事業性貸出先に係る債務者区分の判定における主要な仮定は、「貸出先の将来の業績見通し」であります。「貸出先の将来の業績見通し」は、各貸出先の収益獲得能力を個別に評価して、仮定しております。なお、ロシアのウクライナ侵攻等の国際情勢や円安による物価高等の影響を含む将来の経済環境には不透明感があり、個別の評価にあたっては、これらの影響を考慮して、債務者区分を判定しております。

また、予想損失額の修正にあたっては、ゼロゼロ融資の元金返済猶予先のうち、現状の債務者区分が正常先またはその他要注意先の上位格付の貸出先については、過去と同水準の債務者区分ないし信用格付の下方遷移が今後も継続すると仮定しております。

③ 翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響

貸出先の業績変化や事業戦略の成否等によっては、翌連結会計年度に係る連結財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(追加情報)

前連結会計年度の（重要な会計上の見積り）に記載しておりました繰延税金資産の回収可能性については、当連結会計年度において税務上の繰越欠損金が概ね解消し、回収可能期間における一時差異等加減算前課税所得の仮定が変化した場合における影響額が低下したことにより、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすことが想定されなくなったため、当連結会計年度より注記の対象とはしていません。

注記事項

(連結貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式及び出資金総額（連結子会社及び連結子法人等の株式及び出資金を除く）
71百万円
2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に5,338百万円含まれております。
3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。
なお、債権は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未收利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	3,762百万円
危険債権額	44,436百万円
要管理債権額	3,070百万円
三月以上延滞債権額	59百万円
貸出条件緩和債権額	3,010百万円
小計額	51,269百万円
正常債権額	4,819,973百万円
合計額	4,871,242百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。

なお、上記債権額は貸倒引当金控除前の金額であります。

4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、7,792百万円であります。
5. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号 平成26年11月28日）に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、連結貸借対照表計上額は、12,981百万円であります。
6. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	311,672百万円
貸出金	298,007百万円
その他資産	550百万円
担保資産に対応する債務	
預金	2,889百万円
借用金	457,950百万円

上記のほか、その他資産には、中央清算機関差入証拠金は20,000百万円、保証金は3,329百万円及び金融商品等差入担保金は1,523百万円が含まれております。

7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、704,468百万円であり、このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が676,214百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行並びに連結される子会社及び子法人等の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行並びに連結される子会社及び子法人等が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内（社内）手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

8. 有形固定資産の減価償却累計額 56,853百万円
 9. 有形固定資産の圧縮記帳額 370百万円
 10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は20,072百万円であります。
 11. 連結貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

（連結損益計算書関係）

1. 「その他の経常収益」には、株式等売却益1,744百万円、金銭の信託運用益42百万円及び債権売却益21百万円を含んでおります。
 2. 「その他の経常費用」には、貸出金償却1,736百万円、保証協会負担金417百万円、株式等売却損76百万円、株式等償却198百万円及び金銭の信託運用損16百万円を含んでおります。
 3. 「その他の特別損失」は、当行における抜本的な店舗機能見直しに基づく店舗移転等に係る費用であります。
 4. 当連結会計年度において、下記の資産について、使用方法の変更に伴い、投資額の回収が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失（百万円）
大阪府	営業用店舗2カ所	土地・建物等	16
兵庫県	営業用店舗1カ所	建物等	227
合計	—	—	243

当行は、原則として、継続的に収支の管理・把握をしている管理会計上の最小単位である営業用店舗単位で、グルーピングを行っております。また、本店、研修所、集中センター、福利厚生施設などの独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。

減損損失の測定に使用した回収可能額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額であります。正味売却価額は不動産鑑定評価額等から処分費用見込額を控除して算定しております。使用価値につきましては、使用期間が短期間であることから、割引計算を行っておりません。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	4,137 百万円
組替調整額	1,023 百万円
税効果調整前	5,161 百万円
税効果額	△1,620 百万円
その他有価証券評価差額金	3,540 百万円

繰延ヘッジ損益：

当期発生額	△376 百万円
組替調整額	258 百万円
税効果調整前	△117 百万円
税効果額	35 百万円
繰延ヘッジ損益	△81 百万円

退職給付に係る調整額：

当期発生額	7,976 百万円
組替調整額	△1,443 百万円
税効果調整前	6,533 百万円
税効果額	△1,997 百万円
退職給付に係る調整額	4,535 百万円
その他の包括利益合計	7,995 百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	52,837	—	—	52,837	
合計	52,837	—	—	52,837	

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当ありません。

3. 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	26,999百万円	511.00円	2023年3月31日	2023年6月27日
2023年11月13日 取締役会	普通株式	1,770百万円	33.50円	2023年9月30日	2023年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,770百万円	その他 利益剰余金	33.50円	2024年3月31日	2024年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	789,199百万円
当座預け金	△5百万円
普通預け金	△100百万円
定期預け金	△35百万円
振替貯金	△1,009百万円
現金及び現金同等物	788,049百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行グループは、地域金融機関として各種金融サービスに係る事業を行っています。主たる業務である預金業務、貸出業務ならびに有価証券運用等のマーケット業務において、金利変動及び市場価格の変動を伴う金融資産及び金融負債を有しています。市場環境等の変化に応じた戦略目標等の策定に資するため、これらの資産及び負債の総合的管理（ALM）を行うとともに、その一環として、デリバティブ取引を行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行グループが保有する金融資産は、主として国内の取引先及び個人に対する貸出金であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスク及び金利の変動リスクに晒されています。

また、保有有価証券は、主に株式、債券、投資信託等であり、その他有価証券として、純投資目的及び政策投資目的で保有するほか、一部は満期保有目的の債券、売買目的有価証券として保有します。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及びマーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクに晒されています。

主な金融負債である預金については、予期せぬ資金流出が発生するなどの流動性リスクが存在します。また、そのほかの調達資金については、一定の環境の下で当行グループが市場を利用できなくなる場合等において必要な資金が確保できない、あるいは、通常よりも高い金利での資金調達を余儀なくされるといった流動性リスクに晒されています。また、これらの金融負債は、金融資産と同様、金利変動リスクに晒されています。

デリバティブ取引は、顧客ニーズへの対応や、資産・負債のリスクコントロール手段を主な目的として利用しています。また、トレーディング（短期的な売買差益獲得）の一環として、債券や株式の先物取引等を利用します。これらのデリバティブ取引は、取引相手先の契約不履行などに係る信用リスク（カウンターパーティーリスク）及びマーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当行グループは、フロント部門から独立したリスク管理部署を設置し、リスク管理についての基本方針を定めています。具体的には、リスク管理に関する体制及びリスク管理基本規定等の諸規定を取締役会で定め、リスクカテゴリー毎の責任部署を明確にするとともに、それらを統括するリスク管理統括部署を設置しています。

さらに、「リスク管理委員会」並びに「ALM委員会」を設置し、当行グループのリスクの状況を把握するとともに、課題及び対応策を審議しています。それらの審議事項を取締役会等に付議・報告することにより、経営レベルでの実効性のあるリスク管理体制を構築しています。

① 統合的リスク管理

当行グループは、当行のリスク管理基本規定及び統合的リスク管理に関する諸規定に従い、統合的リスク管理を行っています。

具体的には、自己資本比率の算定に含まれない与信集中リスクや銀行勘定の金利リスク等も含めて、信用リスクや市場リスク等のリスクカテゴリー毎の方法で評価したリスクを統合的に捉え、経営体力（自己資本）と対比することによって、統合的な管理を行っています。

② 信用リスクの管理

当行グループは、当行の信用リスク管理規定及び信用リスク管理に関する諸規定に従い、与信ポートフォリオの分析・管理を行っています。また、個別案件の与信管理については、審査、内部格付、資産自己査定等の体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、各営業店、審査部署、リスク管理部署により行われ、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクについても、リスク管理部署が、信用情報や時価の把握をモニタリングし、定期的に取り締役会等へ報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部署が監査をしています。

③ 市場リスクの管理

(i) 市場リスク管理

当行グループは、当行の市場リスク管理規定及び市場リスク管理に関する諸規定に従い、マーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクの管理を行っています。具体的には、リスク管理部署がバリュー・アット・リスク（VaR）を用いて市場リスク量を把握するとともに、市場リスク量を一定の範囲内にコントロールすることを目的として、継続的なモニタリングを実施し、リスク限度額の遵守状況を監視しています。有価証券については、上記のリスク限度額管理に加えて、損失に上限を設定し、管理しています。なお、これらの情報はリスク管理部署から、リスク管理委員会及び取締役会へ定期的に報告されています。

また、ALM委員会において、資産・負債構造ならびに金利リスクの把握・確認を行うとともに、今後の対応等の協議を行っています。具体的には、ALM担当部署において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等を行うことにより、安定的かつ継続的な収益の確保に努めています。

なお、外為取引や外債投資等の為替リスクを伴う取引を行っていますが、為替持高をできるだけスクウェアに近い状態にすることで、為替リスクの低減に努めています。

(ii) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、リスク管理、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を図るとともに、市場リスク管理に関する諸規定に従い取引を行っています。

(iii) 市場リスクに係る定量的情報

市場リスクは他のリスクに比べて日々の変動が大きいため、当行グループでは、預金、貸出金や有価証券などの金融商品の市場リスク量を、VaRを用いて日次で把握、管理しています。このVaR算定にあたっては、分散共分散法（保有期間120営業日、信頼区間99.0%、観測期間240営業日）を採用しています。

2024年3月31日（当期の連結決算日）現在で当行グループの金融商品の市場リスク量（損失額の推計値）は、金利が254億円、株式が85億円となっています。また、相関を考慮した市場リスク量全体では334億円となっています。

なお、当行グループでは、金融商品のうち市場変動の影響が大きい有価証券関連のVaRについて、市場リスク計測モデルの正確性を検証するために、モデルが算出した保有期間1日のVaRと実際の損益を比較するバックテストを実行しています。

ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

④ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当行グループは、当行の資金流動性リスク管理規定及び資金流動性リスク管理に関する諸規定に従い、資金調達に係る流動性リスクの管理を行っています。

具体的には、ALM担当部署や資金為替担当部署が、グループ全体の運用・調達状況を適時適切に把握するとともに、保有資産の流動性の確保や調達手段の多様化を図るなど、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、安定した資金繰りの確保に努めています。

また、リスク管理部署は、短期間に資金化可能な流動性準備資産額を定期的に確認することで、流動性リスク顕現化時の対応力を把握するとともに、資金繰り管理の適切性をモニタリングし、リスク管理委員会や取締役会等に報告しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれます。

当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（（注1）参照）。また、現金預け金、コールローン及び買入手形、買入金銭債権、外国為替（資産・負債）並びに信託勘定借は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額と近似していることから、注記を省略しております。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	9,005	9,005	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	97,940	97,906	△34
その他有価証券	519,741	519,741	—
(3) 貸出金	4,831,497		
貸倒引当金（＊1）	△9,049		
	4,822,447	4,809,455	△12,992
資産計	5,449,135	5,436,109	△13,026
(1) 預金	5,671,884	5,671,840	△44
(2) 借入金	466,470	466,444	△25
負債計	6,138,355	6,138,284	△70
デリバティブ取引（＊2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(70)	(70)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(1,724)	(1,724)	—
デリバティブ取引計	(1,794)	(1,794)	—

（＊1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（＊2）その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

（＊3）その他有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれております。

（注1） 市場価格のない株式等及び組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

（単位：百万円）

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式等（＊1）（＊2）	5,851
組合出資金（＊3）	8,682
合計	14,533

（＊1）非上場株式等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

（＊2）当連結会計年度において、非上場株式等について198百万円減損処理を行っております。

（＊3）組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

３．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の３つのレベルに分類しております。

レベル１の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル２の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル１のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル３の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(１) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2024年３月31日）

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
金銭の信託	7,400	1,604	—	9,005
有価証券				
その他有価証券				
国債・地方債等	78,438	137,425	—	215,864
社債	—	160,839	20,026	180,866
株式	24,708	—	—	24,708
外国証券	97	—	—	97
投資信託等	4,876	66,439	—	71,315
デリバティブ取引				
通貨関連	—	1,982	—	1,982
資産計	115,521	368,291	20,026	503,839
デリバティブ取引				
通貨関連	—	3,776	—	3,776
負債計	—	3,776	—	3,776

(＊１) 有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年６月17日）第24－９項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託等は含まれておりません。第24－９項の取扱いを適用した投資信託等の連結貸借対照表計上額は、26,889百万円であります。

(＊２) 第24－９項の取扱いを適用した投資信託等の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

期首 残高	当期の損益又は その他の包括利益		購入、売却 及び償還の 純額	投資信託の基準 価額を時価とみ なすこととした 額	投資信託の基 準価額を時価 とみなさない こととした額	期末 残高	当期の損益に計上し た額のうち連結貸借 対照表日において保 有する投資信託の評 価損益
	損益に 計上	その他の 包括利益 に計上 (＊)					
24,264	—	187	2,436	—	—	26,889	—

(＊) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
当連結会計年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	10,154	87,752	—	97,906
貸出金	—	124,961	4,684,493	4,809,455
資産計	10,154	212,713	4,684,493	4,907,361
預金	—	5,671,840	—	5,671,840
借入金	—	463,614	2,830	466,444
負債計	—	6,135,454	2,830	6,138,284

（注1） 時価の算定方法に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券については、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類し、観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については、「（金銭の信託関係）」に記載しております。

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、信用スプレッド及び予想損失率が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いる場合には、レベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しています。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類しております。

また、デリバティブが組み込まれた仕組貸出については、取引金融機関等から提示された価格によっております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

負債 預金

要求払預金について、連結決算日に要求に応じて直ちに支払うものは、その金額を時価としております。また、定期預金については、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いた現在価値により時価を算定しております。割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間（１年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル２の時価に分類しております。

借入金

借入金については、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。このうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行並びに連結される子会社及び子法人等の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。なお、約定期間が短期間（１年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価は、時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル３の時価、そうでない場合はレベル２の時価に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル１の時価に分類しており、主に債券先物取引や金利先物取引がこれに含まれます。

ただし、大部分のデリバティブは店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて割引現在価値やブラック・ショールズ・モデル等の評価技法を利用して時価を算定しております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート、ボラティリティ等であります。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル２の時価に分類しており、プレーン・バニラ型の金利スワップ取引、為替予約取引等が含まれます。重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル３の時価に分類しており、株式オプション取引等が含まれます。

(注２) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル３の時価に関する情報

(１) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

当連結会計年度（２０２４年３月３１日）

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
有価証券				
其他有価証券				
私募債	割引現在価値	信用スプレッド	△０.２２０％～０.１７９％	０.０６９％
	キャッシュ・フロー控除法	予想損失率	１００％	１００％

(２) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

当連結会計年度（２０２４年３月３１日）

(単位：百万円)

	期首 残高	当期の損益又はその他の 包括利益		購入、売却、 発行及び決済 の純額	レベル３ の時価への 振替	レベル３ の時価から の振替	期末 残高	当期の損益に計 上した額のうち 連結貸借対照表 日において保有 する金融資産及 び金融負債の評 価損益
		損益に 計上 (＊１)	その他の 包括利益 に計上 (＊２)					
有価証券								
其他有価証券								
私募債	23,430	△28	1	△3,376	—	—	20,026	△9

(＊１) 連結損益計算書の「その他業務費用」に含まれております。

(＊２) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「其他有価証券評価差額金」に含まれております。

(3) 時価の評価プロセスの説明

当行はリスク管理部門において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿ってバック部門が時価を算定しております。算定された時価は、ミドル部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証し、時価の算定の方針及び手続に関する適切性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

私募債の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、信用スプレッド及び予想損失率であります。信用スプレッドは、信用格付毎の新規実行レート加重平均金利と市場金利との乖離であり、決算日から6か月以内の実績を基に算定した推定値であり、このインプットの著しい増加（減少）は、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることとなります。予想損失率は、倒産時において発生すると見込まれる損失の、債券又は貸出金から担保の評価額及び保証による回収が可能と見込まれる額を控除した額に占める割合であり、このインプットの著しい増加（減少）は、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることとなります。

(有価証券関係)

連結貸借対照表の「有価証券」を記載しております。

1. 売買目的有価証券（2024年3月31日現在）

該当ありません。

2. 満期保有目的の債券（2024年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
時価が連結貸借対 照表計上額を超え るもの	国債	9,728	9,776	48
	地方債	32,520	32,651	130
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小 計	42,249	42,427	178
時価が連結貸借対 照表計上額を超え ないもの	国債	386	377	△9
	地方債	55,304	55,100	△204
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小 計	55,691	55,478	△213
合 計		97,940	97,906	△34

3. その他有価証券（2024年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
連結貸借対照表計 上額が取得原価を 超えるもの	株式	23,607	8,565	15,042
	債券	40,276	40,170	105
	国債	19,903	19,881	22
	地方債	13,276	13,217	59
	短期社債	—	—	—
	社債	7,095	7,072	23
	その他	49,918	44,561	5,356
	小 計	113,801	93,297	20,504
連結貸借対照表計 上額が取得原価を 超えないもの	株式	1,100	1,555	△454
	債券	356,454	362,454	△5,999
	国債	58,535	58,961	△426
	地方債	124,149	125,328	△1,179
	短期社債	—	—	—
	社債	173,770	178,163	△4,393
	その他	48,384	50,412	△2,028
	小 計	405,939	414,421	△8,482
合 計		519,741	507,719	12,022

4. 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）
該当ありません。

5. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	1,503	848	—
債券	—	—	—
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	17,591	773	2,525
合 計	19,095	1,622	2,525

6. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当連結会計年度における減損処理額は、28百万円（すべて社債）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に比べて決算日前1カ月の市場価格の平均等に基づく時価（以下、「月中平均時価」という。）が50%以上下落した場合、または、月中平均時価が30%以上50%未満下落した場合においては、過去の一定期間における時価の推移並びに当該発行会社の信用リスク等を勘案した基準により行っております。

(金銭の信託関係)

1. 運用目的の金銭の信託（2024年3月31日現在）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	当連結会計年度の損益に含まれた 評価差額(百万円)
運用目的の金銭の信託	9,005	91

2. 満期保有目的の金銭の信託（2024年3月31日現在）

該当ありません。

3. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）（2024年3月31日現在）

該当ありません。

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注2)	当連結会計年度 計上額
	銀行業（注1）	リース業	計		
顧客との契約から生じる収益					
預金・貸出業務	3,225	—	3,225	—	3,225
為替業務	2,008	—	2,008	—	2,008
証券関連業務	1,212	—	1,212	43	1,255
代理業務	357	—	357	—	357
保護預り・貸金庫業務	439	—	439	—	439
投資信託・保険販売業務	4,164	—	4,164	—	4,164
その他	2,645	445	3,090	2,244	5,334
計	14,052	445	14,498	2,287	16,785
その他の収益（注3）	54,339	10,909	65,248	1,133	66,382
合計	68,392	11,355	79,747	3,420	83,167

(注) 1 「銀行業」の区分は信用保証業務を含んでおります。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等を含んでおります。

3 「その他の収益」には、主に次の取引が含まれております。

①金融商品に関する会計基準（企業会計基準第10号 2019年7月4日）の範囲に含まれる金融商品に係る取引

②リース取引に関する会計基準（企業会計基準第13号 2007年3月30日）の範囲に含まれるリース取引

③金融商品の組成又は取得に際して受け取る手数料

2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(1) 収益の計上時期

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、収益を認識しております。一定の期間にわたり履行義務が充足されるものについては、義務を履行するにつれて収益を認識しております。

(2) 収益の計上額

収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で算出しております。連結される子会社及び子法人等が参加する他社が運営するポイントプログラムについては、将来利用される見込額を第三者のために回収する額として認識し、役務取引等収益より控除しております。

３ 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から当連結会計年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(１) 顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債の期首残高及び期末残高

(単位：百万円)

	当連結会計年度期首 (2023年4月1日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
顧客との契約から生じた債権	832	838
契約資産	178	211
契約負債	460	427

(注) 連結貸借対照表において、顧客との契約から生じた債権及び契約資産は「その他資産」に、契約負債は「その他負債」に、それぞれ含めております。

(２) 連結会計年度に認識した収益のうち当期首現在の契約負債残高に含まれていたもの

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
連結会計年度に認識した収益のうち期首現在の契約負債残高に含まれていたもの	380

(３) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (2024年3月31日)
1年内	376
1年超	51
合計	427

(１株当たり情報)

1株当たりの純資産額	4,501円59銭
1株当たりの親会社株主に帰属する当期純利益金額	204円83銭

(企業結合関係)

記載すべき重要なものではありません。

(重要な後発事象)

記載すべき重要なものではありません。

セグメント情報等

1.セグメント情報

1 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当行グループは、銀行業務を中心にリース業務等の金融サービスを提供しており、「銀行業」及び「リース業」の2つを報告セグメントとしております。

「銀行業」は、銀行業務及び信用保証業務を行っており、「リース業」は、リース業務等を行っております。

2 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「会計方針に関する事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部経常収益は、第三者間取引価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			そ の 他	合 計	調 整 額	連結財務諸表 計上額
	銀 行 業	リ ー ス 業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	74,921	10,536	85,458	2,554	88,012	－	88,012
セグメント間の 内部経常収益	745	107	852	1,254	2,107	△2,107	－
計	75,666	10,644	86,311	3,808	90,119	△2,107	88,012
セグメント利益	12,092	504	12,596	385	12,982	△316	12,666
セグメント資産	6,210,022	35,488	6,245,510	18,931	6,264,442	△27,634	6,236,808
セグメント負債	5,970,265	33,121	6,003,387	12,616	6,016,003	△27,634	5,988,369
その他の項目							
減価償却費	3,381	1,291	4,673	33	4,707	－	4,707
資金運用収益	46,867	1	46,868	109	46,978	△442	46,536
資金調達費用	1,660	111	1,772	72	1,844	△153	1,691
特別利益	32	－	32	－	32	－	32
特別損失	368	1	370	1	372	－	372
税金費用	2,052	156	2,209	178	2,387	－	2,387
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,872	970	3,842	12	3,855	－	3,855

（注）1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等を含んでおります。

3. 調整額は次のとおりであります。

（1）セグメント利益の調整額△316百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（2）セグメント資産の調整額△27,634百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（3）セグメント負債の調整額△27,634百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（4）資金運用収益の調整額△442百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（5）資金調達費用の調整額△153百万円は、セグメント間の取引消去であります。

4. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			そ の 他	合 計	調 整 額	連結財務諸表 計上額
	銀 行 業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	68,392	11,355	79,747	3,420	83,167	—	83,167
セグメント間の 内部経常収益	438	103	541	1,136	1,677	△1,677	—
計	68,830	11,458	80,288	4,556	84,845	△1,677	83,167
セグメント利益	14,310	608	14,919	918	15,838	△27	15,810
セグメント資産	6,404,377	38,854	6,443,232	19,538	6,462,770	△31,022	6,431,747
セグメント負債	6,175,576	36,062	6,211,639	12,355	6,223,994	△31,022	6,192,971
その他の項目							
減価償却費	3,117	1,273	4,391	22	4,414	—	4,414
資金運用収益	45,680	1	45,682	59	45,742	△147	45,595
資金調達費用	793	122	915	53	968	△146	822
特別利益	34	—	34	—	34	—	34
特別損失	530	1	531	0	532	—	532
税金費用	3,986	195	4,182	301	4,483	—	4,483
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	4,074	1,511	5,586	5	5,592	—	5,592

（注）1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等を含んでおります。

3. 調整額は次のとおりであります。

（1）セグメント利益の調整額△27百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（2）セグメント資産の調整額△31,022百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（3）セグメント負債の調整額△31,022百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（4）資金運用収益の調整額△147百万円は、セグメント間の取引消去であります。

（5）資金調達費用の調整額△146百万円は、セグメント間の取引消去であります。

4. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度より「リース業」において割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準を変更しております。

なお、前連結会計年度については遡及適用後の数値を記載しております。

2. 関連情報

前連結会計年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

（1）サービスごとの情報

（単位：百万円）

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合 計
外部顧客に対する経常収益	39,322	7,770	10,471	30,448	88,012

（注）一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

（2）地域ごとの情報

① 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

② 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

(1) サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	リース業務	その他	合 計
外部顧客に対する経常収益	39,974	5,331	11,393	26,468	83,167

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

(2) 地域ごとの情報

① 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

② 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前連結会計年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			そ の 他	合 計
	銀 行 業	リース業	計		
減損損失	161	—	161	—	161

当連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			そ の 他	合 計
	銀 行 業	リース業	計		
減損損失	243	—	243	—	243

4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当ありません。

5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当ありません。

業績の概要（単体）

池田泉州銀行の業績につきましては、資金運用収益は、外国証券の平均残高減少に伴う有価証券利息配当金の減少等により2022年度比減少しました。また、役務取引等収益は、証券関連手数料は増加しましたが、融資関連手数料が減少したことから2022年度比減少しました。この結果、経常収益は、2022年度比65億円減少し、674億73百万円となりました。

次に与信関連費用は、前年が多額の取崩しであったこともあり、2022年度比増加しました。一方、国債等債券売却損は、前年に多額の売却損を計上していたこともあり、2022年度比減少しました。この結果、経常費用は、2022年度比89億89百万円減少して、550億42百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、2022年度比24億89百万円増加して124億31百万円となり、特別損益や法人税等を控除した当期純利益は2022年度比3億64百万円増加して86億41百万円となりました。

池田泉州銀行の単体自己資本比率は、2022年度末比0.25%低下したものの、国内基準行に求められる基準(4%)を十分に上回る11.16%となりました。

最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

		2019年度 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日	2020年度 自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日	2021年度 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	2022年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	2023年度 自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日
経常収益	百万円	71,415	63,806	65,578	73,973	67,473
うち信託報酬	百万円	—	—	11	26	22
経常利益	百万円	3,148	5,188	10,697	9,942	12,431
当期純利益	百万円	3,254	3,890	9,454	8,277	8,641
資本金	百万円	61,385	61,385	61,385	61,385	61,385
発行済株式総数	千株	52,837	52,837	52,837	52,837	52,837
純資産額	百万円	209,657	215,488	218,743	221,278	205,029
総資産額	百万円	5,479,366	6,674,143	7,014,445	6,212,550	6,392,626
預金残高	百万円	5,007,681	5,420,391	5,568,118	5,615,913	5,677,502
貸出金残高	百万円	3,983,560	4,311,595	4,526,877	4,786,346	4,858,586
有価証券残高	百万円	566,004	571,287	654,157	492,408	630,666
1株当たり配当額	円	55	55	68.5	57.5	67.0
単体自己資本比率（国内基準）	%	8.48	8.82	8.86	11.41	11.16
配当性向	%	89.28	74.70	38.28	36.70	40.96
従業員数	人	2,328	2,263	2,210	2,088	1,987
信託財産額	百万円	—	—	513	1,660	2,534
信託勘定貸出金残高	百万円	—	—	—	—	—
信託勘定有価証券残高	百万円	—	—	—	—	—
信託勘定有価証券残高（信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高を除く。）	百万円	—	—	—	—	—
信託勘定電子決済手段残高及び履行保証電子決済手段残高	百万円	—	—	—	—	—
信託勘定暗号資産残高及び履行保証暗号資産	百万円	—	—	—	—	—
信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高	百万円	—	—	—	—	—

- (注) 1. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき、算出しております。当行は、国内基準を採用しております。また、当行は、2022年度末からパーゼルⅢ最終化の早期適用を行っております。
2. 2022年度の1株当たり配当額には、その他資本剰余金からの配当483.5円を含めておりません。
3. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しており、2021年7月26日より、当行本体での信託業務の取り扱いを開始しております。

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
(資産の部)		
現金預け金	815,791	789,058
現金	61,012	54,870
預け金	754,779	734,187
コールローン	7,692	4,338
買入金銭債権	—	19
金銭の信託	15,010	9,005
有価証券	492,408	630,666
国債	43,207	88,166
地方債	115,278	217,662
社債	198,189	180,866
株式	32,295	34,878
その他の証券	103,437	109,091
貸出金	4,786,346	4,858,586
割引手形	7,909	7,618
手形貸付	35,311	32,085
証書貸付	4,483,207	4,572,264
当座貸越	259,918	246,618
外国為替	5,856	5,900
外国他店預け	5,428	5,320
買入外国為替	192	157
取立外国為替	235	423
その他資産	35,446	41,513
前払費用	430	471
未収収益	2,667	4,250
金融派生商品	2,868	1,982
金融商品等差入担保金	2,167	1,523
その他の資産	27,311	33,287
有形固定資産	31,425	32,147
建物	13,474	13,447
土地	15,056	15,055
リース資産	7	2
建設仮勘定	22	42
その他の有形固定資産	2,866	3,599
無形固定資産	3,742	3,639
ソフトウェア	2,889	2,762
その他の無形固定資産	853	877
前払年金費用	15,639	17,114
繰延税金資産	5,919	2,457
支払承諾見返	6,299	6,378
貸倒引当金	△9,029	△8,201
資産の部合計	6,212,550	6,392,626

(単位：百万円)

科 目	前事業年度末	当事業年度末
	(2023年3月31日)	(2024年3月31日)
(負債の部)		
預金	5,615,913	5,677,502
当座預金	247,755	268,115
普通預金	3,491,743	3,645,428
貯蓄預金	23,847	23,097
通知預金	12,335	10,000
定期預金	1,814,041	1,685,604
定期積金	9	9
その他の預金	26,181	45,246
譲渡性預金	2,000	22,000
債券貸借取引受入担保金	4,371	—
借入金	329,655	458,122
借入金	329,655	458,122
外国為替	314	681
売渡外国為替	94	547
未払外国為替	220	134
信託勘定借	1,660	2,534
その他負債	28,106	18,241
未払法人税等	591	2,120
未払費用	1,831	2,179
前受収益	775	514
従業員預り金	1,319	1,241
給付補填備金	0	0
金融派生商品	3,824	3,776
金融商品等受入担保金	464	1,011
リース債務	7	3
資産除去債務	671	529
その他の負債	18,621	6,863
賞与引当金	1,511	1,467
役員賞与引当金	67	69
役員退職慰労引当金	4	4
睡眠預金払戻損失引当金	209	146
偶発損失引当金	1,154	446
支払承諾	6,299	6,378
負債の部合計	5,991,271	6,187,596
(純資産の部)		
資本金	61,385	61,385
資本剰余金	88,862	63,315
資本準備金	26,992	32,101
その他資本剰余金	61,869	31,213
利益剰余金	66,008	71,426
利益準備金	13,791	14,436
その他利益剰余金	52,216	56,990
繰越利益剰余金	52,216	56,990
株主資本合計	216,256	196,127
その他有価証券評価差額金	4,976	8,937
繰延ヘッジ損益	45	△35
評価・換算差額等合計	5,022	8,901
純資産の部合計	221,278	205,029
負債及び純資産の部合計	6,212,550	6,392,626

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前事業年度	当事業年度
	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日
経常収益	73,973	67,473
資金運用収益	47,159	46,031
貸出金利息	39,433	40,081
有価証券利息配当金	6,341	3,811
コールローン利息	132	302
預け金利息	1,217	1,751
その他の受入利息	34	83
信託報酬	26	22
役務取引等収益	19,799	18,640
受入為替手数料	2,058	2,011
その他の役務収益	17,740	16,628
その他業務収益	2,961	772
外国為替売買益	1,380	699
商品有価証券売買益	—	0
国債等債券売却益	1,548	33
金融派生商品収益	32	39
その他経常収益	4,026	2,006
貸倒引当金戻入益	3,102	564
睡眠預金払戻損失引当金戻入益	76	63
償却債権取立益	284	260
株式等売却益	181	744
金銭の信託運用益	53	42
その他の経常収益	327	331
経常費用	64,031	55,042
資金調達費用	1,661	794
預金利息	638	482
譲渡性預金利息	0	0
コールマネー利息	△102	△137
債券貸借取引支払利息	954	182
借用金利息	5	0
金利スワップ支払利息	158	258
その他の支払利息	6	7
役務取引等費用	9,691	10,108
支払為替手数料	306	323
その他の役務費用	9,384	9,785
その他業務費用	11,632	2,554
国債等債券売却損	11,632	2,525
国債等債券償却	—	28
営業経費	39,107	39,209
その他経常費用	1,938	2,375
貸出金償却	1,094	1,109
株式等売却損	37	—
株式等償却	—	134
金銭の信託運用損	41	16
その他の経常費用	764	1,115
経常利益	9,942	12,431
特別利益	32	34
固定資産処分益	1	—
株式報酬受入益	31	34
特別損失	368	531
固定資産処分損	66	103
減損損失	161	243
その他の特別損失	140	184
税引前当期純利益	9,605	11,933
法人税、住民税及び事業税	201	1,628
法人税等調整額	1,126	1,663
法人税等合計	1,327	3,292
当期純利益	8,277	8,641

株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	61,385	26,992	61,869	88,862
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	61,385	26,992	61,869	88,862

	株主資本			
	利益剰余金			株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	
		繰越利益剰余金		
当期首残高	13,041	48,440	61,481	211,730
当期変動額				
剰余金の配当	750	△4,501	△3,751	△3,751
当期純利益		8,277	8,277	8,277
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	750	3,776	4,526	4,526
当期末残高	13,791	52,216	66,008	216,256

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	7,038	△24	7,013	218,743
当期変動額				
剰余金の配当				△3,751
当期純利益				8,277
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△2,061	70	△1,991	△1,991
当期変動額合計	△2,061	70	△1,991	2,535
当期末残高	4,976	45	5,022	221,278

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	61,385	26,992	61,869	88,862
当期変動額				
剰余金の配当		5,109	△30,656	△25,546
当期純利益				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	—	5,109	△30,656	△25,546
当期末残高	61,385	32,101	31,213	63,315

	株主資本			
	利益剰余金			株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	
		繰越利益剰余金		
当期首残高	13,791	52,216	66,008	216,256
当期変動額				
剰余金の配当	644	△3,867	△3,223	△28,769
当期純利益		8,641	8,641	8,641
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	644	4,773	5,417	△20,128
当期末残高	14,436	56,990	71,426	196,127

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	4,976	45	5,022	221,278
当期変動額				
剰余金の配当				△28,769
当期純利益				8,641
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	3,961	△81	3,879	3,879
当期変動額合計	3,961	△81	3,879	△16,248
当期末残高	8,937	△35	8,901	205,029

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社・子法人等株式及び関連法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 3年～50年

その他 2年～20年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は21,161百万円であります。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、取締役等に対する業績連動型報酬の支払いに備えるため、取締役等に対する賞与の支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理

(5) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

(6) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(7) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

6. リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年4月1日前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

7. 収益の計上方法

顧客との契約から生じる収益の計上時期は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点としております。また、顧客との契約から生じる収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で算出しております。

8. 株式配当金の認識基準

その他利益剰余金の処分による株式配当金（配当財産が金銭である場合に限る。）の認識基準については、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第14号 2019年7月4日）第94項に従い、下記のとおり計上しております。

(1) 市場価格のある株式：各銘柄の配当落ち日（配当権利付き最終売買日の翌日）をもって、前回の配当実績又は公表されている1株当たり予想配当額に基づいて、未収配当金を見積り計上

(2) 市場価格のない株式：発行会社の株主総会、取締役会又はその他決定権限を有する機関において行われた配当金に関する決議の効力が発生した日の後、通常要する期間内に支払いを受けるものについて、その支払いを受けた日の属する事業年度に計上

9. ヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

10. 消費税等の会計処理

有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

11. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) グループ通算制度の適用

当行及び親会社並びに一部の連結される子会社は法人税法（昭和40年法律第34号）に規定するグループ通算制度を適用しております。

(2) 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

投資信託の解約損益の会計処理

投資信託の解約、償還に伴う損益は「有価証券利息配当金」にて処理しております。投資信託の期中収益分配金等が全体で損となる場合は、その金額を「国債等債券償還損」に計上しております。

(重要な会計上の見積り)

貸出金等の評価

(1) 当事業年度に係る財務諸表に計上した額

貸倒引当金 8,201 百万円

うち実質無利子・無担保融資（以下「ゼロゼロ融資（注）」という。）に下方遷移リスクの影響を考慮した貸倒引当金 538 百万円

（注）ゼロゼロ融資とは、新型コロナウイルス禍において、業績が悪化した事業者に対して、実質的に無利子（一定期間）・無担保・保証料減免で行われた融資で、最大5年間の元金返済据置が可能。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

① 算出方法

当行の貸倒引当金は、資産の自己査定基準に基づき債務者区分を判定し、「重要な会計方針」「5. 引当金の計上基準（1）貸倒引当金」に記載の通り、債務者区分に応じた一定の計算手法により算出しております。なお、要管理先以外の要注意先（以下「その他要注意先」という。）については、信用格付に基づく2区分（主に貸出条件の変更を実施した貸出先が属する下位格付とそれ以外の上位格付）にグルーピングして、貸倒引当金を算定しております。

また、ゼロゼロ融資の元金返済猶予先のうち、現状の債務者区分が正常先またはその他要注意先の上位格付の貸出先については、一定割合が再度の元金返済猶予の申し出により、その他要注意先の下位格付に下方遷移する可能性を考慮し、予想損失額の修正として、前事業年度末から貸倒引当金を計上しております。

② 主要な仮定

業況が悪化した事業性貸出先に係る債務者区分の判定における主要な仮定は、「貸出先の将来の業績見通し」であります。「貸出先の将来の業績見通し」は、各貸出先の収益獲得能力を個別に評価して、仮定しております。なお、ロシアのウクライナ侵攻等の国際情勢や円安による物価高等の影響を含む将来の経済環境には不透明感があり、個別の評価にあたっては、これらの影響を考慮して、債務者区分を判定しております。

また、予想損失額の修正にあたっては、ゼロゼロ融資の元金返済猶予先のうち、現状の債務者区分が正常先またはその他要注意先の上位格付の貸出先については、過去と同水準の債務者区分ないし信用格付の下方遷移が今後も継続すると仮定しております。

③ 翌事業年度に係る財務諸表に及ぼす影響

貸出先の業績変化や事業戦略の成否等によっては、翌事業年度に係る財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(追加情報)

前事業年度の(重要な会計上の見積り)に記載しておりました繰延税金資産の回収可能性については、当事業年度において税務上の繰越欠損金が概ね解消し、回収可能期間における一時差異等加減算前課税所得の仮定が変化した場合における影響額が低下したことにより、翌事業年度以降の財務諸表に重要な影響を及ぼすことが想定されなくなったため、当事業年度より注記の対象とはしていません。

注記事項

(貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式及び出資金総額(親会社株式を除く) 8,455百万円
2. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、国債に5,338百万円含まれております。
3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。
なお、債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未收利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。)であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	2,768百万円
危険債権額	44,415百万円
要管理債権額	3,070百万円
三月以上延滞債権額	59百万円
貸出条件緩和債権額	3,010百万円
小計額	50,254百万円
正常債権額	4,837,193百万円
合計額	4,887,448百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。

なお、上記債権額は貸倒引当金控除前の金額であります。

4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、7,792百万円であります。
5. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号 平成26年11月28日)に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、貸借対照表計上額は、12,981百万円であります。

6. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券	311,672百万円
貸出金	298,007百万円
その他の資産	135百万円

担保資産に対応する債務

預金	2,889百万円
借入金	457,800百万円

上記のほか、その他の資産には、中央清算機関差入証拠金20,000百万円及び保証金3,282百万円が含まれております。

7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、697,103百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が668,848百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

8. 有形固定資産の減価償却累計額 44,668百万円

9. 有形固定資産の圧縮記帳額 370百万円

10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額は20,072百万円であります。

11. 貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

12. 関係会社に対する金銭債権総額 28,707百万円

13. 関係会社に対する金銭債務総額 32,219百万円

14. 銀行法第18条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。

剰余金の配当をする場合には、会社法第445条第4項（資本金の額及び準備金の額）の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額に5分の1を乗じて得た額を資本準備金又は利益準備金として計上しております。

当事業年度における当該剰余金の配当に係る資本準備金の計上額は5,109百万円、利益準備金の計上額は644百万円であります。

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引による収益

資金運用取引に係る収益総額	691百万円
役務取引等に係る収益総額	1,582百万円
その他業務・その他経常取引に係る収益総額	111百万円

関係会社との取引による費用

資金調達取引に係る費用総額	0百万円
役務取引等に係る費用総額	4,198百万円
その他業務・その他経常取引に係る費用総額	1百万円
営業経費総額	1,352百万円

2. 「その他の経常費用」には、保証協会負担金417百万円を含んでおります。

3. 「その他の特別損失」は、抜本的な店舗機能見直しに基づく店舗移転等に係る費用であります。

4. 当事業年度において、下記の資産について、使用方法の変更に伴い、投資額の回収が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失（百万円）
大阪府	営業用店舗２カ所	土地・建物等	16
兵庫県	営業用店舗１カ所	建物等	227
合計	—	—	243

当行は、原則として、継続的に収支の管理・把握をしている管理会計上の最小単位である営業用店舗単位で、グルーピングを行っております。また、本店、研修所、集中センター、福利厚生施設などの独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。

減損損失の測定に使用した回収可能額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額であります。正味売却価額は不動産鑑定評価額等から処分費用見込額を控除して算定しております。使用価値につきましては、使用期間が短期間であることから、割引計算を行っておりません。

(株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	52,837	—	—	52,837	
合計	52,837	—	—	52,837	

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当ありません。

3. 配当に関する事項

(1) 当事業年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	26,999百万円	511.00円	2023年3月31日	2023年6月27日
2023年11月13日 取締役会	普通株式	1,770百万円	33.50円	2023年9月30日	2023年11月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当事業年度の末日後となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,770百万円	その他 利益剰余金	33.50円	2024年3月31日	2024年6月26日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行は、地域金融機関として各種金融サービスに係る事業を行っています。主たる業務である預金業務、貸出業務ならびに有価証券運用等のマーケット業務において、金利変動及び市場価格の変動を伴う金融資産及び金融負債を有しています。市場環境等の変化に応じた戦略目標等の策定に資するため、これらの資産及び負債の総合的管理（ＡＬＭ）を行うとともに、その一環として、デリバティブ取引を行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行が保有する金融資産は、主として国内の取引先及び個人に対する貸出金であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスク及び金利の変動リスクに晒されています。

また、保有有価証券は、主に株式、債券、投資信託等であり、その他有価証券として、純投資目的及び政策投資目的で保有するほか、一部は満期保有目的の債券、売買目的有価証券として保有します。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及びマーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクに晒されています。

主な金融負債である預金については、予期せぬ資金流出が発生するなどの流動性リスクが存在します。また、そのほかの調達資金については、一定の環境の下で当行が市場を利用できなくなる場合等において必要な資金が確保できない、あるいは、通常よりも高い金利での資金調達を余儀なくされるといった流動性リスクに晒されています。また、これらの金融負債は、金融資産と同様、金利変動リスクに晒されています。

デリバティブ取引は、顧客ニーズへの対応や、資産・負債のリスクコントロール手段を主な目的として利用しています。また、トレーディング（短期的な売買差益獲得）の一環として、債券や株式の先物取引等を利用します。これらのデリバティブ取引は、取引相手先の契約不履行などに係る信用リスク（カウンターパーティーリスク）及びマーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当行は、フロント部門から独立したリスク管理部署を設置し、リスク管理についての基本方針を定めています。具体的には、リスク管理に関する体制及びリスク管理基本規定等の諸規定を取締役会で定め、リスクカテゴリー毎の責任部署を明確にするとともに、それらを統括するリスク管理統括部署を設置しています。

さらに、「リスク管理委員会」並びに「ＡＬＭ委員会」を設置し、当行のリスクの状況を把握するとともに、課題及び対応策を審議しています。それらの審議事項を取締役会等に付議・報告することにより、経営レベルでの実効性のあるリスク管理体制を構築しています。

① 統合的リスク管理

当行は、当行のリスク管理基本規定及び統合的リスク管理に関する諸規定に従い、統合的リスク管理を行っています。

具体的には、自己資本比率の算定に含まれない与信集中リスクや銀行勘定の金利リスク等も含めて、信用リスクや市場リスク等のリスクカテゴリー毎の方法で評価したリスクを統合的に捉え、経営体力（自己資本）と対比することによって、統合的な管理を行っています。

② 信用リスクの管理

当行は、当行の信用リスク管理規定及び信用リスク管理に関する諸規定に従い、与信ポートフォリオの分析・管理を行っています。また、個別案件の与信管理については、審査、内部格付、資産自己査定等の体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、各営業店、審査部署、リスク管理部署により行われ、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクについても、リスク管理部署が、信用情報や時価の把握をモニタリングし、定期的に取り締役会等へ報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部署が監査をしています。

③ 市場リスクの管理

(i) 市場リスク管理

当行は、当行の市場リスク管理規定及び市場リスク管理に関する諸規定に従い、マーケット（金利・株価・為替等）の変動に伴う市場リスクの管理を行っています。具体的には、リスク管理部署がバリュー・アット・リスク（VaR）を用いて市場リスク量を把握するとともに、市場リスク量を一定の範囲内にコントロールすることを目的として、継続的なモニタリングを実施し、リスク限度額の遵守状況を監視しています。有価証券については、上記のリスク限度額管理に加えて、損失に上限を設定し、管理しています。なお、これらの情報はリスク管理部署から、リスク管理委員会及び取締役会へ定期的に報告されています。

また、ALM委員会において、資産・負債構造ならびに金利リスクの把握・確認を行うとともに、今後の対応等の協議を行っています。具体的には、ALM担当部署において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等を行うことにより、安定的かつ継続的な収益の確保に努めています。

なお、外為取引や外債投資等の為替リスクを伴う取引を行っています。為替持高をできるだけスクウェアに近い状態にすることで、為替リスクの低減に努めています。

(ii) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、リスク管理、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を図るとともに、市場リスク管理に関する諸規定に従い取引を行っています。

(iii) 市場リスクに係る定量的情報

市場リスクは他のリスクに比べて日々の変動が大きい。ため、当行では、預金、貸出金や有価証券などの金融商品の市場リスク量を、VaRを用いて日次で把握、管理しています。

このVaR算定にあたっては、分散共分散法（保有期間120営業日、信頼区間99.0%、観測期間240営業日）を採用しています。

2024年3月31日（当期の決算日）現在で当行の金融商品の市場リスク量（損失額の推計値）は、金利が254億円、株式が85億円となっています。また、相関を考慮した市場リスク量全体では334億円となっています。

なお、当行では、金融商品のうち市場変動の影響が大きい有価証券関連のVaRについて、市場リスク計測モデルの正確性を検証するために、モデルが算出した保有期間1日のVaRと実際の損益を比較するバックテストを実施しています。

ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

④ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当行は、当行の資金流動性リスク管理規定及び資金流動性リスク管理に関する諸規定に従い、資金調達に係る流動性リスクの管理を行っています。

具体的には、ALM担当部署や資金為替担当部署が、全体の運用・調達状況を適時適切に把握するとともに、保有資産の流動性の確保や調達手段の多様化を図るなど、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、安定した資金繰りの確保に努めています。

また、リスク管理部署は、短期間に資金化可能な流動性準備資産額を定期的に確認することで、流動性リスク顕現化時の対応力を把握するとともに、資金繰り管理の適切性をモニタリングし、リスク管理委員会や取締役会等に報告しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。

当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（（注1）参照）。

また、現金預け金、コールローン、買入金銭債権、外国為替（資産・負債）、譲渡性預金並びに信託勘定借は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	9,005	9,005	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	89,965	89,943	△22
其他有価証券	519,349	519,349	—
(3) 貸出金	4,858,586		
貸倒引当金（＊1）	△8,165		
	4,850,421	4,836,888	△13,532
資産計	5,468,741	5,455,186	△13,555
(1) 預金	5,677,502	5,677,457	△44
(2) 借入金	458,122	458,119	△3
負債計	6,135,624	6,135,576	△48
デリバティブ取引（＊2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(70)	(70)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(1,724)	(1,724)	—
デリバティブ取引計	(1,794)	(1,794)	—

（＊1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（＊2）其他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

（＊3）其他有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれております。

（注1）市場価格のない株式等（非上場株式を含む）及び組合出資金の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「其他有価証券」には含まれておりません。

（単位：百万円）

区分	貸借対照表計上額
非上場株式等（＊1、2）	4,214
組合出資金（＊3）	8,680

（＊1）非上場株式等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

（＊2）当事業年度において、非上場株式について134百万円減損処理を行っております。

（＊3）組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

３． 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の３つのレベルに分類しております。

レベル１の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル２の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル１のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル３の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(１) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
金銭の信託	7,400	1,604	—	9,005
有価証券				
その他有価証券				
国債・地方債等	78,438	137,425	—	215,864
社債	—	160,839	20,026	180,866
株式	24,492	—	—	24,492
投資信託等	4,876	66,359	—	71,235
デリバティブ取引				
通貨関連	—	1,982	—	1,982
資産計	115,208	368,211	20,026	503,447
デリバティブ取引				
通貨関連	—	3,776	—	3,776
負債計	—	3,776	—	3,776

（＊１） 有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－９項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託等は含まれておりません。第24－９項の取扱いを適用した投資信託の貸借対照表計上額は26,889百万円であります。

（＊２） 第24－９項の取扱いを適用した投資信託等の期首残高から期末残高への調整表

（単位：百万円）

期首 残高	当期の損益又は 評価換算差額等		購入、売却及び償還の純額	投資信託の基準価額を時価とみなすこととした額	投資信託の基準価額を時価とみなさないこととした額	期末 残高	当期の損益に計上した額のうち貸借対照表日において保有する投資信託の評価損益
	損益に計上	その他有価証券評価差額金に計上					
24,264	—	187	2,436	—	—	26,889	—

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	9,776	80,166	—	89,943
貸出金	—	124,961	4,711,926	4,836,888
資産計	9,776	205,128	4,711,926	4,926,831
預金	—	5,677,457	—	5,677,457
借入金	—	458,119	—	458,119
負債計	—	6,135,576	—	6,135,576

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券については、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類し、観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については、「(金銭の信託関係)」に記載しております。

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、信用スプレッド及び予想損失率が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いる場合には、レベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しています。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類しております。

また、デリバティブが組み込まれた仕組貸出については、取引金融機関等から提示された価格によっております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

負債 預金

要求払預金について、決算日に要求に応じて直ちに支払うものは、その金額を時価としております。また、定期預金については、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いた現在価値により時価を算定しております。割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間（１年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル２の時価に分類しております。

借入金

借入金については、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。このうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。なお、約定期間が短期間（１年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価は、時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル３の時価、そうでない場合はレベル２の時価に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル１の時価に分類しており、主に債券先物取引や金利先物取引等がこれに含まれます。

ただし、大部分のデリバティブは店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて割引現在価値やブラック・ショールズ・モデル等の評価技法を利用して時価を算定しております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート、ボラティリティ等であります。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル２の時価に分類しており、プレーン・バニラ型の金利スワップ取引、為替予約取引等が含まれます。重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル３の時価に分類しており、株式オプション取引等が含まれます。

（注２） 時価で貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル３の時価に関する情報

（１）重要な観察できないインプットに関する定量的情報

当事業年度（2024年3月31日）

区分	評価技法	重要な観察できない インプット	インプットの範囲	インプットの 加重平均
有価証券				
その他有価証券				
社債（私募債）	割引現在価値	信用スプレッド	△0.220%～0.179%	0.069%
	キャッシュ・フロー控除法	予想損失率	100%	100%

（２）期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

	期首 残高	当期の損益又は評価換算 差額等		購入、売却、 発行及び決済 の純額	レベル３ の時価への 振替	レベル３ の時価から の振替	期末 残高	当期の損益に計 上した額のうち 貸借対照表日 において保有する 金融資産及び金 融負債の評価損 益
		損益に 計上 （＊）	その他有 価証券評 価差額金 に計上					
有価証券								
その他有価証券								
社債（私募債）	23,430	△28	1	△3,376	－	－	20,026	△9

（＊） 損益計算書の「国債等債券償却」に含まれております。

(3) 時価の評価プロセスの説明

当行ではリスク管理部門において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿ってバック部門が時価を算定しております。算定された時価は、ミドル部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証し、時価の算定の方針及び手続に関する適切性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

私募債の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、信用スプレッド及び予想損失率であります。信用スプレッドは、信用格付毎の新規実行レート加重平均金利と市場金利との乖離であり、決算日から6か月以内の実績を基に算定した推定値であり、このインプットの著しい増加（減少）は、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることになります。予想損失率は、倒産時において発生すると見込まれる損失の、債券又は貸出金から担保の評価額及び保証による回収が可能と見込まれる額を控除した額に占める割合であり、このインプットの著しい増加（減少）は、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることになります。

(有価証券関係)

貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」について記載しております。

1. 売買目的有価証券（2024年3月31日現在）

該当ありません。

2. 満期保有目的の債券（2024年3月31日現在）

	種類	貸借対照表 計上額（百万円）	時価 （百万円）	差額 （百万円）
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	9,728	9,776	48
	地方債	28,720	28,830	109
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小 計	38,449	38,607	157
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	51,516	51,335	△180
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小 計	51,516	51,335	△180
合 計		89,965	89,943	△22

３．子会社・子法人等株式及び関連法人等株式（2024年３月31日現在）

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式は、市場価格のない株式等のため、子会社・子法人等株式及び関連法人等株式の時価を記載していません。

なお、市場価格のない株式等の子会社・子法人等株式及び関連法人等株式の貸借対照表計上額は、以下のとおりであります。

	貸借対照表計上額（百万円）
子会社・子法人等株式	8,455
関連法人等株式	0
合計	8,455

４．その他有価証券（2024年３月31日現在）

	種類	貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	23,392	8,494	14,897
	債券	40,276	40,170	105
	国債	19,903	19,881	22
	地方債	13,276	13,217	59
	短期社債	—	—	—
	社債	7,095	7,072	23
	その他	49,820	44,553	5,267
	小 計	113,489	93,218	20,270
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	1,100	1,555	△454
	債券	356,454	362,454	△5,999
	国債	58,535	58,961	△426
	地方債	124,149	125,328	△1,179
	短期社債	—	—	—
	社債	173,770	178,163	△4,393
	その他	48,304	50,332	△2,028
	小 計	405,859	414,341	△8,482
合 計		519,349	507,560	11,788

（注） 上表に含まれない市場価格のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額

	貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式等	4,214
組合出資金	8,680
合計	12,895

組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

５．当事業年度中に売却した満期保有目的の債券（自 2023年４月１日 至 2024年３月31日）

該当ありません。

6. 当事業年度中に売却したその他有価証券（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	1,366	744	—
債券	—	—	—
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	16,751	33	2,525
合 計	18,118	777	2,525

7. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

当事業年度における減損処理額は、28百万円（すべて社債）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に比べて決算日前1カ月の市場価格の平均等に基づく時価（以下、「月中平均時価」という。）が50%以上下落した場合、または、月中平均時価が30%以上50%未満下落した場合においては、過去の一定期間における時価の推移並びに当該発行会社の信用リスク等を勘案した基準により行っております。

（金銭の信託関係）

1. 運用目的の金銭の信託（2024年3月31日現在）

	貸借対照表計上額 (百万円)	当事業年度の損益に含まれた 評価差額(百万円)
運用目的の金銭の信託	9,005	91

2. 満期保有目的の金銭の信託（2024年3月31日現在）

該当ありません。

3. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）（2024年3月31日現在）

該当ありません。

(税効果会計関係)

当行及び親会社並びに一部の連結される子会社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

繰延税金資産	
貸倒引当金	7,328 百万円
有価証券評価損	2,709
繰越欠損金(注2)	756
減価償却費	473
賞与引当金	448
未払事業税等	235
資産除去債務	162
その他	2,343
繰延税金資産小計	14,457
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△94
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△8,304
評価性引当額小計(注1)	△8,399
繰延税金資産合計	6,058
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△2,956
前払年金費用	△496
未収配当金益金不算入	△107
その他	△39
繰延税金負債合計	△3,600
繰延税金資産の純額	2,457 百万円

(注1) 評価性引当額が120百万円減少しております。この減少の主な内容は、税務上の繰越欠損金に対する評価性引当額の減少によるものであります。

(注2) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額
当事業年度(2024年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(*1)	173	—	35	—	—	548	756
評価性引当額	△94	—	—	—	—	—	△94
繰延税金資産	78	—	35	—	—	548	(*2) 662

(*1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(*2) 税務上の繰越欠損金756百万円について、繰延税金資産662百万円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断しております。

(収益認識関係)

- 1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報
当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）
(単位：百万円)

	当事業年度 計上額
顧客との契約から生じる収益	
預金・貸出業務	3,280
為替業務	2,011
証券関連業務	1,212
代理業務	372
保護預り・貸金庫業務	439
投資信託・保険販売業務	4,164
その他	2,863
計	14,345
その他の収益（注1）	53,128
合計	67,473

(注) 1 「その他の収益」には、主に次の取引が含まれております。

- ①金融商品に関する会計基準（企業会計基準第10号 2019年7月4日）の範囲に含まれる金融商品に係る取引
②金融商品の組成又は取得に際して受け取る手数料

- 2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

- (1) 収益の計上時期

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、収益を認識しております。一定の期間にわたり履行義務が充足されるものについては、義務を履行するにつれて収益を認識しております。

- (2) 収益の計上額

収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で算出しております。

- 3 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

- (1) 顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債の期首残高及び期末残高

(単位：百万円)

	当事業年度期首 (2023年4月1日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
顧客との契約から生じた債権	840	852
契約資産	178	211
契約負債	294	239

(注) 貸借対照表において、顧客との契約から生じた債権及び契約資産は「その他資産」に、契約負債は「その他負債」に、それぞれ含めております。

- (2) 当事業年度に認識した収益のうち当期首現在の契約負債残高に含まれていたもの

(単位：百万円)

	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当事業年度に認識した収益のうち期首現在の契約負債残高に含まれていたもの	214

(3) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当事業年度 (2024年3月31日)
1年内	187
1年超	51
合計	239

(1株当たり情報)

1株当たりの純資産額	3,880円41銭
1株当たりの当期純利益金額	163円54銭

(関連当事者との取引)

1. 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	株式会社池田泉州ホールディングス	大阪市北区	102,999	銀行持株会社	(被所有) 直接100.0%	経営管理等 役員の兼任	経営管理料の支払	1,968	—	—
							貸出金の返済	25,000	—	—
							貸出金利息	30	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 注1. 経営管理契約については、一般的な取引条件で行っております。
2. 経営管理料の支払については、一般的取引条件と同様に決定しております。
3. 金銭貸借取引については、一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	池田泉州信用保証株式会社	大阪市北区	180	住宅ローン等の保証	(所有) 直接100.0% 間接—%	当行貸出金の保証	貸出金の保証	1,415,295	—	—
							保証料の支払	1,065	未払費用	102
							代位弁済の受入	584	—	—
子会社	近畿信用保証株式会社	大阪市北区	100	住宅ローン等の保証	(所有) 直接100.0% 間接—%	当行貸出金の保証	貸出金の保証	477,382	—	—
							保証料の支払	366	未払費用	29
							代位弁済の受入	1,050	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 注1. 貸出金の被保証については、一般的な取引条件で行っております。
2. 保証料の支払については、一般的取引条件と同様に決定しております。

３．役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社の役員及びその近親者	中西 さく子	—	—	—	—	—	貸出取引	—	貸出金	28
							受入利息	0	未収収益	0

取引条件及び取引条件の決定方針等

注１．貸出取引条件等については、一般的な取引条件で行っております。

(企業結合等関係)

該当ありません。

(重要な後発事象)

該当ありません。

財務諸表に係る確認書

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営者責任の明確化について（要請）」（平成 17 年 10 月 7 日付金監第 2835 号）に基づく、当行の財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりです。

2024 年 6 月 20 日

確認書

株式会社 池田泉州銀行
取締役頭取兼 CEO 鶴川 淳

私は、当行の 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの事業年度に係る財務諸表・連結財務諸表の適正性、及び財務諸表・連結財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

以 上

損益の状況等

業務粗利益

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用収益	45,481	1,679	47,159	45,315	717	46,031
資金調達費用	529	1,133	1,661	335	459	794
資金運用収支	44,952	545	45,498	44,979	258	45,237
役務取引等収益	19,630	195	19,825	18,491	171	18,662
役務取引等費用	9,608	83	9,691	10,016	91	10,108
役務取引等収支	10,021	112	10,134	8,474	79	8,554
その他業務収益	1,548	1,413	2,961	51	721	772
その他業務費用	3,130	8,502	11,632	1,647	906	2,554
その他業務収支	△1,581	△7,089	△8,670	△1,596	△185	△1,781
業務粗利益	53,392	△6,431	46,961	51,858	151	52,010
業務粗利益率 (%)	1.02	△8.61	0.89	0.96	0.56	0.96

(注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上位 () 内の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

3. 業務粗利益率 = $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

業務純益

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期
業務純益（一般貸倒引当金繰入前） A	6,704	11,392
一般貸倒引当金繰入額 B	—	—
業務純益 A-B	6,704	11,392
債券関係損益 C	△10,083	△2,520
コア業務純益 A-C	16,788	13,912
コア業務純益（投資信託解約損益を除く。）	16,788	14,005

(注) 1. 業務純益とは、銀行の基本的な業務の成果を示す指標で、預金、貸出金、有価証券などの利益収支を示す「資金利益」、各種手数料などの収支を示す「役務取引等利益」、債券や外国為替などの売買損益を示す「その他業務利益」を合計した「業務粗利益」から、「一般貸倒引当金繰入額」と人件費などの「経費」を控除したものです。

2. コア業務純益は、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）から、債券関係損益を控除したものです。

利益率

(単位：%)

種 類	2023年3月期	2024年3月期
総資産経常利益率	0.13	0.18
資本経常利益率	4.51	5.83
総資産当期純利益率	0.11	0.12
資本当期純利益率	3.76	4.05

(注) 1. 総資産経常（当期純）利益率 = $\frac{\text{経常（当期純）利益}}{\text{総資産（除く支払承諾見返）平均残高}} \times 100$

2. 資本経常（当期純）利益率 = $\frac{\text{経常（当期純）利益} - \text{優先株式配当金総額}}{\{(\text{期首純資産} - \text{期首発行済優先株式数} \times \text{発行価額}) + (\text{期末純資産} - \text{期末発行済優先株式数} \times \text{発行価額})\} \div 2} \times 100$

総資金利鞘

(単位：%)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	0.87	2.25	0.89	0.84	2.68	0.85
資金調達原価	0.57	3.57	0.60	0.58	8.04	0.62
総資金利鞘	0.30	△1.32	0.29	0.26	△5.36	0.23

役務取引の状況

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
役務取引等収益	19,603	195	19,799	18,469	171	18,640
うち預金・貸出業務	9,575	—	9,575	7,654	—	7,654
うち為替業務	1,863	194	2,058	1,841	170	2,011
うち証券関連業務	894	—	894	1,225	—	1,255
うち代理業務	344	—	344	372	—	372
うち保護預り・貸金庫業務	459	—	459	439	—	439
うち保証業務	54	1	55	55	1	56
うち投資信託・保険販売業務	4,155	—	4,155	4,164	—	4,164
役務取引等費用	9,608	83	9,691	10,016	91	10,108
うち為替業務	223	83	306	231	91	323

その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期	2024年3月期
国内業務部門		
商品有価証券売買損益	—	0
国債等債券関係損益	△1,581	△1,614
金融派生商品損益	—	17
その他	—	—
計	△1,581	△1,596
国際業務部門		
外国為替売買損益	1,380	699
国債等債券関係損益	△8,502	△906
金融派生商品損益	32	22
その他	—	—
計	△7,089	△185
合計	△8,670	△1,781

営業経費の内訳

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期	2024年3月期
給料・手当	21,390	21,424
退職給付費用	△1,458	△1,514
福利厚生費	198	253
減価償却費	3,423	3,108
土地建物機械賃借料	2,261	2,174
営繕費	22	24
消耗品費	306	376
給水光熱費	457	405
旅費	47	61
通信費	1,292	1,256
広告宣伝費	370	459
租税公課	2,777	2,975
その他	8,018	8,203
合計	39,107	39,209

資金運用勘定・資金調達勘定平均残高、利息、利回り

(国内業務部門)

(単位：百万円、%)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	(14,066)	(1)		(13,119)	(1)	
うち貸出金	5,190,954	45,481	0.87	5,349,282	45,315	0.84
うち商品有価証券	4,590,328	39,217	0.85	4,788,611	39,754	0.83
うち有価証券	0	—	—	0	—	—
うちコールローン	567,841	5,043	0.88	528,850	3,806	0.71
うち買現先勘定	2,161	0	0.01	204	0	0.00
うち債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	16,524	0	0.00	18,470	1	0.00
資金調達勘定	6,822,981	529	0.00	6,637,522	335	0.00
うち預金	5,640,548	622	0.01	5,702,634	461	0.00
うち譲渡性預金	31,951	0	0.00	25,515	0	0.00
うちコールマネー	521,123	△105	△0.02	505,455	△137	△0.02
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	48,890	4	0.00	43,831	4	0.01
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマーシャル・ペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	598,228	0	0.00	371,339	0	0.00

(注) 1. 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(2023年3月期1,721,692百万円、2024年3月期1,365,247百万円)を、資金調達勘定は、金銭の信託運用見合額の平均残高(2023年3月期20,235百万円、2024年3月期14,672百万円)を、それぞれ控除して表示しております。

2. 預け金は、日本銀行への預け金の利息(2023年3月期1,216百万円、2024年3月期1,750百万円)を控除して表示しております。

3. () 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

(国際業務部門)

(単位：百万円、%)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	74,612	1,679	2.25	26,724	717	2.68
うち貸出金	8,728	215	2.47	9,497	327	3.44
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	56,789	1,298	2.28	5,956	5	0.08
うちコールローン	3,273	132	4.04	5,486	302	5.51
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	—	—	—	—	—	—
資金調達勘定	(14,066)	(1)		(13,119)	(1)	
うち預金	79,919	1,133	1.41	28,750	459	1.59
うち譲渡性預金	11,728	16	0.13	9,933	21	0.21
うちコールマネー	—	—	—	—	—	—
うち売現先勘定	126	3	2.52	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	—	—	—	—	—	—
うち売渡手形	52,370	949	1.81	4,663	177	3.81
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマーシャル・ペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	—	—	—	—	—	—
うち借入金	549	5	0.93	—	—	—

(注) 1. 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(2023年3月期3,557百万円、2024年3月期2,366百万円)を、控除して表示しております。

2. () 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

3. 国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は、月次カレント方式(前月末ＴＴ仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式)により算出しております。

(国内・国際業務部門合計)

(単位：百万円、%)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	5,251,500	47,159	0.89	5,362,887	46,031	0.85
うち貸出金	4,599,056	39,433	0.85	4,798,109	40,081	0.83
うち商品有価証券	0	—	—	0	—	—
うち有価証券	624,631	6,341	1.01	534,806	3,811	0.71
うちコールローン	5,435	132	2.44	5,691	302	5.32
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	16,524	0	0.00	18,470	1	0.00
資金調達勘定	6,888,834	1,661	0.02	6,653,153	794	0.01
うち預金	5,652,277	638	0.01	5,712,568	482	0.00
うち譲渡性預金	31,951	0	0.00	25,515	0	0.00
うちコールマネー	521,249	△102	△0.01	505,455	△137	△0.02
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	101,261	954	0.94	48,495	182	0.37
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマーシャル・ペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	598,778	5	0.00	371,339	0	0.00

(注) 1. 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(2023年3月期1,725,249百万円、2024年3月期1,367,613百万円)を、資金調達勘定は、金銭の信託運用見合額の平均残高(2023年3月期20,235百万円、2024年3月期14,672百万円)を、それぞれ控除して表示しております。

2. 預け金は、日本銀行への預け金の利息(2023年3月期1,216百万円、2024年3月期1,750百万円)を控除して表示しております。

3. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は相殺して記載しております。

受取利息・支払利息の分析

(国内業務部門)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,386	△1,613	△227	1,377	△1,543	△166
うち貸出金	1,455	△1,948	△493	1,685	△1,148	536
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	△53	1,676	1,623	△343	△893	△1,236
うちコールローン	—	0	0	△0	△0	△0
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	—	△0	△0	—	0	0
支払利息	△53	△218	△271	—	△193	△193
うち預金	6	△282	△275	6	△167	△161
うち譲渡性預金	—	△1	△1	—	△0	△0
うちコールマネー	21	△21	△0	3	△34	△31
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	—	3	3	—	△0	△0
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマーシャル・ペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	—	△0	△0	—	△0	△0

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

(国際業務部門)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	106	944	1,050	△1,077	115	△962
うち貸出金	△31	80	48	19	92	111
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	158	710	869	△1,159	△133	△1,292
うちコールローン	△7	123	115	89	80	170
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	—	—	—	—	—	—
支払利息	32	921	953	△721	47	△674
うち預金	△0	12	11	△2	7	5
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	0	2	2	△3	△0	△3
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	34	831	865	△863	91	△771
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマーシャル・ペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	△3	3	0	△5	△0	△5

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

(国内・国際業務部門合計)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,498	△674	824	991	△2,119	△1,127
うち貸出金	1,437	△1,881	△444	1,691	△1,043	648
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	39	2,452	2,492	△907	△1,622	△2,529
うちコールローン	△6	122	116	6	163	170
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	—	△0	△0	—	0	0
支払利息	△52	735	683	△47	△820	△867
うち預金	6	△270	△264	6	△161	△155
うち譲渡性預金	—	△1	△1	—	△0	△0
うちコールマネー	21	△18	2	1	△36	△34
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入担保金	91	778	869	△495	△276	△772
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマーシャル・ペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	—	△0	△0	—	△5	△5

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

預金

預金科目別残高

(期末残高)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期末			2024年3月期末		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
預金						
流動性預金	3,775,681	—	3,775,681	3,946,641	—	3,946,641
うち有利息預金	3,195,718	—	3,195,718	3,295,039	—	3,295,039
定期性預金	1,814,050	—	1,814,050	1,685,614	—	1,685,614
うち固定金利定期預金	1,811,234	—	1,811,234	1,682,990	—	1,682,990
うち変動金利定期預金	2,806	—	2,806	2,614	—	2,614
その他	14,818	11,363	26,181	36,392	8,854	45,246
合計	5,604,550	11,363	5,615,913	5,668,647	8,854	5,677,502
譲渡性預金	2,000	—	2,000	22,000	—	22,000
総合計	5,606,550	11,363	5,617,913	5,690,647	8,854	5,699,502

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
固定金利定期預金：預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金
変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

(平均残高)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
預金						
流動性預金	3,759,501	—	3,759,501	3,915,829	—	3,915,829
うち有利息預金	3,114,269	—	3,114,269	3,232,990	—	3,232,990
定期性預金	1,860,824	—	1,860,824	1,760,119	—	1,760,119
うち固定金利定期預金	1,857,911	—	1,857,911	1,757,397	—	1,757,397
うち変動金利定期預金	2,903	—	2,903	2,712	—	2,712
その他	20,222	11,728	31,950	26,686	9,933	36,619
合計	5,640,548	11,728	5,652,277	5,702,634	9,933	5,712,568
譲渡性預金	31,951	—	31,951	25,515	—	25,515
総合計	5,672,500	11,728	5,684,228	5,728,149	9,933	5,738,083

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
固定金利定期預金：預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金
変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金
3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	3か月未満	3か月以上 6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	合計
(2023年3月期末)							
定期預金	464,816	453,811	704,885	95,956	79,829	14,741	1,814,041
うち固定金利定期預金	464,633	453,641	704,352	95,057	78,809	14,739	1,811,234
うち変動金利定期預金	183	170	533	899	1,019	1	2,806
(2024年3月期末)							
定期預金	436,739	412,568	650,004	89,999	78,435	17,856	1,685,604
うち固定金利定期預金	436,520	412,363	649,567	89,033	77,652	17,853	1,682,990
うち変動金利定期預金	218	205	437	966	783	2	2,614

預金者別預金残高

(単位：百万円)

	2023年3月期末		2024年3月期末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
個人	4,232,745	75.37%	4,246,940	74.80%
一般法人	1,250,056	22.26%	1,234,726	21.75%
その他	133,111	2.37%	195,835	3.45%
合計	5,615,913	100.00%	5,677,502	100.00%

(注) その他とは、公金預金、金融機関預金です。譲渡性預金を除きます。

貸出金

貸出金科目別残高

(期末残高)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期末			2024年3月期末		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
貸出金						
手形貸付	35,252	58	35,311	32,024	60	32,085
証書貸付	4,474,707	8,500	4,483,207	4,562,451	9,812	4,572,264
当座貸越	259,918	—	259,918	246,618	—	246,618
割引手形	7,909	—	7,909	7,618	—	7,618
合計	4,777,787	8,559	4,786,346	4,848,713	9,872	4,858,586

(平均残高)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
貸出金						
手形貸付	33,663	58	33,721	34,450	57	34,507
証書貸付	4,303,238	8,670	4,311,908	4,498,223	9,440	4,507,664
当座貸越	245,278	—	245,278	248,565	—	248,565
割引手形	8,148	—	8,148	7,371	—	7,371
合計	4,590,328	8,728	4,599,056	4,788,611	9,497	4,798,109

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレンダー方式により算出しております。

貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	合計
(2023年3月期末)							
貸出金	1,035,167	700,156	569,800	432,334	2,048,886	—	4,786,346
うち変動金利		495,759	377,013	297,323	1,624,115	—	
うち固定金利		204,397	192,787	135,011	424,771	—	
(2024年3月期末)							
貸出金	1,017,635	731,350	578,025	455,488	2,076,087	—	4,858,586
うち変動金利		520,437	413,993	318,027	1,684,908	—	
うち固定金利		210,912	164,031	137,461	391,179	—	

(注) 1. 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。
2. 期間の定めのない貸出金については、「1年以下」に含めております。

貸出金の担保別内訳

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期末	2024年3月期末
有価証券	1,410	2,151
債権	12,868	14,007
商品	—	—
不動産	667,188	699,348
その他	36,785	37,982
小計	718,253	753,489
保証	2,508,926	2,533,851
信用	1,559,166	1,571,245
合計	4,786,346	4,858,586
(うち劣後特約付貸出金)	(12,550)	(14,350)

支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期末	2024年3月期末
有価証券	—	—
債権	1,402	1,276
商品	—	—
不動産	199	179
その他	—	—
小計	1,602	1,456
保証	0	0
信用	4,696	4,921
合計	6,299	6,378

貸出金使途別残高・構成比

(単位：百万円)

	2023年3月期末		2024年3月期末	
	金額	構成比	金額	構成比
設備資金	2,782,817	58.14%	2,844,537	58.55%
運転資金	2,003,528	41.86%	2,014,049	41.45%
合計	4,786,346	100.00%	4,858,586	100.00%

貸出金業種別残高・構成比

(単位：先、百万円)

	2023年3月期末			2024年3月期末		
	貸出先件数	貸出金残高	構成比	貸出先件数	貸出金残高	構成比
国内店分（除く特別国際金融取引勘定分）	177,083	4,786,346	100.00%	176,624	4,858,586	100.00%
製造業	2,699	317,557	6.63	2,551	317,169	6.53
農業、林業	17	512	0.01	12	455	0.01
漁業	5	147	0.00	5	189	0.00
鉱業、採石業、砂利採取業	5	277	0.01	3	136	0.00
建設業	2,821	139,396	2.91	2,634	140,389	2.89
電気・ガス・熱供給・水道業	78	24,021	0.50	73	23,286	0.48
情報通信業	266	21,414	0.45	256	19,252	0.40
運輸業、郵便業	668	109,015	2.28	640	114,093	2.35
卸売業、小売業	4,205	339,409	7.09	3,925	335,208	6.90
金融業、保険業	118	330,034	6.90	119	327,069	6.73
不動産業、物品賃貸業	4,993	725,685	15.16	4,979	752,666	15.49
学術研究、専門・技術サービス業	600	20,707	0.43	565	21,492	0.44
宿泊業、飲食業	1,072	39,887	0.83	1,017	37,951	0.78
生活関連サービス業、娯楽業	403	19,762	0.41	383	20,041	0.41
教育、学習支援業	117	7,423	0.16	114	7,501	0.16
医療・福祉	2,098	144,409	3.02	2,143	144,777	2.98
その他のサービス	2,962	119,350	2.49	2,767	119,251	2.46
地方公共団体	47	131,873	2.76	49	144,011	2.96
その他	153,909	2,295,454	47.96	154,389	2,333,639	48.03
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—
商工業	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
合計	177,083	4,786,346		176,624	4,858,586	

中小企業等に対する貸出金

(単位：先、百万円)

	2023年3月期末		2024年3月期末	
	貸出先件数	貸出金残高	貸出先件数	貸出金残高
総貸出金残高 (A)	177,083	4,786,346	176,624	4,858,586
中小企業等貸出金残高 (B)	176,708	3,816,019	176,228	3,860,750
(B) / (A)	99.78%	79.72%	99.77%	79.46%

(注) 1. 特別国際金融取引勘定を除きます。

2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

特定海外債権残高

2023年3月期末、2024年3月期末とも該当ありません。

貸出金の預金に対する比率（預貸率）

(単位：%)

	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
期末	85.21	75.32	85.19	85.20	111.49	85.24
期中平均	80.92	74.42	80.90	83.59	95.61	83.61

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

消費者ローン・住宅ローン残高

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期末	2024年3月期末
住宅ローン	1,913,579	1,975,837
その他ローン	63,787	66,494
消費者ローン（合計）	1,977,366	2,042,331

リスク管理債権

(単位：百万円、%)

	2023年3月期末		2024年3月期末	
	単 体	連 結	単 体	連 結
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	1,715	2,367	2,768	3,762
危険債権額	43,017	43,031	44,415	44,436
三月以上延滞債権額	166	166	59	59
貸出条件緩和債権額	3,021	3,021	3,010	3,010
リスク管理債権合計	47,920	48,586	50,254	51,269
正常債権額	4,770,343	4,755,918	4,837,193	4,819,973
総与信残高	4,818,264	4,804,505	4,887,448	4,871,242
リスク管理債権比率	0.99	1.01	1.02	1.05

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
4. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
5. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。
6. リスク管理債権合計＝破産更生債権及びこれらに準ずる債権額＋危険債権額＋三月以上延滞債権額＋貸出条件緩和債権額

金融再生法開示債権

(単位：百万円、%)

	2023年3月期末		2024年3月期末	
	単 体	連 結	単 体	連 結
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,715	2,367	2,768	3,762
危険債権	43,017	43,031	44,415	44,436
要管理債権	3,187	3,021	3,070	3,010
合計	47,920	48,586	50,254	51,269
正常債権	4,770,343	4,755,918	4,837,193	4,819,973
総与信残高	4,818,264	4,804,505	4,887,448	4,871,242
総与信に占める割合	0.99	1.01	1.02	1.05
保全率	87.69	86.27	86.27	86.27

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権であります。
3. 要管理債権とは、三月以上延滞債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権を除く。）及び貸出条件緩和債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権を除く。）であります。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1.から3.までに掲げる債権以外のものに区分される債権であります。

貸倒引当金内訳

(単位：百万円)

	2023年3月期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他	
一般貸倒引当金	5,171	3,341	—	5,171	3,341
個別貸倒引当金	7,134	5,688	173	6,960	5,688
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—
合計	12,305	9,029	173	12,132	9,029

(単位：百万円)

	2024年3月期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他	
一般貸倒引当金	3,341	2,318	—	3,341	2,318
個別貸倒引当金	5,688	5,883	263	5,424	5,883
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—
合計	9,029	8,201	263	8,765	8,201

(注) 期中減少額のその他は、洗替による取崩額であります。

貸出金償却額

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期
貸出金償却額	1,094	1,109

有価証券残高

(期末残高)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期末			2024年3月期末		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
有価証券残高						
国債	43,207	—	43,207	88,166	—	88,166
地方債	115,278	—	115,278	217,662	—	217,662
社債	198,189	—	198,189	180,866	—	180,866
株式	32,295	—	32,295	34,878	—	34,878
その他の証券	98,718	4,719	103,437	108,930	160	109,091
うち外国債券		4,581	4,581		—	—
うち外国株式		6	6		7	7
合計	487,689	4,719	492,408	630,505	160	630,666

(平均残高)

(単位：百万円)

種 類	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
有価証券残高						
国債	104,488	—	104,488	61,500	—	61,500
地方債	120,389	—	120,389	143,029	—	143,029
社債	219,265	—	219,265	193,062	—	193,062
株式	21,893	—	21,893	21,047	—	21,047
その他の証券	101,804	56,789	158,594	110,210	5,956	116,166
うち外国債券		56,656	56,656		5,815	5,815
うち外国株式		0	0		0	0
合計	567,841	56,789	624,631	528,850	5,956	534,806

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合計
(2023年3月期末)								
国債	4,309	19,074	10,001	—	9,823	—	—	43,207
地方債	13,882	44,116	25,830	8,829	22,619	—	—	115,278
社債	15,856	40,862	33,246	9,628	5,914	92,681	—	198,189
株式							32,295	32,295
その他の証券	526	759	5,552	18,633	33,289	14,244	30,431	103,437
うち外国債券	—	—	—	—	4,581	—	—	4,581
うち外国株式							6	6
(2024年3月期末)								
国債	9,003	19,942	300	19,061	15,978	23,881	—	88,166
地方債	36,484	28,439	29,529	54,364	68,844	—	—	217,662
社債	30,344	31,497	22,335	8,594	2,303	85,791	—	180,866
株式							34,878	34,878
その他の証券	785	1,640	6,051	18,038	31,325	14,486	36,762	109,091
うち外国債券	—	—	—	—	—	—	—	—
うち外国株式							7	7

有価証券の預金に対する比率（預証率）

（単位：％）

	2023年3月期			2024年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
期末	8.69	41.52	8.76	11.07	1.81	11.06
期中平均	10.01	484.21	10.98	9.23	59.95	9.32

（注）預金には譲渡性預金を含んでおります。

商品有価証券売買高

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期
商品国債	—	2
商品地方債	—	—
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合計	—	2

商品有価証券種類別平均残高

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期
商品国債	0	0
商品地方債	—	—
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合計	0	0

公共債引受額

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期
国債	—	—
地方債・政府保証債	—	100
合計	—	100

公共債窓口販売実績

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期
国債	736	1,669
地方債・政府保証債	—	—
合計	736	1,669

証券投資信託窓口販売実績

（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期
証券投資信託	36,626	42,637

有価証券の時価等情報

(有価証券関係)

※貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」が含まれております。

1. 売買目的有価証券

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

2. 満期保有目的の債券

前事業年度（2023年3月31日）

該当ありません。

当事業年度（2024年3月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	9,728	9,776	48
	地方債	28,720	28,830	109
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	38,449	38,607	157
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	51,516	51,335	△180
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	51,516	51,335	△180
合計		89,965	89,943	△22

3. 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

前事業年度（2023年3月31日）

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるものは該当ありません。

なお、市場価格のない子会社・子法人等株式及び関連法人等株式は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額
子会社・子法人等株式	8,098
関連法人等株式	0
合計	8,098

当事業年度（2024年3月31日）

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるものは該当ありません。

なお、市場価格のない子会社・子法人等株式及び関連法人等株式は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額
子会社・子法人等株式	8,455
関連法人等株式	0
合計	8,455

4. 其他有価証券

前事業年度（2023年3月31日）

（単位：百万円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	20,477	9,117	11,360
	債券	30,993	30,966	27
	国債	10,001	9,987	13
	地方債	12,556	12,553	2
	短期社債	—	—	—
	社債	8,436	8,425	11
	その他	27,519	23,584	3,935
	小計	78,991	63,668	15,323
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1,296	1,555	△258
	債券	325,681	329,935	△4,254
	国債	33,206	33,374	△167
	地方債	102,722	106,602	△879
	短期社債	—	—	—
	社債	189,752	192,959	△3,206
	その他	66,407	71,184	△4,777
	小計	393,385	402,675	△9,289
合計		472,376	466,343	6,033

（注）上表に含まれない市場価額のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額
株式	4,341
組合出資金	7,584
その他	6
合計	11,933

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	23,392	8,494	14,897
	債券	40,276	40,170	105
	国債	19,903	19,881	22
	地方債	13,276	13,217	59
	短期社債	—	—	—
	社債	7,095	7,072	23
	その他	49,820	44,553	5,267
	小計	113,489	93,218	20,270
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1,100	1,555	△454
	債券	356,454	362,454	△5,999
	国債	58,535	58,961	△426
	地方債	124,149	125,328	△1,179
	短期社債	—	—	—
	社債	173,770	178,163	△4,393
	その他	48,304	50,332	△2,028
	小計	405,859	414,341	△8,482
合計		519,349	507,560	11,788

（注）上表に含まれない市場価額のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額
株式	4,207
組合出資金	8,680
その他	7
合計	12,895

5. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）、当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）とも該当ありません。

6.当事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	2,457	179	37
債券	79,300	0	3,130
国債	78,594	—	3,118
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	705	0	12
その他	106,644	1,547	8,502
合計	188,402	1,727	11,670

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	1,366	744	—
債券	—	—	—
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	16,751	33	2,525
合計	18,118	777	2,525

7.保有目的を変更した有価証券

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

8.減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

前事業年度（2023年3月31日）における減損処理額はありません。

当事業年度（2024年3月31日）における減損処理額は、28百万円（すべて社債）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に比べて決算日前1カ月の市場価格の平均等に基づく時価（以下、「月中平均時価」という。）が50%以上下落した場合、または、月中平均時価が30%以上50%未満下落した場合においては、過去の一定期間における時価の推移並びに当該発行会社の信用リスク等を勘案した基準により行っております。

（金銭の信託関係）

1.運用目的の金銭の信託

前事業年度（2023年3月31日）

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	15,010	10

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	9,005	91

2.満期保有目的の金銭の信託

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

3.その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

（その他有価証券評価差額金）

貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	2023年3月31日	2024年3月31日
評価差額	6,099	11,894
その他有価証券	6,099	11,894
その他の金銭の信託	—	—
（＋）繰延税金資産（△は繰延税金負債）	△1,123	△2,956
その他有価証券評価差額金	4,976	8,937

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

(2) 通貨関連取引

前事業年度（2023年3月31日）

（単位：百万円）

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	通貨オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	42,336	36,396	51	51
	為替予約				
	売建	6,994	—	30	30
	買建	3,442	—	13	13
	通貨オプション				
	売建	52,338	37,346	△2,388	△105
	買建	52,338	37,346	2,388	629
	その他				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
合計				95	619

（注）上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	通貨オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	50,582	27,200	49	49
	為替予約				
	売建	5,465	412	△223	△223
	買建	3,250	—	103	103
	通貨オプション				
	売建	52,625	37,214	△1,482	918
	買建	52,625	37,214	1,482	△377
	その他				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
合計				△70	470

（注）上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

(3) 株式関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

(4) 債券関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

(5) 商品関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

(2) 通貨関連取引

前事業年度（2023年3月31日）

（単位：百万円）

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的 処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金	6,409	5,074	△1,051
	為替予約		—	—	—
	その他		—	—	—
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ	—	—	—	—
	為替予約	—	—	—	—
合計					△1,051

（注）主として業種別委員会実務指針第25号に基づき、繰延ヘッジによっております。

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：百万円）

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的 処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金	7,267	4,239	△1,724
	為替予約		—	—	—
	その他		—	—	—
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ	—	—	—	—
	為替予約	—	—	—	—
合計					△1,724

（注）主として業種別委員会実務指針第25号に基づき、繰延ヘッジによっております。

(3) 株式関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

(4) 債券関連取引

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

（電子決済手段）

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

（暗号資産）

前事業年度（2023年3月31日）、当事業年度（2024年3月31日）とも該当ありません。

外国為替取扱高

(単位：百万ドル)

	2023年3月期	2024年3月期
仕向為替		
売渡為替	1,345	1,093
買入為替	34	26
被仕向為替		
支払為替	893	747
取立為替	46	32
合計	2,319	1,899

内国為替取扱実績

(口数単位：千口、金額単位：百万円)

	2023年3月期		2024年3月期	
	口 数	金 額	口 数	金 額
送金為替				
各地へ向けた分	8,976	11,671,922	10,502	12,189,901
各地より受けた分	10,991	6,711,822	11,088	7,327,054
代金取立				
各地へ向けた分	60	91,256	55	84,006
各地より受けた分	2	4,289	0	443

信託財産残高表

(単位：百万円)

	2023年3月期末	2024年3月期末
資産	1,660	2,534
銀行勘定貸	1,660	2,534
負債	1,660	2,534
金銭信託	1,660	2,534

(注) 共同信託他社管理財産については、取扱残高はありません。

受託残高

(単位：百万円)

	2023年3月期末	2024年3月期末
金銭信託	1,660	2,534

(注) 年金信託、財産形成給付信託及び貸付信託については、取扱残高はありません。

元本補填契約のある信託

(単位：百万円)

	2023年3月期末	2024年3月期末
資産	1,660	2,534
銀行勘定貸	1,660	2,534
負債	1,660	2,534
元本	1,660	2,534
その他	0	0

金銭信託の信託期間別の元本残高

(単位：百万円)

	2023年3月期末	2024年3月期末
1年未満	—	—
1年以上2年未満	—	—
2年以上5年未満	—	—
5年以上	—	—
その他	1,660	2,534
合計	1,660	2,534

(注) 貸付信託については、取扱残高はありません。

以下の事項に該当するものではありません。

1. 金銭信託等の種類別の貸出金、有価証券、電子決済手段及び暗号資産の区分ごとの運用残高
2. 金銭信託等に係る貸出金の科目別（証書貸付、手形貸付及び割引手形の区分をいう。）の残高
3. 金銭信託等に係る貸出金の契約期間別の残高
4. 担保の種類別（有価証券、債権、商品、不動産、保証及び信用の区分をいう。）の金銭信託等に係る貸出金残高
5. 用途別（設備資金及び運転資金の区分をいう。）の金銭信託等に係る貸出金残高
6. 業種別の金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
7. 中小企業等（資本金3億円以下の会社若しくは常時使用する従業員が300人以下の会社又は個人をいう。ただし、卸売業にあっては資本金1億円以下の会社若しくは常時使用する従業員100人以下の会社又は個人を、サービス業にあっては資本金5,000万円以下若しくは常時使用する従業員が100人以下の会社又は個人を、小売業及び飲食店にあっては資本金5,000万円以下若しくは常時使用する従業員が50人以下の会社又は個人をいう。）に対する金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
8. 金銭信託等に係る有価証券の種類別（国債、地方債、短期社債、社債及び株式その他の証券の区分をいう。）の残高
9. 電子決済手段の種類別の残高
10. 暗号資産の種類別の残高
11. 元本補填契約のある信託（信託財産の運用のため再信託された信託を含む。）に係る債権のうち破産更生債権及びこれらに準ずる債権額、危険債権額、三月以上延滞債権額、貸出条件緩和債権額に該当するものの額及びその合計額並びに正常債権に該当するものの額

自己資本の充実の状況等

「銀行法施行規則第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項」（平成26年金融庁告示第7号）に基づき、バーゼルⅢ第3の柱の内容を以下に開示しております。

自己資本の構成に関する開示事項

自己資本比率は、告示に定められた算式に基づき、連結ベースと単体ベースの双方について算出しております。

なお、当行は自己資本比率の算出にあたり国内基準を適用のうえ、2023年3月期よりバーゼルⅢ最終化を早期適用し、信用リスク・アセットの額は基礎的內部格付手法、オペレーショナル・リスク相当額は標準的計測手法により算出しております。

連結自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日	2024年3月31日
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	209,441	216,727
うち、資本金及び資本剰余金の額	150,291	124,747
うち、利益剰余金の額	86,149	93,749
うち、自己株式の額 (△)	—	—
うち、社外流出予定額 (△)	26,999	1,770
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	5,754	10,289
うち、為替換算調整勘定	—	—
うち、退職給付に係るものの額	5,754	10,289
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	4,988	642
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	381	307
うち、適格引当金コア資本算入額	4,607	334
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	63	—
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	220,248	227,659
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	2,632	2,559
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む。）の額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2,632	2,559
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	1,184	191
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	16,611	22,170
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	20,428	24,921
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	199,820	202,737
リスク・アセット等 (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	1,491,019	1,507,931
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—	—
勘定間の振替分	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	106,683	108,917
フロア調整額	—	5,134
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	1,597,702	1,621,984
連結自己資本比率		
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	12.50%	12.49%

単体自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日	2024年3月31日
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	189,256	194,357
うち、資本金及び資本剰余金の額	150,248	124,701
うち、利益剰余金の額	66,008	71,426
うち、自己株式の額 (△)	—	—
うち、社外流出予定額 (△)	26,999	1,770
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	3,556	—
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	—	—
うち、適格引当金コア資本算入額	3,556	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	192,813	194,357
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	2,598	2,526
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2,598	2,526
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	1,078	294
適格引当金不足額	—	639
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	10,857	11,880
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	14,534	15,341
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	178,279	179,016
リスク・アセット等 (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	1,460,650	1,472,914
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—	—
勘定間の振替分	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	101,621	104,112
フロア調整額	—	26,921
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	1,562,272	1,603,948
自己資本比率		
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.41%	11.16%

定性的な開示事項

【連結の範囲に関する事項】

- (1) 銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第19号。以下「告示」という。）第26条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下、「連結グループ」という。）に属する会社と連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）第5条に基づき連結の範囲（以下「会計連結範囲」という。）に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因

連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。

- (2) 連結グループのうち、連結子会社の数並びに主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容（2024年3月31日）

連結グループに属する連結子会社は、17社です。主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容は以下のとおりです。

主要な連結子会社

名 称	主要な業務の内容	名 称	主要な業務の内容
1 池田泉州リース(株)	リース業務	8 池田泉州キャピタル(株)	投資業務
2 池田泉州オートリース(株)	リース業務	9 池田泉州ビジネスサービス(株)	現金精算・印刷・事務代行業務
3 池田泉州信用保証(株)	信用保証業務	10 池田泉州システム(株)	コンピュータソフト開発・販売業務
4 近畿信用保証(株)	信用保証業務		
5 (株)池田泉州JCB	クレジットカード業務		
6 (株)池田泉州DC	クレジットカード業務		
7 (株)池田泉州VC	クレジットカード業務		

- (3) 告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

該当ありません。

- (4) 連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産額並びに主要な業務の内容

該当ありません。

- (5) 連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

該当ありません。

【自己資本調達手段の概要】

(1) 自己資本調達手段（その額の全部又は一部が、告示第25条（連結）又は第37条（単体）の算式におけるコア資本に係る基礎項目の額に含まれる資本調達手段をいう。）の概要（2024年3月31日）

1	発行主体	株式会社池田泉州銀行
2	資本調達手段の種類	普通株式
3	コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	連結自己資本比率 124,747百万円
		単体自己資本比率 124,701百万円
4	配当率又は利率（公表されている場合）	—
5	償還期限の有無と日付	なし
6	一定の事由が生じた場合に償還等を可能とする特約の有無と、ある場合はその概要	なし
7	他の種類への資本調達手段への転換に係る特約の有無と、ある場合はその概要	なし
8	元本の削減にかかる特約の有無と、ある場合はその概要	なし
9	配当等停止条項がある場合は、その旨並びに停止した未払いの配当又は利息にかかる累積の有無	なし
10	ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の有無と、ある場合はその概要	なし

(2023年3月31日)

1	発行主体	株式会社池田泉州銀行
2	資本調達手段の種類	普通株式
3	コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	連結自己資本比率 150,291百万円
		単体自己資本比率 150,248百万円
4	配当率又は利率（公表されている場合）	—
5	償還期限の有無と日付	なし
6	一定の事由が生じた場合に償還等を可能とする特約の有無と、ある場合はその概要	なし
7	他の種類への資本調達手段への転換に係る特約の有無と、ある場合はその概要	なし
8	元本の削減にかかる特約の有無と、ある場合はその概要	なし
9	配当等停止条項がある場合は、その旨並びに停止した未払いの配当又は利息にかかる累積の有無	なし
10	ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の有無と、ある場合はその概要	なし

【自己資本の充実度に関する評価方法の概要】

1 連結グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要

(1) 自己資本管理の方針

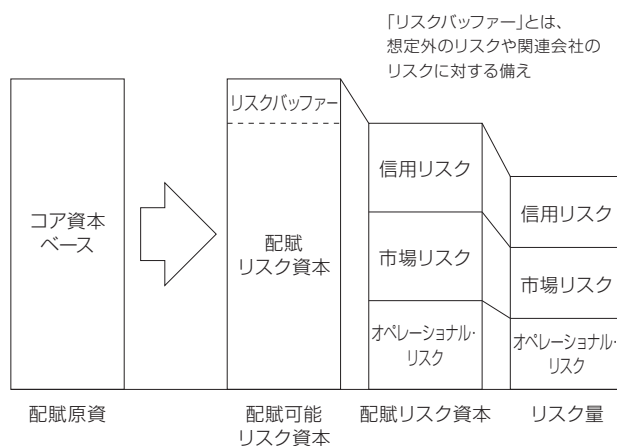
当行は、財務健全性の観点から、十分な自己資本を確保し、適切な管理・運営を行うことを自己資本管理の基本方針とし、「自己資本比率の算定」、「自己資本充実度の評価」、及び「自己資本充実に関する施策の実施」により自己資本管理を行っております。

(2) 自己資本充実度の評価

連結グループでは、法令などに規定される自己資本比率による管理に加え、直面する各種リスクを把握・管理し、連結グループの経営体力（自己資本）と比較・対照することによって、自己資本充実度の評価を行っております。

具体的には、「信用リスク」「市場リスク」「オペレーショナル・リスク」等の各リスク種類別に自己資本（コア資本）の範囲内で資本配賦を行い、計量化された各種リスク量が配賦資本額の範囲内にコントロールされていることを定期的にモニタリングすることにより、リスクの状況を把握し、一定の自己資本を確保する態勢としております。

このほか、一定の金利ショックの発生や与信集中リスクに係るストレステスト、さらには各種リスクに対して重大な悪化を想定したシナリオによるストレステスト等の実施により、自己資本毀損の影響度等を試算し、ストレス環境下での自己資本の健全性を検証しております。なお、連結グループでは、主として連結自己資本比率の管理を通じて自己資本の充実度の評価を行っております。



【信用リスクに関する事項】

1 リスク管理の方針および手続きの概要

(1) リスク管理の方針

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化、契約不履行等により、資産の価値が減少ないし消失し、損失を被るリスクをいいます。

連結グループでは、信用リスクの顕在化により発生する損失を抑制し、資産の健全性を確保していくために、信用リスク管理の部署・役割・手法等を明確に定め、信用リスクを適切に管理する態勢を確立、維持発展させていくことを基本方針としております。

(2) 手続きの概要

① リスクを認識し、評価・計測し、報告するための態勢

連結グループでは、内部格付制度を中心に信用リスク管理態勢を構築し、個別案件及び信用供与先の管理と与信ポートフォリオ管理を行っております。また、自己査定による適切な償却・引当を実施することで、資産の健全性を確保しております。

信用リスクに係る各部門はそれぞれ独立性を確保しており、実効性ある信用リスク管理態勢を構築しています。具体的には、審査・与信管理部門（審査部署・問題債権管理部署）が与信部門（営業部店・営業推進部署）における個別案件の審査・与信管理を行い、審査・与信管理部門及び与信部門から組織的・機能的に独立した信用リスク管理部署が、信用リスク全体を統括・管理しております。信用リスク管理部署は、内部格付制度の設計・検証・運用監視、信用リスクの計量化、与信ポートフォリオ管理等を行い、取締役会等にて内部格付制度の運用状況、与信ポートフォリオ管理のモニタリング等を行うことで、連結グループ全体の信用リスクの適切な運営・管理に努めております。

さらに、審査・与信管理部門、与信部門及び信用リスク管理部署から組織的・機能的に独立した内部監査部署が、信用リスク管理態勢についての内部監査を実施しております。

② 貸倒引当金の計上基準

貸倒引当金は、基準期末の自己査定結果による債務者区分に応じ、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

(ア) 一般貸倒引当金

正常先及び要注意先（要管理先を含む）の債権額に対しては、過去の貸倒実績率に基づき、将来発生が見込まれる予想損失率を求め、債務者区分ごとの債権額に予想損失率を乗じた額（正常先及び要注意先は今後1年間、要管理先は今後3年間）を一般貸倒金として計上しております。

(イ) 個別貸倒引当金

破綻懸念先の債権額のうち担保・保証等により保全されていない部分に対して、所定の予想損失率を乗じた額を、実質破綻先・破綻先の債権額のうち担保・保証等により保全されていない部分の全額を個別貸倒引当金として計上しております。

(3) 信用リスクの算出にあたり、基礎的内部格付手法を適用していないエクスポージャーの性質及びエクスポージャーを適切な手法に完全に移行させるための計画

① 基礎的内部格付手法の適用除外とするエクスポージャー

連結グループでは、信用リスク・アセットの額の算出にあたり、原則として基礎的内部格付手法を適用しておりますが、金額が僅少であり、リスク管理の観点から個々の信用リスクを把握することの重要性が低いと判断される一部の資産又は以下の左表に記載の連結子会社14社については、基礎的内部格付手法の適用除外とし、標準的手法を適用しております。いずれも自己資本比率を算出する上で重要な影響を与えるものではありません。また、これらについては、適用除外の基準を満たしているかどうかを定期的に確認しております。

なお、以下の右表に記載の当行外2社、株式会社池田泉州JCBのうち株式会社池田泉州銀行の与信行為に関連する求償債権は基礎的内部格付手法にて信用リスク・アセットを計算しております。

名 称	適用手法	名 称	適用手法
池田泉州オートリース株式会社	標準的手法 (株式会社池田泉州JCBのうち 銀行本体の与信行為に関連する 求償債権は基礎的内部格付手法 を適用)	株式会社池田泉州銀行	基礎的内部格付手法 (一部の資産は標準的手法)
株式会社池田泉州JCB		池田泉州信用保証株式会社	
株式会社池田泉州DC		近畿信用保証株式会社	
株式会社池田泉州VC			
池田泉州キャピタル株式会社			
池田泉州ビジネスサービス株式会社			
池田泉州システム株式会社			
投資事業組合等（7組合）			

② 基礎的内部格付手法を段階的に適用するエクスポージャー

連結グループでは、以下の連結子会社について、将来的な基礎的内部格付手法への移行を前提とし、標準的手法にて信用リスク・アセットを計算しております。

名 称	適用手法
池田泉州リース株式会社	標準的手法

2 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

(1) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称

連結グループでは、次の格付機関が付与した格付を使用し、リスク・ウェイトを判定しております。

株式会社格付投資情報センター（R&I）

株式会社日本格付研究所（JCR）

ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）

S&Pグローバル・レーティング（S&P）

(2) エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称

全てのエクスポージャーについて、上記4格付機関の格付を使用しております。

(3) 内部格付手法のポートフォリオに分類する場合の基準

ポートフォリオ	分類する場合の基準
事業法人向けエクスポージャー (特定貸付債権を除く)	事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円以上の先等に対する与信
ソブリン向けエクスポージャー	地方公共団体等に対する与信
金融機関等向けエクスポージャー	銀行、証券会社、保険会社等に対する与信
居住用不動産向けエクスポージャー	住宅ローン
適格リボルビング型リテール向け エクスポージャー	一定金額未満の無担保カードローン等
その他リテール向けエクスポージャー	[消費性] 居住用不動産向けエクスポージャー及び適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー以外の消費性 [事業性] 事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円未満の先等に対する与信
株式等エクスポージャー	上場株式、非上場株式、ETF等
特定貸付債権	プロジェクトファイナンス、不動産ファイナンス等でノンリコースの与信
購入債権	第三者から譲り受けた事業法人等向け及びリテール向けの与信

3 内部格付手法が適用されるポートフォリオに関する事項

(1) 使用する内部格付手法の種類

「基礎的内部格付手法」を使用しております。

(2) 内部格付制度の概要

連結グループの内部格付制度は、「信用格付」、「リテール・プール管理」及び「各種パラメータの推計」から構成されております。また、内部格付制度の健全性を維持し有効性を確保するため、定期的なモニタリング、格付の精度検証等を実施しております。

① 信用格付

「信用格付」は、信用供与先の信用力を評価する「債務者格付」及び特定貸付債権等の元利払いの確度を評価する「特殊案件格付」と、個々の与信取引にかかるデフォルト発生時の回収可能性を評価する「案件格付」から構成されております。

(ア) 債務者格付

「債務者格付」は、事業性で与信及び市場取引にかかる全ての信用供与先を対象とし、信用供与額等に応じて「事業法人等」又は「リテール（事業性）」のいずれかに区分したうえで、それぞれについて財務情報・定性情報及び外部格付情報（※）等を総合的に勘案し、信用供与先の信用力に応じた格付を付与するものです。連結グループの債務者格付は、下表のとおり、非デフォルト先12ランク、デフォルト先4ランクの16階層に区分しております。この格付区分は信用リスク管理の基礎となるほか、償却・引当の基準として自己査定における債務者区分と整合するものとなっております。

※適格格付機関が付与する外部格付と内部格付をデフォルト率の水準でマッピングしたうえで、格付ランクの勘案等に使用しております。

格付	債務者区分	リスクの程度	信用力の定義
S0	正常先	リスク極めて僅少	債務償還の確実性及び、与信管理上の安全性が最高水準にある（国・地方公共団体等）
S1			債務償還の確実性及び、与信管理上の安全性が最高水準にある（地方公共団体等）
S2			債務償還の確実性及び、与信管理上の安全性が最高水準にある
A		リスク僅少	債務償還の確実性が極めて高く、与信管理上の安全性が非常に優れた水準にある
B		リスク小	債務償還の確実性が高く、与信管理上の安全性が優れた水準にある
C		平均水準比良好	債務償還の確実性は高い水準にあり、与信管理上の安全性が十分である
D		平均水準	債務償還の確実性は問題ないが、将来確実性が低下する可能性を含む
E		許容可能レベル	債務償還の確実性は問題ないが、将来確実性が低下する可能性がある
F		リスクややあり	債務償還の確実性は問題ないが、将来確実性が低下する可能性が高い
G20	要注意先	リスクやや大	業況、債務償還能力に不安定部分がある
H20		リスク大	業況、債務償還能力に不安定部分が大きい
I20		警戒懸念延滞発生	業況、債務償還能力に不安定部分が極めて大きく、債権の全部または一部に延滞（3ヶ月未満）が発生している
I21	要管理先	警戒懸念要管理段階	業況、債務償還能力に不安定部分が極めて大きく、債権の全部または一部が要管理債権となっている
J	破綻懸念先	警戒	現状、経営破綻の状況にはないが今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる
K	実質破綻先	危険	深刻な経営難の状態にあり破綻状態に陥っている、または、法的・形式的な経営破綻の事実は発生していないが、実質的に経営破綻に陥っている
L	破綻先	破綻	深刻な経営難の状態にあり、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している

(イ) 特殊案件格付

「特殊案件格付」は、プロジェクトファイナンス等の特定貸付債権等について、事業リスク等に応じて信用リスクの程度を評価し、非デフォルト先9ランク、デフォルト先4ランクの13階層に区分しております。

(ウ) 案件格付

「案件格付」は、保全の状況及び種類等に応じて与信取引単位でデフォルト時の回収可能性を評価し、6階層（1格～6格）に区分しております。

② リテール・プール管理

「リテール・プール管理」は、リスク特性の類似するプールに割り当てることにより、プール別に信用リスク管理を行うものです。リテール・プール管理は、居住用不動産向けエクスポージャー、適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー及びその他リテール向けエクスポージャーを対象とし、債務者の属性や取引（商品性等）のリスク特性、延滞の状況等により、リテール・プール区分への割当てを実施しております。

③ 各種パラメータの推計

事業法人等向けエクスポージャーでは債務者格付別PD（1年間に債務者がデフォルトする確率）を、リテール向けエクスポージャーではプール別PD、プール別LGD（デフォルトしたエクスポージャーに生じる損失割合）及びプール別EAD（デフォルト時におけるエクスポージャーの額）を推計しております。連結グループでは、これらの各種パラメータ（PD・LGD・EAD等）を使用して自己資本比率算出上の信用リスク・アセットの額を算出しているほか、与信判断や貸出金利の決定、与信ポートフォリオ管理、与信集中リスク管理、リスク計量化、ストレステスト、資本配賦、収益管理等、当行内部の業務運営に活用しております。

④ 内部格付制度の管理と検証手続

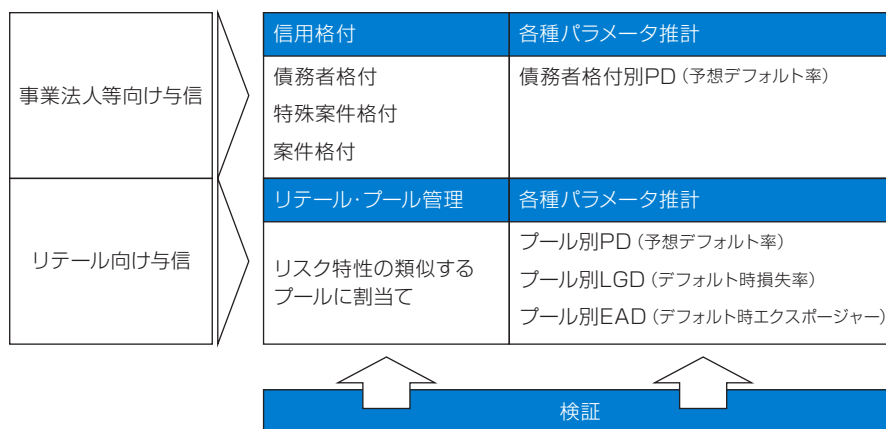
内部格付制度の運用が適切に行われるよう、営業推進部門や審査・与信管理部門から独立した信用リスク管理部署が、信用格付、リテール・プール管理及び各種パラメータ推計等を定期的に検証し、内部格付制度の正確性・一貫性の確保及び適切な見直しを行うこととしております。

信用リスク管理部署が行った各検証の結果については、全ての部門からの独立性が確保された内部監査部署が監査する態勢としており、実効性のある信用リスク管理態勢を構築しております。

検証の手続きとしては、主に統計的手法を用い、その有意性、客観性、安定性、集中度等を検証しており、検証の結果、問題点が確認された場合には、要因分析のうえ、信用格付制度の改善につなげる態勢を確保しております。

具体的には、「債務者格付」については、格付モデルの有効性、安定性及び格付の分布状況、格付の遷移状況等を、「リテール・プール管理」については、プール割当て区分の適切性等を、「パラメータ推計」については、実績値と比較した推計値の適切性等を検証しております。

内部格付制度の概要



(3) ポートフォリオごとの格付付与手続の概要

連結グループでは、個々の与信と与信先や取引の属性に応じて、以下のポートフォリオに区分したうえで「債務者格付」「特殊案件格付」「案件格付」の付与、及び「リテール・プール」への割当てを行っております。

債務者格付の付与及びリテール・プールへの割当て手続

① 事業法人向けエクスポージャー

当該債務者に対しては、担当部店が格付付与基準に基づき起案し、審査部署が承認を行う手続により「債務者格付」を付与しております。格付の判定では、財務情報、定性情報、取引情報（延滞等）、外部格付情報等を総合的に勘案しております。

- ② ソブリン向けエクスポージャー
格付の判定では、財政指標による定量評価等を勘案しております。
- ③ 金融機関向けエクスポージャー
「債務者格付」の付与手続は、事業法人向けエクスポージャーと同様です。
- ④ PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー
「債務者格付」の付与手続は、事業法人向けエクスポージャーと同様です。
- ⑤ 特定貸付債権
格付の判定では、事業リスクやファイナンス・スキームの評価等を勘案しております。
- ⑥ 居住用不動産向けエクスポージャー
「リテール・プール」への割当てでは、返済比率、借入日からの経過年数、延滞の有無、保全率等を勘案しております。
- ⑦ 適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー
「リテール・プール」への割当てでは、保証形態、延滞の有無等を勘案しております。
- ⑧ その他リテール向けエクスポージャー（消費性）
「リテール・プール」への割当てでは、商品性、延滞の有無、担保の有無等を勘案しております。
- ⑨ その他リテール向けエクスポージャー（事業性）
「リテール・プール」への割当てでは、債務者区分、延滞の有無等を勘案しております。

ポートフォリオごとの格付付与手続の概要

ポートフォリオ	内部格付制度	主な対象先	付与手続の概要
事業法人向けエクスポージャー	債務者格付	事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円以上の先等に対する与信	財務情報、定性情報、取引情報（延滞等）、外部格付情報等を総合的に勘案し、格付を付与。
金融機関向けエクスポージャー		銀行、証券会社、保険会社等に対する与信	
株式等エクスポージャー		帳簿価額50百万円以上の上場株式、非上場株式、REIT等	
ソブリン向けエクスポージャー		地方公共団体等に対する与信	
特定貸付債権	特殊案件格付	プロジェクトファイナンス、不動産ファイナンス等でノンリコースの与信	案件種類毎に事業リスクやファイナンス・スキームについて定量評価及び定性評価を総合的に勘案し、格付を付与。
居住用不動産向けエクスポージャー	リテール・プール管理	住宅ローン	債務者特性、取引特性、延滞状況（延滞有無）等により、リスク特性の類似するプールに割当て。
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー		一定金額未満の無担保カードローン等	
その他リテール向けエクスポージャー		[消費性] 居住用不動産向けエクスポージャー及び適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー以外の消費性で与信 [事業性] 事業法人（個人事業主含む）のうち与信残高50百万円未満の先等に対する与信	

(4) パラメータの推計及び検証に用いた定義、方法及びデータ

「債務者格付」を付与するポートフォリオについては、「債務者格付」の区分毎にPDの推計を行っております。また、「リテール・プール」への割当てを行うポートフォリオについては、「リテール・プール」の区分毎にPD、LGD及びEADの推計を行っております。

PDの推計に際しては、要管理先以下をデフォルトと定義し、過去のデフォルトデータに基づく事業年度毎のデフォルト率の実績値をもとに長期平均実績デフォルト率を算出し、さらに保守的な補正を反映して推計値を算出しております。LGD及びEADの推計に際しても、同様に保守性を勘案しております。

なお、自己資本比率算出に使用するPDと、内部管理に使用するPDは、デフォルトの定義が異なるものがありますが、これは、前者におけるデフォルトの定義を告示により要管理先以下としているのに対して、後者は貸倒引当金の計上基準を重視して破綻懸念先以下としているためです。

【信用リスク削減手法に関する事項】**1 リスク管理の方針および手続きの概要****(1) リスク管理の方針**

信用リスク削減手法とは、連結グループが抱える信用リスクを削減するための措置をいい、担保、保証、貸出金と自行預金の相殺を主な手法として適用しております。

与信判断に際しては、取引先の経営状態や案件の妥当性等を十分に検討しており、担保や保証については、過度に依存することなく、取引先の信用力を補完するものとして取得しております。

(2) 貸出金と自行預金の相殺を用いるにあたっての方針及び手続きの概要等

貸出金と自行預金の相殺にあたっては、担保（総合口座を含む。）登録のない相殺確実な自行定期性預金を対象とし、自己資本比率の算定にあたっては、告示上の要件をみたすものについて信用リスク削減手法を勘案しております。

(3) 派生商品取引及びレボ形式の取引について法的に有効な相対ネットティング契約を用いるにあたっての方針及び手続きの概要等

レボ形式の取引については、相対ネットティング契約である基本契約書（日証協雛型「債券貸借取引に関する基本契約書」）を用いるにあたって、その法的有効性を使用開始当初に確認しております。

(4) 担保に関する評価、管理の方針及び手続きの概要

担保評価は、あらかじめ定められた方法により実施しており、評価の見直し等は、新規の与信判断と同様の姿勢で定期的に実施しております。また、担保の管理については、その効力、対抗要件を完備し、担保を害する行為の発生防止、排除に努めております。

(5) 主要な担保の種類

主要な担保は、預金、株式、債券、不動産等となっております。なお、自己資本比率の算出にあたっては、告示上の要件をみたす適格金融資産担保、適格不動産担保を信用リスク削減手法として適用しております。

具体的には、適格金融資産担保は、自行定期性預金、国債、政府保証債、地方債、我が国の金融機関の発行する債券（劣後債を除く）、上場株式等を対象としております。適格不動産担保は、土地、建物等を対象としております。

(6) 保証人及びクレジット・デリバティブの主要な取引相手の種類及びその信用度

主要な保証人は、地方公共団体、金融機関、信用保証協会等となっております。

自己資本比率の算出にあたっては、これらに加えて、一定の信用力を有する法人による保証についても信用リスク削減手法として適用しております。なお、クレジット・デリバティブの取扱いはありません。

(7) 信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスク及びマーケット・リスクの集中に関する情報

信用リスク削減手法の適用について、同一業種への過度の集中等、特筆すべき事項はありません。また、マーケット・リスクにさらされる金融資産担保についても、特筆すべき事項はありません。

【派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項】**1 リスク管理の方針及び手続きの概要****(1) リスク管理の方針****① リスク資本及び与信限度枠の割当方法に関する方針**

金融機関を相手とする派生商品取引にかかる信用リスクについては、適格格付機関の付与する格付等をもとに、その他の銀行間取引市場における与信取引と合算で与信上限枠を設定し、管理を行っております。なお、長期決済期間取引に該当する取引はありません。

※長期決済期間取引：有価証券等の受渡し又は決済を行う取引であって、約定日から受渡日（決済日）までの期間が5営業日又は市場慣行による期間を超えることが約定され、反対取引に先立って取引相手に対して有価証券等の引渡し又は資金の支払いを行う取引

② 担保による保全及び引当金の算定に関する方針

対顧客向けの派生商品取引については、融資取引と同様に取引先の信用力、取引状況等に応じて保全を図っております。また、引当金については、自己査定結果に基づき適切に計上しております。

(2) 手続きの概要

リスク管理については、フロント部門より独立したリスク管理部門でリスク量の計測や損益等のモニタリングを行い、リスク管理委員会や取締役会へ与信上限枠の遵守状況を報告し、必要な対応を検討する態勢としております。また、対顧客向けの派生商品取引においては、担保による保全に加えて、反対取引を行うことにより市場リスクを回避しております。

2 連結グループの信用力の悪化により担保を追加的に提供することが必要になる場合の影響度に関する説明

対金融機関向けの派生商品取引において、ISDA Credit Support Annex (CSA) 契約を締結する担保付取引については、連結グループの格付が一定の格付以下に低下した場合、該当取引の範囲で一定の担保を追加提供する義務が発生しますが、影響は限定的なものと認識しております。

【証券化エクスポージャーに関する事項】

1 リスク管理の方針及びリスク特性の概要

(1) リスク管理の方針

連結グループでは、投資家として運用の多様化を目的に証券化商品に投資を行っております。連結グループがオリジネーターである証券化取引はありません。

証券化取引の有するリスクについては、適格格付機関による格付情報、裏付資産の状況等のモニタリングを定期的の実施し、的確な把握と管理に努めております。

(2) リスク特性の概要

連結グループが投資家として保有する証券化エクスポージャーは、貸出金や有価証券等と同様に信用リスク、金利リスク、市場流動性リスク等を有しております。

(3) 告示第248条第1項第1号から第4号まで（告示第302条の2第2項において準用する場合を含む。）に規定する体制の整備及びその運用状況の概要

連結グループでは、証券化取引に係るモニタリングを実施するための手順（以下、「モニタリング手順」という。）を制定し、取得すべき証券化エクスポージャーの包括的なリスク特性に係る情報、その裏付資産に関する包括的なリスク特性及びパフォーマンスに係る情報を定め、継続的、適時に情報を把握する態勢を構築しております。

また、制定したモニタリング手順に則り、証券化エクスポージャーに関する情報をオリジネーター等から定期的に収集し、証券化エクスポージャー及びその裏付資産のリスク特性、裏付資産プールのパフォーマンス及び証券化エクスポージャーに重大な影響を及ぼす可能性のある信用補完等の構造的な特性について、モニタリングを実施しております。

(4) 信用リスク削減手法として証券化取引を用いる場合の方針

連結グループは、信用リスク削減手法として証券化取引を用いておりません。

(5) 証券化エクスポージャーについて、信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称

証券化エクスポージャーの信用リスク・アセットの額の算出にあたっては、適格格付機関の格付が付与されている証券化エクスポージャーは「外部格付準拠方式」を使用し、「外部格付準拠方式」に該当しない場合は「標準的手法準拠方式」を使用しております。

(6) 証券化エクスポージャーのマーケット・リスク相当額の算出に使用する方式の名称

連結グループは、自己資本比率の計算にあたりマーケット・リスク相当額は不算入としております。

(7) 証券化目的導管体を用いて行った第三者の資産に係る証券化取引について、当該証券化目的導管体の種類、及び連結グループの当該証券化取引に係る証券化エクスポージャーの保有の有無

連結グループは、証券化目的導管体を用いた第三者の資産に係る証券化取引は行っておりません。

(8) 当行の子法人等及び関連法人等のうち、当行が行った証券化取引（証券化目的導管体を用いて行った証券化取引を含む。）に係る証券化エクスポージャーを保有しているものの名称

該当ありません。

(9) 証券化取引に関する会計方針

① 会計方針

「金融商品に関する会計基準」及び「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号）によっております。

② 売却資産の認識

該当ありません。

(10) 証券化エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイト判定に使用する適格格付機関の名称

連結グループでは、次の格付機関が付与した格付を使用し、証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトを判定しております。

株式会社格付投資情報センター（R&I）

株式会社日本格付研究所（JCR）

ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）

S&Pグローバル・レーティング（S&P）

(11) 内部評価方式を用いている場合には、その概要

証券化エクスポージャーの信用リスク・アセットの額の算出において、内部評価方式は用いておりません。

(12) 定量的な情報に重要な変更が生じた場合には、その内容

該当ありません。

【CVAリスクに関する事項】

(1) CVAリスク相当額の算出に使用する手法の名称

連結グループは、告示に基づく「限定的なBA-CVA」によりCVA相当額を算出しております。

(2) CVAリスク相当額算出の対象取引の概要

取引先と直接取引を行う通貨オプションや通貨スワップ及び為替予約取引、貸出金に付随する金利スワップ取引等の派生商品取引を対象としております。

(3) CVAリスクの特性及びCVAに関するリスク管理体制の概要

連結グループが有するCVAリスクは、取引相手の信用リスクを反映しています。

CVAリスクについては、会計上の重要性は乏しいと整理しているため、デリバティブの時価へは反映しておりません。そのため、取引のモニタリングは実施しておりますが、CVAリスクを管理するための体制は設けておりません。

【マーケット・リスクに関する事項】

連結グループは、自己資本比率の計算にあたり、マーケット・リスク相当額は不算入としております。

【オペレーショナル・リスクに関する事項】

1 リスク管理の方針及び手続きの概要

(1) リスク管理の方針

連結グループは、オペレーショナル・リスクの顕在化が経営及び業務遂行に大きな影響を及ぼし得ることを認識し、オペレーショナル・リスクを適切に管理する態勢の確立及び、管理の実効性向上に取り組んでおります。

(2) 手続きの概要

連結グループは、オペレーショナル・リスクを「内部プロセス、人、システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから生じる損失に係るリスク」と定義したうえで、①事務リスク、②情報資産（システム）リスク、③有形資産リスク、④人材リスク、⑤法的リスク、⑥評判リスクの6つのカテゴリーに区分して管理しております。具体的には、当行ならびに当行の各リスク所管部がそれぞれの所管するリスクを管理するとともに、オペレーショナル・リスク統括部署が各リスク所管部と連携を図りオペレーショナル・リスク全体を統括・管理することにより、多様なオペレーショナル・リスクを適切に管理する態勢としております。また、オペレーショナル・リスクに関する損失情報やリスク指標等の収集・分析、必要な手続・管理手法等の制定・整備等、オペレーショナル・リスクの管理状況についてリスク管理委員会、取締役会等へ報告・審議を行うことにより、適切な措置がとられる態勢としております。

2 オペレーショナル・リスク相当額の算出方法の概要

(1) 算出に使用する手法の名称

連結グループは、告示に基づく「標準的計測手法」によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しております。

(2) BIの算出方法

連結グループは、告示に基づき以下の各要素の額を合計してBI（事業規模指標）を算出しています。

要素	算出方法
ILDC（金利要素）	資金運用収益から資金調達費用を減じた額の絶対値（※）又は金利収益資産（※）に2.25%を乗じた値のいずれか小さい値に、受取配当金（※）の値を加えて算出される額
SC（役務要素）	役務取引等収益（※）または役務取引等費用（※）のいずれか大きい値に、その他業務収益（※）又はその他業務費用（※）のいずれか大きい値を加えて算出される額
FC（金融商品要素）	商品有価証券勘定及び売付商品債券勘定のネット損益の絶対値（※）に、商品有価証券勘定及び売付商品債券勘定以外の勘定のネット損益（※）の絶対値を加えて算出される額

※直近3年間の平均値を合計した額

(3) ILMの算出方法

連結グループは、告示第306条第1項第3号に基づき「1」を使用しています。

(4) オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって、BIの算出から除外した連結子法人等又は事業部門の有無該当ありません。

(5) オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって、ILMの算出から除外した特殊損失の有無該当ありません。

【出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項】

1 リスク管理の方針及び手続きの概要

(1) リスク管理の方針

連結グループにおける株式等の保有は、池田泉州ホールディングスが『コーポレート・ガバナンスに関する報告書』で開示した政策保有株式に関する基本方針に基づき、年度毎に保有の目的および方針を取締役会で決定し、厳格な運用を行っております。

また、リスク管理においても、年度毎に政策投資株式に対する「リスク資本配賦額」や、総合損益ベースでの「損失の限度額」を取締役会等の決議により設定し、その遵守状況を定期的にモニタリングすることにより、株式にかかる価格変動リスクを一定の範囲内に抑える管理運営を行っております。

(2) 手続きの概要

具体的には、フロント部門より独立したリスク管理部門でバリュー・アット・リスク（VaR）によるリスク量の計測や総合損益等のモニタリングを日次で行い、月次でリスク管理委員会や取締役会へ設定額の遵守状況を報告し、必要な対応を検討する態勢としております。

(3) その他有価証券、子会社株式及び関連会社株式の区分毎のリスク管理の方針

その他有価証券については、その投資目的に応じて純投資株式または政策投資株式に区分し、子会社株式及び関連会社株式は政策投資株式に含めて管理しております。

(4) 株式等エクスポージャーの評価等重要な会計方針

株式等の評価は、時価のあるものについては決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）により、また、市場価格のないものについては移動平均法による原価法により行っております。

また、未上場株式を含め四半期毎に自己査定を実施し、評価損が発生しているものについて、回復可能性を判断のうえ、減損、引当処理を実施しております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

株式等について、会計方針等を変更した場合は、財務諸表等規則第8条の3に基づき変更の理由や影響額について財務諸表の注記に記載しております。

なお、当行以外の連結子会社の保有する株式についても上記に準じて取り扱う態勢としていますが、当行以外の連結子会社の保有する株式の価格変動リスクが限定的であることから、当行の保有する株式等エクスポージャーの市場リスク量を適切に管理することにより、連結グループの株式等エクスポージャーの市場リスクを管理しております。

2 不動産投資法人への出資及びこれに類する出資のリスク・ウェイトの判定に係る基準

株式等エクスポージャーへの投資に準じてリスク・ウェイトを判定しております。

【金利リスクに関する事項】**1 リスク管理の方針及び手続の概要****(1) リスク管理の方針**

金利リスクとは、全ての金利感応資産・負債・オフバランス取引に係る金利リスクを指し、連結グループでは、市場リスクに内包するものとして、年度毎に市場リスクに対する「リスク資本配賦額」や、有価証券等を取扱う業務執行部門に対する総合損益ベースでの「損失の上限額」を取締役会等の決裁により設定し、その遵守状況を定期的にモニタリングすることにより、市場リスク量や損失額を一定の範囲内に抑える管理運営を行っております。

なお、連結グループの金利リスク管理については、当行以外の連結子会社の金利リスクが限定的であることから、当行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより、連結グループの金利リスクを管理する態勢としております。

また、ヘッジ等金利リスクの削減手法としては、有価証券売却や金利スワップ等を活用しております。

(2) 手続きの概要

フロント部門より独立したリスク管理部門でバリュー・アット・リスク（VaR）によるリスク量の計測や総合損益等のモニタリングを日次で実施し、月次でリスク管理委員会や取締役会へ設定額の遵守状況を報告する態勢としております。

2 金利リスクの算定手法の概要**(1) 開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE(※1)及び△NII(※2)並びに連結グループがこれらに追加して自ら開示を行う金利リスクに関する事項**

(※1)金利変動に伴う経済価値変化

(※2)金利変動に伴う金利収益変化

① 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期

3.10年となっております。

② 流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期

10年となっております。

③ 流動性預金への満期の割り当て方法（コア預金モデル等）及びその前提

明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される流動性預金のうち、引き出されることなく長期間銀行に滞留する預金をコア預金と定義し、内部モデルを使用して満期を割り当てております。具体的には、過去の流動性預金残高の変化率と預金金利の市場金利への追従率を統計的に解析することで、将来の預金残高を保守的に推計しております。なお、推計した将来残高について定期的にバックテストを実施するなど、モデルの検証等は十分に行っております。

④ 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提

金融庁が定める保守的な前提を採用しております。

⑤ 複数の通貨の集計方法及びその前提

通貨別に算出した金利リスクの正となる値についてのみ、通貨間の相関を考慮せず合算しております。

⑥ スプレッドに関する前提（計算にあたって割引金利やキャッシュフローに含めるか否か等）

割引金利にはスプレッドを含めずリスクフリーレートを使用し、キャッシュフローにはスプレッドを含めております。

⑦ 内部モデルの使用等、△EVE及び△NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提

△EVEの算出にあたっては、コア預金内部モデルを使用しております。

△NIIの算出にあたっては、商品毎に一定の市場金利追従率を考慮しております。

⑧ 前事業年度末の開示からの変動に関する説明

2023年度より、流動性預金の金利リスク算定について、コア預金内部モデルを前提としたことに伴い、△EVEが最大となるシナリオが下方パラレルシフトシナリオとなりました。（前年度はスティーブ化シナリオ）

⑨ 計測値の解釈や重要性に関するその他の説明

△EVEは、下方パラレルシフトシナリオにおいて監督上の基準値である自己資本の20%を超過しておりますが、金利低下を想定した金利ショックシナリオによる実質的な影響は軽微であるため、金利リスク管理上、問題ない水準と認識しております。

(2) 連結グループが、自己資本の充実度の評価、ストレステスト、リスク管理、収益管理、経営上の判断その他の目的で、開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE及び△NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する以下の事項

連結グループでは、市場リスク量の統一的な尺度として、バリュー・アット・リスク（VaR）(※1)を採用しているほか、ベース・ポイント・バリュー（BPV）による分析等、多面的なリスクの把握に努めております。またストレステストやバック・テストングにより、計量化手法の妥当性や有効性を検証し、リスク管理の実効性を確保するとともに、計量化手法の高度化・精緻化に努めております。

(※1)計測前提条件：観測期間240日、保有期間120日、信頼区間99%

定量的な開示事項

【その他金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額】
該当ありません。

【自己資本の充実度に関する事項】

連結

(1) 信用リスク・アセットの額及び信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日		2024年3月31日	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
標準的手法が適用されるポートフォリオ (A)	50,275	4,022	57,425	4,594
内部格付手法の適用除外資産	50,275	4,022	33,342	2,667
内部格付手法の段階的適用資産	—	—	24,082	1,926
内部格付手法が適用されるポートフォリオ (B)	1,440,743	145,425	1,450,506	147,354
事業法人等向けエクスポージャー	750,382	81,377	756,389	79,642
事業法人向けエクスポージャー（特定貸付債権を除く）	598,121	68,078	608,341	66,777
特定貸付債権	39,744	4,209	38,999	4,068
ソブリン向けエクスポージャー	46,313	3,739	54,795	4,420
金融機関等向けエクスポージャー	66,203	5,349	54,252	4,376
リテール向けエクスポージャー	391,975	40,166	371,484	41,890
居住用不動産向けエクスポージャー	294,310	28,240	273,988	29,011
適格リボリング型リテール向けエクスポージャー	9,676	1,199	9,113	1,137
その他リテール向けエクスポージャー(消費性)	43,152	4,182	45,886	4,477
その他リテール向けエクスポージャー(事業性)	44,837	6,544	42,496	7,263
株式等エクスポージャー	90,423	7,233	107,757	8,620
PD/LGD方式	71,387	5,710	87,266	6,981
マーケット・ベース方式（簡易手法）	7,434	594	8,103	648
投機的な非上場株式等	—	—	—	—
上記以外の株式等	11,601	928	12,386	990
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー	48,491	3,890	64,455	5,167
ルックスルー方式	41,779	3,353	61,068	4,896
フォールバック方式	6,712	537	3,387	270
証券化エクスポージャー	7,400	592	5,698	455
購入債権	—	—	1	0
その他資産等	140,413	11,233	135,942	10,875
CVAリスク	11,655	932	8,776	702
SA-CVA	—	—	—	—
完全なBA-CVA	—	—	—	—
限定的なBA-CVA	11,655	932	8,776	702
簡便法	—	—	—	—
標準的リスク測定方式	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—
信用リスク (A) + (B)	1,491,019	149,447	1,507,931	151,948
オペレーショナル・リスク (C)	106,683	8,534	108,917	8,713
合計 (A) + (B) + (C)	1,597,702	157,982	1,616,849	160,662

- (注) 1. マーケット・リスク相当額に係る額を算入しておりません。
2. 標準的手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。
3. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×8%+期待損失額」により算出しています。
4. 「事業法人向け」には「中堅中小企業向け」を含み、「特定貸付債権」を除いています。
5. 「株式等」のリスク・ウェイトには経過措置を適用しています。投機的な非上場株式等及び上記以外の株式等には標準的手法を適用しています。
6. CVAリスクの所要自己資本の額は「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。
7. オペレーショナル・リスクの所要自己資本の額は「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。

(2) オペレーショナル・リスクに関する額

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日	2024年3月31日
BI	71,122	72,611
BIC	8,534	8,713

(注) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用するILMは告示第306条第1項第3号に基づき「1」を使用しています。

(3) 連結総所要自己資本額

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
総所要自己資本額	1,597,702	63,908	1,621,984	64,879

(注) 所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×4%」により算出しています。

単体

(1) 信用リスク・アセットの額及び信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日		2024年3月31日	
	信用リスク・アセットの額	所要自己資本の額	信用リスク・アセットの額	所要自己資本の額
標準的手法が適用されるポートフォリオ (A)	1,297	103	3,577	286
内部格付手法の適用除外資産	1,297	103	3,577	286
内部格付手法の段階的適用資産	—	—	—	—
内部格付手法が適用されるポートフォリオ (B)	1,459,352	146,506	1,469,336	148,193
事業法人等向けエクスポージャー	766,015	82,695	773,161	81,056
事業法人向けエクスポージャー（特定貸付債権を除く）	613,754	69,397	625,540	68,225
特定貸付債権	39,744	4,209	38,999	4,068
ソブリン向けエクスポージャー	46,313	3,739	54,368	4,385
金融機関等向けエクスポージャー	66,203	5,349	54,252	4,376
リテール向けエクスポージャー	391,197	39,627	370,618	41,080
居住用不動産向けエクスポージャー	293,582	27,780	273,166	28,284
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,627	1,133	9,071	1,080
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	43,151	4,170	45,884	4,453
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	44,836	6,543	42,495	7,263
株式等エクスポージャー	94,698	7,575	112,327	8,986
PD/LGD方式	81,513	6,521	95,804	7,664
マーケット・ベース方式（簡易手法）	1,583	126	1,519	121
投機的な非上場株式等	—	—	—	—
上記以外の株式等	11,601	928	15,003	1,200
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー	54,227	4,349	72,199	5,787
ルックスルー方式	47,155	3,784	68,453	5,487
フォールバック方式	7,072	565	3,746	299
証券化エクスポージャー	7,400	592	5,698	455
購入債権	—	—	1	0
その他資産等	134,157	10,732	126,552	10,124
CVAリスク	11,655	932	8,776	702
SA-CVA	—	—	—	—
完全なBA-CVA	—	—	—	—
限定的なBA-CVA	11,655	932	8,776	702
簡便法	—	—	—	—
標準的リスク測定方式	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—
信用リスク (A) + (B)	1,460,650	146,610	1,472,914	148,479
オペレーショナル・リスク (C)	101,621	8,129	104,112	8,329
合計 (A) + (B) + (C)	1,562,272	154,739	1,577,026	156,808

- (注) 1. マーケット・リスク相当額に係る額を算入しておりません。
2. 標準的手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。
3. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×8%+期待損失額」により算出しています。
4. 「事業法人向け」には「中堅中小企業向け」を含み、「特定貸付債権」を除いています。
5. 「株式等」のリスク・ウェイトには経過措置を適用しています。投機的な非上場株式等及び上記以外の株式等には標準的手法を適用しています。
6. CVAリスクの所要自己資本の額は「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。
7. オペレーショナル・リスクの所要自己資本の額は「リスク・アセットの額×8%」により算出しています。

(2) オペレーショナル・リスクに関する額

(単位：百万円)

項目	2023年3月31日	2024年3月31日
BI	67,747	69,408
BIC	8,129	8,329

(注) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用するILMは告示第306条第1項第3号に基づき「1」を使用しています。

(3) 総所要自己資本額

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
総所要自己資本額	1,562,272	62,490	1,603,948	64,157

(注) 所要自己資本の額は、「リスク・アセットの額×4%」により算出しています。

【信用リスクに関する事項】

(1) 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及び主な種類別の内訳

(リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

連結

(単位：百万円)

2023年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他 オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
標準的手法が適用されたエクスポージャー	197,003	253	—	146,424	—	—	50,325
内部格付手法が適用されたエクスポージャー	6,374,457	4,761,769	366,424	143,813	4,003	185,667	912,777
合計	6,571,461	4,762,023	366,424	290,238	4,003	185,667	963,102

(単位：百万円)

2024年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他 オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
標準的手法が適用されたエクスポージャー	219,993	228	—	165,472	—	—	54,292
内部格付手法が適用されたエクスポージャー	6,552,319	4,831,269	500,565	146,716	1,737	148,514	923,517
合計	6,772,312	4,831,497	500,565	312,188	1,737	148,514	977,809

単体

(単位：百万円)

2023年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他 オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
標準的手法が適用されたエクスポージャー	2,044	—	—	—	—	—	2,044
内部格付手法が適用されたエクスポージャー	6,448,450	4,786,346	366,424	146,459	4,003	185,667	959,547
合計	6,450,494	4,786,346	366,424	146,459	4,003	185,667	961,592

(単位：百万円)

2024年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他 オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
標準的手法が適用されたエクスポージャー	4,239	—	—	—	—	—	4,239
内部格付手法が適用されたエクスポージャー	6,583,561	4,858,586	492,589	143,818	1,737	148,514	938,315
合計	6,587,801	4,858,586	492,589	143,818	1,737	148,514	942,554

(注) 1. 「その他」には、預け金、現金、株式、その他の資産等が含まれております。

2. CVAリスク及び中央清算機関に係るエクスポージャーは含まれておりません。

3. 信用リスクに関するエクスポージャーについて、期末残高はその期のリスク・ポジションから大幅に乖離しておりません。

連結

(単位：百万円)

2023年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
国内	6,557,136	4,758,525	360,902	290,238	3,581	185,667	958,221
海外	14,325	3,497	5,522	0	422	—	4,881
地域別合計	6,571,461	4,762,023	366,424	290,238	4,003	185,667	963,102
製造業	368,029	324,645	19,372	17,330	526	790	5,364
農業、林業	540	509	—	30	—	—	—
漁業	154	146	—	8	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	279	277	—	2	—	—	—
建設業	152,510	139,370	8,405	4,505	3	67	157
電気・ガス・熱供給・水道業	30,008	27,021	2,889	94	—	2	—
情報通信業	22,197	21,414	177	30	—	—	574
運輸業、郵便業	148,601	112,373	29,587	1,907	1	142	4,589
卸売業、小売業	361,550	340,187	7,893	7,230	2,489	2,164	1,586
金融業、保険業	1,309,173	211,305	131,830	12,029	974	181,333	771,700
不動産業、物品賃貸業	748,816	708,527	7,679	10,926	—	—	21,683
各種サービス業	367,778	351,504	5,980	8,786	8	1,103	394
国・地方公共団体	712,101	557,522	150,109	4,469	—	—	—
その他	2,349,719	1,967,214	2,500	222,888	—	64	157,052
業種別合計	6,571,461	4,762,023	366,424	290,238	4,003	185,667	963,102
1年以下	863,580	723,904	29,030	96,933	837	4,753	8,120
1年超3年以下	434,630	290,451	103,345	35,370	1,462	4,000	—
3年超5年以下	437,910	353,884	72,777	2,979	1,177	7,090	—
5年超7年以下	264,471	236,286	20,702	976	526	5,979	—
7年超	3,410,633	3,150,921	140,568	35	—	119,108	—
期限の定めがないもの	1,160,234	6,574	—	153,942	—	44,736	954,982
残存期間別合計	6,571,461	4,762,023	366,424	290,238	4,003	185,667	963,102

(単位：百万円)

2024年3月31日							
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
国内	6,764,191	4,828,331	500,565	312,088	1,553	148,514	973,138
海外	8,121	3,165	—	100	183	—	4,671
地域別合計	6,772,312	4,831,497	500,565	312,188	1,737	148,514	977,809
製造業	364,306	325,448	16,780	15,578	136	1,032	5,328
農業、林業	485	455	—	30	—	—	—
漁業	196	188	—	7	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	138	136	—	2	—	—	—
建設業	152,955	140,364	8,315	4,094	0	23	157
電気・ガス・熱供給・水道業	30,214	27,286	2,890	35	—	2	—
情報通信業	20,099	19,252	158	115	—	—	572
運輸業、郵便業	151,026	117,169	27,663	1,858	24	136	4,174
卸売業、小売業	355,704	335,851	7,181	7,983	808	2,132	1,745
金融業、保険業	1,228,092	206,732	120,494	9,583	764	143,839	746,677
不動産業、物品賃貸業	777,959	733,569	7,410	11,138	—	—	25,841
各種サービス業	364,967	349,332	4,452	9,497	1	1,288	395
国・地方公共団体	851,792	541,997	302,717	7,030	—	—	47
その他	2,474,373	2,033,710	2,500	245,234	—	59	192,868
業種別合計	6,772,312	4,831,497	500,565	312,188	1,737	148,514	977,809
1年以下	852,424	682,140	71,477	89,424	474	3,941	4,966
1年超3年以下	443,564	314,486	78,512	39,087	555	10,921	—
3年超5年以下	425,994	362,066	56,817	599	551	5,959	—
5年超7年以下	509,296	416,674	84,186	2,128	155	6,150	—
7年超	3,370,176	3,049,440	201,595	3,015	—	116,125	—
期限の定めがないもの	1,170,857	6,689	7,975	177,933	—	5,415	972,843
残存期間別合計	6,772,312	4,831,497	500,565	312,188	1,737	148,514	977,809

(注) 1. 「地域別」について、「海外」は各エクスポージャーの本社所在地が日本以外のものを対象としております。

2. 「業種別」について、現金、有形資産等は「その他」に計上しております。

3. 「残存期間別」について、株式、現金、ファンド、有形資産等は「期限の定めがないもの」に計上しております。

	2023年3月31日						
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
国内	6,436,169	4,782,848	360,902	146,459	3,581	185,667	956,710
海外	14,325	3,497	5,522	0	422	—	4,881
地域別合計	6,450,494	4,786,346	366,424	146,459	4,003	185,667	961,592
製造業	368,029	324,645	19,372	17,330	526	790	5,364
農業、林業	540	509	—	30	—	—	—
漁業	154	146	—	8	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	279	277	—	2	—	—	—
建設業	152,510	139,370	8,405	4,505	3	67	157
電気・ガス・熱供給・水道業	30,008	27,021	2,889	94	—	2	—
情報通信業	22,264	21,414	177	30	—	—	641
運輸業、郵便業	148,601	112,373	29,587	1,907	1	142	4,589
卸売業、小売業	361,550	340,187	7,893	7,230	2,489	2,164	1,586
金融業、保険業	1,321,019	215,239	131,830	14,674	974	181,333	776,966
不動産業、物品賃貸業	770,754	729,660	7,679	10,926	—	—	22,488
各種サービス業	367,818	351,504	5,980	8,786	8	1,103	434
国・地方公共団体	712,101	557,522	150,109	4,469	—	—	—
その他	2,194,861	1,966,470	2,500	76,463	—	64	149,363
業種別合計	6,450,494	4,786,346	366,424	146,459	4,003	185,667	961,592
1年以下	872,962	730,640	29,030	99,579	837	4,753	8,120
1年超3年以下	439,033	294,854	103,345	35,370	1,462	4,000	—
3年超5年以下	451,837	367,812	72,777	2,979	1,177	7,090	—
5年超7年以下	264,471	236,286	20,702	976	526	5,979	—
7年超	3,410,633	3,150,921	140,568	35	—	119,108	—
期限の定めがないもの	1,011,555	5,830	—	7,517	—	44,736	953,471
残存期間別合計	6,450,494	4,786,346	366,424	146,459	4,003	185,667	961,592

(単位：百万円)

	2024年3月31日						
	信用リスクに関する エクスポージャーの 期末残高	うち 貸出金	うち 債券	うち コミットメント	うち デリバティブ	うち その他オフバランス (コミットメント、 デリバティブ以外)	うち その他
国内	6,579,679	4,855,420	492,589	143,717	1,553	148,514	937,883
海外	8,121	3,165	—	100	183	—	4,671
地域別合計	6,587,801	4,858,586	492,589	143,818	1,737	148,514	942,554
製造業	364,306	325,448	16,780	15,578	136	1,032	5,328
農業、林業	485	455	—	30	—	—	—
漁業	196	188	—	7	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	138	136	—	2	—	—	—
建設業	152,955	140,364	8,315	4,094	0	23	157
電気・ガス・熱供給・水道業	30,214	27,286	2,890	35	—	2	—
情報通信業	20,165	19,252	158	115	—	—	639
運輸業、郵便業	151,026	117,169	27,663	1,858	24	136	4,174
卸売業、小売業	355,704	335,851	7,181	7,983	808	2,132	1,745
金融業、保険業	1,238,959	210,110	120,494	11,805	764	143,839	751,944
不動産業、物品賃貸業	803,542	758,346	7,410	11,138	—	—	26,646
各種サービス業	365,007	349,332	4,452	9,497	1	1,288	435
国・地方公共団体	843,816	541,997	294,741	7,030	—	—	47
その他	2,261,281	2,032,645	2,500	74,641	—	59	151,434
業種別合計	6,587,801	4,858,586	492,589	143,818	1,737	148,514	942,554
1年以下	863,334	690,828	71,477	91,646	474	3,941	4,966
1年超3年以下	449,936	320,859	78,512	39,087	555	10,921	—
3年超5年以下	439,088	375,160	56,817	599	551	5,959	—
5年超7年以下	509,296	416,674	84,186	2,128	155	6,150	—
7年超	3,370,176	3,049,440	201,595	3,015	—	116,125	—
期限の定めがないもの	955,968	5,624	—	7,340	—	5,415	937,588
残存期間別合計	6,587,801	4,858,586	492,589	143,818	1,737	148,514	942,554

(注) 1. 「地域別」について、「海外」は各エクスポージャーの本社所在地が日本以外のものを対象としております。

2. 「業種別」について、現金、有形資産等は「その他」に計上しております。

3. 「残存期間別」について、株式、現金、ファンド、有形資産等は「期限の定めがないもの」に計上しております。

(2) 延滞又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
国内	48,405	51,188	47,926	50,363
海外	—	—	—	—
地域別合計	48,405	51,188	47,926	50,363
製造業	7,122	7,632	7,122	7,632
農業、林業	445	437	445	437
漁業	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
建設業	6,032	5,524	6,032	5,524
電気・ガス・熱供給・水道業	17	188	17	188
情報通信業	429	546	429	546
運輸業、郵便業	2,566	3,060	2,566	3,060
卸売業、小売業	7,881	9,901	7,881	9,901
金融業、保険業	35	111	35	111
不動産業、物品賃貸業	4,807	5,317	4,807	5,317
各種サービス業	14,576	12,670	14,576	12,670
国・地方公共団体	—	—	—	—
その他	4,489	5,796	4,009	4,971
業種別合計	48,405	51,188	47,926	50,363

(注)「延滞又はデフォルトしたエクスポージャー」とは、以下の通りです。

内部格付手法が適用されるエクスポージャー

…債務者区分が要管理先以下となった取引先に対するエクスポージャー

標準的手法が適用されるエクスポージャー

…元本又は利息の支払いが3ヶ月以上延滞しているもの、債務者区分が要管理先以下となった取引先に対するもの、または、引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%となるエクスポージャー

(3) 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	期末残高	期中増減額	期末残高	期中増減額
一般貸倒引当金	4,464	△2,035	3,321	△1,143
個別貸倒引当金	6,839	△1,525	7,104	264
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—
合計	11,304	△3,561	10,426	△878

単体

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	期末残高	期中増減額	期末残高	期中増減額
一般貸倒引当金	3,341	△1,829	2,318	△1,023
個別貸倒引当金	5,688	△1,446	5,883	195
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—
合計	9,029	△3,275	8,201	△828

(4) 個別貸倒引当金の地域別残高

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	期末残高	期中増減額	期末残高	期中増減額
国内	6,839	△1,525	7,104	264
海外	—	—	—	—
合計	6,839	△1,525	7,104	264

単体

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	期末残高	期中増減額	期末残高	期中増減額
国内	5,688	△1,446	5,883	195
海外	—	—	—	—
合計	5,688	△1,446	5,883	195

(注) 特定海外債権引当勘定は該当ありません。

(5) 業種別の個別貸倒引当金残高及び貸出金償却の額

連結

(単位：百万円)

	2023年3月31日			2024年3月31日		
	個別貸倒引当金		貸出金償却の額 2022年4月～2023年3月	個別貸倒引当金		貸出金償却の額 2023年4月～2024年3月
	期末残高	期中増減額		期末残高	期中増減額	
製造業	1,386	△99	—	1,284	△102	346
農業、林業	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	1,497	150	6	1,019	△478	24
電気・ガス・熱供給・水道	—	—	—	—	—	—
情報通信業	2	0	—	—	△2	—
運輸業、郵便業	174	△76	140	561	386	27
卸売・小売業	579	△191	202	602	23	372
金融・保険業	24	△17	8	40	16	11
不動産業、物品賃貸業	1,389	△393	0	1,424	34	—
その他サービス業	586	△703	735	932	346	326
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人・その他	1,198	△193	389	1,239	40	627
合計	6,839	△1,525	1,484	7,104	264	1,736

単体

(単位：百万円)

	2023年3月31日			2024年3月31日		
	個別貸倒引当金		貸出金償却の額 2022年4月～2023年3月	個別貸倒引当金		貸出金償却の額 2023年4月～2024年3月
	期末残高	期中増減額		期末残高	期中増減額	
製造業	1,386	△99	—	1,284	△102	346
農業、林業	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	1,497	150	6	1,019	△478	24
電気・ガス・熱供給・水道	—	—	—	—	—	—
情報通信業	2	0	—	—	△2	—
運輸業、郵便業	174	△76	140	561	386	27
卸売・小売業	579	△191	202	602	23	372
金融・保険業	24	△17	8	40	16	11
不動産業、物品賃貸業	1,389	△393	0	1,424	34	—
その他サービス業	586	△703	735	932	346	326
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人・その他	47	△114	0	17	△29	0
合計	5,688	△1,446	1,094	5,883	195	1,109

(注) 1. 一般貸倒引当金は地域別・業種別に算定を行っておりません。
2. 特定海外債権引当勘定は該当ありません。

【標準的手法が適用されるエクスポージャーに関する事項】

(1) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオ区分ごとの内訳

連結

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	2023年3月31日					
	信用リスク・エクスポージャーの額				信用リスク・ アセットの額	平均リスク・ ウェイト (%)
	CCF・信用リスク削減手法 適用前		CCF・信用リスク削減手法 適用後			
	オンバランス	オフバランス	オンバランス	オフバランス		
日本国政府及び日本銀行向け	602	—	602	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	167	—	167	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	63	—	63	—	6	10%
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	194	—	194	—	46	24%
うち第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバードボンド	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権を含む）	1,266	—	1,266	—	473	37%
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	27,213	146,424	27,213	14,642	31,392	75%
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち賃貸用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち事業用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うちその他不動産向け	—	—	—	—	—	—
うちADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産向けエクスポージャーを除く）	—	—	—	—	—	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	0	—	0	—	—	0%
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付き	—	—	—	—	—	—
株式会社地域活性化支援機構等による保証付き	—	—	—	—	—	—
その他	23,442	—	23,442	—	23,442	100%
合計	52,951	146,424	52,951	14,642	55,361	82%

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	2024年3月31日					
	信用リスク・エクスポージャーの額				信用リスク・ アセットの額	平均リスク・ ウェイト (%)
	CCF・信用リスク削減手法 適用前		CCF・信用リスク削減手法 適用後			
	オンバランス	オフバランス	オンバランス	オフバランス		
日本国政府及び日本銀行向け	469	—	469	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	160	—	160	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	63	—	63	—	6	10%
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	141	—	141	—	35	25%
うち第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバードボンド	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権を含む）	1,922	—	1,922	—	856	45%
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	28,877	165,472	28,877	16,547	34,068	75%
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち賃貸用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち事業用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うちその他不動産向け	—	—	—	—	—	—
うちADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産向けエクスポージャーを除く）	—	—	—	—	—	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	0	—	0	—	—	0%
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付き	—	—	—	—	—	—
株式会社地域活性化支援機構等による保証付き	—	—	—	—	—	—
その他	27,124	—	27,124	—	27,124	100%
合計	58,759	165,472	58,759	16,547	62,091	82%

単体

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	2023年3月31日					
	信用リスク・エクスポージャーの額				信用リスク・ アセットの額	平均リスク・ ウェイト (%)
	CCF・信用リスク削減手法 適用前		CCF・信用リスク削減手法 適用後			
	オンバランス	オフバランス	オンバランス	オフバランス		
日本国政府及び日本銀行向け	602	—	602	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	88	—	88	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	63	—	63	—	6	10%
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
うち第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバードボンド	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権を含む）	—	—	—	—	—	—
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	—	—	—
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち賃貸用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち事業用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うちその他不動産向け	—	—	—	—	—	—
うちADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産向けエクスポージャーを除く）	—	—	—	—	—	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	—	—	—	—	—	—
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付き	—	—	—	—	—	—
株式会社地域活性化支援機構等による保証付き	—	—	—	—	—	—
その他	1,291	—	1,291	—	1,291	100%
合計	2,044	—	2,044	—	1,297	63%

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	2024年3月31日					
	信用リスク・エクスポージャーの額				信用リスク・ アセットの額	平均リスク・ ウェイト (%)
	CCF・信用リスク削減手法 適用前		CCF・信用リスク削減手法 適用後			
	オンバランス	オフバランス	オンバランス	オフバランス		
日本国政府及び日本銀行向け	469	—	469	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	135	—	135	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	63	—	63	—	6	10%
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
うち第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバードボンド	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権を含む）	—	—	—	—	—	—
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	—	—	—
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち賃貸用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち事業用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うちその他不動産向け	—	—	—	—	—	—
うちADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産向けエクスポージャーを除く）	—	—	—	—	—	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	—	—	—	—	—	—
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付き	—	—	—	—	—	—
株式会社地域活性化支援機構等による保証付き	—	—	—	—	—	—
その他	3,570	—	3,570	—	3,570	100%
合計	4,239	—	4,239	—	3,577	84%

(2) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオ区分ごと並びにリスクウェイト区分ごとの内訳

連結

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	リスク・ウェイト	2023年3月31日								
		信用リスク・エクスポージャーの額（CCF・信用リスク削減手法適用後）							合 計	
	0%	20%	50%	100%	150%	その他				
日本国政府及び日本銀行向け	602	—	—	—	—	—	—	602		
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計		
我が国の地方公共団体向け	167	—	—	—	—	—	—	167		
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
地方公共団体金融機構向け	—	63	—	—	—	—	—	63		
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合 計		
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合 計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	155	3	35	—	—	—	—	—	194	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合 計	
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合 計
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	927	102	—	—	—	237	—	—	—	1,266
うち、特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	100%	150%	250%	400%	その他				合 計	
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	45%	75%	100%	その他					合 計	
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	41,856	—	—	—	—	—	—	41,856	—
	20%	25%	30%	40%	50%	70%	75%	その他	合 計	
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20%	31.25%	37.50%	50%	62.50%			その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—			—	—	—
	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合 計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%			その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—			—	—	—
	70%	90%	110%	150%	その他				合 計	
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	70%	112.50%						その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—						—	—	—
	60%	その他							合 計	
不動産関連向け うち、その他不動産関連	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	60%	その他							合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	100%	150%	その他						合 計	
不動産関連向けうち、ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	50%	100%	150%	その他					合 計	
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	0%	10%	20%	その他					合 計	
現金	0	—	—	—	—	—	—	—	0	—
取立未済手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	100%	その他							合 計	
その他資産等	23,442	—	—	—	—	—	—	—	23,442	—

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分		リスク・ウェイト	2024年3月31日								
			信用リスク・エクスポージャーの額（CCF・信用リスク削減手法適用後）								
		0%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計			
日本国政府及び日本銀行向け		469	—	—	—	—	—	469			
外国の中央政府及び中央銀行向け		—	—	—	—	—	—	—			
国際決済銀行等向け		—	—	—	—	—	—	—			
		0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計		
我が国の地方公共団体向け		160	—	—	—	—	—	—	160		
外国の中央政府等以外の公共部門向け		—	—	—	—	—	—	—	—		
地方公共団体金融機構向け		—	63	—	—	—	—	—	63		
我が国の政府関係機関向け		—	—	—	—	—	—	—	—		
地方三公社向け		—	—	—	—	—	—	—	—		
		0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合 計		
国際開発銀行向け		—	—	—	—	—	—	—	—		
		20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合 計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		105	—	35	—	—	—	—	—	141	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合 計	
カバード・ボンド向け		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合 計
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）		881	723	—	—	—	318	—	—	—	1,922
うち、特定貸付債権向け		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		100%	150%	250%	400%	その他	合 計				
劣後債権及びその他資本性証券等		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
株式等		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		45%	75%	100%	その他	合 計					
中堅中小企業等向け及び個人向け		—	45,424	—	—	—	45,424				
		20%	25%	30%	40%	50%	70%	75%	その他	合 計	
不動産関連向け　うち、自己居住用不動産等向け		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	31.25%	37.50%	50%	62.50%	／	／	その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	／	／	—	—	
		30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合 計	
不動産関連向け　うち、賃貸用不動産向け		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%	／	／	その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	／	／	—	—	
		70%	90%	110%	150%	その他	合 計				
不動産関連向け　うち、事業用不動産関連		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		70%	112.50%	／	／	／	／	／	その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	／	／	／	／	／	—	—	
		60%	その他	合 計							
不動産関連向け　うち、その他不動産関連		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		60%	その他	合 計							
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		100%	150%	その他	合 計						
不動産関連向けうち、ADC向け		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		50%	100%	150%	その他	合 計					
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		0%	10%	20%	その他	合 計					
現金		0	—	—	—	—	—	—	0	—	
取立未済手形		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
信用保証協会等による保証付		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		100%	その他	合 計							
その他資産等		27,124	—	—	—	—	—	—	27,124	—	

単体

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分	リスク・ウェイト	2023年3月31日							
		信用リスク・エクスポージャーの額（CCF・信用リスク削減手法適用後）							合 計
		0%	20%	50%	100%	150%	その他		
日本国政府及び日本銀行向け		602	—	—	—	—	—	602	
外国の中央政府及び中央銀行向け		—	—	—	—	—	—	—	
国際決済銀行等向け		—	—	—	—	—	—	—	
		0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他 合 計	
我が国の地方公共団体向け		88	—	—	—	—	—	88	
外国の中央政府等以外の公共部門向け		—	—	—	—	—	—	—	
地方公共団体金融機構向け		—	63	—	—	—	—	63	
我が国の政府関係機関向け		—	—	—	—	—	—	—	
地方三公社向け		—	—	—	—	—	—	—	
		0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他 合 計	
国際開発銀行向け		—	—	—	—	—	—	—	
		20%	30%	40%	50%	75%	100%	150% その他 合 計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		—	—	—	—	—	—	—	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		—	—	—	—	—	—	—	
		10%	15%	20%	25%	35%	50%	100% その他 合 計	
カバード・ボンド向け		—	—	—	—	—	—	—	
		20%	50%	75%	80%	85%	100%	130% 150% その他 合 計	
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）		—	—	—	—	—	—	—	
うち、特定貸付債権向け		—	—	—	—	—	—	—	
		100%	150%	250%	400%	—	その他	合 計	
劣後債権及びその他資本性証券等		—	—	—	—	—	—	—	
株式等		—	—	—	—	—	—	—	
		45%	75%	—	100%	—	その他	合 計	
中堅中小企業等向け及び個人向け		—	—	—	—	—	—	—	
		20%	25%	30%	40%	50%	70%	75% その他 合 計	
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け		—	—	—	—	—	—	—	
		20%	31.25%	37.50%	50%	62.50%	—	—	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—	—	
		30%	35%	45%	60%	75%	105%	150% その他 合 計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け		—	—	—	—	—	—	—	
		30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%	—	—	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—	—	
		70%	90%	110%	150%	—	その他	合 計	
不動産関連向け うち、事業用不動産関連		—	—	—	—	—	—	—	
		70%	112.50%	—	—	—	—	—	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—	—	
		60%	—	—	—	—	—	—	
不動産関連向け うち、その他不動産関連		—	—	—	—	—	—	—	
		60%	—	—	—	—	—	—	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—	—	
		100%	150%	—	—	—	—	—	
不動産関連向けうち、ADC向け		—	—	—	—	—	—	—	
		50%	100%	150%	—	—	—	—	
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）		—	—	—	—	—	—	—	
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞		—	—	—	—	—	—	—	
		0%	10%	20%	—	—	—	—	
現金		—	—	—	—	—	—	—	
取立未済手形		—	—	—	—	—	—	—	
信用保証協会等による保証付		—	—	—	—	—	—	—	
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付		—	—	—	—	—	—	—	
		100%	—	—	—	—	—	—	
その他資産等		1,291	—	—	—	—	—	1,291	

(単位：百万円)

ポートフォリオの区分		リスク・ウェイト	2024年3月31日							
			信用リスク・エクスポージャーの額（CCF・信用リスク削減手法適用後）							合 計
		0%	20%	50%	100%	150%	その他			
日本国政府及び日本銀行向け		469	—	—	—	—	—	469		
外国の中央政府及び中央銀行向け		—	—	—	—	—	—	—		
国際決済銀行等向け		—	—	—	—	—	—	—		
		0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合 計	
我が国の地方公共団体向け		135	—	—	—	—	—	—	135	
外国の中央政府等以外の公共部門向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
地方公共団体金融機構向け		—	63	—	—	—	—	—	63	
我が国の政府関係機関向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
地方三公社向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合 計	
国際開発銀行向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他 合 計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他 合 計	
カバード・ボンド向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150% その他 合 計	
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）		—	—	—	—	—	—	—	—	
うち、特定貸付債権向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		100%	150%	250%	400%	その他		合 計		
劣後債権及びその他資本性証券等		—	—	—	—	—		—		
株式等		—	—	—	—	—		—		
		45%	75%	100%	その他		合 計			
中堅中小企業等向け及び個人向け		—	—	—	—		—			
		20%	25%	30%	40%	50%	70%	75%	その他 合 計	
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		20%	31.25%	37.50%	50%	62.50%	—		その他 合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—		—	
		30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他 合 計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け		—	—	—	—	—	—	—	—	
		30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%	—		その他 合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—	—	—	—		—	
		70%	90%	110%	150%	その他		合 計		
不動産関連向け うち、事業用不動産関連		—	—	—	—	—		—		
		70%	112.50%	—		—		その他	合 計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—	—		—		—	—	
		60%	—		その他	—		合 計		
不動産関連向け うち、その他不動産関連		—	—		—	—		—		
		60%	—		その他	—		合 計		
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの		—	—		—	—		—		
		100%	150%	—		その他		合 計		
不動産関連向けうち、ADC向け		—	—	—		—		—		
		50%	100%	150%	—		その他	合 計		
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）		—	—	—	—		—	—		
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞		—	—	—	—		—	—		
		0%	10%	20%	—		その他	合 計		
現金		—	—	—	—		—	—		
取立未済手形		—	—	—	—		—	—		
信用保証協会等による保証付		—	—	—	—		—	—		
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付		—	—	—	—		—	—		
		100%	—		その他	—		合 計		
その他資産等		3,570	—		—	—		3,570		

(3) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

連結

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2023年3月31日			
	信用リスク・エクスポージャーの額		CCFの加重平均値	信用リスク・ エクスポージャーの額 (CCF／信用リスク 削減手法適用後)
	オンバランス	オフバランス		
40%未満	1,920	—	—	1,920
40%以上70%以下	137	—	—	137
75%	27,213	146,424	10%	41,856
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%以上100%以下	23,680	—	—	23,680
105%以上130%以下	—	—	—	—
150%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合計	52,951	146,424	10%	67,594

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2024年3月31日			
	信用リスク・エクスポージャーの額		CCFの加重平均値	信用リスク・ エクスポージャーの額 (CCF／信用リスク 削減手法適用後)
	オンバランス	オフバランス		
40%未満	1,680	—	—	1,680
40%以上70%以下	758	—	—	758
75%	28,877	165,472	10%	45,424
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%以上100%以下	27,443	—	—	27,443
105%以上130%以下	—	—	—	—
150%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合計	58,759	165,472	10%	75,306

単体

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2023年3月31日			
	信用リスク・エクスポージャーの額		CCFの加重平均値	信用リスク・ エクスポージャーの額 (CCF／信用リスク 削減手法適用後)
	オンバランス	オフバランス		
40%未満	753	—	—	753
40%以上70%以下	—	—	—	—
75%	—	—	—	—
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%以上100%以下	1,291	—	—	1,291
105%以上130%以下	—	—	—	—
150%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合計	2,044	—	—	2,044

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2024年3月31日			
	信用リスク・エクスポージャーの額		CCFの加重平均値	信用リスク・ エクスポージャーの額 (CCF／信用リスク 削減手法適用後)
	オンバランス	オフバランス		
40%未満	668	—	—	668
40%以上70%以下	—	—	—	—
75%	—	—	—	—
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%以上100%以下	3,570	—	—	3,570
105%以上130%以下	—	—	—	—
150%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合計	4,239	—	—	4,239

【内部格付手法が適用されるエクスポージャーに関する事項】

(1) スロットティング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権のリスク・ウェイト区分別残高

＜プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付＞ (単位：百万円)

スロットティング・ クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	連 結		単 体	
			2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
優	2年半未満	50%	—	—	—	—
	2年半以上	70%	3,289	4,043	3,289	4,043
良	2年半未満	70%	—	101	—	101
	2年半以上	90%	3,446	6,836	3,446	6,836
可		115%	12,493	9,192	12,493	9,192
弱い		250%	7,988	7,749	7,988	7,749
デフォルト		0%	—	—	—	—
合計			27,218	27,923	27,218	27,923

＜ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付＞

該当ありません。

(注) 1. 「スロットティング・クライテリア」とは、告示第153条に規定する「優・良・可・弱い・デフォルト」の5つの信用ランク区分のことです。

2. 特定貸付債権とは、プロジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付に該当する貸付債権のことです。

(2) マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分別の残高

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
300%	124	119	62	56
400%	1,764	1,936	349	337
合計	1,889	2,055	411	394

(注) 「マーケットベース方式」とは、上場株式については300%、非上場株式については400%のリスク・ウェイトを乗じた額をリスク・アセット額とする方式です。

(3) 事業法人等向けエクスポージャー及びPD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーについて格付ごとのパラメータ推計値及びリスク・ウェイト等

連結

(単位：百万円)

債務者区分		2023年3月31日				
		PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポージャー		3.34%	36.0%	37.6%	1,563,279	28,528
上位格付	正常先	0.06%	40.0%	22.6%	660,315	14,315
中位格付	正常先	0.52%	32.9%	47.9%	797,419	14,049
下位格付	要注意先	6.70%	31.8%	93.4%	61,182	139
デフォルト	要管理先以下	100.00%	39.1%	—	44,362	23
ソブリン向けエクスポージャー		0.00%	45.0%	2.4%	1,965,082	648
上位格付	正常先	0.00%	45.0%	2.4%	1,965,082	648
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー		0.06%	50.2%	35.1%	138,903	49,462
上位格付	正常先	0.06%	50.2%	35.2%	138,103	49,462
中位格付	正常先	0.19%	45.0%	30.9%	800	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD/LGD方式 株式等エクスポージャー		0.10%	90.0%	284.5%	25,093	—
上位格付	正常先	0.05%	90.0%	291.6%	23,160	—
中位格付	正常先	0.40%	90.0%	181.7%	1,721	—
下位格付	要注意先	3.05%	90.0%	343.1%	211	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—

(単位：百万円)

債務者区分		2024年3月31日				
		PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
					オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポージャー		2.89%	36.0%	36.6%	1,635,546	24,773
上位格付	正常先	0.06%	39.9%	21.8%	702,634	12,098
中位格付	正常先	0.48%	32.8%	46.0%	827,138	12,408
下位格付	要注意先	7.61%	32.1%	97.8%	67,374	243
デフォルト	要管理先以下	100.00%	39.0%	—	38,399	23
ソブリン向けエクスポージャー		0.00%	45.0%	2.7%	2,048,704	1,000
上位格付	正常先	0.00%	45.0%	2.7%	2,048,704	1,000
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	16.64%	45.0%	254.9%	0	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー		0.06%	52.6%	43.6%	110,669	13,692
上位格付	正常先	0.06%	52.6%	43.7%	110,169	13,692
中位格付	正常先	0.19%	45.0%	29.0%	500	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD/LGD方式 株式等エクスポージャー		0.11%	90.0%	270.4%	32,268	—
上位格付	正常先	0.05%	90.0%	281.7%	28,937	—
中位格付	正常先	0.23%	90.0%	151.8%	2,997	—
下位格付	要注意先	3.73%	90.0%	356.5%	333	—
デフォルト	要管理先以下	100.00%	90.0%	1,125.0%	0	—

- (注) 1. 「上位格付」はSO～B格、「中位格付」はC～F格、「下位格付」は格付区分G20～I20格、「デフォルト」はI21～L格としております。
2. パラメータ推計値やリスク・ウェイトには、信用リスク削減手法の効果を勘案しています。
3. EADとは、デフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した額です。
4. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。
5. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。
6. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1,250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出しております。

単体

(単位：百万円)

		2023年3月31日				
債務者区分		PD	LGD	リスク・ウェイト	EAD	
		加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポージャー		3.29%	36.1%	38.0%	1,588,611	28,528
上位格付	正常先	0.06%	40.0%	22.6%	660,315	14,315
中位格付	正常先	0.52%	33.1%	48.3%	822,751	14,049
下位格付	要注意先	6.70%	31.8%	93.4%	61,182	139
デフォルト	要管理先以下	100.00%	39.1%	—	44,362	23
ソブリン向けエクスポージャー		0.00%	45.0%	2.4%	1,965,082	648
上位格付	正常先	0.00%	45.0%	2.4%	1,965,082	648
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー		0.06%	50.2%	35.1%	138,903	49,462
上位格付	正常先	0.06%	50.2%	35.2%	138,103	49,462
中位格付	正常先	0.19%	45.0%	30.9%	800	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD/LGD方式 株式等エクスポージャー		0.15%	90.0%	261.0%	31,232	—
上位格付	正常先	0.05%	90.0%	291.6%	23,160	—
中位格付	正常先	0.36%	90.0%	168.6%	7,860	—
下位格付	要注意先	3.05%	90.0%	343.1%	211	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—

(単位：百万円)

		2024年3月31日				
債務者区分		PD	LGD	リスク・ウェイト	EAD	
		加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス
事業法人向けエクスポージャー		2.85%	36.1%	37.0%	1,663,699	24,995
上位格付	正常先	0.06%	39.9%	21.8%	702,634	12,098
中位格付	正常先	0.48%	33.1%	46.5%	855,291	12,630
下位格付	要注意先	7.61%	32.1%	97.8%	67,374	243
デフォルト	要管理先以下	100.00%	39.0%	—	38,399	23
ソブリン向けエクスポージャー		0.00%	45.0%	2.7%	2,040,729	1,000
上位格付	正常先	0.00%	45.0%	2.7%	2,040,728	1,000
中位格付	正常先	—	—	—	—	—
下位格付	要注意先	16.64%	45.0%	254.9%	0	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー		0.06%	52.6%	43.6%	110,669	13,692
上位格付	正常先	0.06%	52.6%	43.7%	110,169	13,692
中位格付	正常先	0.19%	45.0%	29.0%	500	—
下位格付	要注意先	—	—	—	—	—
デフォルト	要管理先以下	—	—	—	—	—
PD/LGD方式 株式等エクスポージャー		0.16%	90.0%	263.2%	36,394	—
上位格付	正常先	0.05%	90.0%	281.7%	28,937	—
中位格付	正常先	0.42%	90.0%	183.7%	7,123	—
下位格付	要注意先	3.73%	90.0%	356.5%	333	—
デフォルト	要管理先以下	100.00%	90.0%	1,125.0%	0	—

- (注) 1. 「上位格付」はS0～B格、「中位格付」はC～F格、「下位格付」は格付区分G20～I20格、「デフォルト」はI21～L格としております。
2. パラメータ推計値やリスク・ウェイトには、信用リスク削減手法の効果を勘案しています。
3. EADとは、デフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した額です。
4. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。
5. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。
6. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1,250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出しております。

(4) リテール向けエクスポージャーについてプール区分ごとのパラメータ推計値及びリスク・ウェイト等

連結

(単位：百万円)

	2023年3月31日							コミットメント未引出額 掛目の推計値
	PD	LGD	EL default	リスク・ウェイト	EAD			
	加重平均値	加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス		
居住用不動産向けエクスポージャー	1.0%	18.6%	—	15.4%	1,916,279	924	—	—
非延滞	0.5%	18.5%	—	14.1%	1,890,420	852	—	—
延滞	23.9%	19.2%	—	111.1%	21,067	17	—	—
デフォルト	100.0%	46.8%	40.9%	74.0%	4,790	53	—	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	1.2%	80.7%	—	22.8%	9,219	33,221	68,846	48.3%
非延滞	0.8%	80.7%	—	21.1%	8,822	33,168	68,770	48.2%
延滞	23.1%	80.1%	—	220.9%	289	52	76	68.9%
デフォルト	100.0%	90.6%	85.1%	68.5%	107	—	—	—
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	3.9%	45.3%	—	19.7%	227,614	525	2,947	10.1%
非延滞	0.3%	45.7%	—	19.8%	218,993	480	2,947	10.1%
延滞	13.5%	45.5%	—	38.8%	523	—	—	—
デフォルト	100.0%	33.3%	32.1%	14.7%	8,097	45	—	—
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	1.6%	65.9%	—	62.2%	58,341	10,997	15,302	71.8%
非延滞	1.1%	65.8%	—	61.0%	57,417	10,996	15,299	71.8%
延滞	27.0%	72.8%	—	167.5%	822	1	2	54.5%
デフォルト	100.0%	57.9%	60.8%	21.5%	101	—	—	—

(単位：百万円)

	2024年3月31日							コミットメント未引出額 掛目の推計値
	PD	LGD	EL default	リスク・ウェイト	EAD			
	加重平均値	加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス		
居住用不動産向けエクスポージャー	1.1%	17.4%	—	13.8%	1,978,817	822	—	—
非延滞	0.5%	17.2%	—	12.6%	1,946,052	752	—	—
延滞	23.4%	17.9%	—	103.2%	26,364	24	—	—
デフォルト	100.0%	69.3%	75.8%	12.8%	6,400	45	—	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	1.2%	80.0%	—	22.8%	8,911	31,022	67,063	46.3%
非延滞	0.8%	80.0%	—	21.0%	8,511	30,959	66,971	46.2%
延滞	23.1%	79.4%	—	218.9%	297	62	91	68.1%
デフォルト	100.0%	91.0%	98.0%	50.1%	102	—	—	—
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.4%	45.1%	—	19.9%	213,565	326	1,029	10.1%
非延滞	0.3%	45.7%	—	20.4%	202,560	269	1,029	10.1%
延滞	12.7%	45.4%	—	39.4%	276	6	—	—
デフォルト	100.0%	33.7%	32.9%	9.5%	10,728	50	—	—
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	1.6%	66.9%	—	63.5%	61,143	11,165	14,672	76.1%
非延滞	1.1%	66.8%	—	62.1%	60,131	11,149	14,643	76.1%
延滞	25.6%	76.4%	—	176.9%	860	15	29	53.3%
デフォルト	100.0%	66.4%	67.2%	30.2%	151	—	—	—

- (注) 1. 「EL default」とは、デフォルトしたエクスポージャーに生じうる期待損失のことです。
2. EADとは、デフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した額です。
3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

単体

(単位：百万円)

	2023年3月31日							コミットメント未引出額 掛目の推計値	
	PD	LGD	EL default	リスク・ウェイト	EAD				
	加重平均値	加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス			
居住用不動産向けエクスポージャー	1.0%	18.5%	—	15.3%	1,915,296	924	—	—	
非延滞	0.5%	18.5%	—	14.1%	1,890,420	852	—	—	
延滞	23.9%	19.2%	—	111.1%	21,067	17	—	—	
デフォルト	100.0%	46.8%	40.9%	74.0%	3,807	53	—	—	
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	1.1%	80.7%	—	22.7%	9,147	33,221	68,846	48.3%	
非延滞	0.8%	80.7%	—	21.1%	8,822	33,168	68,770	48.2%	
延滞	23.1%	80.1%	—	220.9%	289	52	76	68.9%	
デフォルト	100.0%	90.6%	85.1%	68.5%	35	—	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	3.9%	45.3%	—	19.7%	227,611	525	2,947	10.1%	
非延滞	0.3%	45.7%	—	19.8%	218,993	480	2,947	10.1%	
延滞	13.5%	45.5%	—	38.8%	523	—	—	—	
デフォルト	100.0%	33.3%	32.1%	14.8%	8,094	45	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	1.5%	65.9%	—	62.3%	58,303	10,997	15,302	71.8%	
非延滞	1.1%	65.8%	—	61.0%	57,417	10,996	15,299	71.8%	
延滞	27.0%	72.8%	—	167.5%	822	1	2	54.5%	
デフォルト	100.0%	72.0%	60.8%	32.0%	64	—	—	—	

(単位：百万円)

	2024年3月31日							コミットメント未引出額 掛目の推計値	
	PD	LGD	EL default	リスク・ウェイト	EAD				
	加重平均値	加重平均値	加重平均値	加重平均値	オン・バランス	オフ・バランス			
居住用不動産向けエクスポージャー	1.0%	17.4%	—	13.8%	1,977,312	822	—	—	
非延滞	0.5%	17.2%	—	12.6%	1,946,052	752	—	—	
延滞	23.4%	17.9%	—	103.2%	26,364	24	—	—	
デフォルト	100.0%	75.8%	75.8%	0.0%	4,895	45	—	—	
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	1.1%	80.0%	—	22.8%	8,844	31,022	67,063	46.3%	
非延滞	0.8%	80.0%	—	21.0%	8,511	30,959	66,971	46.2%	
延滞	23.1%	79.4%	—	218.9%	297	62	91	68.1%	
デフォルト	100.0%	100.0%	98.0%	25.8%	36	—	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.4%	45.1%	—	19.9%	213,562	326	1,029	10.1%	
非延滞	0.3%	45.7%	—	20.4%	202,560	269	1,029	10.1%	
延滞	12.7%	45.4%	—	39.4%	276	6	—	—	
デフォルト	100.0%	33.7%	32.9%	9.5%	10,725	50	—	—	
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	1.5%	66.9%	—	63.5%	61,114	11,165	14,672	76.1%	
非延滞	1.1%	66.8%	—	62.1%	60,131	11,149	14,643	76.1%	
延滞	25.6%	76.4%	—	176.9%	860	15	29	53.3%	
デフォルト	100.0%	74.1%	65.8%	36.2%	122	—	—	—	

(注) 1. 「EL default」とは、デフォルトしたエクスポージャーに生じうる期待損失のことです。

2. EADとは、デフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した額です。

3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

(5) 内部格付手法を適用する資産区分ごとの直前期における損失額の実績値と過去の実績値との対比

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
事業法人向け	29,959	29,807	29,959	29,807
ソブリン向け	—	—	—	—
金融機関等向け	—	—	—	—
株式等 (PD/LGD方式)	—	—	—	—
居住用不動産向け	861	919	99	57
適格リボルビング型リテール向け	95	76	0	—
その他リテール向け	991	1,117	961	1,092
合計	31,907	31,920	31,021	30,957

- (注) 1. 各資産区分毎の損失額の実績値は、以下を合計した額です。
- ・ 部分直接償却額、個別貸倒引当金及び要管理先に対する一般貸倒引当金の期末残高
 - ・ 過去1年間に発生した直接償却額及び貸出債権売却等による損失
2. 価格変動リスクの実現のみによる売却損や償却額は含めておりません。

<要因分析>

前年対比では損失額の実績値に大きな増減はありませんでした。

(6) 内部格付手法を適用する資産区分ごとの長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
	損失額の推計値	損失額の実績値	損失額の推計値	損失額の実績値
事業法人向け	23,859	29,959	20,229	29,807
ソブリン向け	62	—	34	—
金融機関等向け	26	—	53	—
株式等 (PD/LGD方式)	—	—	—	—
居住用不動産向け	4,561	861	4,695	919
適格リボルビング型リテール向け	374	95	425	76
その他リテール向け	3,138	991	3,687	1,117
合計	32,021	31,907	29,125	31,920

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
	損失額の推計値	損失額の実績値	損失額の推計値	損失額の実績値
事業法人向け	23,924	29,959	20,297	29,807
ソブリン向け	62	—	34	—
金融機関等向け	26	—	53	—
株式等 (PD/LGD方式)	—	—	—	—
居住用不動産向け	4,114	99	4,293	57
適格リボルビング型リテール向け	323	0	363	—
その他リテール向け	3,123	961	3,674	1,092
合計	31,574	31,021	28,716	30,957

【信用リスク削減手法に関する事項】

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	連 結			単 体		
	2023年3月31日			2024年3月31日		
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証・クレジットデリバティブ	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証・クレジットデリバティブ
事業法人向けエクスポージャー	19,213	390,078	373,304	21,168	408,381	347,887
ソブリン向けエクスポージャー	—	—	12,165	—	—	11,920
金融機関等向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
居住用不動産向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
その他リテール向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—

	連 結			単 体		
	2023年3月31日			2024年3月31日		
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証・クレジットデリバティブ	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証・クレジットデリバティブ
事業法人向けエクスポージャー	19,213	390,078	373,304	21,168	408,381	347,887
ソブリン向けエクスポージャー	—	—	12,165	—	—	11,920
金融機関等向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
居住用不動産向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
その他リテール向けエクスポージャー	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 適格金融資産担保は、預金担保、債券、上場株式、信託受益権・投資信託等です。
2. 適格資産担保は、法的に有効な不動産担保です。
3. オンバランス・ネットtingは上表に含めておりません。

【派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項】

連結

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	派生商品取引	長期決済期間取引	派生商品取引	長期決済期間取引
イ) 与信相当額の算出に用いる方式	SA-CCR方式			
ロ) グロスの再構築コストの額の合計額	4,100	—	2,014	—
ハ) 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額	18,666	—	12,421	—
ニ) 担保の額	—	—	—	—
ホ) 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	18,666	—	12,421	—
ヘ) 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—	—	—
うち クレジット・デフォルト・スワップによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち トータル・リターン・スワップによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち クレジット・オプションによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち その他プロテクション購入	—	—	—	—
うち クレジット・デフォルト・スワップによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち トータル・リターン・スワップによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち クレジット・オプションによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち その他プロテクション提供	—	—	—	—
ト) 信用リスク削減効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—	—	—

単体

(単位：百万円)

	2023年3月31日		2024年3月31日	
	派生商品取引	長期決済期間取引	派生商品取引	長期決済期間取引
イ) 与信相当額の算出に用いる方式	SA-CCR方式			
ロ) グロスの再構築コストの額の合計額	4,100	—	2,014	—
ハ) 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額	18,666	—	12,421	—
ニ) 担保の額	—	—	—	—
ホ) 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	18,666	—	12,421	—
ヘ) 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—	—	—
うち クレジット・デフォルト・スワップによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち トータル・リターン・スワップによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち クレジット・オプションによるプロテクション購入	—	—	—	—
うち その他プロテクション購入	—	—	—	—
うち クレジット・デフォルト・スワップによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち トータル・リターン・スワップによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち クレジット・オプションによるプロテクション提供	—	—	—	—
うち その他プロテクション提供	—	—	—	—
ト) 信用リスク削減効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—	—	—

【証券化エクスポージャーに関する事項】

1. 当行及び連結グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセット算出対象となる証券化エクスポージャー
2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

2. 連結グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャー

(1) 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

連結・単体

(単位：百万円)

原資産の種類	2023年3月31日		2024年3月31日	
	証券化エクスポージャー	うちオフ・バランス取引	証券化エクスポージャー	うちオフ・バランス取引
住宅ローン債権	—	—	—	—
リース債権	—	—	—	—
不動産	—	—	—	—
自動車ローン債権	—	—	—	—
クレジットカード債権	—	—	—	—
船舶リース債権	1,289	133	1,132	119
プロジェクト・ファイナンスに対する債権	—	—	—	—
合計	1,289	133	1,132	119

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

(2) 保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト区分ごとの残高及び所要自己資本の額

連結・単体

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2023年3月31日				2024年3月31日			
	証券化エクスポージャー		うちオフ・バランス取引		証券化エクスポージャー		うちオフ・バランス取引	
	残高	所要自己資本	残高	所要自己資本	残高	所要自己資本	残高	所要自己資本
20%以下	—	—	—	—	—	—	—	—
20%超50%以下	—	—	—	—	—	—	—	—
50%超100%以下	—	—	—	—	—	—	—	—
100%超250%以下	—	—	—	—	—	—	—	—
250%超650%以下	808	337	66	27	654	195	59	17
650%超1,250%未満	480	254	66	35	477	260	59	32
1,250%	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,289	592	133	63	1,132	455	119	50

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

(3) 自己資本比率告示第248条並びに第248条の4第1項第1号及び第2号の規定により1,250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳
2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイト区分ごとの内訳
2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

【CVAリスクに関する事項】

<BA-CVAを用いたCVAリスク相当額等>

(1) 完全なBA-CVA

2023年3月期、2024年3月期とも該当ありません。

(2) 限定的なBA-CVA

(単位：百万円)

	2023年3月31日			
	連結		単体	
	構成要素の額	リスク・アセットの額 (CVAリスク相当額を 8%で除して得た額)	構成要素の額	リスク・アセットの額 (CVAリスク相当額を 8%で除して得た額)
CVAリスクのうち取引先共通の要素	2,614		2,614	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	630		630	
合計		11,655		11,655

(単位：百万円)

	2024年3月31日			
	連結		単体	
	構成要素の額	リスク・アセットの額 (CVAリスク相当額を 8%で除して得た額)	構成要素の額	リスク・アセットの額 (CVAリスク相当額を 8%で除して得た額)
CVAリスクのうち取引先共通の要素	1,963		1,963	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	519		519	
合計		8,776		8,776

(注) 1. 「CVAリスクのうち取引先共通の要素」には、自己資本比率告示第270条の3の4に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合におけるKreducedの算式において、 ρ を一と仮定した場合に算出されるKreducedの値を記載しております。

2. 「CVAリスクのうち取引先固有の要素」には、自己資本比率告示第270条の3の4に定める限定的なBA-CVAによりCVAリスク相当額を算出する場合におけるKreducedの算式において、 ρ を零と仮定した場合に算出されるKreducedの値を記載しております。

【出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項】

(1) 出資等又は株式等エクスポージャーの（連結）貸借対照表計上額及び時価

(単位：百万円)

	2023年3月31日			2024年3月31日		
	連結貸借対照表計上額	時	価	連結貸借対照表計上額	時	価
出資等または株式等エクスポージャー	54,481			62,425		
うち上場株式等エクスポージャー	23,103		23,103	24,805		24,805
うち上場株式等エクスポージャー以外	31,378			37,619		

	2023年3月31日			2024年3月31日		
	貸借対照表計上額	時	価	貸借対照表計上額	時	価
出資等または株式等エクスポージャー	58,158			66,652		
うち上場株式等エクスポージャー	22,057		22,057	24,492		24,492
うち上場株式等エクスポージャー以外	36,101			42,159		

(単位：百万円)

(2) 出資等または株式等エクスポージャーの売却および償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
売却に伴う損益の額	1,795	81	1,692	△841
償却に伴う損益の額	△64	△198	—	△134

(3) (連結) 貸借対照表で認識され、かつ、(連結) 損益計算書で認識されない評価損益の額、及び、(連結) 貸借対照表及び(連結) 損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
(連結) 貸借対照表で認識され、かつ、 (連結) 損益計算書で認識されない評価損益の額	15,896	18,572	14,913	18,322
(連結) 貸借対照表及び(連結) 損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—	—	—

(4) 株式等エクスポージャーの額

(単位：百万円)

	連 結	単 体
	2023年3月31日	2023年3月31日
株式等エクスポージャーの額	38,585	43,245
うちPD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	25,093	31,232
うち簡易手法（マーケットベース方式）が適用される株式等エクスポージャー	1,889	411
うち投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	—	—
うち上記以外の株式等エクスポージャー	11,601	11,601

	連 結	単 体
	2024年3月31日	2024年3月31日
株式等エクスポージャーの額	43,852	48,329
うちPD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	32,268	36,394
うち簡易手法（マーケットベース方式）が適用される株式等エクスポージャー	2,055	394
うち投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	—	—
うち上記以外の株式等エクスポージャー	9,528	11,540

【リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項】

リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	連 結		単 体	
	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日
ルックスルー方式	95,961	88,778	98,583	92,234
マンドेट方式	—	—	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト250%）	—	—	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト400%）	—	—	—	—
フォールバック方式（リスク・ウェイト1,250%）	537	270	565	299
合計	96,498	89,049	99,149	92,534

(注) 1. 「ルックスルー方式」とは、当該エクスポージャーの裏付となる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足しあげる方式です。

2. 「マンドेट方式」とは、ファンドの運用基準（マンドेट）に基づき、ファンド内の資産構成を保守的に仮定し、個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足しあげる方式です。

3. 「蓋然性方式」とは、当該エクスポージャーのリスク・ウェイトが以下（1）（2）の比率の範囲内である蓋然性が高いことが疎明できる場合、それぞれに対応するリスク・ウェイトを適用する方式です。

(1) 250%以下…リスク・ウェイト250%

(2) 250%超400%以下…リスク・ウェイト400%

4. 「フォールバック方式」とは、当該エクスポージャーに1,250%のリスク・ウェイトを適用する方式です。

【金利リスクに関する事項】

IRRBB1：金利リスク

連結

(単位：百万円)

	イ	ロ	ハ	ニ
	△EVE		△NII	
項番	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日
1 上方パラレルシフト	445	22,204	83	137
2 下方パラレルシフト	41,965	0	18,001	16,290
3 スティープ化	710	32,552		
4 フラット化				
5 短期金利上昇				
6 短期金利低下				
7 最大値	41,965	32,552	18,001	16,290
	ホ		ヘ	
	2024年3月31日		2023年3月31日	
8 自己資本の額	202,737		199,820	

単体

(単位：百万円)

項番	イ		ロ		ハ		ニ	
	△EVE				△NII			
	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日	2024年3月31日	2023年3月31日
1 上方パラレルシフト	445	22,204			83		137	
2 下方パラレルシフト	41,965	0			18,001		16,290	
3 スティープ化	710	32,552						
4 フラット化								
5 短期金利上昇								
6 短期金利低下								
7 最大値	41,965	32,552			18,001		16,290	
	ホ				ヘ			
	2024年3月31日				2023年3月31日			
8 自己資本の額	179,016				178,279			

【内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項】

(1) 信用リスクに関する事項

連結

(単位：百万円)

	2023年3月31日			
	イ		ロ	
	信用リスク・アセットの額		信用リスク・アセットの額	
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
ソブリン向けエクスポージャー	46,313	28,204	46,319	28,211
うち、我が国の地方公共団体向け	11,096	—	11,096	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	—	1,593	—	1,593
うち、我が国の政府関係機関向け	33,439	13,007	33,445	13,013
うち、地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー	66,203	84,447	66,249	84,493
株式等向けエクスポージャー	71,387	25,093	80,988	38,585
購入債権	—	—	—	—
事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャー及び特定貸付債権を除く。）	258,806	507,184	259,280	507,658
中堅中小企業向けエクスポージャー	339,314	732,555	370,706	763,948
居住用不動産向けエクスポージャー	294,310	1,012,876	294,310	1,012,876
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,676	8,339	9,676	8,339
その他リテール向けエクスポージャー	87,989	94,625	87,989	94,625
特定貸付債権	39,744	28,775	39,744	28,775
うち、事業用不動産向け貸付け及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	12,933	11,663	12,933	11,663
合計	1,213,745	2,522,102	1,255,266	2,567,512

(単位：百万円)

	2024年3月31日			
	イ	ロ	ハ	ニ
	信用リスク・アセットの額			
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
ソブリン向けエクスポージャー	54,795	28,441	54,801	28,447
うち、我が国の地方公共団体向け	20,613	—	20,613	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	400	—	400
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	—	1,261	6	1,267
うち、我が国の政府関係機関向け	30,631	12,124	30,631	12,124
うち、地方三公社向け	1	0	1	0
金融機関等向けエクスポージャー	54,252	69,653	54,287	69,688
株式等向けエクスポージャー	87,266	41,948	99,653	54,335
購入債権	1	3	1	3
事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャー及び特定貸付債権を除く。）	266,736	549,190	267,592	550,046
中堅中小企業向けエクスポージャー	341,605	744,286	375,673	778,355
居住用不動産向けエクスポージャー	273,988	1,044,369	273,988	1,044,369
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,113	8,113	9,113	8,113
その他リテール向けエクスポージャー	88,382	98,833	88,382	98,833
特定貸付債権	38,999	28,629	38,999	28,629
うち、事業用不動産向け貸付け及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	12,499	12,249	12,499	12,249
合計	1,215,142	2,613,470	1,262,495	2,660,823

単体

(単位：百万円)

	2023年3月31日			
	イ	ロ	ハ	ニ
	信用リスク・アセットの額			
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
ソブリン向けエクスポージャー	46,313	28,204	46,319	28,211
うち、我が国の地方公共団体向け	11,096	—	11,096	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	—	1,593	—	1,593
うち、我が国の政府関係機関向け	33,439	13,007	33,445	13,013
うち、地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関等向けエクスポージャー	66,203	84,447	66,203	84,447
株式等向けエクスポージャー	81,513	31,232	93,115	42,833
購入債権	—	—	—	—
事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャー及び特定貸付債権を除く。）	269,249	522,826	269,249	522,826
中堅中小企業向けエクスポージャー	344,504	741,976	344,504	741,976
居住用不動産向けエクスポージャー	293,582	1,012,557	293,582	1,012,557
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,627	8,335	9,627	8,335
その他リテール向けエクスポージャー	87,987	94,613	87,987	94,613
特定貸付債権	39,744	28,775	39,744	28,775
うち、事業用不動産向け貸付け及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	12,933	11,663	12,933	11,663
合計	1,238,726	2,552,969	1,250,334	2,564,577

(単位：百万円)

	2024年3月31日			
	イ	ロ	ハ	ニ
	信用リスク・アセットの額			
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
ソブリン向けエクスポージャー	54,368	28,441	54,375	28,447
うち、我が国の地方公共団体向け	20,187	—	20,187	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	400	—	400
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	—	1,261	6	1,267
うち、我が国の政府関係機関向け	30,631	12,124	30,631	12,124
うち、地方三公社向け	1	0	1	0
金融機関等向けエクスポージャー	54,252	69,653	54,252	69,653
株式等向けエクスポージャー	95,804	47,312	110,807	62,315
購入債権	1	3	1	3
事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャー及び特定貸付債権を除く。）	278,699	567,852	278,699	567,852
中堅中小企業向けエクスポージャー	346,841	752,528	346,841	752,528
居住用不動産向けエクスポージャー	273,166	1,043,800	273,166	1,043,800
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	9,071	8,100	9,071	8,100
その他リテール向けエクスポージャー	88,380	98,825	88,380	98,825
特定貸付債権	38,999	28,629	38,999	28,629
うち、事業用不動産向け貸付け及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	12,499	12,249	12,499	12,249
合計	1,239,586	2,645,147	1,254,595	2,660,156

(注) 各信用リスク・アセットの額は、CCF・信用リスク削減手法適用後の値を記載しております。

(2) 証券化エクスポージャーに関する事項

(単位：百万円)

	2023年3月31日			
	連結		単体	
	信用リスク・アセットの額	銀行を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	銀行を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額
証券化エクスポージャー	7,400	7,439	7,400	7,439

(単位：百万円)

	2024年3月31日			
	連結		単体	
	信用リスク・アセットの額	銀行を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	銀行を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額
証券化エクスポージャー	5,698	5,698	5,698	5,698

報酬等に関する開示事項

1. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

(1) 「対象役職員」の範囲

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」及び「対象従業員等」（合わせて「対象役職員」）の範囲については、以下のとおりであります。

① 「対象役員」の範囲

対象役員は、当行の取締役及び監査役であります。なお、非業務執行取締役及び社外監査役を除いております。

② 「対象従業員等」の範囲

当行では、対象役員以外の当行の役員及び従業員並びに主要な連結子法人等の役職員のうち、「高額の報酬等を受ける者」で、当行及びその主要な連結子法人等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者等を「対象従業員等」として、開示の対象としております。

なお、当行の対象役員以外の役員及び従業員並びに主要な連結子法人等の役職員で、対象従業員等に該当する者はおりません。

(ア) 「主要な連結子法人等」の範囲

主要な連結子法人等とは、銀行の連結総資産に対する当該子法人等の総資産の割合が2％を超えるもの及びグループ経営に重要な影響を与える連結子法人等であり、該当する会社等はありません。

(イ) 「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「高額の報酬等を受ける者」とは、後記「5.当行（グループ）の対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項」記載の「固定報酬等の総額」に、「対象役員（除く非業務執行取締役及び社外監査役）」に数えられる役員のうち、当事業年度内に就任又は退任した役員が当事業年度内の全期間について役員であったとみなした場合に支払うであろう報酬等の額（ただし、就任後又は退任前の報酬等の額と同額）を加えた額を「対象役員（除く非業務執行取締役及び社外監査役）」の合計数（ただし、当行並びに池田泉州ホールディングスの両社を兼務する者については、1人として計算しております。）により除すことで算出される「対象役員年間1人当たり平均報酬額」以上の報酬等を受ける者を指します。

(ウ) 「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」とは、その者が通常行う取引や管理する事項が、当行並びに当行グループの業務の運営に相当程度の影響を与え、又は取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者であります。

(2) 対象役員の報酬等の決定について

当行では、株主総会において、役員報酬の総額（上限額）を決定しております。取締役の報酬の個人別の配分については、客観性・透明性を確保するため、報酬委員会において検討され、取締役会において同委員会の検討内容及び手続が報告され、報酬等の額の決定を当行の取締役頭取兼CEOに一任される仕組みとなっております。報酬委員会は、その過半が非業務執行取締役により構成され、業務推進部門からは独立しております。なお、監査役の報酬の個人別の配分については、監査役の協議により決定しております。

(3) 報酬委員会等の構成員に対して払われた報酬等の総額及び報酬委員会等の会議の開催回数

	開催回数 (2023年4月～2024年3月)
報酬委員会（池田泉州銀行）	4回

（注）報酬等の総額については、報酬委員会等の職務執行に係る対価に相当する部分のみを切り離して算出することができないため、記載しておりません。

2. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の体系の設計及び運用の適切性の評価に関する事項

「対象役員」の報酬等に関する方針

当行の役員の報酬は、企業価値の持続的な向上と金融業としてのブルーデンス確保を図るインセンティブとして十分に機能する報酬体系とし、個々の役員の報酬決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。具体的な役員の報酬は、固定報酬としての基本報酬、業績連動報酬及び株式報酬により構成しております。

基本報酬は、金銭による月例の固定報酬で、役位、職責等に応じて定めるものとし、業績、他行水準、社会情勢等を勘案して、適宜、見直しを図るものとしております。

業績連動報酬は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため業績指標を反映した現金報酬とし、各事業年度の目標値に対する達成度合いに応じて算出された額を賞与として毎年、一定の時期に支給しております。目標となる業績指標とその値は、各事業年度の予算計画策定時に設定し、適宜、環境の変化に応じて報酬委員会の答申を踏まえた見直しを行うものとしております。

株式報酬は、株主との価値の共有を図り、中長期的な企業価値の向上に対する貢献意欲を引き出すため、株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を毎年、一定の時期に付与しております。付与する新株予約権の個数は、役位、職責、株価等を踏まえて決定しております。

役員の報酬等は、取締役会における報酬委員会からの報告内容に基づき、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、当行の取締役頭取兼CEOが決定しております。

なお、監査役の報酬については、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、社外監査役を含む監査役の協議により決定しております。

3. 当行（グループ）の対象役員の報酬等の体系とリスク管理の整合性に関する事項

対象役員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。
また、リスク管理に悪影響を及ぼす可能性のある報酬体系は採用しておりません。

4. 当行（グループ）の対象役員の報酬等と業績の連動に関する事項

目標となる業績指標とその値は、各事業年度の予算計画策定時に設定し、適宜、環境の変化に応じて報酬委員会の答申を踏まえた見直しを行うものとしております。

2024年度の目標となる業績指標は以下のとおりです。

重視する科目	具体的なKPI	ウェイト	概要
収益性	銀行単体コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	50%	銀行本来の業務による収益力を示す指標
将来性	ソリューション件数	30%	Vision'25にて掲げたKPI
健全性	持株会社連結自己資本比率	20%	自己資本／リスクアセット

5. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項

対象役職員の報酬等の総額（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：百万円)

区分	人数 (人)	報酬等の 総額	固定報酬の総額			変動報酬の総額			退職慰労金
				基本報酬	非金銭報酬		基本報酬	業績連動報酬	
対象役員 (除く社外役員)	10	200	174	160	13	25	—	25	—
対象従業員等	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 報酬等の総額には、当事業年度において発生した繰延べ報酬13百万円が含まれております。なお、業績不振等に伴い将来取戻しの可能性がある報酬はありません。
2. 株式報酬型ストックオプションの権利行使時期は以下のとおりであります。
なお、当該ストックオプション契約では、行使期間中であっても権利行使は役員の退職時まで繰延べることとしております。

	行使期間		行使期間
株式会社池田泉州ホールディングス第1回新株予約権	2011年3月16日から 2041年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第8回新株予約権	2017年9月1日から 2047年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第2回新株予約権	2011年9月1日から 2041年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第9回新株予約権	2018年8月31日から 2048年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第3回新株予約権	2012年10月2日から 2042年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第10回新株予約権	2019年8月29日から 2049年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第4回新株予約権	2013年9月3日から 2043年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第11回新株予約権	2020年8月31日から 2050年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第5回新株予約権	2014年8月29日から 2044年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第12回新株予約権	2021年8月30日から 2051年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第6回新株予約権	2015年9月2日から 2045年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第13回新株予約権	2022年8月31日から 2052年7月31日まで
株式会社池田泉州ホールディングス第7回新株予約権	2016年8月31日から 2046年7月31日まで	株式会社池田泉州ホールディングス第14回新株予約権	2023年9月2日から 2053年7月31日まで

6. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

特段、前項までに掲げたもののほか、該当する事項はございません。

池田泉州TT証券

財務諸表

貸借対照表	219
損益計算書	220
株主資本等変動計算書	220

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
(資産の部)		
流動資産	8,218,382	12,055,010
現金・預金	2,724,908	4,638,320
預託金	5,000,000	7,000,000
約定見返勘定	294,034	274,627
信用取引資産	51,109	30,540
信用取引貸付金	51,109	30,540
短期差入保証金	30,000	20,000
前払費用	12,961	13,548
未収入金	45,950	6,948
未収収益	59,417	71,024
固定資産	168,808	192,304
有形固定資産	96,749	78,889
建物	48,894	44,306
器具・備品	47,855	34,582
無形固定資産	34,552	37,702
ソフトウェア	32,050	35,200
電話加入権	2,501	2,501
投資その他の資産	37,506	75,712
長期差入保証金	37,506	36,994
繰延税金資産	—	38,718
資産の部合計	8,387,191	12,247,315
(負債の部)		
流動負債	4,545,036	8,202,226
信用取引負債	51,109	30,540
信用取引借入金	51,109	30,540
預り金	4,258,291	7,826,650
受入保証金	16,000	11,000
未払金	632	40,716
未払費用	127,845	158,281
未払法人税等	3,659	57,404
賞与引当金	87,497	77,633
固定負債	17,686	14,987
繰延税金負債	2,931	—
資産除去債務	14,755	14,987
特別法上の準備金	13,338	15,306
金融商品取引責任準備金	13,338	15,306
負債の部合計	4,576,060	8,232,520
(純資産の部)		
株主資本	3,811,130	4,014,795
資本金	1,250,000	1,250,000
資本剰余金	1,285,805	1,285,805
資本準備金	1,250,000	1,250,000
その他資本剰余金	35,805	35,805
利益剰余金	1,275,325	1,478,989
その他利益剰余金	1,275,325	1,478,989
繰越利益剰余金	1,275,325	1,478,989
純資産の部合計	3,811,130	4,014,795
負債及び純資産の部合計	8,387,191	12,247,315

損益計算書

(単位：千円)

科 目	前事業年度	当事業年度
	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日
営業収益	2,072,748	3,132,751
受入手数料	1,408,454	2,335,728
委託手数料	595,550	1,130,136
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	592,842	862,351
その他の受入手数料	220,061	343,240
トレーディング損益	663,105	796,102
金融収益	1,187	920
金融費用	465	520
純営業収益	2,072,283	3,132,231
販売費・一般管理費	2,604,841	2,928,113
取引関係費	872,232	1,271,594
人件費	1,043,435	940,757
不動産関係費	105,165	100,403
事務費	506,239	516,298
減価償却費	29,242	29,305
租税公課	21,846	31,227
その他	26,679	38,525
営業利益（△は営業損失）	△532,558	204,118
営業外収益	1,193	169
営業外費用	7	8
経常利益（△は経常損失）	△531,372	204,279
特別損失	2,470	2,069
固定資産除却損	659	100
金融商品取引責任準備金繰入	1,811	1,968
税引前当期純利益（△は税引前当期純損失）	△533,843	202,209
法人税、住民税及び事業税	6,048	40,194
法人税等調整額	33,022	△41,649
当期純利益（△は当期純損失）	△572,913	203,664

株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計		
					繰越利益 剰余金			
当 期 首 残 高	1,250,000	1,250,000	35,805	1,285,805	1,848,238	1,848,238	4,384,043	4,384,043
当 期 変 動 額								
当 期 純 損 失					△572,913	△572,913	△572,913	△572,913
当期変動額合計					△572,913	△572,913	△572,913	△572,913
当 期 末 残 高	1,250,000	1,250,000	35,805	1,285,805	1,275,325	1,275,325	3,811,130	3,811,130

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計		
					繰越利益 剰余金			
当 期 首 残 高	1,250,000	1,250,000	35,805	1,285,805	1,275,325	1,275,325	3,811,130	3,811,130
当 期 変 動 額								
当 期 純 利 益					203,664	203,664	203,664	203,664
当期変動額合計					203,664	203,664	203,664	203,664
当 期 末 残 高	1,250,000	1,250,000	35,805	1,285,805	1,478,989	1,478,989	4,014,795	4,014,795

個別注記表

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

重要な会計方針

1. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

2. 引当金の計上基準

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。

3. 特別法上の準備金の計上基準

金融商品取引責任準備金

有価証券の売買その他の取引等に関して生じた事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5及び金融商品取引業等に関する内閣府令第175条の規定に基づき計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

顧客との契約から生じる収益の計上時期は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点としております。また、顧客との契約から生じる収益の計上額は、財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で算出しております。

5. 重要な外貨建資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

注記事項

(貸借対照表に関する注記)

１．担保等として差入れをした有価証券及び差入れを受けた有価証券の時価額

(１) 担保等として差入れをした有価証券の時価額

信用取引借入金の本担保証券	29,350千円
---------------	----------

(２) 担保等として差入れを受けた有価証券の時価額

信用取引貸付金の本担保証券	29,350千円
---------------	----------

受入保証金代用有価証券	172,965千円
-------------	-----------

２．有形固定資産の減価償却累計額	163,019千円
------------------	-----------

(損益計算書に関する注記)

１．関係会社との取引高

営業取引による取引高

人件費	351,182千円
-----	-----------

(株主資本等変動計算書に関する注記)

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株 式 数	当 事 業 年 度 増 加 株 式 数	当 事 業 年 度 減 少 株 式 数	当 事 業 年 度 末 株 式 数	摘要
普通株式	4,000 株	—	—	4,000 株	

(税効果会計に関する注記)

１．繰延税金資産及び繰延税金負債の主な原因別の内訳

繰延税金資産

繰越欠損金	134,785 千円
-------	------------

賞与引当金	23,740
-------	--------

その他	17,203
-----	--------

繰延税金資産小計	175,729
----------	---------

評価性引当額	△ 134,234
--------	-----------

繰延税金資産合計	41,494
----------	--------

繰延税金負債

資産除去債務	△ 2,776
--------	---------

繰延税金負債合計	△ 2,776
----------	---------

繰延税金資産の純額	38,718 千円
-----------	-----------

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、有価証券の売買及び売買等の委託の媒介、有価証券の募集及び売出しの取扱い、私募の取扱い、その他の金融商品取引業及び金融商品取引業に関連または付随する業務等の主たる事業において金融商品を有しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	4,638,320	4,638,320	—
(2) 預託金	7,000,000	7,000,000	—
(3) 約定見返勘定	274,627	274,627	—
(4) 信用取引資産	30,540	30,540	—
資産計	11,943,489	11,943,489	—
(5) 信用取引負債	30,540	30,540	—
(6) 預り金	7,826,650	7,826,650	—
負債計	7,857,191	7,857,191	—

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金・預金 (2) 預託金 (3) 約定見返勘定 (4) 信用取引資産
(5) 信用取引負債 (6) 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(関連当事者との取引に関する注記)

１．兄弟会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社 の子会 社	(株)池田泉州 銀行	なし	出向社員の 受入	紹介手数料の 支払(注1)、 出向者費用の 支払(注2)	1,006,426 562,452	未払費用	101,579
その他 の関係 会社	東海東京ファイナ ンシャル・ホールディングス (株)	(40%)	出向社員の 受入	出向者費用の 支払(注2)	351,182		
その他 の関係 会社の 子会社	東海東京 ビジネスサービス(株)	なし	事務委託 契約の締結	事務委託費の 支払(注3)	434,405	未払費用	37,853

(注1) 紹介手数料については、その業務内容を踏まえ、当社と株式会社池田泉州銀行が適正と判断する料率を決定しております。

(注2) 出向者費用については、出向元の給与規定等に照らして適正と判断する額に決定しております。

(注3) 事務委託費については、その業務内容を踏まえ、他の取引先と同等の条件に決定しております。

(注4) 取引金額については消費税を含めておりません。未払費用等期末残高には消費税を含めております。

(1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 1,003,698円78銭
- 1株当たり当期純損益金額 50,916円12銭

銀行法施行規則第34条の26に基づく開示項目

池田泉州ホールディングス

1. 銀行持株会社の概況及び組織に関する事項	
イ.経営の組織	6,22
ロ.資本金及び発行済株式の総数	11
ハ.大株主一覧	11
二.取締役及び監査役	6
ホ.会計監査人の氏名又は名称	32
2. 銀行持株会社及びその子会社等の概況に関する事項	
イ.銀行持株会社及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	2
ロ.銀行持株会社の子会社等に関する事項	2
3. 銀行持株会社及びその子会社等の主要な業務に関する事項	
イ.直近の事業年度における事業の概況	33
ロ.直近の5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標	33
4. 銀行持株会社及びその子会社等の直近の2連結会計年度における財産の状況に関する事項	
イ.連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結株主資本等変動計算書	34～37
ロ.次に掲げるものの額及び①から④までの合計額	
①破産更生債権及びこれらに準ずる債権	65
②危険債権	65
③三月以上延滞債権	65
④貸出条件緩和債権	65
⑤正常債権	65
ハ.自己資本の充実の状況	66～97
二.連結決算セグメント情報	62～64
ホ.会社法による監査に関する事項	32
ヘ.金融商品取引法の規定に基づく監査証明に関する事項	32
5. 報酬等に関する事項	98～99

銀行法施行規則第19条の2に基づく開示項目（単体情報）

池田泉州銀行

1. 銀行の概況及び組織に関する事項	
イ.経営の組織	7
ロ.大株主一覧	12
ハ.取締役及び監査役	7
二.会計監査人の氏名又は名称	100
ホ.営業所の名称及び所在地	9～10
2. 銀行の主要な業務の内容	5
3. 銀行の主要な業務に関する事項	
イ.直近の事業年度における事業の概況	128
ロ.直近の5事業年度における主要な業務の状況を示す指標	128
ハ.直近の2事業年度における業務の状況を示す指標	
(1) 主要な業務の状況を示す指標	
①業務粗利益、業務粗利益率、業務純益、実質業務純益、コア業務純益、コア業務純益（投資信託解約損益を除く。）	154
②資金運用収支、役務取引等収支及びその他業務収支	154
③資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び資金利鞘	154,156
④受取利息及び支払利息の増減	157
⑤総資産経常利益率及び資本経常利益率	154
⑥総資産当期純利益率及び資本当期純利益率	154
(2) 預金に関する指標	
①流動性預金、定期性預金、譲渡性預金その他の預金の平均残高	158
②定期預金残存期間別残高	158
(3) 貸出金等に関する指標	
①貸出金科目別平均残高	159
②貸出金残存期間別残高	159
③担保の種類別貸出金残高及び支払承諾見返額	159
④使途別貸出金残高	160
⑤業種別貸出金残高及び貸出金総額に占める割合	160
⑥中小企業等に対する貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	160
⑦特定海外債権残高	160
⑧預貸率	160

(4) 有価証券に関する指標	
①商品有価証券の種類別平均残高	163
②有価証券の種類別残存期間別残高	162
③有価証券の種類別平均残高	162
④預証率	163
(5) 信託業務に関する指標	
①信託財産残高表	170
②金銭信託等の受託残高	170
③元本補填契約のある信託の種類別の受託残高	170
④信託期間別の金銭信託及び貸付信託の元本残高	170
4. 銀行の業務の運営に関する事項	
イ.リスク管理の体制	19～22
ロ.法令遵守の体制	23～24
ハ.中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況	29～30
ニ.指定銀行業務紛争解決機関の商号又は名称	10
5. 銀行の直近の2事業年度における財産の状況に関する事項	
イ.貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書	129～133
ロ.次に掲げるものの額及び①から④までの合計額	
①破産更生債権及びこれらに準ずる債権	161
②危険債権	161
③三月以上延滞債権	161
④貸出条件緩和債権	161
⑤正常債権	161
ハ.自己資本の充実の状況	171～215
ニ.次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益	
①有価証券	164～166
②金銭の信託	166
③デリバティブ取引	167～168
④電子決済手段	168
⑤暗号資産	168
ホ.貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	161
ヘ.貸出金償却の額	161
ト.会社法による監査に関する事項	100
6. 報酬等に関する事項	216～217

銀行法施行規則第19条の3に基づく開示項目（連結情報）

池田泉州銀行

1. 銀行及びその子会社等の概況に関する事項	
イ.銀行及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	2
ロ.銀行の子会社等に関する事項	2
2. 銀行及びその子会社等の主要な業務に関する事項	
イ.直近の事業年度における事業の概況	101
ロ.直近の5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標	101
3. 銀行及びその子会社等の直近の2連結会計年度における財産の状況に関する事項	
イ.連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結株主資本等変動計算書	102～105
ロ.次に掲げるものの額及び①から④までの合計額	
①破産更生債権及びこれらに準ずる債権	161
②危険債権	161
③三月以上延滞債権	161
④貸出条件緩和債権	161
⑤正常債権	161
ハ.自己資本の充実の状況	171～215
ニ.連結決算セグメント情報	125～127
4. 報酬等に関する事項	216～217

金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示項目

池田泉州銀行

資産の査定の公表	161
----------	-----

本誌は銀行法第21条及び第52条の29に基づいて作成したディスクロージャー資料(業務及び財産の状況に関する説明書類)です。
本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。

2023年7月発行 池田泉州ホールディングス企画総務部
池田泉州銀行企画総務部



S I H D



池田泉州ホールディングス

大阪府大阪市北区茶屋町18番14号 TEL: 06-4802-0181
<https://www.senshuikeda-hd.co.jp/>



池田泉州銀行

大阪府大阪市北区茶屋町18番14号 TEL: 06-6375-1005
<https://www.sihd-bk.jp/>



池田泉州ＴＴ証券

大阪府大阪市北区豊崎3丁目2番1号 TEL: 06-6485-0031
<https://www.sittsec.co.jp/>